茨城県教育財団文化財調査報告第203集

島名ツバタ遺跡

上河原崎・中西特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書1

平成15年3月

茨　　城　　県
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第203集

島名ツバタ遺跡

上河原崎・中西特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書1

平成15年3月

茨　　城　　県
財団法人　茨城県教育財団

遺跡遠景

古墳時代中期の土器群

序

つくば市は，昭和38年に筑波研究学園都市計画地域の指定を受けて以来，日本の科学技術の研究開発の核としての，さらに，国際交流の拠点としての国際都市にふさわしい町づくりを進めております。

平成17年に開通予定の「つくばエクスプレス」は，新しい町づくりの一環としてつくば市と東京圏を直結し，人・物・情報の交流を盛んにするだけでなく，地域活性化の大きな力となることが期待されています。そこで，平成６年７月に県，市，地権者の三者協議で新線開発の合意に達したのを受けてから，新線建設と同時に，沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業を推進しています。

財団法人茨城県教育財団は，昭和60年度に開催された国際科学博覧会のための，地方主要道谷田部・明野線バイパスの建設に伴い，茨城県より埋蔵文化財発掘調査についての委託を受け，昭和57年にツバタ遺跡・高山古墳群の発掘調査を実施いたしました。その成果の一部は，すでに当財団の文化財調査報告第22集として刊行いたしました。

本書は，上河原崎・中西特定土地区画整理事業に伴い，平成13年度に発掘調査を実施した島名ツバタ遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより，教育・文化の向上の一助として，御活用いただければ幸いです。

なお発掘調査及び整理を進めるにあたり，委託者である茨城県より多大な御協力をいただきましたことに対し，心から御礼申し上げます。

また茨城県教育委員会，つくば市教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位から御指導，御協力をいただいたことに対し，衷心より感謝の意を表します。

平成15年３月

財団法人　茨城県教育財団

理事長　齋藤佳郎

例　　言

1　本書は，茨城県の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成13年度に発掘調査を実施した，茨城県つくば市大字島名に所在する島名ツバタ遺跡の発掘調査報告書である。

2　当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は下記のとおりである。

調査　平成13年4月2日～平成14年3月31日

整理　平成14年4月1日～平成14年12月31日

3　当遺跡の発掘調査は，調査第二課長鈴木美治の指揮のもと，調査第二課第2班長矢ノ倉正男，首席調査員江幡良夫，主任調査員飯島一生，菊川修，飯泉達司，芳賀友博，近藤恒重が担当した。

4　当遺跡の整理・及び本書の執筆・編集は，整理第一課長川井正一の指揮のもと，主任調査員菊川修が担当した。

5　本書の作成にあたり，住居跡から出土した炭化種子（ひし）の同定分析についてはパリノ・サーヴェイ株式会社に，炭化米の同定分析については佐賀大学農学部熱帯作物改良学研究室の和佐野喜久生氏に委託した。

6　当遺跡から出土した須恵器の生産地及び時期については，静岡県浜松市立伊場遺跡資料館の鈴木敏則氏に御教示いただいた。

7　発掘調査及び整理に際し，御指導・御協力を賜った関係機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし，Ｘ軸＝+6,040m，Ｙ軸＝+19,440mの交点を基準点（Ａ１a1）とした。なお，この原点は，日本測地系による基準点である。

大調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西，南北に各々10等分し，４m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へＡ，Ｂ，Ｃ…，西から東へ１，２，３…とし，「Ａ１区」，「Ｂ２区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は，北から南へａ，ｂ，ｃ…ｊ，西から東へ１，２，３…０とし，名称は，大調査区の名称を冠し，「Ａ１a1 区」，「Ｂ２b2 区」のように呼称した。

2　抄録の北緯及び東経の覧には，世界測地系に基づく緯度・経度を（　）を付して併記した。

3　本文・全測図・実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　住居跡－ＳＩ　土坑－ＳＫ　方形周溝墓・古墳－ＴＭ　溝－ＳＤ　炭焼き窯－ＳＹ　ピット－Ｐ

遺物　土製品－ＤＰ　石器・石製品－Ｑ　金属製品・古銭－Ｍ　瓦－Ｔ　拓本記録土器－ＴＰ

土層　撹乱－Ｋ

4　土層観察と遺物における色調の判定には，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

5　土層解説中の含有物については，各々総量で記述した。

6　遺構・遺物実測図の掲載方法については，次のとおりである。

⑴　遺跡の全体図は縮尺600分の１，各遺構の実測図は60分の１，または80分の１に縮尺して掲載した。

⑵　遺物は原則として３分の１の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては，個々に縮尺をスケールで表示した。

⑶　遺構・遺物の実測図中の表示は，次のとおりである。

焼土・赤彩　　炉・炭化物・繊維土器断面・煤　　竈・粘土・黒色処理

土器・拓本土器●　土製品○　石器・石製品□　金属製品△　硬化面 －－－－

7　遺物観察表の作成方法については，次のとおりである。

⑴　計測値の（　）内の数値は現存値を，［　］内の数値は推定値を示し，計測値の単位はcm・ｇで示した。

⑵　備考の欄は，残存率，写真図版番号（PL）及びその他必要と思われる項目を記した。

8　「主軸」は，炉・竈を通る軸線あるいは長軸（径）を通る軸線とし，その主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　N-10°-E）。なお，現存値は（　）で，推定値は［　］を付して示した。

抄　　録

ふりがな	しまなつばたいせき
書名	島名ツバタ遺跡
副書名	上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書
巻次	1
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第203集
著者名	椎川　修
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL　029-225-6587
発行機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL　029-225-6587
発行日	2003（平成15）年3月26日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
島名ツバタ遺跡	茨城県つくば市大字島名字戸南山3211番地の1ほか	08220 － 068	36度 3分 18秒 (36度 3分 30秒)	140度 3分 0秒 (140度 2分 48秒)	21 ～ 23 m	20010402 ～ 20020331	31,037.54㎡	上河原崎・中西特定土地区画整理事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
島名ツバタ遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡　4軒 陥し穴　1基 フラスコ状土坑　1基 ピット群　3か所	縄文土器（深鉢） 石器（石鏃・磨石）	古墳時代中期から後期にかけての集落跡を中心とする複合遺跡である。古墳時代中期の竪穴住居跡からは，須恵器の大形甕や300点を超える臼玉が出土している。また，焼失住居からは，5,600粒を超える炭化米や炭化種子（ひし）が出土している。
		古墳	竪穴住居跡　57軒 土坑　12基	土師器（坏・椀・高坏・器台・坩・甕・壺・甑），須恵器（坏・甕・甑），土製品（支脚・土玉），石製品（臼玉・勾玉・管玉・双孔円板・紡錘車），石器（砥石），鉄製品（鏃・鎌），ガラス製品（小玉），炭化米，炭化種子	
	墓跡	古墳	方形周溝墓　3基 古墳　1基		
		中世	方形区画溝　1条 溝跡　1条	陶器（甕） 石造物（五輪塔）	
	生産跡	近代	炭焼き窯跡　1基 土坑　16基		
	その他	旧石器時期不明	土坑　110基 溝跡　4条 ピット群　1か所	石器（ナイフ）	

目　　次

序
例　言
凡　例
抄　録
目　次
第１章　調査経緯……1
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査経過……1
第２章　位置と環境……3
　第１節　地理的環境……3
　第２節　歴史的環境……3
第３章　調査の成果……7
　第１節　遺跡の概要……7
　第２節　基本層序……7
　第３節　遺構と遺物……8
　　１　旧石器時代の遺物……8
　　２　縄文時代の遺構と遺物……8
　　(1)　竪穴住居跡……8
　　(2)　フラスコ状土坑……14
　　(3)　陥し穴……17
　　(4)　ピット群……18
　　３　古墳時代の遺構と遺物……23
　　(1)　竪穴住居跡……23
　　(2)　方形周溝墓……172
　　(3)　古墳……175
　　(4)　土坑……177
　　４　中世の遺構と遺物……187
　　(1)　方形区画溝……187
　　(2)　溝跡……189
　　５　近代の遺構と遺物……191
　　(1)　炭焼き窯跡……191
　　(2)　土坑……193
　　６　その他の遺構と遺物……196
　　(1)　土坑……196
　　(2)　溝跡……204
　　(3)　ピット群……205
　　(4)　遺構外出土遺物……206
　第４節　まとめ……212
付　章　島名ツバタ遺跡の炭化米粒特性と稲作起源……219
　　島名ツバタ遺跡の自然科学分析……224
写真図版

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

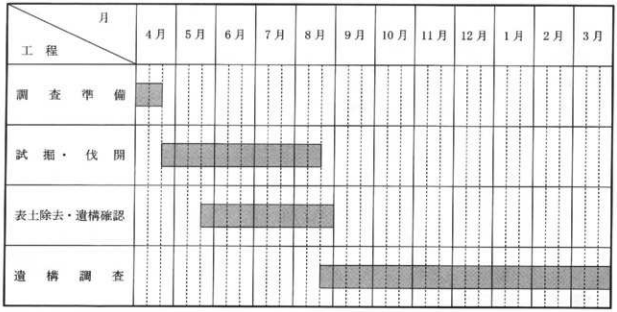
茨城県は，首都圏とつくば研究学園都市を結ぶつくばエクスプレスの早期開通をめざし，新線の建設とそれに伴う沿線開発に取り組んでいる。

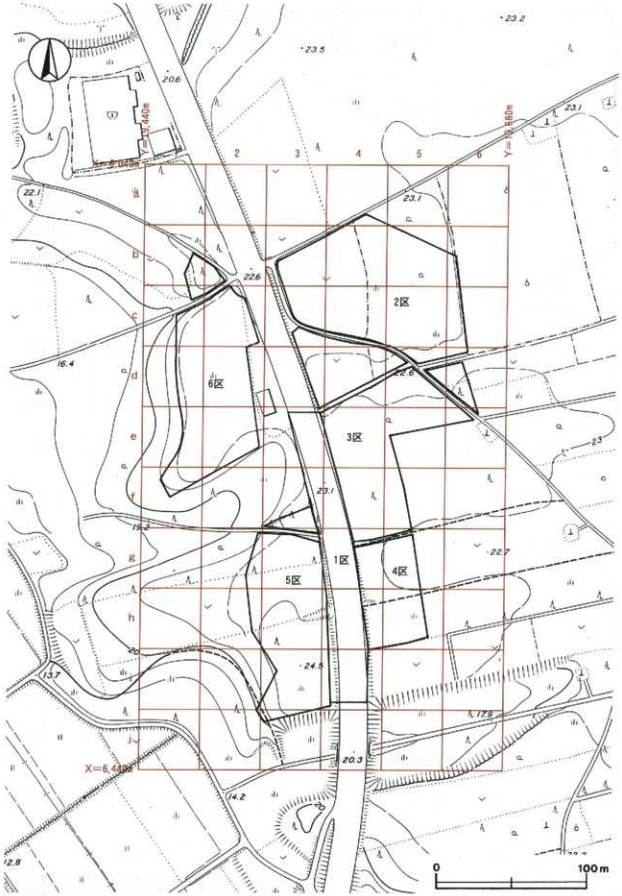
平成6年8月18日，茨城県（都市整備課）から茨城県教育委員会教育長あてに，常磐新線沿線地域の開発地内における埋蔵文化財の所在の有無とその取り扱いについて照会があった。これを受けて茨城県教育委員会は，平成9年1月16・22～24日，6月12・13・25日に現地踏査及び試掘を実施した。平成10年1月9日，茨城県教育委員会教育長から茨城県あてに，事業地内に島名ツバタ遺跡が所在する旨回答した。平成13年3月7日，茨城県から茨城県教育委員会教育長あてに，文化財保護法第57条の3に基づく土木工事等の通知が提出された。平成13年3月16日，茨城県教育委員会から茨城県あてに，工事により埋蔵文化財に影響が及ぶことから，工事着手前に発掘調査をするよう通知した。平成13年3月26日，茨城県から茨城県教育委員会教育長あてに事業地内における埋蔵文化財（島名ツバタ遺跡）について協議書が提出された。平成13年3月26日，茨城県教育委員会教育長から茨城県あてに，発掘調査の範囲及び面積等について回答し，調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県と茨城県教育財団は，埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び，平成13年4月2日から平成14年3月31日にかけて，島名ツバタ遺跡の発掘調査を実施することになった。

第2節　調　査　経　過

調査は，平成13年4月2日から平成14年3月31日までの1年間実施した。以下，調査経過について，工程表で示す。





第１図　島名ツバタ遺跡調査区設定図

第２章　位置と環境

第1節　地理的環境

島名ツバタ遺跡は，茨城県つくば市大字島名字戸面山3211番地の1ほかに所在している。

つくば市は，筑波山の南西に広がる標高約20～25mの平坦な台地上に位置している。この台地は，筑波・稲敷台地と呼ばれ，東を霞ヶ浦に流入する桜川，西を利根川に合流する小貝川と，南流する二つの河川によって区切られている。それぞれの河川によって大きく開析された流域には，標高約５mほどの沖積地が発達している。台地は，東から花室川，蓮沼川，小野川，東谷田川，西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れて浅く開析され，谷津や低地が細長く入り組んでいる。

筑波・稲敷台地は，貝化石を産する海成の砂層である成田層を基盤として，その上に竜ヶ崎層と呼ばれる斜交層理の顕著な砂層・砂礫層，さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層(0.3～5.0m)，褐色の関東ローム層(0.5～2.5m)が連続して堆積し，最上部は腐植土層になっている[1]。

当遺跡の所在する島名地区は，つくば市の南西部，旧谷田部町域に位置している。当遺跡は，西谷田川に面した標高約23mの台地縁辺部に立地している。台地は主に畑地として耕作され，両河川の沖積低地は水田として利用されている。当遺跡の調査前の現況は，山林及び芝地であった。

第2節　歴史的環境

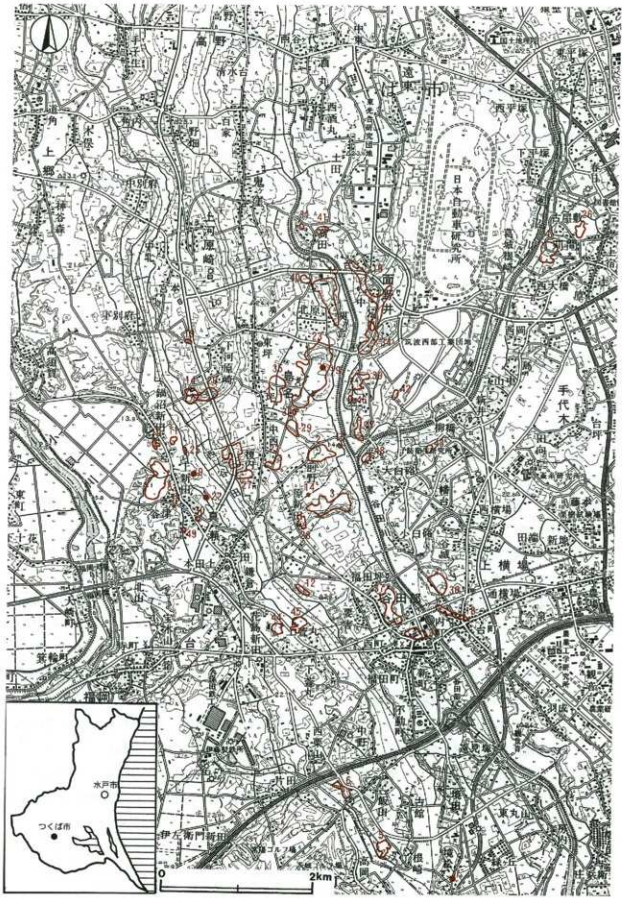
当遺跡周辺の小貝川や東谷田川，西谷田川，蓮沼川沿岸の台地上には，縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く所在している。

旧石器時代の遺跡は，東谷田川右岸の島名割野東遺跡[2]<2>や島名境松遺跡[3]<3>，東谷田川支流の蓮沼川左岸の苅間神田遺跡[4]<4>，西谷田川右岸の横崎遺跡[5]<5>や西栗山遺跡[6]<6>，花室川左岸の中原遺跡[7]などがあり，ナイフ形石器や尖頭器などの遺物が出土している。なかでも，中原遺跡からは石器の集中地点が９か所確認され，ナイフ形石器・石刃などが出土している。

小貝川左岸及び東谷田川と西谷田川に挟まれた台地上で，集落跡が確認されるのは縄文時代中期以降の遺跡からである。西谷田川に面した台地の縁辺部に立地してる境松貝塚[8]<7>は，つくば市谷田部の代表的な貝塚であり，縄文時代中期から後期の土器や石器が出土している。小貝川左岸の台地上に立地する真瀬山田遺跡[9]<8>からは，中期から後期の土器や石器が広範囲にわたって出土している。また，隣接する真瀬堀附南遺跡<9>，真瀬山田北遺跡<10>，鍋沼新田長峰遺跡<11>からも土器が出土していることから，大規模な集落跡の存在が想定される。東谷田川と西谷田川に挟まれた台地上には，当財団が調査した島名前野東遺跡・島名境松遺跡・谷田部漆遺跡[10]<12>・島名前野遺跡[11]<13>が立地し，中期の竪穴住居跡や陥し穴が確認されている。これらの河川に臨む台地の縁辺部を中心に，縄文時代中期から本格的な生活が営まれるようになったと考えられる。

弥生時代の遺跡は当地域では少なく谷田部地区では，中期から後期の遺物の出土した境松遺跡，下河原崎高山遺跡<14>などが確認されているのみである。

古墳時代になると遺跡数が増加する傾向にある。古墳群は，河川に面する台地上に存在している。古墳群のほとんどは，径10～20mほどの円墳であり，地域的な群集墳の様相を示している。東谷田川に面する台地上には，北から島名関ノ台古墳群<15>，島名面野井古墳群<16>，島名熊の山古墳群<17>，谷田部台町古墳群<18>が，西谷田川に面する台地上には，北から下河原崎古墳群<19>，下河原崎高山古墳群[12]<20>，島名榎内古墳群<21>，



第２図　島名ツバタ遺跡周辺分布図（国土地理院「土浦」）

表1　島名ツバタ遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代 旧石	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世・近代	番号	遺跡名	時代 旧石	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世・近代
1	島名ツバタ遺跡		○		○		○	○	26	苅間六十目遺跡		○	○	○	○	○	○
2	鳥名前野東遺跡				○		○		27	島名榎内遺跡				○			
3	島名境松遺跡		○		○				28	島名タカドロ遺跡		○		○			
4	苅間神田遺跡	○	○	○	○	○	○	○	29	島名一丁田遺跡		○					
5	根崎遺跡		○		○	○			30	真瀬中畑遺跡		○		○			○
6	西栗山遺跡		○		○				31	高田和田台遺跡				○			
7	琉松日塚		○	○	○			○	32	島名薬師遺跡				○			
8	真瀬山田遺跡		○						33	谷田部城跡						○	○
9	真瀬堀附南遺跡		○		○				34	面野井南遺跡					○		○
10	真瀬山田北遺跡		○		○				35	島名本田遺跡				○		○	○
11	鋤沼新田長峰遺跡		○		○				36	谷田部台成井遺跡		○					
12	谷田部漆遺跡		○						37	谷田部福田前遺跡		○		○	○		
13	島名前野遺跡			○	○				38	真瀬新田谷津遺跡		○					
14	下河原崎高山遺跡			○					39	水堀下道遺跡				○			
15	島名陽ノ台古墳群				○				40	島名陽の台遺跡				○			
16	島名面野井古墳群				○				41	高田遺跡					○		○
17	島名熊の山古墳群				○				42	水堀道跡				○			
18	谷田部台町古墳群				○				43	柳橋遺跡				○			○
19	下河原崎古墳群				○				44	真瀬三度山遺跡		○		○			
20	下河原崎高山古墳群				○				45	上萱丸古屋敷遺跡				○		○	○
21	島名榎内古墳群				○				46	水堀屋敷添遺跡		○		○			○
22	真瀬新田古墳群				○				47	水堀道後前遺跡					○		
23	島名熊の山遺跡				○	○	○	○	48	平後遺跡				○			○
24	島名八幡前遺跡				○	○	○		49	真瀬西原塚						○	○
25	真瀬堀附北遺跡				○												

真瀬新田古墳群〈22〉が立地している。当遺跡から約1km北にある下河原崎高山古墳群では，当財団の調査により方墳1基と帆立貝式古墳1基が確認されている。集落跡は，近年の発掘調査により西谷田川と東谷田川に挟まれた台地上から数多く確認されている。島名熊の山遺跡[15]〈23〉では前期45軒・中期10軒・後期338軒，島名八幡前遺跡〈24〉では後期11軒，島名前野東遺跡では前期10軒・中期24軒・後期20軒，島名前野遺跡では前期10軒・中期3軒，谷田部漆遺跡では中期24軒の住居跡が確認されている。また，西谷田川右岸の台地から低地にドりる緩斜面に立地している真瀬山田北遺跡，真瀬堀附北遺跡〈25〉，真瀬堀附南遺跡は，当遺跡のほぼ対岸に位置し，中期から後期の遺物が確認されている。これらの遺跡の分布状況から，前期は東谷田川に面する台地縁辺部に，中期は両河川の台地縁辺部から低地にかけて小規模な集落を形成している。後期には，島名熊の山遺跡を中心とする拠点的な大集落が形成され，台地の内陸部まで開発されていく様子がうかがえる。

奈良・平安時代になると，律令体制の確立と共に，谷田部地区は常陸国河内郡に編入されることとなる。河内郡御厨は，当遺跡から北東へ約6㎞の距離に位置する桜地区の金田西坪B遺跡付近に所在している。『和名類聚抄』によれば，谷田部地区は河内郡八部郷に属し[19]，仁徳天皇の妃八田若郎女（たのわかいらつめ）のために八田部を置いた所と言われており，地名の語源になっている[20]。さらに，島名は『和名類聚抄』にある「嶋名郷」に比定されており，島名熊の山遺跡がこの地域の拠点的な集落であった可能性が高い。この時代の遺跡は，当遺跡から約5㎞北東の神田遺跡，鶏冠井六十目（とりかいむらじめ）遺跡[21]<26>，約1.5㎞東の島名前野東遺跡，島名前野東遺跡，島名八幡前遺跡，約9㎞南の西栗山遺跡，根崎遺跡などがあげられる。

中世になると，谷田部地区の大部分は田中荘と呼ばれることになる。鎌倉幕府の成立後，田中荘は小田氏の支配下に入り，室町時代には小田氏配下の平井（ひらいで）手氏が島名・前野井に住んでいたと伝えられている[22]。中世以降の確認された遺跡は城館跡がほとんどであり，平井手氏の居城と伝えられている面野井城跡のほか，島名前野東遺跡からは方形に巡る堀を伴う居館跡が確認されている。

※文中の＜　＞内の番号は，第1図及び周辺遺跡一覧表の該当遺跡番号と同じである。

注

1）日本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質3　関東地方』　共立出版　1986年10月

2）寺門千鶴他　「島名前野東遺跡・島名境松遺跡・谷田部藤遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集　2002年3月

3）註2）に同じ

4）成島一也　「（仮称）島城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第121集　1997年3月

5）渡邊幸雄　「（仮称）豊丸地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第119集　1997年3月

6）註5）に同じ

7）高野節夫他　「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第170集　2001年3月

8）久野俊彦　「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第41集　1987年3月

9）谷田部の歴史編さん委員会　『谷田部の歴史』谷田部町教育委員会　1975年9月

10）註2）に同じ

11）福田義弘　「島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集　2001年3月

12）佐野　正　「科学博関連遺跡谷田部明野線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第22集　1983年3月

13）福田義弘　「熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集　2002年3月

14）池邊　彌　『和名類聚抄郡郷里驛名考證』吉川弘文館　1981年2月

15）中山信名　『新編常陸国誌』宮崎書房（復刻版）　1978年12月

16）小澤重雄　「島城一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第160集　2000年3月

第3章　調査の成果

第1節　遺跡の概要

島名ツバタ遺跡は，便宜上第１～６調査区に分けて調査を実施した（第１図）。第１区は，昭和58年度に調査された地方主要道谷田部・明野線のバイパス建設部である。２～６区が今回調査した部分で，総面積は31,037.54㎡である。調査前の現況は山林及び芝地であった。調査の結果，古墳時代中期から後期にかけての集落跡を中心とする複合遺跡であることが確認できた。遺構は，竪穴住居跡61軒（縄文時代４軒，古墳時代57軒），陥し穴１基（縄文時代），方形周溝墓３基（古墳時代），方墳１基（古墳時代），方形区画溝１条（中世），炭焼き窯跡１基（近代），土坑139基，溝５条，ピット群４か所などが確認された。遺物は，遺物収納箱（60×40×20cm）に120箱出土している。主な出土遺物は，縄文土器，土師器，須恵器，陶器，土製品，石製品，石器，ガラス製品，鉄製品，石造物などである。

第2節　基本層序

基本層序を確認するテストピットは，４区のＨ５b6区に設置した。テストピットの地表面の標高は22.9ｍで，地表から３ｍほど掘削した。土層は10層に細分され，第１層は表土，第２層～９層は関東ローム層，第10層は常総粘土層に対比される（第３図）。以下，テストピットの観察から，層序を説明する。

第１層は黒褐色の腐植土層である。ローム粒子をわずかに含み，粘性・しまりはともに弱い。層厚は40～60cmである。

第２層は暗褐色のソフトローム層である。粘性・しまりは普通である。層厚は６～16cmである。

第３層は褐色のソフトローム層である。粘性・しまりは普通である。層厚は10～30cmである。

第４層は褐色のソフトローム層である。火山ガラス粒子を微量含み，粘性・しまりはともに強い。姶良Ｔｎ火山灰（ＡＴ）を含む層と考えられる。層厚は12～28cmである。

第５層は暗褐色のハードローム層である。粘性・しまりはともに強い。第Ⅱ黒色帯に相当すると考えられる。層厚は20～42cmである。

第６層は褐色のハードローム層である。粘性・しまりはともに強い。層厚は24～58cmである。

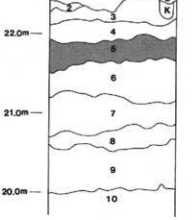
第７層は暗褐色のハードローム層である。粘性・しまりはともに極めて強い。層厚は26～52cmである。

第８層は褐色のハードローム層である。粘性・しまりはともに強い。層厚は10～30cmである。

第９層は褐色のハードローム層である。粘性・しまりはともに極めて強い。層厚は48～64cmである。

第10層はにぶい黄褐色の粘土層である。粘性・しまりはともに極めて強い。層厚は20cm以上あり，下層は未掘のため本来の厚さは不明である。

遺構は，第３層の上面で確認した。

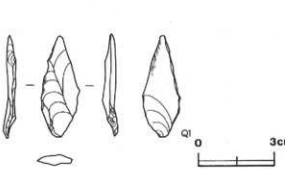


第３図　基本層序

第3節　遺構と遺物

1　旧石器時代の遺物

遺構確認調査の際，調査区域の５区南部，Ｈ３i7 区の確認面から旧石器とみられるＱ１のナイフ形石器が出土した。旧石器時代以降の遺構調査終了後，Ｑ１の出土地点付近及び台地から斜面部にさしかかるＩ３c6 区～Ｉ４h1 区の範囲に調査区を設定し，ローム層の掘り下げを行った。Ｈ３i7 区付近及びＩ３c6 区～Ｉ４f1 区の範囲は基本層序の第４層まで，Ｉ３h6 区～Ｉ３C0 区の範囲は第６層まで掘り下げたが，旧石器時代の文化層の把握，石器等の出土は認められなかった。ここでは，出土したナイフ形石器について実測図（第４図）と若干の解説を記載する。



第４図　旧石器時代出土遺物実測図

旧石器時代出土遺物観察表（第４図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	ナイフ形石器	(4.1)	1.5	0.5	(1.7)	流紋岩	縦長剥片を素材とし，基部は主要剥離面から腹面剥離により，末端部に加工されている。断面は三角形を呈する。	H3i7	PL32

2　縄文時代の遺構と遺物

今回の調査で，縄文時代の竪穴住居跡４軒，フラスコ状土坑１基，陥し穴１基，ピット群３か所を検出した。以下，検出した遺構と遺物について記載する。

（1）竪穴住居跡

第12号住居跡（第５・６図）

位置　調査２区中央部のＢ４d5 区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　長径4.16m，短径3.41mの楕円形で，主軸方向はＮ－58°－Ｅである。壁高は16～34cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　やや凹凸があり，土器埋設炉を中心にほぼ全体がよく踏み固められている。

炉　中央部から西寄りに位置する土器埋設炉である。土器は炉の北西に埋設され，掘り方は長径94cm，短径62cmの楕円形である。確認できた掘り方の底面は，幅が30cmほどで北西側にやや傾斜している。埋設された深鉢の上面からの深さは25cmである。炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

炉土層解説

1　黒褐色　焼土ブロック・ローム粒子微量
2　暗褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量
4　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量
5　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量

ピット　3か所。Ｐ１は深さ51cm，Ｐ２は深さ35～47cmで，主柱穴と思われる。Ｐ２からは柱の痕が２か所確認されている。Ｐ１・Ｐ２に対応する柱穴は確認されていない。Ｐ３は南東壁寄りに位置し，深さ12cmで出入り口施設に伴うピットと思われる。

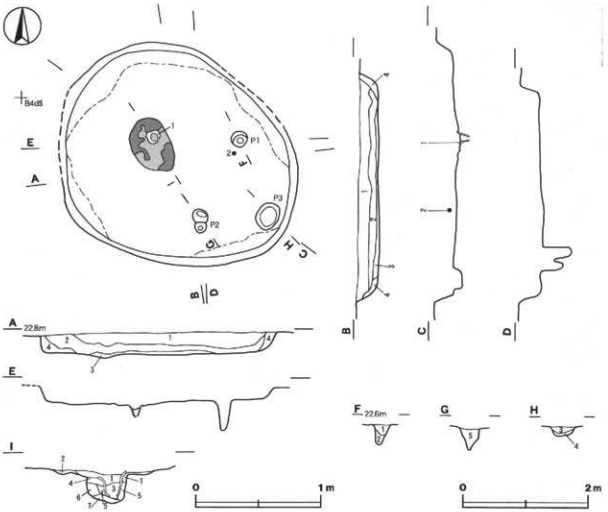
土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ロームブロック・炭化物微量
2　黒　　色　ローム粒子微量
3　極暗褐色　ローム粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子微量

覆土　４層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

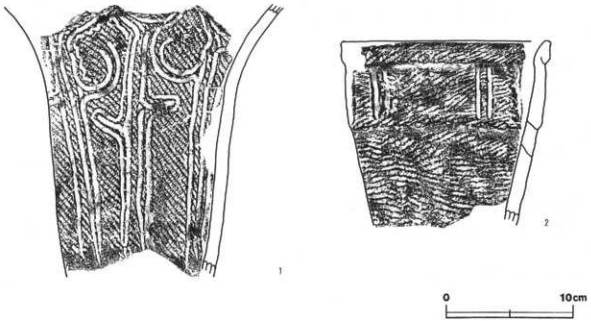
土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片57点（深鉢）が出土している。遺物は覆土中層から下層にかけて点在している。２は深鉢の口縁部片で中央部から東側にかけての覆土中層から出土している。１は深鉢の胴部で，炉に正位で埋設されている。

所見　時期は，埋設された土器から判断して，中期中葉（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。



第５図　第12号住居跡実測図



第６図　第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表（第６図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	－	(21.2)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	縦方向の及しの羽節縄文を地文とし，胴部には蕨手状の沈線。	炉[1]	40% PL18
2	縄文土器	深鉢	(16.0)	(14.6)	－	長石・雲母	にぶい褐	普通	しの無節縄文を地文とし，口縁部には2条の沈線。	中層	10%

第22号住居跡（第７図）

位置　調査２区東部のＢ５f8区に位置し，平坦な台地上に立地している。約50ｍ西側に第12号竪穴住居跡が位置している。

規模と形状　遺構確認の際，床面まで削平しているため壁は遺存していない。炉及びピットの配列，確認面の上層から縄文土器片が出土していることなどから住居跡と判断した。ピットの配列から，長径7.58ｍ，短径6.52ｍの楕円形と推定され，主軸方向はＮ－９°－Ｅである。

床　床面まで削平されており，硬化面は認められない。

炉　ピットの配列から，中央部から南寄りに位置している。長径60cm，短径52cmの楕円形で，床面を３cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は，わずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量　　2　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量

ピット　８か所。Ｐ１～Ｐ３・Ｐ５・Ｐ６は深さ20～25cm，Ｐ４・Ｐ７・Ｐ８は深さ30～35cmほどで，配列から主柱穴と思われる。

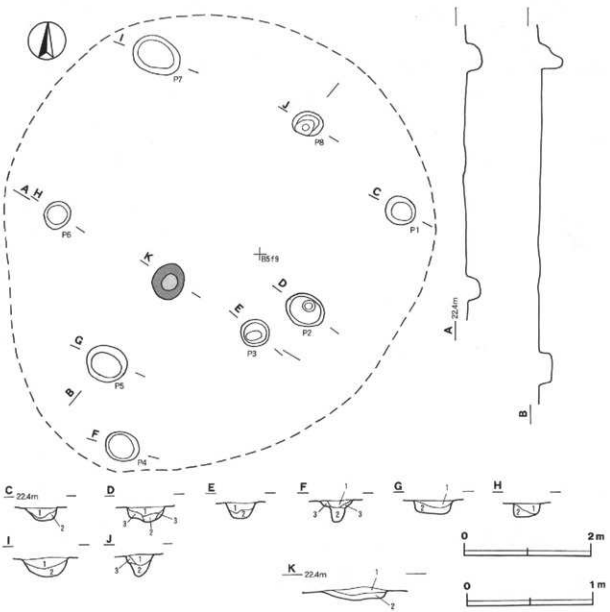
ピット土層解説
Ｐ１　1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
　　2　褐　色　ロームブロック中量
Ｐ２　1　暗褐色　ロームブロック少量
　　2　暗褐色　ロームブロック少量
　　3　褐　色　ロームブロック中量
Ｐ３　1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
　　2　褐　色　ロームブロック中量
Ｐ４　1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
　　2　暗褐色　ロームブロック少量
　　3　褐　色　ロームブロック中量
Ｐ５　1　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
　　2　褐　色　ロームブロック中量
Ｐ６　1　暗褐色　ロームブロック少量
　　2　褐　色　ロームブロック中量

P7　1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
　　2　褐　　色　ロームブロック中量

P8　1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
　　2　褐　　色　ロームブロック少量
　　3　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　周囲の遺構確認面の上層から縄文土器片が出土している。本跡に確実に伴うと判断できる遺物はない。

所見　本跡は，床面に炉の痕跡が認められることや，確認面の上層から縄文土器片が出土していることから判断して，中期中葉の可能性が考えられる。



第７図　第22号住居跡実測図

第61号住居跡（第８図）

位置　調査５区南部のＩ３d9 区に位置し，平坦な台地の南端部に立地している。西側に第62号住居跡が隣接している。

規模と形状　旧石器調査区のローム層の掘り下げ調査時に，上層面からピット及び遺物を確認した。壁及び床面は遺存しない。ピットの配列から，長径5.72m，短径4.56mの楕円形と推定され，長径方向はN－42°－Wである。

床　床面まで削平したため，生活面の確認はできなかった。

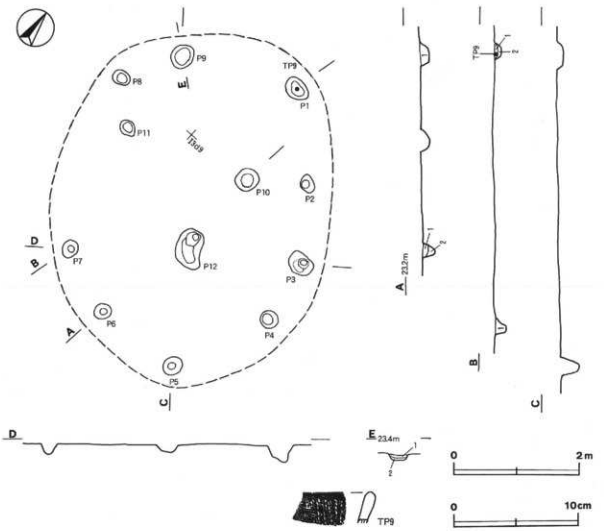
ピット　12か所。Ｐ１～Ｐ９は深さ11～30cmで，配列から主柱穴と思われる。Ｐ10は深さ10cm，Ｐ11は深さ19cmで，主柱穴の内側に位置していることから補助柱穴と思われる。Ｐ12は深さ25cmで，性格は不明である。

ピット土層解説

Ｐ１	1	暗褐色	ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
	2	褐　色	ローム ブロック中量
Ｐ６	1	暗褐色	ローム ブロック少量，炭化粒子微量
	2	暗褐色	ローム ブロック中量，炭化粒子少量
Ｐ７	1	褐　色	ローム ブロック中量，炭化粒子微量
Ｐ９	1	暗褐色	ローム ブロック少量，炭化粒子微量
	2	暗褐色	ローム ブロック少量
Ｐ10	1	暗褐色	ローム ブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片１点（深鉢），礫片86点が出土している。ＴＰ９は深鉢の口縁部片で，Ｐ１内の覆土から出土している。礫片は焼けて赤変しているものや破片の状態のものがほとんどで，北西寄り上層面から出土している。

所見　時期は，Ｐ１内から出土したＴＰ９の土器片から判断して，西側に隣接している第62号住居跡より古い早期前葉の可能性が高い。



第８図　第61号住居跡・出土遺物拓影実測図

第61号住居跡出土遺物観察表（第８図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP9	縄文土器	深鉢	－	(2.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	撚糸文を縦位に施文。	P1内	図30

第62号住居跡（第９・10図）

位置　調査５区南部のＩ３d8区に位置し，平坦な台地の南端部に立地している。東側に第61号住居跡が隣接している。

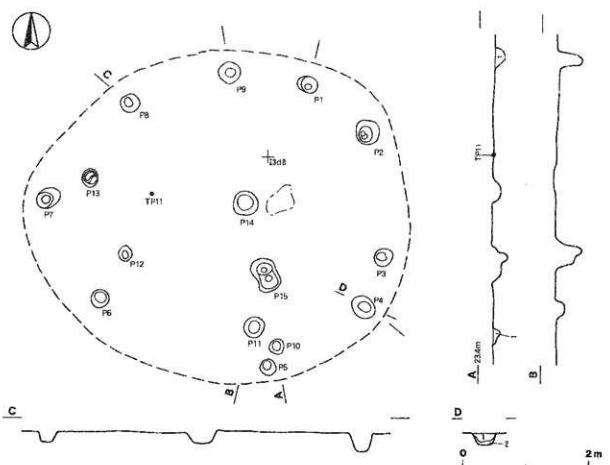
規模と形状　田石器調査区のローム層の掘り下げ調査時に，上層面から硬化面とピット及び遺物を確認したことから，住居跡と判断した。床面まで掘り下げているため，壁は遺存していない。ピットの配列から，長径6.16ｍ，短径5.36ｍの楕円形と推定され，長径方向はＮ－46°－Ｗである。

床　中央部の一部に，硬化面が認められる。

ピット　15か所。Ｐ１～Ｐ９は深さ19～38cmで，配列から主柱穴と思われる。Ｐ10～Ｐ13は深さ13～17cmで，主柱穴の内側に並んでいることから補助柱穴と思われる。Ｐ14は深さ18cm，Ｐ15は深さ42cmで，性格は不明である。

ピット土層解説

Ｐ４　１　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
　　２　褐　色　ロームブロック中量
Ｐ９　１　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
Ｐ10　１　褐　色　ロームブロック中量



第９図　第62号住居跡実測図

第10図　第62号住居跡出土遺物拓影実測図

遺物出土状況　縄文土器片２点（深鉢），礫片114点が出土している。ＴＰ11は深鉢の胴部片で，中央部の床面から出土している。礫片は焼けて赤変しているものや破片の状態のものが多く，北東寄りの床面から出土している。出土状況から，焼けた礫片付近には焼土が認められないことから，住居廃絶に伴い投棄している可能性が考えられる。

所見　時期は，ＴＰ11の土器片から判断して，東側に隣接している第61号住居跡より新しい早期後葉の可能性が高い。

第62号住居跡出土遺物観察表（第10図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP11	縄文土器	深鉢	－	(5.8)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	内・外面に貝殻条痕文を横位に施文。	床面	PL30

表1　縄文時代住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸(径)×短軸(径)	壁高(cm)	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	出入口	ピット	炉	貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時期	備考 (H→新)
12	B4d5	N-68°-E	楕円形	4.16 × 3.41	16～34	凹凸	－	2	1	－	炉円	－	自然	縄文土器(深鉢)	縄文中期後葉	上器埋設ｶﾒ
22	B5f8	[N-9°-E]	[楕円形]	(7.5) × (6.1)	不明	不明	－	8	－	－	－	－	不明		縄文時代中期後葉か	
61	I3d9	[N-42°-W]	[楕円形]	(5.34) × (4.06)	－	不明	－	9	－	－	－	－	不明	縄文土器(深鉢)	縄文時代早期前葉	
62	I3d8	[N-46°-W]	[楕円形]	(5.80) × (5.12)	－	不明	－	9	－	6	－	－	不明	縄文土器(深鉢)	縄文時代早期後葉	

（２）フラスコ状土坑

第63号土坑（第11～14図）

位置　調査２区中央部のＢ４12区に位置し，平坦な台地上に立地している。本跡の約20ｍ南西に同時期の可能性をもつ第３ピット群が位置している。

規模と形状　開口部は径1.2ｍの円形，底面は長径2.55ｍ，短径2.38ｍのほぼ円形で，深さ95～105㎝である。底面は平坦で，壁は35°～40°内傾するフラスコ状を呈している。

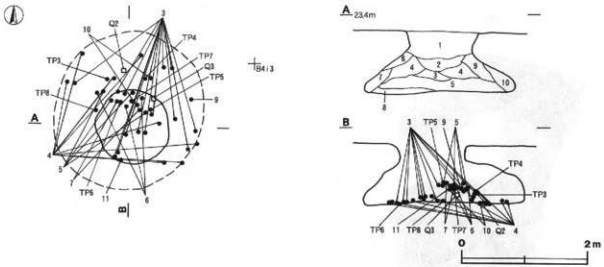
覆土　10層に分層され，不規則な堆積状況を示していることから人為堆積である。

土層解説

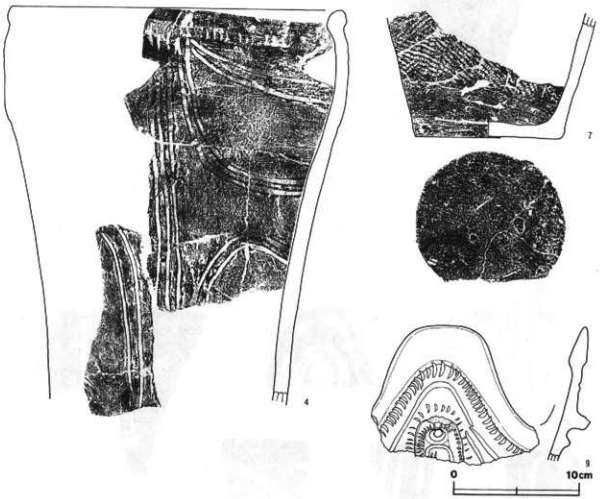
1　暗褐色　焼土粒子少量，ローム ブロック・炭化粒子微量
2　暗褐色　焼土ブロック中量，ローム ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　炭化粒子少量，ローム ブロック・焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム ブロック少量，炭化物微量
5　暗褐色　ローム ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　暗褐色　ローム ブロック・炭化物少量
7　暗褐色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
8　褐　色　ローム ブロック中量，炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム ブロック少量，炭化物微量
10　黒褐色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片234点（深鉢），石器２点（磨製石斧・磨石），礫片５点が出土している。出土遺物の多くは，中央部の覆土下層から底面にかけて破片の状態で出土している。５・ＴＰ３・ＴＰ５は深鉢の口縁部片，６は深鉢の胴部片，７は深鉢の底部片，Ｑ３は磨製石斧で，覆土下層の中央部にまとまって出土していることから，一括して投棄されたものとみられる。３はほぼ完形に接合した深鉢で，底面の北側に散在していた土器片が接合したものである。

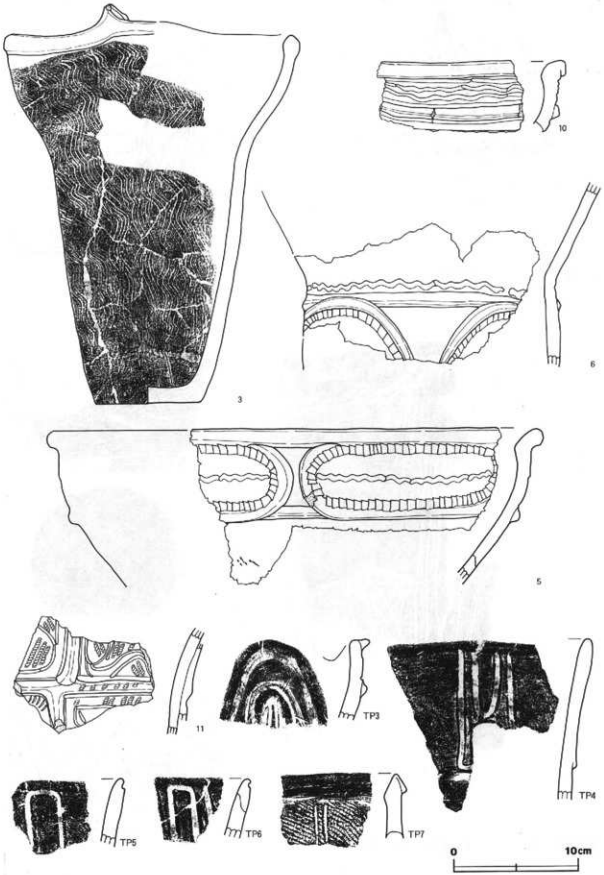
所見　時期は，下層から底面にかけて出土した土器から判断して，中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



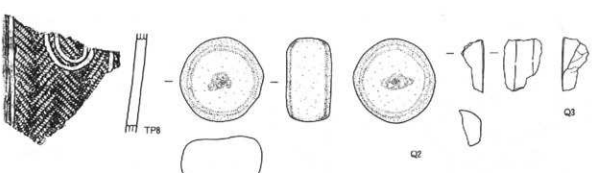
第11図　第63号土坑実測図



第12図　第63号土坑出土遺物実測図（1）



第13図　第63号土坑出土遺物実測図（２）



第14図　第63号土坑出土遺物実測図（3）

第63号土坑出土遺物観察表（第12～14図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
3	縄文土器	深鉢	22.6	32.2	8.5	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部には9字状の隆帯を貼り付け，胴部には櫛状工具による波状文。	底面	90%　PL18
4	縄文土器	深鉢	[26.4]	(31.6)	－	長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部直下に角押し文。口縁部から胴部には，2条と3条の沈線。	底面	20%
5	縄文土器	深鉢	[40.0]	(12.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部には，隆帯による区画文に沿って爪形文。	下層	5%
6	縄文土器	深鉢	－	(14.9)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	頸部には沈線による横位の波状文，胴部には隆帯による区画文に沿って爪形文。	下層	10%
7	縄文土器	深鉢	－	(10.0)	11.6	長石・石英・雲母	橙	普通	縦方向のＲＬの単節縄文を地文とし，胴部には垂下する沈線。底部無文。	下層	15%
9	縄文土器	深鉢	－	(11.2)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	波状口縁。口縁部の隆帯に沿って爪形文。	下層	5%
10	縄文土器	深鉢	－	(5.6)	－	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	口唇部直下と口縁部には隆帯を巡らせ，区画内に沈線を施す。	底面	5%
11	縄文土器	深鉢	－	(9.4)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	縦方向と横方向のＲＬの単節縄文を地文とし，隆帯に沿って沈線。	下層	5%
TP3	縄文土器	深鉢	－	(6.4)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	波状口縁。口縁部に貼り付けた隆帯に沿って，平歯竹管による平行沈線文を施す。	下層	
TP4	縄文土器	深鉢	－	(12.9)	－	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	口縁部には，棒状工具による沈線。	下層	
TP5	縄文土器	深鉢	－	(5.4)	－	長石・石英	暗赤褐	普通	口縁部には，棒状工具による沈線。	下層	PL30
TP6	縄文土器	深鉢	－	(5.8)	－	長石・石英	赤褐	普通	口縁部には，棒状工具による沈線。	底面	
TP7	縄文土器	深鉢	－	(4.9)	－	長石・石英・雲母	明褐	普通	縦方向のＲＬの単節縄文を地文とし，口縁部には縦位の沈線文。	下層	PL30
TP8	縄文土器	深鉢	－	(7.4)	－	長石・石英・雲母	明褐	普通	ＲＬの単節縄文で，羽状構成をとり，胴部には沈線。	底面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	磨石	(4.2)	(1.8)	(2.8)	(258.6)	安山岩	自然礫を素材。両石兼用。	底面	100%
Q3	磨製石斧	(6.7)	(6.6)	(3.6)	(17.7)	安山岩	側面部のみ遺存。	下層	5%

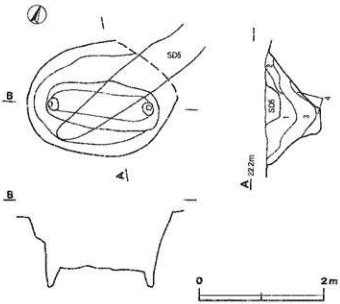
（3）陥し穴

第１号陥し穴（SK123）（第15図）

位置　調査５区西部のＤ１h8区に位置し，斜面部のさしかかる台地上に立地している。

重複関係　北東部の上層を第５号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長径2.29m，短径1.85mの楕円形で，長径方向はＮ－73°－Ｅである。深さは93cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面はやや凹凸で，逆木を立てたと思われるピットを２か所検出した。各壁とも直立



第15図　第1号陥し穴実測図

している。P1は深さ34cm，P2は深さ25cmで，やや斜めに掘り込まれている。

覆土　4層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
4　褐色　ローム粒子中量

遺物出土状況　出土していない。

所見　本跡は，遺構の形態から縄文時代の陥し穴と思われる。

表2　縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模(m) 長径(軸)×短径(軸)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考（時期・新→旧）
63	D4i2		円形	1.2 × 1.17	90～105	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢)，剥製石器，磨石	中期中葉
123	D1h8	N－75°－E	楕円形	2.29 × 1.85	93	外傾	凹凸	自然	土師器片	(陥し穴) 本跡→SK6

（4）ピット群

今回の調査で，縄文時代と思われるピット群を3か所検出した。いずれも，遺構確認面あるいはピット内から縄文土器片が出土しているが，床面及びかまどは確認できなかったので，まとまりごとにピット群として記載する。

第1号ピット群（第16図）

位置　調査2区北部のB3f7区～B3h9区に位置し，平坦な台地上に立地している。本跡の南東約20mにSK63のフラスコ状土坑が位置している。

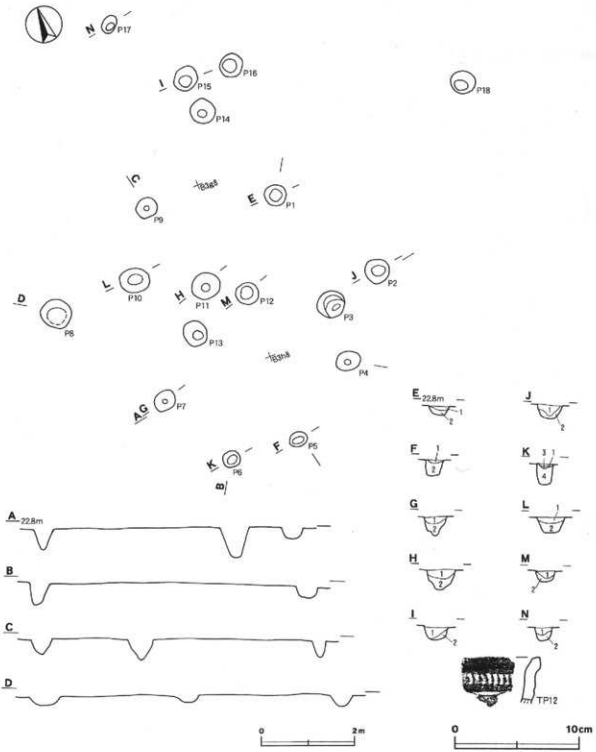
規模と形状　遺構確認調査の際，不規則に並ぶピットを確認した。床面及びかまどは認められない。ピット群の範囲は，南北11m，東西12mである。

ピット　18か所。P1・P2・P4・P5・P8・P9は，深さ23～37cmである。ピットの配列から，竪穴住居跡の柱穴の可能性をもっている。P10～P13は深さ28～44cmで，P1～P9の内側に位置している。P14～P18は深さ20～33cmで，P1～P9のやや離れた外側に位置している。

ピット土層解説（各ピット共通）
1　黒　色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量
3　暗褐色　ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子中量

遺物出土状況　縄文土器片13点（深鉢）が出土している。TP12は深鉢の口縁部片で，P11内の覆土から出土している。

所見　本跡は，床面及び炉跡が確認できなかったため，竪穴住居跡の可能性をもつピット群と判断した。本跡の南東約20mにフラスコ状土坑が存在し，ほぼ同時期の土器が出土している。時期は，出土土器から中期中葉の可能性が高い。



第16図　第１号ピット群・出土遺物拓影実測図

第１号ピット群出土遺物観察表（第16図）

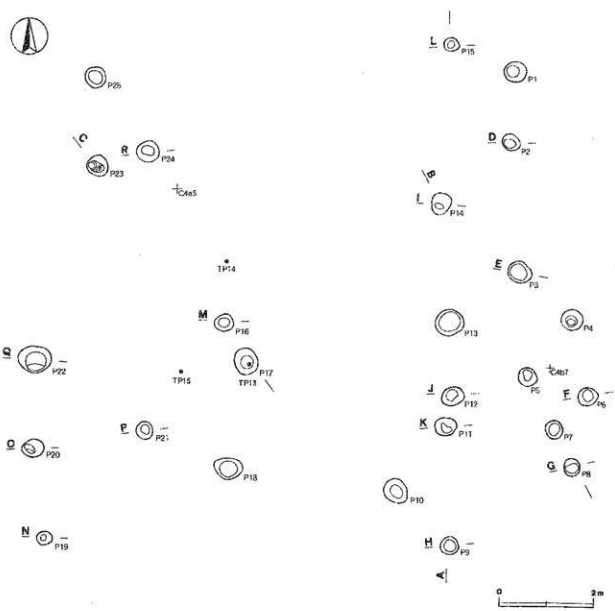
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP12	縄文土器	深鉢	－	(3.8)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部直下に，角押し文	P11内	PL30

第３号ピット群（第17～19図）

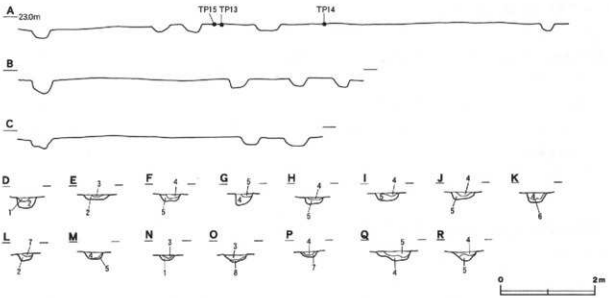
位置　調査２区中央部のＢ４j4区～Ｃ４b7区に位置し，平坦な台地上に立地している。本跡の北西約20mにSK63のフラスコ状土坑が位置している。

規模と形状　遺構確認調査の際，不規則に並ぶピットを確認した。床面及び周跡は認められない。ピット群の範囲は，南北11m，東西13mである。

ピット　25か所。Ｐ１～Ｐ３・Ｐ５～Ｐ７・Ｐ９～Ｐ13・Ｐ15～Ｐ21・Ｐ25は，深さ13～19cmである。Ｐ４・Ｐ８・Ｐ14・Ｐ22～Ｐ24は，深さ22～26cmである。出土した土器を中心に，竪穴住居跡としてのピットの配列を試みたが，推定するには困難である。



第17図　第３号ピット群実測図（１）

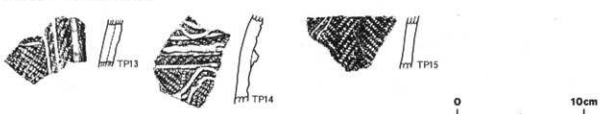


第18図　第３号ピット群実測図（２）

ピット土層解説（各ピット共通）
1　暗褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　暗褐色　ロームブロック微量
4　黒褐色　ローム粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子微量
6　褐　色　ロームブロック中量
7　黒褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
8　暗褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片11点（深鉢）が出土している。ＴＰ13～ＴＰ15は深鉢の胴部片である。ＴＰ13はＰ17の覆土上層から，ＴＰ14・ＴＰ15はＰ17付近の確認面から出土している。出土したＴＰ14・ＴＰ15は，SK63から出土した７と同一個体と思われる。

所見　本跡は，床面及び炉跡が確認できなかったため，竪穴住居跡の可能性をもつピット群と判断した。本跡の北西約20mにフラスコ状土坑が存在し，同一個体と思われる土器が出土していることから，中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）の可能性が高い。



第19図　第３号ピット群出土遺物拓影実測図

第３号ピット群出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP13	縄文土器	深鉢	－	(3.6)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	縦方向のRLの単節縄文を地文とし，隆帯に沿って沈線。	P17内	PL30
TP14	縄文土器	深鉢	－	(6.9)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	縦方向のRLの単節縄文を地文とし，隆帯に沿って沈線。	確認面	
TP15	縄文土器	深鉢	－	(5.1)	－	長石・石英・雲母	黒褐	普通	RLの単節縄文で，羽状構成をとる。	確認面	

第４号ピット群（第20・21図）

位置　調査２区南部のＣ４d3区～Ｃ４f5区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　遺構確認調査の際，不規則に並ぶピットを確認した。床面及び炉跡は認められない。ピット群の範囲は，南北７m，東西11mである。

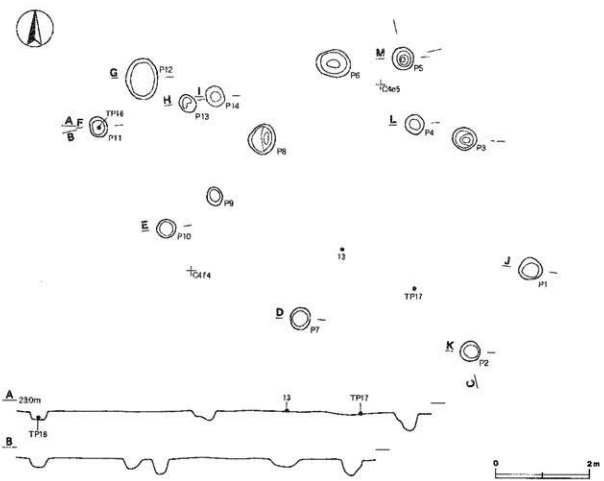
ピット　14か所。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ６～Ｐ13は，深さ18～27cmである。Ｐ３・Ｐ５・Ｐ14は，深さ33～40cmである。出土した土器を中心に，竪穴住居跡としてのピットの配列を試みたが，推定するには困難である。

ピット土層解説（各ピット共通）

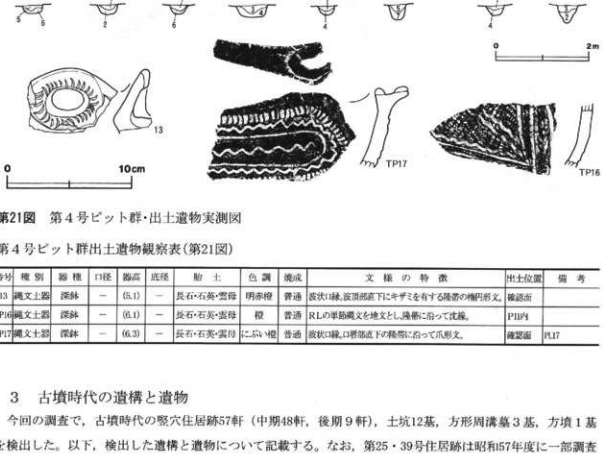
1　黒褐色　ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量
4　黒褐色　ロームブロック少量
5　褐　色　ローム粒子中量
6　暗褐色　ローム粒子中量
7　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片29点（深鉢）が出土している。土器は，ピット群全体の確認面に散在している。ＴＰ16は深鉢の胴部片で，Ｐ11の底面から出土している。13・ＴＰ17は深鉢の口縁部片で，Ｐ７の北東側の確認面から出土している。

所見　本跡は，ピット及び確認面から縄文土器片が出土している。住居跡としての床面及び炉跡は遺存せず，ピットの配列も不規則であることからピット群と判断した。時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）の可能性が高い。



第20図　第４号ピット群実測図



第21図　第４号ピット群・出土遺物実測図

第４号ピット群出土遺物観察表（第21図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
13	縄文土器	深鉢	－	(5.1)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	波状口縁,波頂部直下にキザミを有する隆帯の楕円形文。	確認面	
TP16	縄文土器	深鉢	－	(6.1)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	RLの単節縄文を地文とし,隆帯に沿って沈線。	P11内	
TP17	縄文土器	深鉢	－	(6.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	波状口縁,口唇部直下の隆帯に沿って爪形文。	確認面	PL17

3　古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で，古墳時代の竪穴住居跡57軒（中期48軒，後期９軒），土坑12基，方形周溝墓３基，方墳１基を検出した。以下，検出した遺構と遺物について記載する。なお，第25・39号住居跡は昭和57年度に一部調査し報告されているため，遺構の平面図は既報告分と合成した。遺物は今回出土したものだけを記載した。詳細については『茨城県教育財団文化財調査報告』第22集を参照されたい。

（１）竪穴住居跡

第１号住居跡（第22～26図）

位置　調査２区北西部のＢ３f4区に位置し，平坦な台地上に立地している。また，本跡の北西側部分は，調査区域外に延びている。

重複関係　南壁側の一部を第２号土坑に掘り込まれている。

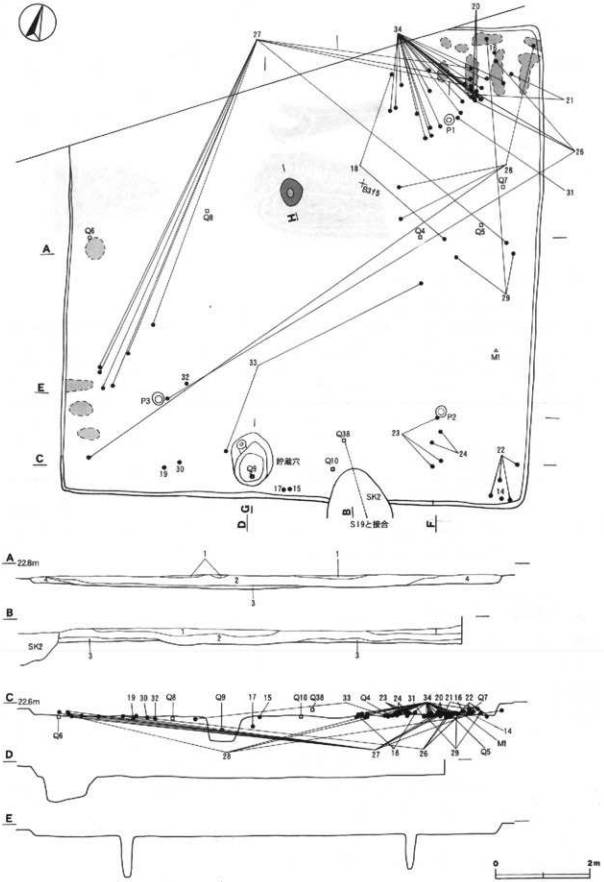
規模と形状　長軸10.22m，短軸10.04mの方形で，主軸方向はＮ－13°－Ｗである。壁高は15～24cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。暗褐色のローム土でややしまりはあるものの，硬化した部分はない。北東コーナー部と南西コーナー部に，長径50～130cm，短径25～30cmの長楕円形の焼土塊が，壁と直交するように並んで確認された。焼土は，床面よりも硬くしまっている。

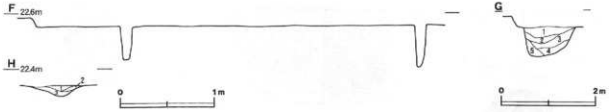
炉　中央部の北西寄りに位置している。長径59cm，短径47cmの楕円形で，床面を10cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けわずかに硬化している。

炉土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量



第22図　第１号住居跡実測図（１）



第23図　第１号住居跡実測図（２）

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ87～91cmで，配列から主柱穴と思われる。Ｐ１と東西方向で対応する主柱穴は，位置的に調査区域外に位置することから確認できなかった。

貯蔵穴　南壁際の中央部に位置している。長径113cm，短径85cmの楕円形で，深さ59cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化物少量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

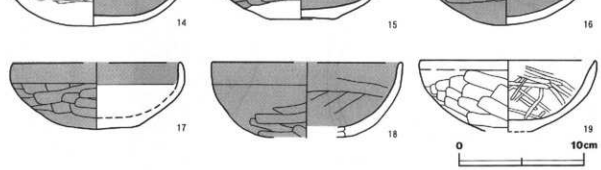
覆土　４層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

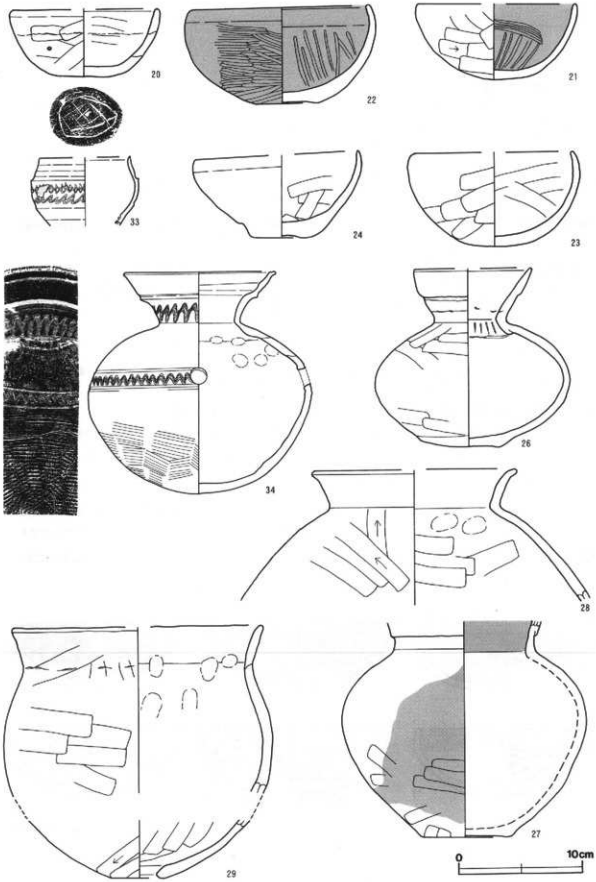
1　極暗褐色　ローム粒子少量
2　黒 褐 色　ロームブロック微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片1,784点，須恵器片10点，臼玉２点，紡錘車３点，砥石１点，鎌１点，石片444点，種子（桃）１点のほか，流れ込んだ縄文土器片13点が出土している。これらの遺物は，主に壁際の覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。14～34は，各壁寄りの覆土下層から床面にかけて，30・32は床面から横位の状態でそれぞれ出土している。26～28は北東部と南西部の対角するコーナー部付近の覆土下層から出土した破片が接合したもので，投棄された状況を示している。Ｑ４～８・10，Ｍ１は覆土下層から，Ｑ９は貯蔵穴内から出土している。また，Q38は第９号住居跡の覆土中層から出土した破片と接合したものである。

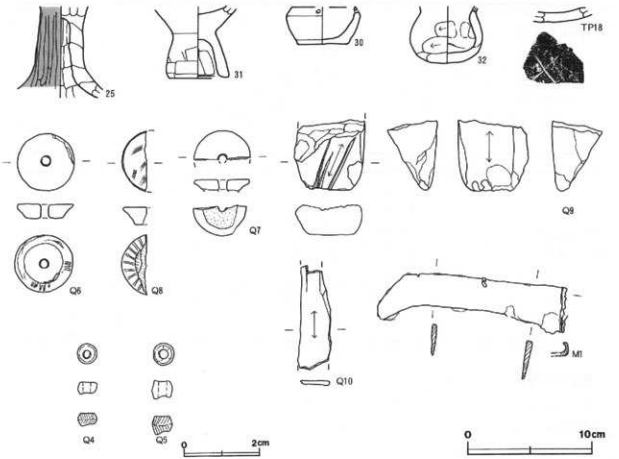
所見　本跡は，一辺が10mを超える大形の住居跡である。時期は，壁際の覆土下層から床面の土器と北東コーナー部付近の床面から出土した34の須恵器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第24図　第１号住居跡出土遺物実測図（１）



第25図　第１号住居跡出土遺物実測図（２）



第26図　第１号住居跡出土遺物実測図（３）

第１号住居跡出土遺物観察表（第24～26図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
14	土師器	坏	13.9	5.6	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ,体部内・外面ヘラ磨き。	南東コーナー部床面	90%　PL18
15	土師器	坏	15.5	8.1	5.1	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ヘラナデ。	南壁際床面	85%
16	土師器	坏	[13.6]	5.5	－	石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ヘラナデ。	北東コーナー部下層	75%
17	土師器	坏	13.4	5.3	6.5	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部横ナデ,体部内面調整,底部ヘラ削り。	南壁際床面	40%
18	土師器	坏	[15.2]	(6.0)	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ヘラナデ。	北東コーナー部下層	30%
19	土師器	坏	14.0	(5.7)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ヘラ磨き。	南壁際床面	95%　PL18
20	土師器	坏	[11.6]	5.5	4.1	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ヘラナデ,底部ヘラ磨き痕り。	北東コーナー部床面	45%
21	土師器	椀	[12.6]	5.6	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ヘラ磨き。	北東コーナー部下層	60%
22	土師器	椀	14.5	7.9	4.9	長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ,体部内・外面ヘラ磨き,底部ヘラ削り。	南東コーナー部下層	75%　PL18
23	土師器	椀	[13.1]	7.7	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ,体部内・外面ヘラナデ。	南東コーナー部床面	65%
24	土師器	椀	[13.1]	7.1	4.7	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ,体部外面ヘラナデ,内面ヘラナデ。	南東コーナー部下層	35%
25	土師器	高坏	－	(7.1)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き,内面輪部ヘラ痕。	覆土	20%
26	土師器	壺	[9.3]	14.3	4.5	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面調整,底部ヘラ削り。	北東・南西部床面	75%　PL18
27	土師器	壺	(17.5)	7.1	－	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面ヘラ削り,内面調整。	北東・南西部床面	55%
28	土師器	壺	[16.6]	(10.9)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ヘラナデ。	北東・南西部床面	35%
29	土師器	甕	[22.0]	(13.6)	－	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ,体部外面ヘラナデ,内面ナデ,指頭痕。	東壁寄り下層	35%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
30	土師器	下駄土器	(5.1)	3.0	4.0	長石・雲母	淡い黄橙	普通	輪積み，内面ヘラナデ，底部ヘラケズリ。	南壁際床面	95%
31	土師器	下駄土器	—	(5.8)	4.7	長石・石英	淡い黄橙	普通	輪積み，内面ヘラナデ。	北東コーナー部床面	35%
32	土師器	手捏土器	—	(4.7)	—	長石・雲母	淡い黄橙	普通	指頭痕が残る。内面ヘラナデ，底部ヘラケズリ。	中央部床面	40%
33	須恵器	壺下付椀	(7.6)	(5.5)	—	長石	灰	良好	口縁部（ヨコナデ）以下ヘラケズリ，底部外周ヘラケズリ，底部内面ヘラナデ。	中央・南壁寄中央床面	30%
34	須恵器	大形甕	12.2	18.0	—	長石	灰	良好	胴部に12本の櫛状ヘラ描による波状文，外面胴部上位平行叩き，底部ヘラケズリ，内面ヘラナデ。	北東コーナー部床面	90% PL19
TP18	土師器	坏	—	(1.2)	—	長石・石英	暗赤褐	普通	底部ヘラきり痕。	覆土	

番号	種類	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	臼玉	0.65	0.2	0.22	0.11	滑石	側面は大敲状，片面穿孔。	東壁寄中下層	
Q5	臼玉	0.56	0.28	0.51	0.19	滑石	側面は大敲状，片面穿孔。	東壁寄中下層	
Q6	紡錘車	4.6	0.7	1.2	34.6	滑石	円錐台形，無文。	西壁際下層	PL32
Q7	紡錘車	4.5	(0.8)	(0.9)	(9.75)	粘板岩	無文。	東壁際上層	
Q8	紡錘車	(2.1)	(1.8)	1.5	(11.8)	滑石	上面隆起，下面多方向の研磨。	中央部下層	
Q9	砥石(小)	(5.7)	5.7	4.1	(100.5)	凝灰岩	断面は三角形，砥面2面。	貯蔵穴内	
Q10	砥石	(6.3)	(2.7)	3.4	(15.4)	粘板岩	断面は長方形，砥面1面。	南壁際床面	
M1	鉄	(15.2)	4.8	0.3～0.4	(43.0)	鉄	成刀鋒，茎部は全体を折り返す。	東壁際下層	PL32

第2号住居跡（第27～30図）

位置　調査2区中央部のＣ４c4区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　長軸5.33m，短軸4.52mの長方形で，主軸方向はＮ－７°－Ｅである。壁高は21～35cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，出入り口付近から中央部にかけてよく踏み固められている。出入り口部分には，馬蹄形に構築されたローム土の高まりがある。また，各壁際の床面から，焼土塊とともに，北壁際と西壁際から壁と平行に倒れている炭化材が検出された。

炉　３か所。炉１は中央部の北寄りに位置している。長径64cm，短径51cmの楕円形で，床面を４cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉２は中央部の東寄りに位置している。長径67cm，短径45cmの楕円形で，床面を９cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉３は中央部から南壁寄りに位置している。長径96cm，短径83cmの不定形で，床面を７cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。いずれも炉床面は凹凸で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

炉１土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子・ローム粒子少量

炉２土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物少量
2　赤褐色　焼土ブロック少量，炭化物微量

炉３土層解説
1　にぶい赤色　焼土ブロック中量，炭化物微量
2　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子・ローム粒子少量

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ26～30cmで主柱穴と思われる。Ｐ１～Ｐ３と対応する主柱穴を精査したがピットは確認できなかった。

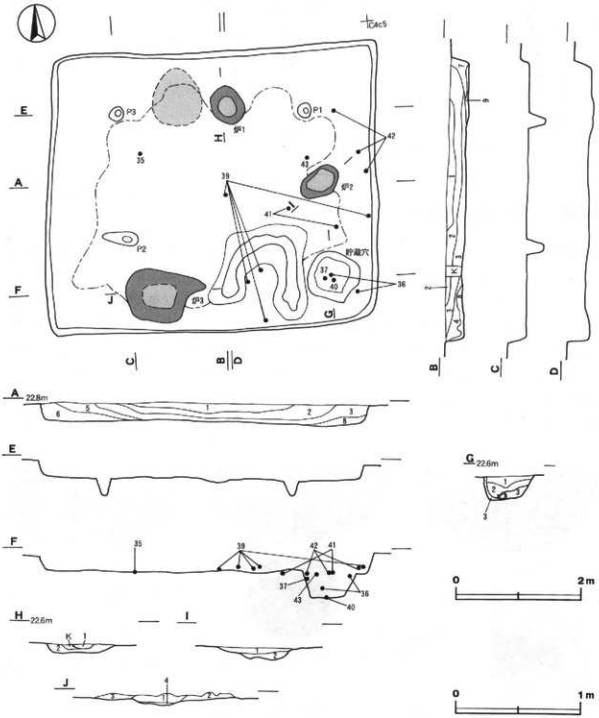
貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径80cm，短径75cmの楕円形で，深さ38cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　褐色　ロームブロック中量，焼土粒子少量

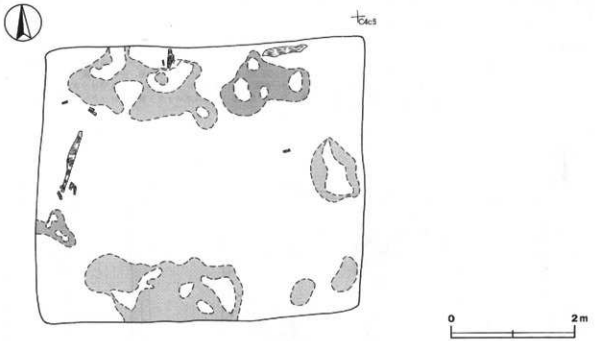
覆土　9層に分層され，第1～6層はレンズ状に堆積した自然堆積である。第7～9層は焼土ブロックや炭化物を少量から中量含んだ人為堆積である。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
2　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子中量，炭化粒子・焼土粒子微量
6　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
7　暗褐色　ローム粒子中量，炭化物少量
8　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
9　赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化物少量



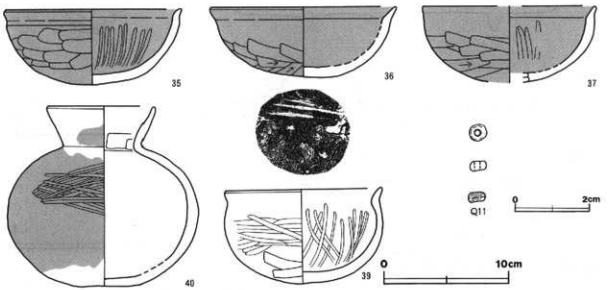
第27図　第2号住居跡実測図(1)



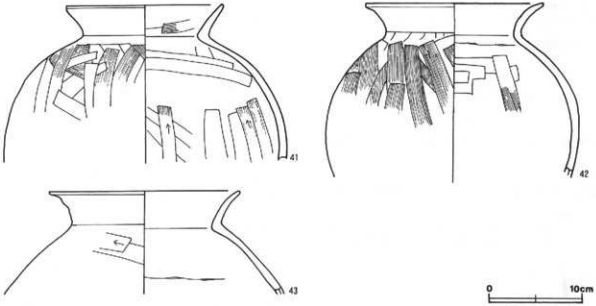
第28図　第２号住居跡実測図（２）

遺物出土状況　土師器片530点，炭化米246粒，炭化種子（ひし）287.4ｇのほか，流れ込んだ縄文土器片８点が出土している。これらの遺物は，主に各壁寄りの覆土下層から床面にかけて出土している。35は床面から土圧でつぶれた状態で出土している。41～43は覆土下層から床面にかけて出土した破片が接合したもので，投棄されたものとみられる。37は貯蔵穴の中層から横位の状態で出土している。また，炭化米は第３層以下の覆土を水洗選別し検出したものである。炭化種子（ひし）は，炉３上面の焼土塊の中からまとまって出土している。ひしは殻の部分のみで，個体数は不明である。図示した以外にも，土師器甕の１個体分の破片が出土している。

所見　本跡は，主に壁寄りの床面から焼土塊と炭化材が多量に出土していることや，出土土器の状況から焼失住居と考えられる。時期は，床面及び貯蔵穴から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第29図　第２号住居跡出土遺物実測図（１）



第30図　第２号住居跡出土遺物実測図（２）

第２号住居跡出土遺物観察表（第29・30図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
35	土師器	坏	14.2	6.1	－	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き．	中央部床面	95%　PL18
36	土師器	坏	[14.8]	5.6	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ・一部刷毛，底部糸切痕．	貯蔵穴下層	35%
37	土師器	坏	[14.0]	(6.1)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き．	貯蔵穴中層	40%
39	土師器	椀	[12.6]	7.7	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ．	南東側下層	80%　PL18
40	土師器	坩	8.5	14.7	4.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面ナデ，内面ヘラナデ，体部外面ヘラ磨き，内面ナデ．	貯蔵穴底面	100%　PL19
41	土師器	壺	16.7	(16.8)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ，体部内面ヘラ調整，内面ヘラ削り．	南東側床面	25%
42	土師器	壺	[19.0]	(18.6)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ調整，内面ヘラナデ．	東壁寄り床面	25%
43	土師器	壺	20.2	(11.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ・輪積み痕．	東壁寄り床面	25%

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q11	臼玉	0.43	0.15	0.28	0.06	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔．	覆土	

第３号住居跡（第31・32図）

位置　調査区２区中央部のＣ３a0区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　長軸5.6m，短軸4.26mの長方形で，主軸方向はＮ－６°－Ｅである。壁高は15～19cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。床面は褐色のローム土で，硬化した部分はない。

炉　２か所。炉１は中央部の北寄りに位置している。長径55cm，短径43cmの楕円形で，床面を９cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉２は中央部から西寄りに位置している。長径44cm，短径36cmの楕円形で，床面を６cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

炉1土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
3　赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
4　赤 褐 色　焼土ブロック中量

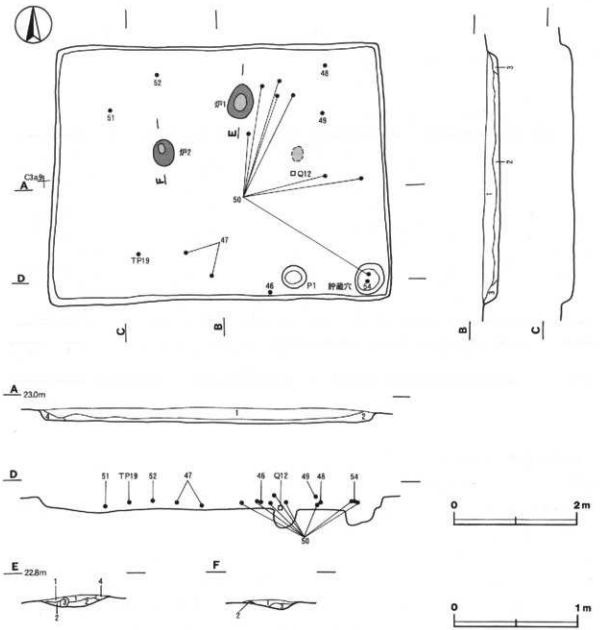
炉2土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック少量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量

ピット　P1は深さ26cmで，南壁際の貯蔵穴寄りに位置していることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径53cm，短径47cmの楕円形で，深さ22cmである。底面は皿状で，壁は直立している。

覆土　4層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

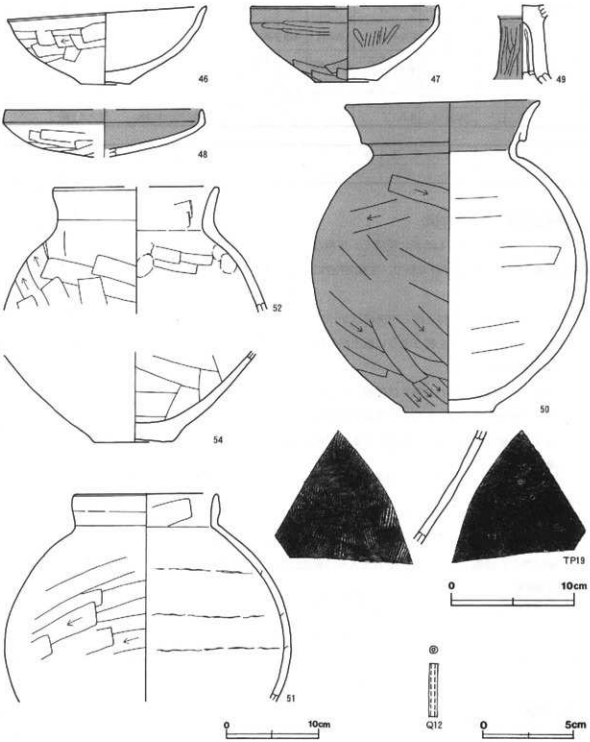
土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
4　褐　　色　ローム粒子少量，炭化物微量



第31図　第3号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片1,072点，須恵器片１点，管玉１点のほか，流れ込んだ縄文土器片15点が出土している。これらの遺物は，遺構全体の覆土中層から下層にかけて破片の状態で出土している。49・52・54・Q12は覆土中層から，46～48・51・ＴＰ19・Q12は覆土下層からそれぞれ出土している。50は北壁寄りから南東コーナー部の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見　遺物は覆土中層から下層にかけて出土し，50のように覆土中層から下層の破片が接合していることから，住居廃絶時に投棄されたものと推測される。時期は，出土土器から中期（５世紀後葉）と思われる。



第32図　第３号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表(第32図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
46	土師器	坏	16.4	6.4	3.9	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ナデ．	南壁寄り中層	90% PL19
47	土師器	坏	15.4	6.2	5.0	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面上位ヘラ削り，下位ヘラ削り，内面ヘラ磨き．	南壁寄り下層	80%
48	土師器	坏	(16.0)	(5.9)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ．	北東コーナー部下層	35%
49	土師器	高坏	-	(6.2)	-	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	脚部内面ヘラ磨き，外面縦位ケズリによるナデ．	北東コーナー部中層	15%
50	土師器	甕	15.8	25.8	7.0	長石・石英	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ヘラナデ．	南東部中層から下層	55% PL19
51	土師器	甕	15.5	(23.1)		長石・石英	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ・輪積痕残．	北西コーナー部下層	35% PL19
52	土師器	甕	(13.4)	(10.2)		長石・石英・雲母・礫	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，内面ヘラナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ・輪積痕．	北壁寄り中層	20%
54	土師器	甕	-	(7.3)	6.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ナデ，内面ヘラナデ．	南東コーナー部中層	15%
TP19	紡錘器	錘		(9.2)	-	長石	灰	普通	円錐状の平円錐状，内面凹状の溝で完成	中央部下層	

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
6,12	管玉	2.9	0.42	0.23	1.16	緑色結晶凝灰岩	細長い竹管状，片面穿孔．	中央部下層	

第4号住居跡(第33～36図)

位置　調査2区中央部のC4d2区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　一辺5.8mほどの方形で，主軸方向はN－12°－Eである。壁高は29～34cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，出入り口付近から中央部にかけて，よく踏み固められている。壁溝は，北壁際と西壁際に認められる。また，床面全体を覆うように焼土が薄弱され，壁際から中央に向かって倒れた状態で垂木材と思われる炭化材が出土している。

炉　2か所。炉1は中央部の北寄りに位置している。長径75cm，短径51cmの不定形で，床面を5cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉2は中央部のやや北寄りに位置している。長径65cm，短径47cmの楕円形で，床面を6cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

炉1土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子少量

炉2土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量　　2　にぶい赤褐　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

ピット　5か所。P1は深さ30cm，P2～P4は深さ41～44cmで，配列から主柱穴と思われる。P5は深さ41cmで，南壁寄りに位置していることから出入り口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説
P1～P4　1　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量　　3　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
　　2　褐　色　ロームブロック中量　　4　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
P5　1　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　　3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
　　2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　　4　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。径62cmほどの円形で，深さ48cmである。底面は皿状で，壁は外傾している。

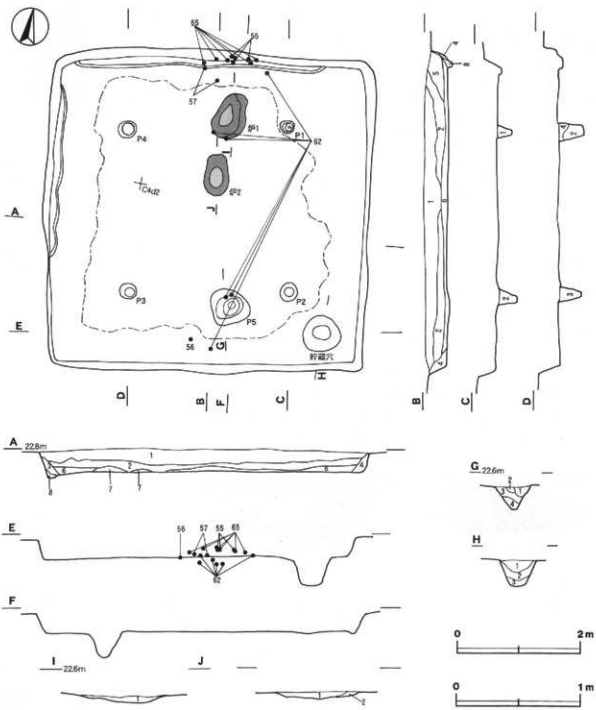
貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量　　3　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量

覆土　8層に分層され，覆土全体に焼土ブロック及び炭化物を少量から中量含む人為堆積である。

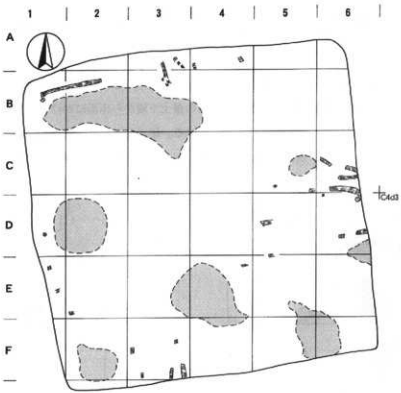
土層解説

1　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
3　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
4　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　暗褐色　焼土ブロック・炭化材中量，ロームブロック少量
6　暗褐色　焼土ブロック・炭化材中量，ロームブロック少量
7　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量

遺物出土状況　土師器片1,078点，臼玉14点，砥石１点，ガラス小玉１点，炭化米5,607粒，不明鉄製品１点のほか，混入した縄文土器片16点が出土している。遺物は細片が多く，壁際の覆土下層から床面にかけて出土している。55・57・65は覆土下層から，56・62は床面からそれぞれ出土している。図示した以外にも，土師器坏４個体分，壺１個体分の破片が出土している。また，遺構内に１ｍの方眼を組み，第２層以下の覆土を水洗選

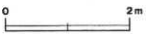


第33図　第４号住居跡実測図（１）



炭化米出土数一覧表

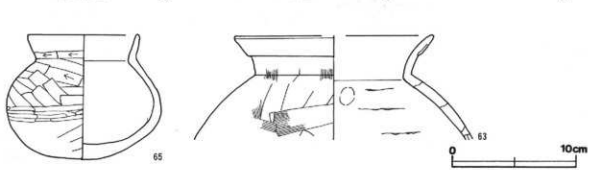
位置	粒	位置	粒
A1	0	D2	1,978
A2	0	D3	72
A3	6	D4	65
A4	0	D5	88
A5	0	D6	34
A6	0	E1	5
B1	14	E2	375
B2	427	E3	360
B3	248	E4	50
B4	79	E5	8
B5	110	E6	2
B6	0	F1	0
C1	34	F2	15
C2	247	F3	37
C3	29	F4	7
C4	609	F5	4
C5	181	F6	1
C6	23	G2	0
D1	72	G3	0
その他			427



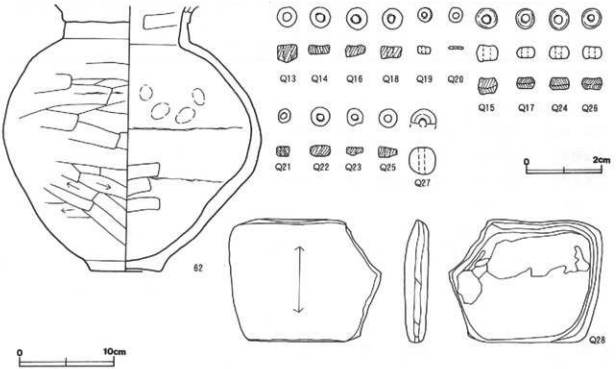
第34図　第４号住居跡実測図（２）

別し，白玉・ガラス小玉・炭化米を検出した。炭化米は，西壁寄りの中央部からの出土が1,978粒と最も多く，この付近に米が置かれていたと想定される。

所見　本跡は，床面全体から焼土が確認され，炭化材が壁際から中央に向かって横位の状態で出土していることなどから焼失住居と考えられる。炭化米は，茶碗約１膳分の量であり，貯蔵量から考えると少ない。時期は，覆土下層及び床面から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第35図　第４号住居跡出土遺物実測図（１）



第36図　第４号住居跡出土遺物実測図（２）

第４号住居跡出土遺物観察表（第35・36図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
55	土師器	坏	12.7	(5.7)	－	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ヘラ磨き。	北壁際下層	65%　PL19
56	土師器	坏	14.0	5.5	4.5	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面上位ヘラ磨き，下位ヘラ削り，内面ヘラナデ，底部ヘラ削り。	南壁寄り床面	60%
57	土師器	坏	[11.6]	4.5	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	北壁際下層	35%
62	土師器	壺	－	(28.1)	7.3	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ・指頭痕。	北壁・南壁寄り床面	45%
63	土師器	壺	[15.9]	(8.3)	－	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ目調整，内面ヘラナデ・指頭痕。	覆土	15%
65	土師器	小形壺	[9.1]	10.3	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き，内面ナデ。	北壁際下層	70%

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q13	臼玉	0.5	0.21	0.56	0.1	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	PL31
Q14	臼玉	0.5	0.18	0.21	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	PL31
Q15	臼玉	0.51	0.24	0.42	0.13	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	覆土	PL31
Q16	臼玉	0.56	0.22	0.31	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	PL31
Q17	臼玉	0.45	0.2	0.22	0.08	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	覆土	PL31
Q18	臼玉	0.53	0.18	0.29	0.11	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	PL31
Q19	臼玉	0.35	0.18	0.18	0.04	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	PL31
Q20	臼玉	0.4	0.09	0.06	0.02	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	貯蔵穴覆土	PL31
Q21	臼玉	0.31	0.17	0.22	0.04	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	貯蔵穴覆土	PL31
Q22	臼玉	0.5	0.14	0.28	0.12	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	貯蔵穴覆土	PL31
Q23	臼玉	0.42	0.16	0.2	0.05	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	PL31
Q24	臼玉	0.52	0.19	0.3	0.14	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	覆土	PL31
Q25	臼玉	0.5	0.18	0.24	0.08	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	貯蔵穴覆土	PL31
Q26	臼玉	0.52	0.17	0.32	0.15	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	貯蔵穴覆土	PL31

番号	器　種	長さ(径)	幅(孔径)	厚　さ	重　量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q27	小玉	0.7	0.16	0.09	(0.21)	ガラス	濃いブルー，球状，両面面取り。	覆土	PL31
Q28	礫石	12.9	16.2	2.4	733.0	砂岩	断面は長方形，礫面2面，中央部がややくぼむ。	覆土	

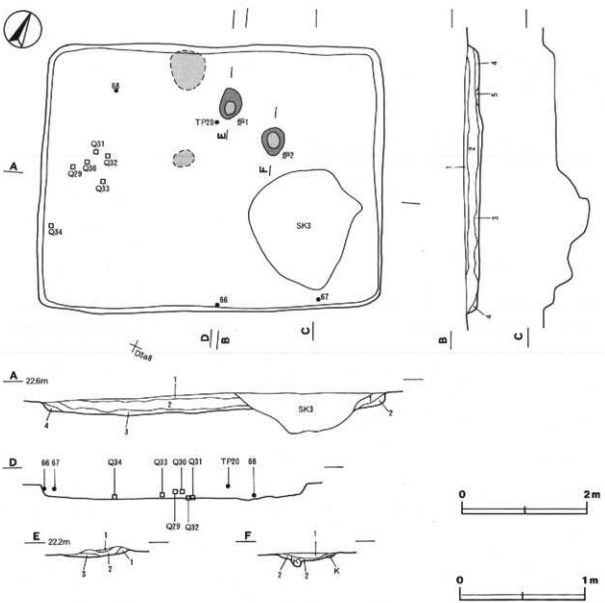
第５号住居跡（第37・38図）

位置　調査２区南西部のＣ３j7区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係　中央部を第３号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.57m，短軸4.36mの長方形で，主軸方向はＮ－22°－Ｅである。壁高は16～20cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。暗褐色のローム土で全体的にしまりはあるものの，硬化した部分はない。ほぼ中央部と北壁側に，径34cmほどの円形の焼土が，硬化した状態で確認された。



第37図　第５号住居跡実測図

炉　2か所。炉1は中央部の北寄りに位置している。長径53cm，短径35cmの楕円形で，床面を5cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉2は中央部の北東寄りに位置している。長径46cm，短径37cmの楕円形で，床面を6cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は，わずかに硬化している。

炉1土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量

炉2土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

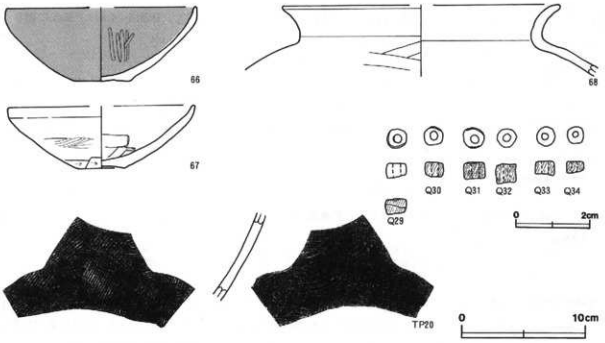
ピット　主柱穴及び出入り口ピットの配列を考えて床面を精査したが，確認できなかった。

覆土　5層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　暗褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片54点，須恵器片1点，白玉6点，礫4点が出土している。これらの遺物は，西コーナー部付近と南西壁際の覆土下層から破片の状態で出土している。66・67・TP20は覆土下層から，68は床面からそれぞれ出土している。また，Q29～34は西壁寄りの覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。

所見　本跡は，複数の炉をもち屋内に柱穴を掘り込まない住居跡である。時期は，南西壁際から出土した土器から判断して，中期（5世紀後葉）と思われる。



第38図　第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
66	土師器	坏	[15.2]	6.0	4.6	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ナデ，内面ヘラ磨き．	南東壁際下層	60%
67	土師器	坏	[14.9]	5.0	—	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面上位ヘラ磨き，下位ヘラ削り，内面ヘラナデ．	南東壁際下層	60%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	下位の特徴	出土層位	備考
68	土師器	甕	(22.4)	(5.4)		長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部斜位ヘラナデ，内面ナデ．	南コーナー部床面	3%
1120	須恵器	甕	—	(7.0)	—	長石	灰	普通	外面斜位カキ目後，内面ロクロ目残り，底部ヘラ切り．	中央部下層	

番号	種類	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土層位	備考
Q29	白玉	0.51	0.2	0.38	0.19	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔．	西壁寄り床面	
Q30	白玉	0.49	0.2	0.4	0.16	滑石	側面は円筒状，片面穿孔．	西壁寄り床面	
Q31	白玉	0.52	0.2	0.43	0.19	滑石	側面は円筒状，片面穿孔．	西壁寄り下層	
Q32	白玉	0.5	0.19	0.42	0.18	滑石	側面は円筒状，片面穿孔．	西壁寄り下層	
Q33	白玉	0.5	0.2	0.4	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔．	西壁寄り下層	
Q34	白玉	0.45	0.15	0.3	0.08	滑石	側面は円筒状，片面穿孔．	西壁際下層	

第６号住居跡（第39・40図）

位置　調査２区北東部のＡ５f0区に位置し，平坦な台地上に立地している。また，本跡の東側部分は，調査区域外に延びている。

規模と形状　東側部分が調査区域外に延びているため，南北軸は4.08m，東西軸は最大で2.29mだけ確認され，N－11°－Eを主軸とする方形または長方形と推定される。壁高は27～35cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉を中心に中央部がよく踏み固められている。西壁寄りから，焼土塊を確認した。

炉　ほぼ中央部に位置していると推定される。長径44cm，短径38cmの楕円形で，床面を24cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床面はやや凹凸があり，炉床はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量

ピット　主柱穴及び出入り口ピットの配列を考えて床面を精査したが，確認できなかった。

貯蔵穴　南西コーナー部に位置している。長径34cm，短径22cmの楕円形で，深さ24cmである。底面は皿状で，壁は外傾している。

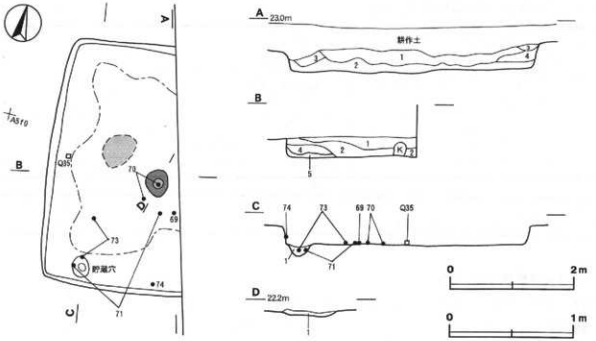
貯蔵穴土層解説
1　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

覆土　５層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

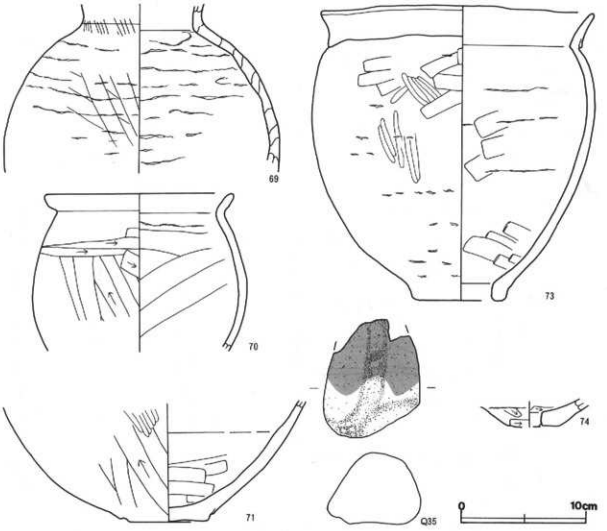
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片73点，炉石１点，礫２点が出土している。これらの遺物は，南西コーナー部から炉付近にかけての床面から出土している。69・70・73・Q35はそれぞれ床面から出土している。71は貯蔵穴の覆土上層から，逆位のつぶれた状態で出土している。図示した以外にも，土師器甕の１個体分の破片が出土している。

所見　本跡は，遺存している部分が少なく，本来の形状を把握することができなかった。時期は，床面及び貯蔵穴から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第39図　第６号住居跡実測図



第40図　第６号住居跡出土遺物実測図

第６号住居跡出土遺物観察表（第40図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
69	土師器	壺	－	(13.7)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラナデ，内・外面輪積み痕。	中央部床面	20%
70	土師器	甕	15.2	(12.6)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ・輪積み痕。	中央部床面	40%
71	土師器	甕	－	(5.9)	6.4	長石・石英・礫	灰褐	普通	体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	中央部・貯蔵穴上層	40%
73	土師器	甑	21.9	23.9	7.5	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ磨き後，ヘラナデ，内面ヘラナデ，内・外面輪積み痕。	南西コーナー部床面	90%　PL20
74	土師器	甑	－	(2.1)	3.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラ削り。	南壁際下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q35	炉石	(9.5)	7.8	5.8	(516.9)	安山岩	断面は三角形。火熱による赤変部分有り。	西壁際床面	

第７号住居跡（第41・42図）

位置　調査２区北西部のＢ３e7区に位置し，平坦な台地上に立地している。

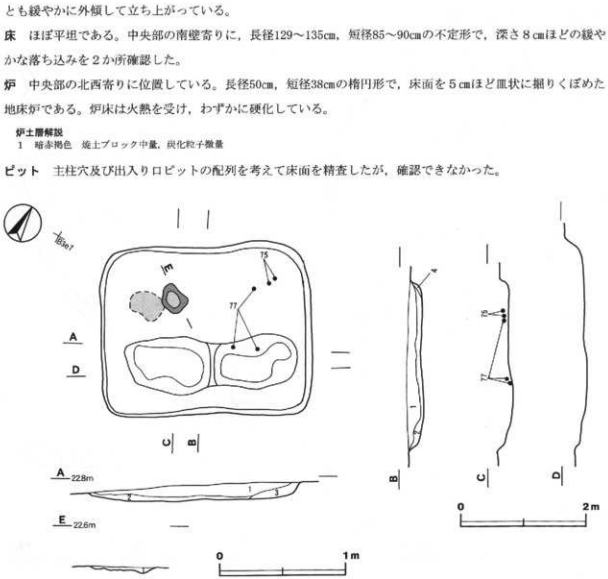
規模と形状　長軸3.36m，短軸2.68mの長方形で，主軸方向はＮ－32°－Ｗである。壁高は10～21cmで，各壁とも緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。中央部の南壁寄りに，長径129～135cm，短径85～90cmの不定形で，深さ８cmほどの緩やかな落ち込みを２か所確認した。

炉　中央部の北西寄りに位置している。長径50cm，短径38cmの楕円形で，床面を５cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け，わずかに硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

ピット　主柱穴及び出入り口ピットの配列を考えて床面を精査したが，確認できなかった。



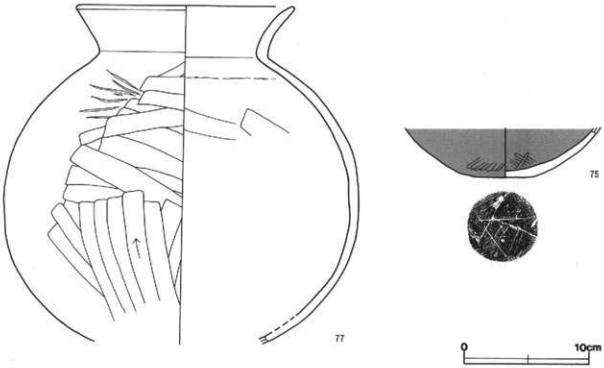
第41図　第７号住居跡実測図

覆土　4層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量
4　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片125点，礫１点が出土している。これらの遺物は，主に覆土中層から下層にかけて破片の状態で出土している。75は覆土下層から，77は床面から出土している。図示した以外にも，土師器坏・甕の１個体分の破片が出土している。

所見　本跡は，屋内に柱穴を掘り込まない小形の住居跡である。時期は，覆土下層及び床面から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第42図　第７号住居跡出土遺物実測図

第７号住居跡出土遺物観察表（第42図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
75	土師器	坏	—	(4.0)	4.7	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面へラ磨き，底部へラ削り，内へラ磨き有り。	北コーナー部下層	30%
77	土師器	甕	(7.3	(27.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面へラ削り，底部ヘラ削り，内面へラナデ。	中央部床面	50%

第８号住居跡（第43・44図）

位置　調査２区中央部のＣ４a2区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　遺構確認の際，ほとんど削平され壁溝のみが遺存している。壁溝間で長軸5.96m，短軸5.2mの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－28°－Ｗと推定される。

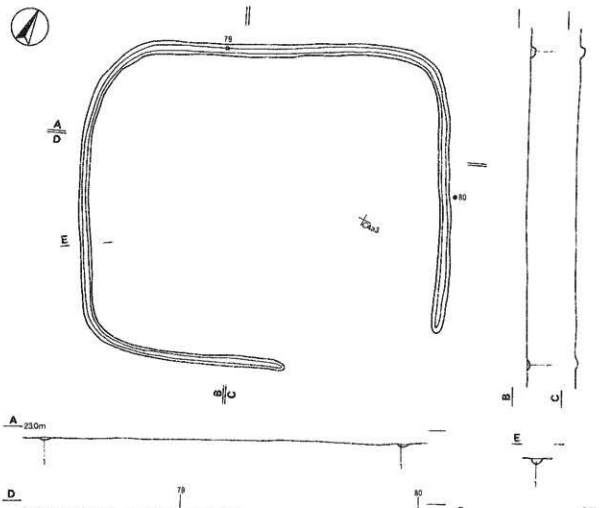
床　壁溝のみが遺存のため床面は不明である。壁溝は，東コーナー部を除き方形に巡っている。

壁溝土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

ピット　主柱穴及び出入りピットの配列を考えて床面を精査したが，確認できなかった。

遺物出土状況　土師器片26点が出土している。79は北西側の壁溝内から，80は北東側の壁溝際から出土し，いずれも本跡に伴うものと考えられる。

所見　本跡は，壁溝のみの遺存のため住居形態は明確にできないが，出土した土器片及び周囲の住居から判断して，時期は中期（５世紀後葉）の可能性が考えられる。



第43図　第８号住居跡実測図

第44図　第８号住居跡出土遺物実測図

第８号住居跡出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
79	土師器	壺	(16.6)	(4.3)		長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ。	北西側壁溝内	5%
80	土師器	壺	(7.6)	(2.6)		石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ。	北東側壁溝際	5%

第９号住居跡（第45～47図）

位置　調査２区西部のＣ３g9区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係　北コーナー部を第４号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.89m，短軸5.86mの長方形で，主軸方向はＮ－28°－Ｗである。壁高は17～35cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。暗褐色のローム土でややしまりはあるものの，硬化した部分はない。

炉　ほぼ中央部に位置している。長径70cm，短径52cmの楕円形で，床面を５cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は，わずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ59～75cmで，配列から主柱穴と思われる。Ｐ５は深さ50cmで，貯蔵穴の北西側に位置し，中央部に向かって斜めに掘り込まれていることから出入り口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説（各ピット共通）
1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック中量
3　暗褐色　ロームブロック中量

貯蔵穴　南東壁際のほぼ中央部に位置している。径85cmほどの円形で，深さ60cmである。底面は平坦で，壁は外傾する。

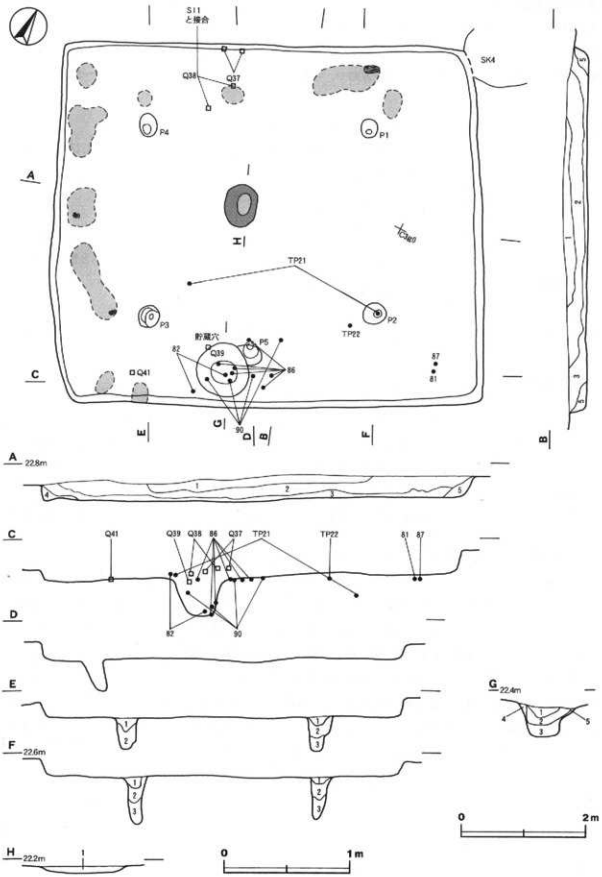
貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・炭化材・焼土粒子少量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　褐　色　ロームブロック中量

覆土　５層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。覆土中層から下層の北西壁際から南西壁際にかけて，焼土粒子を主体とする焼土と炭化材の小片が広がっている。

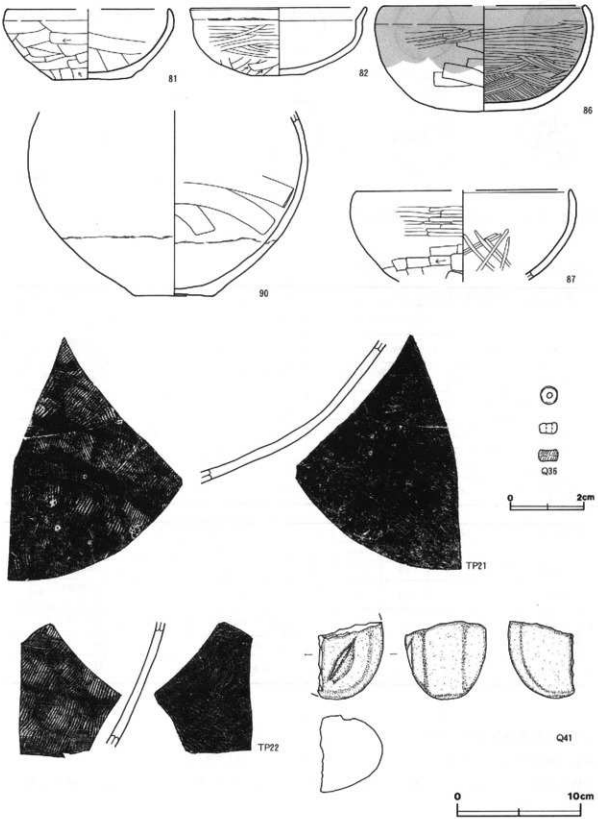
土層解説
1　黒褐色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片685点，須恵器片２点，石玉１点，石製紡錘車３点，砥石１点，磨石１点のほか，流れ込んだ縄文土器片２点が出土している。これらの遺物は，南壁寄りの覆土下層から床面にかけて破片の状態で出土している。81・87・ＴＰ22・Ｑ39・Ｑ41はそれぞれ床面から出土し，ＴＰ21は床面とＰ２内から出土したものが接合している。82・86・90は貯蔵穴付近の床面と貯蔵穴内の破片が接合したもので，投棄された状況を示している。また，Ｑ38は第１号住居跡の覆土下層から出土した破片と接合したものである。図示した以外にも，土師器坏３個体分・甕１個体分・壺１個体分の破片が出土している。

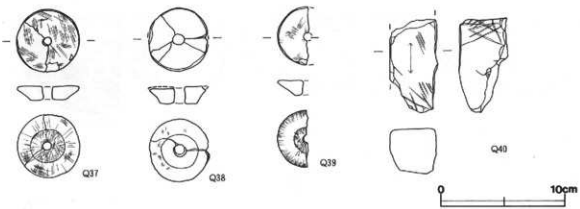
所見　本跡は，遺物の出土状況や焼土の広がりから，廃絶に伴う焼失住居の可能性が考えられる。また，Ｑ38は，第１号住居跡から出土した破片と接合していることから，両住居跡はほぼ同時期に廃絶されたと推測される。時期は，床面から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第45図　第９号住居跡実測図



第46図　第９号住居跡出土遺物実測図（１）



第47図　第９号住居跡出土遺物実測図（２）

第９号住居跡出土遺物観察表（第46・47図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
81	土師器	坏	[13.2]	5.8	6.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ヘラナデ．	東コーナー部床面	65%　PL19
82	土師器	坏	14.2	5.6	4.3	長石・石英・雲母	黄橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ナデ．	南東壁床面・貯蔵穴内	95%　PL19
86	土師器	椀	16.4	8.6	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラナデ後，ヘラ磨き，内面ヘラ磨き．	南東壁床面・貯蔵穴内	30%　PL20
87	土師器	椀	[17.5]	(5.2)	－	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面上位ヘラ磨き，下位ヘラ削り，内面ヘラ磨き．	東コーナー部床面	35%
90	土師器	甕	－	(15.1)	6.7	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面ナデ，内面ヘラナデ，内・外面輪積み痕．	南東壁床面・貯蔵穴内	65%
TP21	須恵器	甕	－	(11.7)	－	長石	灰	普通	外面胴位の平行叩き，内面同心円状の当て具痕．	中央部床面・P2内	内面自然釉付着
TP22	須恵器	甕	－	(10.3)	－	長石	灰	普通	外面胴位の平行叩き，内面同心円状の当て具痕．	南東壁寄り床面	

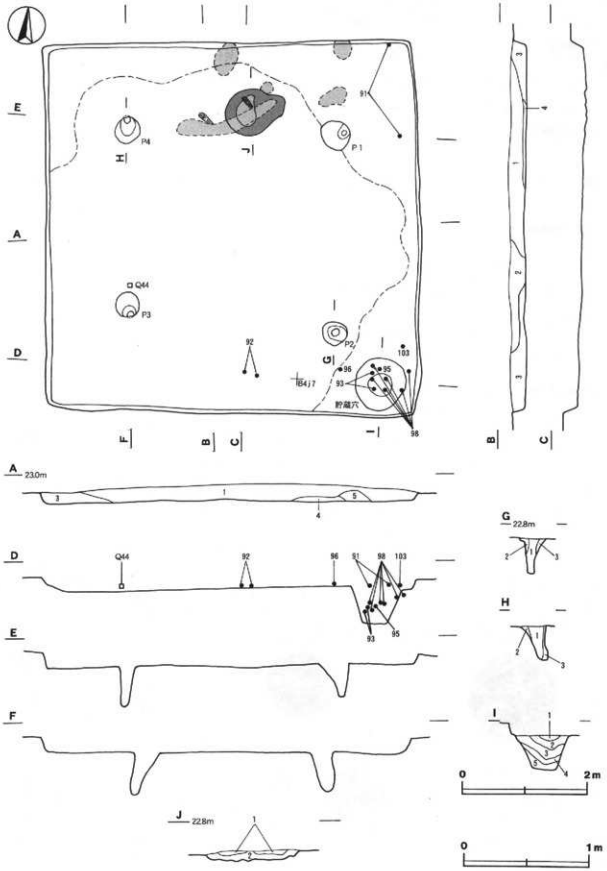
番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q36	臼玉	0.45	0.15	0.3	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔．	覆土	
Q37	紡錘車	5.0	0.7	1.0	37.9	滑石	円錐台形，上面線刻，下面多方向の研磨．	北西壁際下層	PL32
Q38	紡錘車	5.1	0.9	1.4	33.2	粘板岩	円錐台形，無文．	北西壁寄り・SI－1	PL32
Q39	紡錘車	(4.2)	(0.7)	1.2	(15.5)	滑石	円錐台形，上面線刻，下面多方向の研磨，1/2欠損．	南東壁寄り床面	
Q40	砥石	(7.5)	3.9	3.9	(147.4)	粘板岩	断面は四角形，砥面2面．	覆土	
Q41	磨石	(6.3)	(5.4)	6.6	(280.3)	砂岩	自然礫使用，側面に敲打痕有り．	南コーナー部床面	

第10号住居跡（第48～50図）

位置　調査２区中央部のＢ４i6区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　一辺６ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－２°－Ｗである。壁高は14～27㎝で，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，南西コーナー部から中央部にかけてよく踏み固められている。



第48図　第10号住居跡実測図

炉　北壁寄りに位置している。長径96cm，短径76cmの不定形で，床面を９cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床面は凹凸があり，火熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ56～63cmで，配列から主柱穴と思われる。Ｐ３・Ｐ４は，逆台形状の上層断面が確認でき，覆土の状況から柱を抜き取ったときの形状と思われる。

ピット土層解説（各ピット共通）
1　黒褐色　ロームブロック少量
2　暗褐色　ロームブロック中量
3　暗褐色　ロームブロック中量

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。径83cmほどの円形で，深さ57cmである。底面は平坦で壁は外傾している。

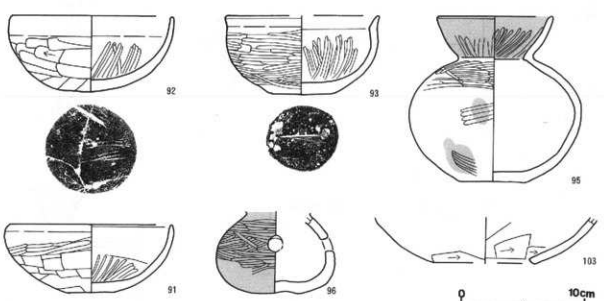
貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ロームブロック微量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量
5　暗褐色　ロームブロック微量

覆土　５層に分層され，不自然に堆積した人為堆積である。

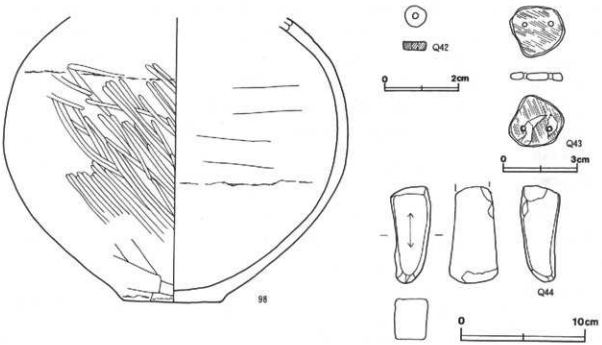
土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器644点，勾玉１点，双孔円板１点，砥石１点，縄30点のほか，混入した縄文土器片15点が出土している。これらの遺物は，主に南東コーナー部付近の覆土下層から床面にかけて，貯蔵穴内から出土している。93・95・98は，貯蔵穴の覆土中層から一括投棄された状態で出土している。91は床面から横位の状態で出土している。図示した以外にも，土師器壺・甕・甑の１～２個体分の破片が出土している。

所見　本跡は，炉が北壁寄りで貯蔵穴が南東コーナー部に位置し，この時期に多い住居形態である。時期は，床面及び貯蔵穴から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第49図　第10号住居跡出土遺物実測図（１）



第50図　第10号住居跡出土遺物実測図（２）

第10号住居跡出土遺物観察表（第49・50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
91	土師器	坏	13.3	5.5	5.3	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面上位ヘラ磨き，下位ヘラナデ。	北東コーナー部床面	90%　PL20
92	土師器	坏	13.1	6.1	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	南壁寄り下層	60%　PL20
93	土師器	坏	[12.6]	6.4	5.1	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部内・外面ヘラ磨き，底部ヘラ書き有り「一」。	貯蔵穴内	60%
95	土師器	坩	9.4	13.3	5.4	長石・石英	橙	普通	口縁部・体部外面ヘラ磨き，体部内面ナデ。	貯蔵穴内	95%
96	土師器	甕	－	(6.5)	－	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ナデ，底部に指頭圧ダのくぼみ有り。	南東コーナー部床面	65%　PL21
98	土師器	壺	－	(23.0)	7.9	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ，輪部ヘラ痕，底部ヘラ削り。	貯蔵穴内	40%
103	土師器	甑	－	(3.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラ削り。	南東コーナー部床面	5%

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q42	臼玉	0.6	0.15	0.21	0.11	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q43	双孔円板	2.1	2.2	0.3	2.82	滑石	孔径 0.1。両面斜位の研磨。	覆土	PL32
Q44	砥石	(7.7)	3.2	3.2	(142.7)	砂岩	断面は四角形。砥面２面。	中央部床面	

第11号住居跡（第51～54図）

位置　調査２区中央部のＣ４f７区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　長軸7.55m，短軸7.28mの方形で，主軸方向はＮ－１°－Ｗである。壁高は26～44cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，出入り口付近から主柱穴の内側にかけて，よく踏み固められている。貯蔵穴及び出入り口施設に伴うＰ５とＰ２との間には，ローム土を貼った高まりがある。また，間仕切り溝が５条確認された。長さ93～145cm，幅15～36cmで，深さ９～15cmである。東壁に１条，南壁に２条，西壁に２条で，いずれも壁際から中央に向かって延びている。東壁の間仕切り溝はＰ２と連結している。

炉　3か所。炉1は中央部の北寄りに位置している。長径67cm，短径43cmの楕円形で，床面を5cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉2は炉1の東側に位置している。長径99cm，短径56cmの楕円形で，床面を6cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉3はほぼ中央部に位置している。長径77cm，短径43cmの楕円形で，床面を8cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉2・3の炉床面は凹凸で，火熱を受け赤変硬化している。炉1は炉2・3より5cmほど高い位置で確認され，炉2・3は炉1の調査後の精査時に確認された。いずれの炉も近接していることから，炉1は最も新しく使用期間は短かったものと思われる。

炉1土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量　　2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
炉2土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量　　2　暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
炉3土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量　　2　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量

ピット　5か所。P1～P4は深さ37～41cmで，配列から主柱穴と思われる。P5は深さ51cmで，南壁際の貯蔵穴寄りに位置していることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説
P1～P4　1　褐　色　ローム ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量　　3　褐　色　ローム ブロック中量，炭化粒子微量
　　2　褐　色　ローム ブロック中量，炭化粒子微量　　4　褐　色　ローム ブロック中量，焼土粒子微量
P5　1　暗褐色　ローム ブロック中量，炭化粒子微量
　　2　褐　色　ローム ブロック中量，炭化粒子微量　　3　褐　色　ローム ブロック中量

貯蔵穴　3か所。貯蔵穴1は北東コーナー部に位置している。長径149cm，短径89cmの楕円形で，深さ89cmである。貯蔵穴2は南東コーナー部に位置している。長軸87cm，短軸81cmの方形で，深さ51cmである。貯蔵穴3は西壁際の中央部に位置している。長径196cm，短径135cmの楕円形で，深さ55cmである。いずれも底面は平坦で，壁は外傾する。また，貯蔵穴3を囲むようにローム上のなだらかな高まりが確認された。

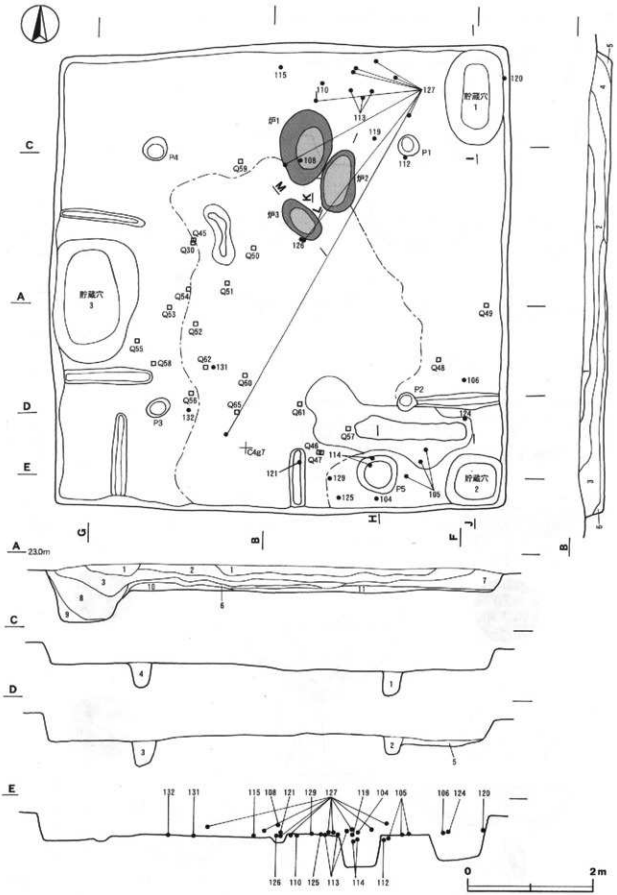
貯蔵穴1土層解説
1　暗褐色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量　　2　黒褐色　ローム ブロック少量
貯蔵穴2土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量　　3　暗褐色　ローム粒子中量
2　黒褐色　ローム ブロック少量

覆土　11層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。第8・9層は貯蔵穴3の覆土，第10層は貯蔵穴3の周囲に堆積していたローム土である。

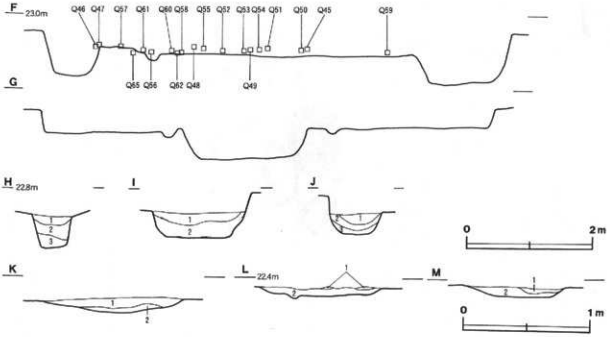
土層解説
1　黒　色　ローム ブロック・焼土粒子微量　　7　暗褐色　ローム ブロック少量
2　黒褐色　ローム ブロック少量，焼土粒子微量　　8　黒褐色　ローム ブロック少量，焼土粒子微量
3　黒褐色　ローム ブロック少量，焼土粒子微量　　9　褐　色　ローム粒子少量
4　黒褐色　ローム ブロック少量　　10　褐　色　ローム粒子多量
5　暗褐色　ローム粒子中量　　11　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　褐　色　ローム ブロック中量

遺物出土状況　土師器片1,787点，須恵器片3点，臼玉20点，ガラス小玉1点，炭化米1粒のほか，流れ込んだ縄文土器片2点が出土している。土器は北東・南東コーナー部寄りの覆土下層から床面にかけて，石製品は中央部の覆土下層から床面にかけて出土している。北東コーナー部寄りの土器は，覆土下層から破片の状態で出土し，投棄されたものとみられる。104～106は床面から，104は逆位の状態で，105・106は正位の状態で出土している。131・132・Q45～62（臼玉）は中央部の床面に散在している。図示した以外にも，土師器坏・高坏・壺・甕の破片がそれぞれ1～2個体分ほど出土している。

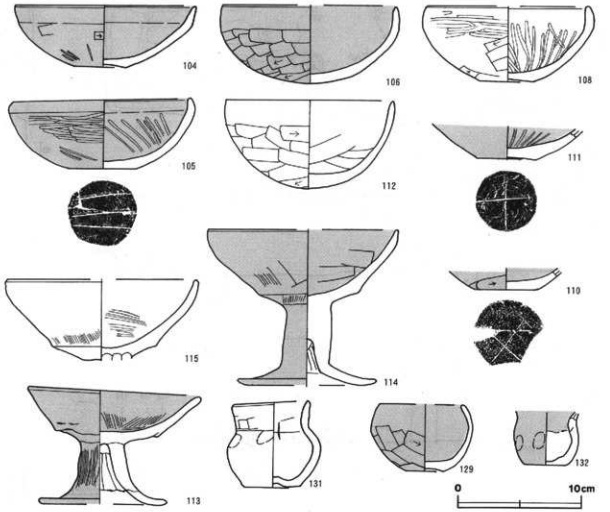
所見　本跡は，一辺が7mを超える大形の住居跡で，貯蔵穴をコーナー部及び壁際の3か所にもつ特徴がある。貯蔵穴3は，焼土・炭化粒子を含まないローム土が周囲に堆積していたことや，ローム土直下の床面から臼玉が出土していることなどから，住居廃絶の周際に掘りこまれ，周囲に土を積んだ可能性も考えられる。時期は，南東コーナー部寄りから出土した土器から判断して，中期（5世紀後葉）と思われる。



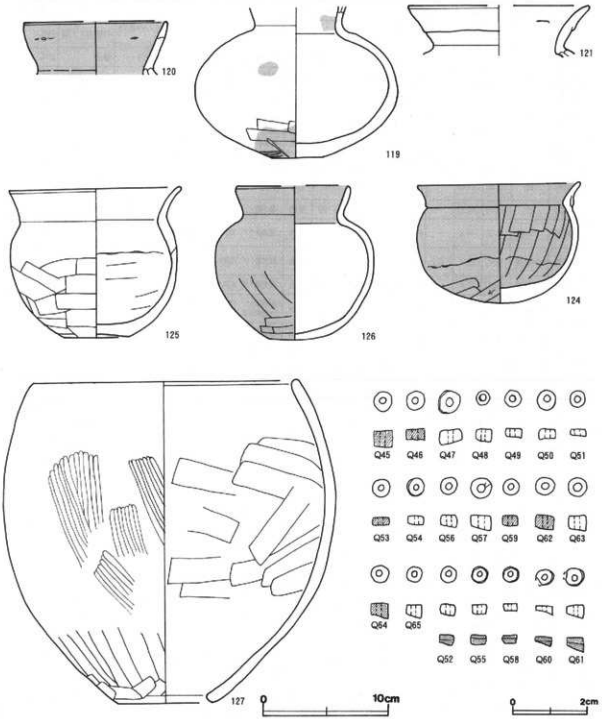
第51図　第11号住居跡実測図（1）



第52図　第11号住居跡実測図(2)



第53図　第11号住居跡・出土遺物実測図(1)



第54図　第11号住居跡出土遺物実測図（2）

第11号住居跡出土遺物観察表（第53・54図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
104	土師器	坏	14.4	5.2	4.2	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り・底石転用痕，内面ナデ。	南東コーナー部下層	95%	Pl.21
105	土師器	坏	14.4	5.8	5.2	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ヘラ磨き，外面底石転用痕，底面ヘラ磨き有り	南東コーナー部床面	90%	Pl.20
106	土師器	坏	14.1	6.3	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	南東コーナー部床面	65%	
108	土師器	坏	[13.0]	6.1	[4.4]	長石・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き，内面ヘラ磨き，底部ヘラ削り。	中央部下層	35%	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
110	土師器	坏	－	(2.6)	4.7	長石・雲母	赤	普通	体部外面ケズリ、内面ハケ塗り、底部ヘラ切り→ヘラ塗り？	北壁寄り下層	25%
111	土師器	坏		(1.8)	5.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内面ヘラ削り、内面ナデ、底部ヘラ切を残す「ハ」	覆土	10%
112	土師器	椀	13.5	7.2	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ、体部横方向ヘラ削り、内面ナデ、	中央部床面	90% Pl.20
113	土師器	高坏	13.9	8.7	(10.3)	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ、坏部内面・脚部外面ハケ塗り	北壁寄り床面	70% Pl.20
114	土師器	高坏	(15.3)	12.6	6.6	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、坏部内面ヘラナデ、脚部外面ハケ塗り	西東コーナー部下層	70% Pl.20
115	土師器	高坏	(16.2)	(6.4)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ、坏部内面ハケ調整、外面ヘラ磨き	北壁際床面	50%
119	土師器	甕	－	(12.2)	3.8	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面ヘラナデ・指ナデ痕残る、内面ナデ。	中央部床面	80%
120	土師器	甕	(11.3)	(4.2)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ。	北東コーナー部下層	5%
121	土師器	甕	(14.3)	(4.1)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ。	南壁寄り下層	5%
124	土師器	小形甕	13.2	9.4		長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ、	西東コーナー部下層	100% Pl.21
125	土師器	小形甕	13.7	11.8	5.2	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ、体部外面・底部ヘラ削り、内面ヘラナデ、	西コーナー部下層	50%
126	土師器	小形甕	(9.1)	12.3	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	中央部下層	99%
127	土師器	鉢	20.9	26.0	7.5	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ、体部外面ヘラ磨き→ヘラ削り、内面ヘラナデ・指痕残る。	北東コーナー部下層	90% Pl.22
129	土師器	小形椀	(6.9)	8.5	2.9	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	南壁寄り下層	95% Pl.21
131	土師器	手捏土器	5.8	7.1	4.4	長石・石英・雲母	橙	普通	丸形、口縁部横ナデ、底部外面ヘラナデ・指痕残。	中央部床面	100% Pl.21
132	土師器	下駄土製		(4.3)	(3.2)	石英・雲母	明赤褐	普通	楕円形、表裏共ナデ・指痕残、内面ナデ・指痕残。	中央部床面	50%

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q45	白玉	0.4	0.19	0.45	0.14	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	中央部床面	Pl.31
Q46	白玉	0.4	0.2	0.32	0.12	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	中央部下層	Pl.31
Q47	白玉	0.6	0.25	0.4	0.21	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	中央部下層	Pl.31
Q48	白玉	0.4	0.2	0.38	0.09	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	中央部下層	Pl.31
Q49	白玉	0.43	0.2	0.3	0.07	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	東壁寄り下層	Pl.31
Q50	白玉	0.5	0.2	0.3	0.08	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	中央部床面	Pl.31
Q51	白玉	0.45	0.2	0.22	0.05	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	中央部下層	Pl.31
Q52	白玉	0.48	0.2	0.32	0.08	滑石	側面は太鼓状、片面穿孔。	中央部床面	Pl.31
Q53	白玉	0.48	0.18	0.22	0.07	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	中央部床面	Pl.31
Q54	白玉	0.48	0.3	0.18	0.08	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	中央部床面	Pl.31
Q55	白玉	0.44	0.2	0.3	0.07	滑石	側面は太鼓状、片面穿孔。	中央部下層	
Q56	白玉	0.48	0.2	0.35	0.1	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	中央部床面	
Q57	白玉	0.52	0.2	0.4	0.16	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	南壁寄り下層	
Q58	白玉	0.4	0.18	0.28	0.05	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	中央部床面	
Q59	白玉	0.4	0.2	0.32	0.1	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	中央部床面	
Q60	白玉	0.42	0.18	0.24	(0.06)	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	中央部床面	
Q61	白玉	0.48	0.18	0.4	(0.13)	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	中央部床面	
Q62	白玉	0.42	0.18	0.4	0.13	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	中央部床面	
Q63	白玉	0.5	0.21	0.5	0.15	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q64	白玉	0.45	0.19	0.48	0.1	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q65	小玉	0.4	0.2	0.35	0.09	ガラス	ブルー、側面は円筒状。	中央部床面	

第13号住居跡（第55・56図）

位置　調査２区中央部のＣ４i５区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係　北西部を第26号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.35m，短軸3.58mの長方形で，主軸方向はN－39°－Wである。壁高は4～9cmで，各壁とも緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。中央部から南コーナー部にかけてと，北東壁寄りから焼土塊を確認した。

炉　中央部の北西寄りに位置している。長径46cm，短径38cmの楕円形で，床面を3cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け，わずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量　　2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物微量

ピット　主柱穴及び出入り口ピットの配列を考えて床面及び遺構の外側を精査したが，確認できなかった。

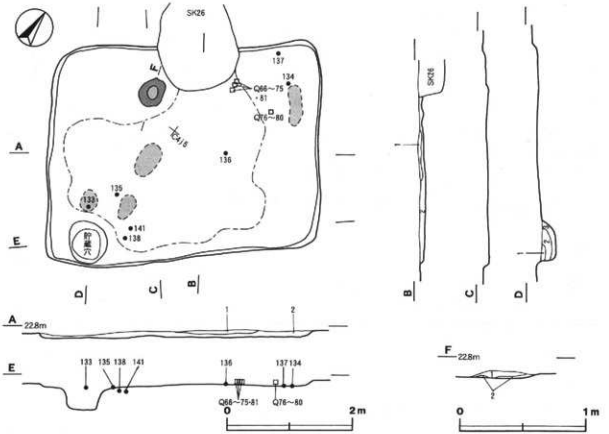
貯蔵穴　南コーナー部に位置している。長径70cm，短径61cmの楕円形で，深さ32cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　　3　褐　色　ロームブロック中量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量

覆土　2層に分層される。覆土は薄く明確に断定できないが，含有物から人為堆積と思われる。

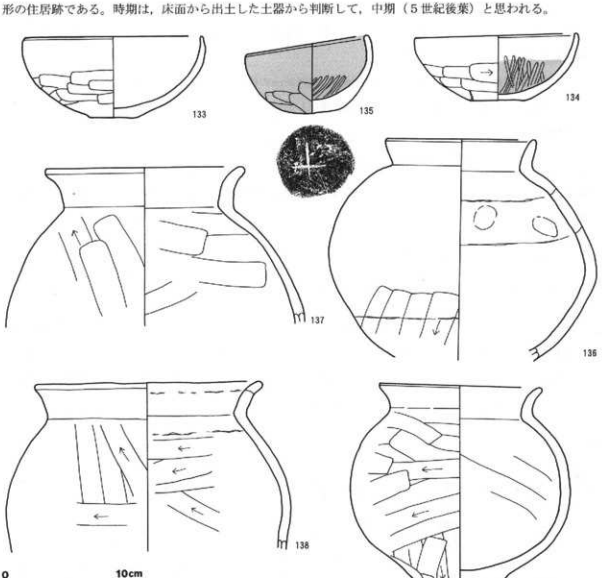
土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子中量　　2　暗 褐 色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片913点，白玉16点が出土している。これらの遺物は，ほぼ床面から土圧でつぶれた状態で出土している。133・135は正位の状態で，134は逆位の状態で，136～138は土圧でつぶれた状態でそれぞれ出土している。また，Q66～81は北コーナー部の床面からまとまって出土している。



第55図　第13号住居跡実測図

所見　上層が削平され覆土は薄いが，遺物の遺存状態は良好であった。本跡は，屋内に柱穴を掘り込まない小形の住居跡である。時期は，床面から出土した土器から判断して，中期（5世紀後葉）と思われる。



第56図　第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表（第56図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
133	土師器	坏	14.3	6.6	3.5	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	南コーナー部床面	95%	PL21
134	土師器	坏	13.0	5.5	4.2	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	北コーナー部床面	90%	PL21
135	土師器	椀	9.6	6.3	4.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き・底部ヘラ磨き有り（十）。	南コーナー部床面	85%	
136	土師器	壺	12.0	(17.8)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ・指頭痕。	中央部床面	65%	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
137	土師器	壺	15.7	(12.7)	—	長石・雲母・微	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部内面ヘラ削り，外面ヘラナデ．	北コーナー部床面	15%
138	土師器	甕	18.1	(19.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ヘラ削り，内面横位ヘラ磨	南コーナー部床面	15%
141	土師器	小形壺	13.1	16.9	6.8	石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ナデ．	南コーナー部床面	60% PL22

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q66	白玉	0.4	0.2	0.25	0.06	滑石	側面は中膨状，片面穿孔．	北コーナー部床面	PL31
Q67	白玉	0.45	0.18	0.22	0.08	滑石	側面は円筒状，片面穿孔．	北コーナー部床面	PL31
Q68	白玉	0.43	0.16	0.4	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔．	北コーナー部床面	PL31
Q69	白玉	0.43	0.15	0.3	0.08	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔．	北コーナー部床面	PL31
Q70	白玉	0.49	0.18	0.16	0.04	滑石	側面は円筒状，片面穿孔．	北コーナー部床面	PL31
Q71	白玉	0.46	0.12	0.19	0.04	滑石	側面は円筒状，片面穿孔．	北コーナー部床面	PL31
Q72	白玉	0.45	0.18	0.25	0.07	滑石	側面は円筒状，片面穿孔．	北コーナー部床面	PL31
Q73	白玉	0.44	0.19	0.3	0.07	滑石	側面はやや太鼓状，片面穿孔．	北コーナー部床面	PL31
Q74	白玉	0.4	0.18	0.15	0.04	滑石	側面は円筒状，片面穿孔．	北コーナー部床面	PL31
Q75	白玉	0.45	0.2	0.3	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔．	北コーナー部床面	PL31
Q76	白玉	0.45	0.18	0.4	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔．	北コーナー部床面	
Q77	白玉	0.42	0.18	0.3	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔．	北コーナー部床面	
Q78	白玉	0.48	0.18	0.21	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔．	北コーナー部床面	
Q79	白玉	0.45	0.18	0.3	0.11	滑石	側面は円筒状，片面穿孔．	北コーナー部床面	
Q80	白玉	0.4	0.15	0.31	0.08	滑石	側面は円筒状，片面穿孔．	北コーナー部床面	
Q81	白玉	0.45	0.16	0.25	0.08	滑石	側面はやや太鼓状，片面穿孔．	北コーナー部床面	

第14号住居跡（第57～59図）

位置　調査2区西部のC 3 19 区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　長軸3.42m，短軸2.47mの長方形で，主軸方向はN－27°－Eである。壁高は12～19cmで，各壁とも緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉を囲むように中央部がよく踏み固められている。また，床面全体に焼土が広がっている。

炉　中央部のやや南寄りに位置している。長径57cm，短径46cmの楕円形で，床面を4cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　ローム ブロック・焼土ブロック少量　　2　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム ブロック微量

ピット　主柱穴及び出入り口ピットの配列を考えて床面と遺構の外側を精査したが，確認できなかった。

貯蔵穴　北東コーナー部寄りの壁際に位置している。長径60cm，短径56cmの円形で，深さ22cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに外傾している。

貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量　　2　黒褐色　ローム粒子中量

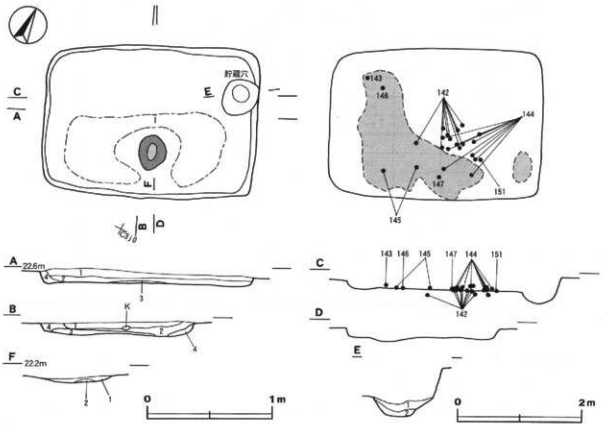
覆土　4層に分層され，多量の土器片と焼土ブロックを中量含んでいることから人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量　　3　暗褐色　ローム ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム ブロック・炭化粒子少量　　4　暗褐色　ローム ブロック・炭化粒子少量

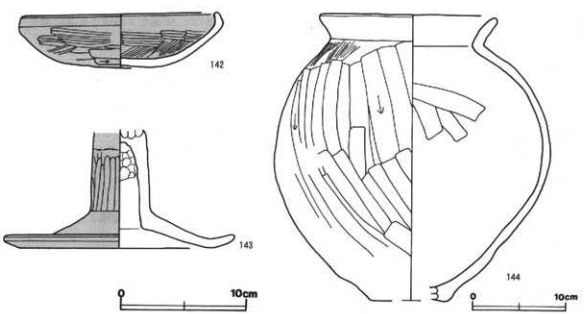
遺物出土状況　土師器片1,857点，縄6点，炭化米8粒が出土している。上層は，壺・甕類の破片が多く，南西壁側の覆土下層から床面にかけて集中している。142・144は中央部の覆土下層から投棄された状態で出土し

ている。143・145～147・151は，床面から土圧でつぶれた状態で出土している。また，炭化米は最下層の覆土を水洗選別し検出したものである。図示した以外にも，土師器壺・甕の４個体分の破片が出土している。

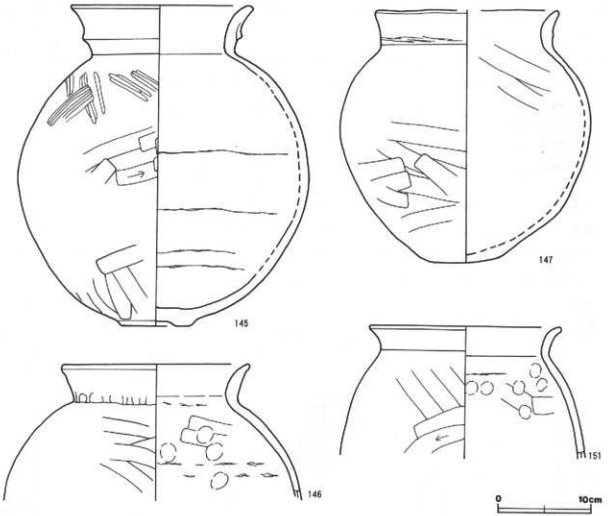
所見　本遺跡の小形の住居跡の中では，極めて良好な遺物出土状況である。本跡は，床面の土器がつぶれた状態で出土し，覆土全体に焼土が混入していることから焼失住居と考えられる。時期は，床面から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第57図　第14号住居跡実測図



第58図　第14号住居跡出土遺物実測図（１）



第59図　第14号住居跡出土遺物実測図（2）

第14号住居跡出土遺物観察表（第58・59図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
142	土師器	坏	[15.4]	4.5	3.8	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ヘラ磨き，底部ヘラ削り。	中央部下層	65%	
143	土師器	高坏	—	(9.6)	18.1	石英・雲母	赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ，裾部内・外面ナデ。	西コーナー部床面	40%	
144	土師器	壺	18.5	30.6	[7.8]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	中央部下層	80%	Pl.22
145	土師器	壺	19.3	34.3	7.1	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ・一部刷毛目。	南東壁際床面	70%	Pl.22
146	土師器	壺	19.5	(14.4)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ・指頭痕。	西コーナー部床面	25%	
147	土師器	甕	[19.6]	27.3	7.9	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ磨り，内面調整・輪積み痕。	南東壁側床面	55%	
151	土師器	甕	20.8	(13.7)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ・指頭痕。	南東壁側床面	30%	

第15号住居跡（第60～62図）

位置　調査2区中央部のD4b6区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　長軸5.71m，短軸4.31mの長方形で，主軸方向はN－21°－Wである。壁高は21～25cmで，各壁とも外傾して立ち上っている。

床　中央部がよく踏み固められており，硬化した部分は凹凸である。

炉　3か所。炉1は中央部のやや北寄りに位置している。長径78cm，短径69cmの楕円形で，床面を8cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉2は中央部のやや東寄りに位置している。長径47cm，短径40cmの楕円形で，床面を6cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉3は中央部の西寄りに位置している。径56cmほどの円形で，床面を8cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。いずれも炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

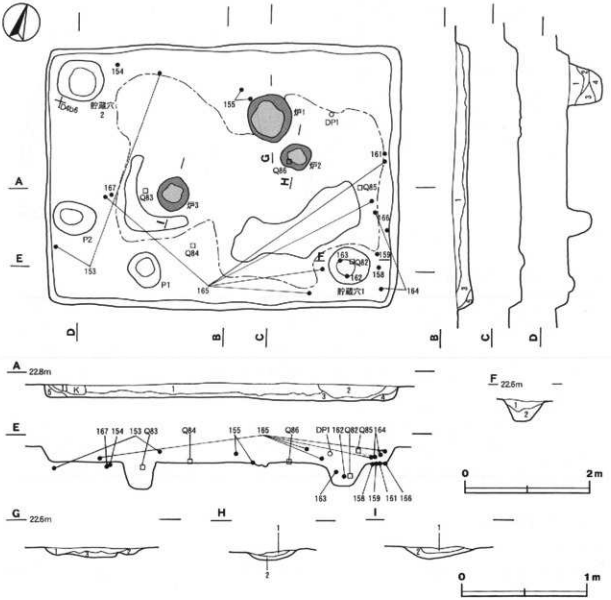
炉1土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量

炉2土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量

炉3土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量

ピット　2か所。P1は深さ45cmの楕円形，P2は深さ47cmでどちらも性格は不明である。

貯蔵穴　2か所。貯蔵穴1は南東コーナー部に位置している。長径67cm，短径60cmの楕円形で，深さ60cmである。貯蔵穴2は北西コーナー部に位置している。長軸73cm，短軸64cmの隅丸長方形で，深さ56cmである。どちらも底面は平坦で，壁は外傾している。



第60図　第15号住居跡実測図

貯蔵穴１土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　　2　褐　　色　ロームブロック中量

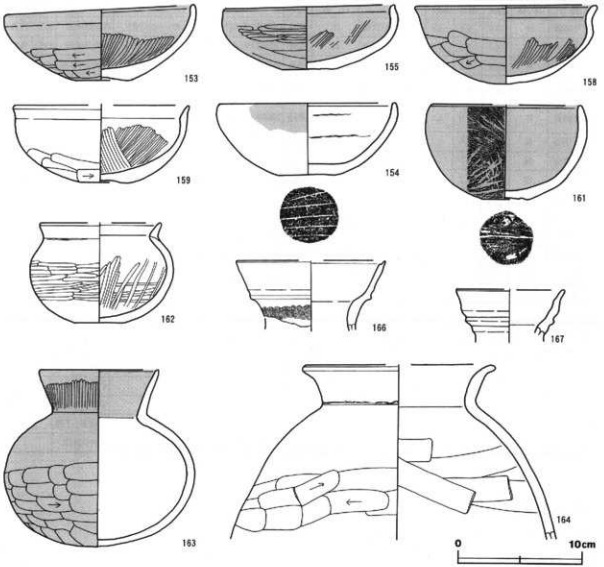
貯蔵穴２土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　　3　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　　4　暗 褐 色　ロームブロック少量

覆土　５層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

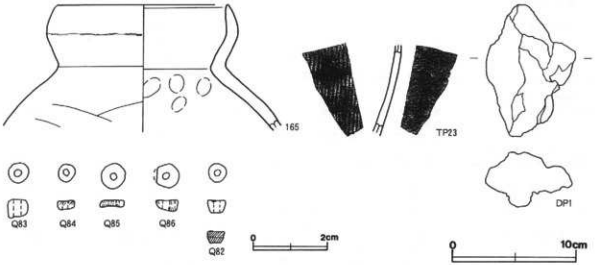
土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量　　4　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量　　5　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片1,034点，須恵器片２点，不明土製品１点，臼玉５点，種子（桃）１点が出土している。これらの遺物は，北東コーナー部から南東コーナー部の覆土下層から床面にかけて出土している。153・154・158・159・161は，壁際の床面から，153・154は正位の状態で，158・159・161は斜位の状態で出土している。163は貯蔵穴の覆土上層からほぼ完形で出土したものである。Q82～86（臼玉）は，覆土中層から床面にかけてと貯蔵穴内から出土している。図示した以外にも，土師器坏・椀の１～２個体分の破片が出土している。

所見　本跡は，炉を複数もち柱穴を掘り込まない中形の住居跡で，坏・椀類が多く出土している。時期は，壁際から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第61図　第15号住居跡出土遺物実測図（１）



第62図　第15号住居跡出土遺物実測図（2）

第15号住居跡出土遺物観察表（第61・62図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
153	土師器	坏	15.0	6.1	4.2	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	西壁際床面	90%　Pl.21
154	土師器	坏	14.3	5.8	4.6	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ナデ，底部ヘラ書き有り。	北西部床面	95%　Pl.21
155	土師器	坏	13.6	5.2	3.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面上位ヘラ磨き，下位ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	北壁寄り床面	95%
158	土師器	坏	14.4	6.4	—	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	南東コーナー部床面	80%
159	土師器	坏	[14.0]	6.0	3.2	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	南東コーナー部床面	65%
161	土師器	椀	[11.7]	7.6	3.7	長石・長石・雲母	赤	普通	体部内・外面ナデ，外面底部転用板，底部ヘラ書き有り。	東壁際床面	40%
162	土師器	椀	[9.7]	8.0	3.5	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ヘラ磨き，底部ヘラ削り。	貯蔵穴中層	80%
163	土師器	坩	9.5	14.2	—	長石・石英・雲母	赤	良好	口縁部横ナデ，外面ヘラ磨き，体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	貯蔵穴上層	90%　Pl.22
164	土師器	壺	15.3	14.2	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	南東コーナー部床面	50%
165	土師器	壺	13.8	(10.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面ナデ・指頭痕。	南東コーナー部床面	20%
166	須恵器	甕	[12.0]	(5.7)	—	長石	灰	良好	口縁部ロクロナデ，無調に日本の櫛歯状工具による波状文。	東壁際床面	5%
167	須恵器	甕	[8.8]	(4.3)	—	長石	灰	良好	口縁部ロクロナデ。	中央部床面	5%
TP23	須恵器	甕	—	(7.3)	—	長石	灰	普通	外面縦位の平行叩き，内面同心円状の当て具痕。	覆土	

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1	不明土製品	10.7	7.4	4.4	187.1	土製	不定形。火熱を受け，一部風化有。	中央部中層	
Q82	臼玉	0.5	0.2	0.4	0.12	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	貯蔵穴内中層	
Q83	臼玉	0.58	0.2	0.5	0.22	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	中央部床面	
Q84	臼玉	0.5	0.19	0.25	0.08	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	中央部床面	
Q85	臼玉	0.6	0.18	0.25	0.19	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	東壁寄り下層	
Q86	臼玉	0.68	0.2	0.3	(0.18)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。一部欠損。	中央部床面	

第16号住居跡（第63～65図）

位置　調査2区中央部のＣ４h2区に位置し，平坦な台地上に立地している。

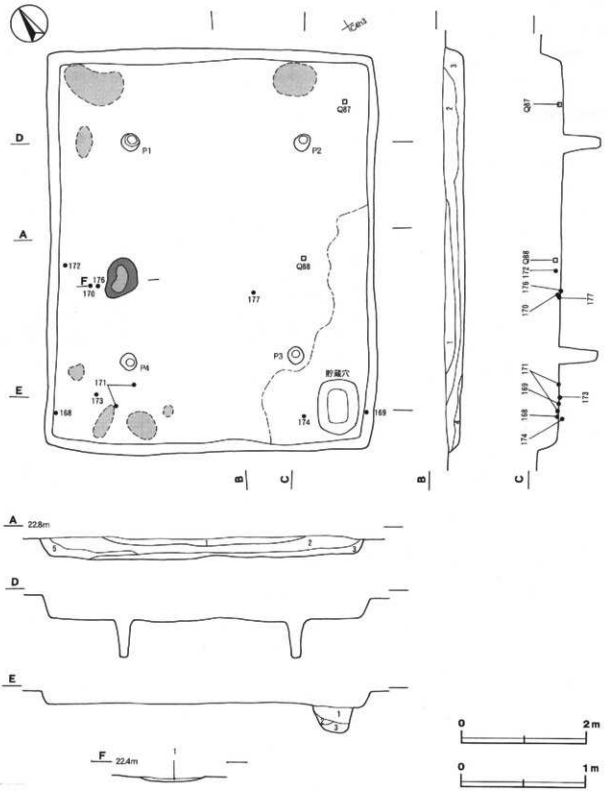
規模と形状　長軸6.56m，短軸5.3mの長方形で，主軸方向はＮ－54°－Ｗである。壁高は20～36cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，南コーナー部付近の一部がよく踏み固められている。

炉　中央部の北西寄りに位置している。長径70cm，短径49cmの楕円形で，床面を3cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量



第63図　第16号住居跡実測図

ピット　4か所。P1～P4は深さ58～65cmで，配列から主柱穴と思われる。

貯蔵穴　南コーナー部に位置している。長軸90cm，短軸68cmの長方形で，深さ43cmである。底面は皿状で，壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3　黒 褐 色　ローム粒子少量

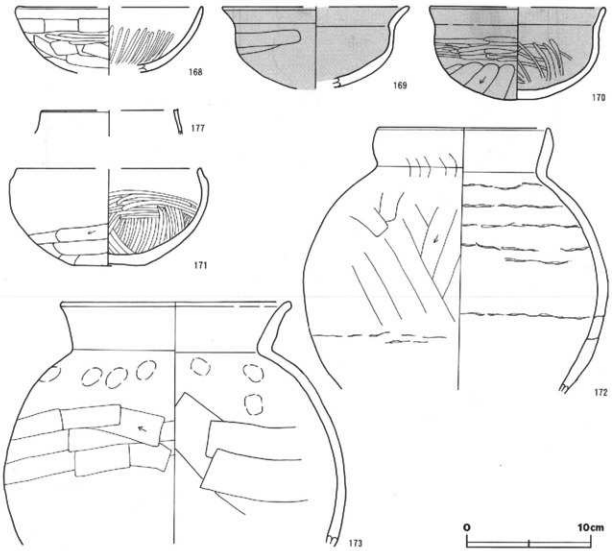
覆土　5層に分層される。第2層は焼土ブロックを中心とし，覆土の含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

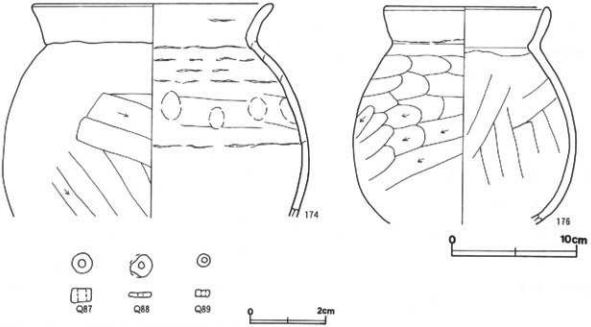
1　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック微量
3　暗 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック少量
4　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
5　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片688点，須恵器片3点，臼玉3点のほか，流れ込んだ縄文土器片13点が出土している。これらの遺物は，南コーナー部と西コーナー部付近の覆土下層から床面にかけて出土している。169・171は破片の状態で，173・176は横位の状態で，172・174は逆位の状態でそれぞれ床面から出土している。また，Q87・Q88は覆土下層から，Q89は覆土から出土している。

所見　本跡は，炉が中央部の北西寄り，貯蔵穴が南コーナー部に位置していることから，南東壁側が出入り口部であったと推測される。時期は，床面から出土した土器から判断して，中期（5世紀後葉）と思われる。



第64図　第16号住居跡出土遺物実測図（1）



第65図　第16号住居跡出土遺物実測図（２）

第16号住居跡出土遺物観察表（第64・65図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
168	土師器	坏	[15.0]	(5.3)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面へラ削ぎ，外面へラ削り。	北西壁側下層	30%
169	土師器	坏	[15.0]	6.5	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面ナデ。	南コーナー部床面	30%
170	土師器	坏	[13.9]	7.5	－	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	北西壁側床面	45%
171	土師器	椀	[14.7]	7.9	5.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	西コーナー部床面	45%
172	土師器	壺	13.6	(21.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ・輪積み痕。	北西壁際床面	45%　PL22
173	土師器	壺	18.4	(19.6)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ，内・外面赤彩痕。	西コーナー部床面	50%
174	土師器	甕	19.1	(17.1)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ・指頭痕・輪積み痕。	南コーナー部床面	50%
176	土師器	甕	13.0	(17.2)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	北西壁側床面	65%
177	須恵器	坏	[11.0]	(1.9)	－	長石	黄灰	普通	口縁部ロクロナデ。	中央部下層	5%

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q87	臼玉	0.55	0.2	0.4	0.15	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	東コーナー部下層	
Q88	臼玉	0.6	0.15	0.12	(0.06)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。一部欠損。	北東壁側下層	
Q89	臼玉	0.35	0.15	0.2	0.04	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	

第17号住居跡（第66・67図）

位置　調査２区中央部のＣ４i6区に位置し，第11号住居跡の南側に隣接している。

規模と形状　長軸3.05m，短軸2.74mの長方形で，主軸方向はＮ－４°－Ｅである。壁高は８～９cmで，各壁とも緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，出入り口付近から中央部にかけてよく踏み固められている。南西コーナー部の壁際に長軸99cm，短軸94cm，深さ16cmに掘りこまれている隅丸方形状の土坑がある。

炉　中央部の南東寄りに位置している。長径62cm，短径41cmの楕円形で，床面を4cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け，わずかに赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量

ピット　P1は深さ31cmで，北壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。

貯蔵穴　北西コーナー部に位置している。長径45cm，短径35cmの楕円形で，深さ19cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに外傾している。

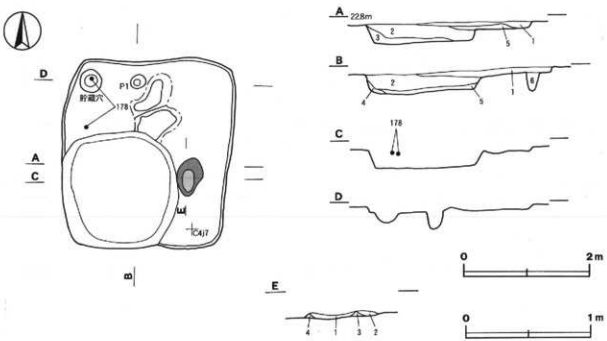
覆土　6層に分層され，覆土に焼土粒子・炭化粒子を多く含んでいることから，人為堆積と思われる。第6層はP1の覆土である。

土層解説

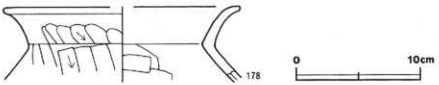
1　黒 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
2　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子少量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化物少量
5　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
6　黒 褐 色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片289点が出土している。これらの遺物は，覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。178は床面から出土している。

所見　本跡は，炉・貯蔵穴及び出入り口ピット位置から，北側に出入り口施設をもつ小形の住居跡である。すぐ北側に位置している大形の第11号住居跡と本跡は，出入り口部分が向かい合うように配置されている。同時期に廃絶された可能性を考えて両者の土器の接合を試みたが，接合するものはなかった。時期は，床面から出土した土器から判断して，中期（5世紀後葉）と思われる。



第66図　第17号住居跡実測図



第67図　第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表(第67図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
178	土師器	甕	(18.7)	(6.1)	—	長石・石英・雲母に多い赤褐	普通	良好	口縁部ヨコナデ，体部外面ヘラケズリ，内面ヘラナデ．	北西覆土中	10%

第18号住居跡（第68～70図）

位置　調査2区中央部のD4a0区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　長軸8.64m，短軸8.24mの方形で，主軸方向はN－4°－Wである。壁高は14～34cmで，壁はほぼ外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。北壁寄りの炉付近の一部が，よく踏み固められている。また，南壁際の中央部から，若干土壙が確認されている。

炉　2か所。炉1は中央部の北寄りに位置している。長径105cm，短径62cmの不定形で，床面を14cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床面は凹凸で，炉床は火熱を受け赤変硬化している。炉2は中央部の南西寄りに位置している。長径54cm，短径30cmの楕円形である。炉床のみ確認でき踏み固められて硬化している。

炉1土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量

ピット　5か所。P1～P4は深さ35～42cmで，配列から主柱穴と思われる。P5は深さ40cmで，南壁の貯蔵穴寄りに位置していることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説（各ピット共通）
1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック中量
3　褐　色　ロームブロック中量

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長軸145cm，短軸105cmの隅丸長方形で，深さ57cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに外傾している。

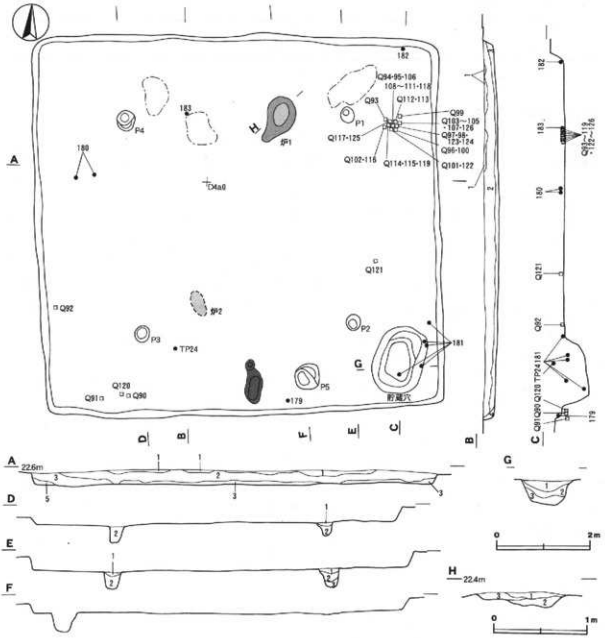
貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

覆土　5層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

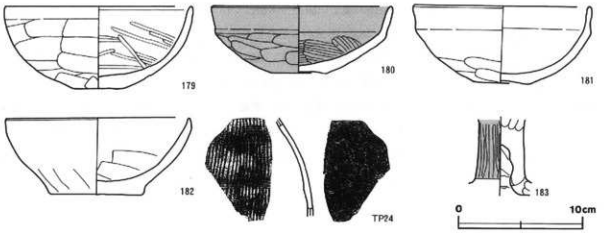
土層解説
1　黒褐色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片1,779点，須恵器片7点，臼玉38点，双孔円板1点のほか，流れ込んだ縄文土器片1点が出土している。これらの遺物は，全体の覆土中層から床面にかけて破片が散在した状態で出土している。179・180・TP24は覆土下層から，182・183は床面からそれぞれ出土している。181は床面と貯蔵穴内から出土した破片が接合したものである。また，Q90～92(臼玉)・Q120(臼玉)は南西コーナー部の床面から，Q93～119(臼玉)・Q122～126(臼玉)は北東コーナー部の床面から集中して出土している。

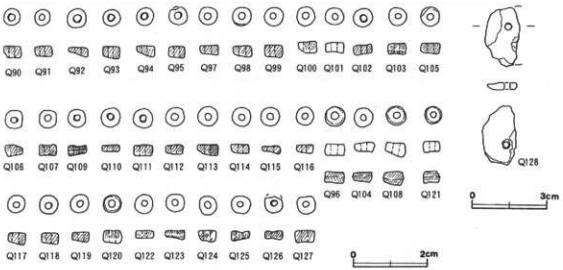
所見　木跡は，一辺が8mを超える大形住居で，複数の炉と南東コーナー部に貯蔵穴をもつ住居形態である。覆土中層から下層にかけての土器片は，出土状況から住居廃絶後に流れ込んだものと思われる。時期は，壁際の覆土下層及び床面から出土した土器から判断して，中期（5世紀後葉）と思われる。



第68図　第18号住居跡実測図



第69図　第18号住居跡出土遺物実測図（1）



第70図　第18号住居跡出土遺物実測図（2）

第18号住居跡出土遺物観察表（第69・70図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
179	土師器	坏	[15.0]	6.7	3.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面へ削り，内面ヘラ磨き。	南壁際下層	70%
180	土師器	坏	14.6	5.5	4.4	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	西壁寄り下層	75%
181	土師器	坏	14.1	6.4	4.2	長石・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	南西部・貯蔵穴内	65%　PL21
182	土師器	椀	14.6	6.4	7.4	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ，内・外面ヘラナデ。	北東コーナー部床面	75%　PL21
183	土師器	高坏	—	(6.0)	—	長石・石英・雲母	赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ・輪積み痕。	中央部床面	10%
TP24	須恵器	甕	—	(7.9)	—	長石	灰	普通	外面縦位の平行叩き，内面青海波。	南壁寄り下層	

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q90	臼玉	0.44	0.2	0.35	(0.1)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。一部欠損。	南西コーナー部床面	PL31
Q91	臼玉	0.45	0.2	0.3	0.11	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	南西コーナー部床面	PL31
Q92	臼玉	0.5	0.2	0.28	0.08	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	南西コーナー部床面	PL31
Q93	臼玉	0.46	0.18	0.3	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	PL31
Q94	臼玉	0.48	0.18	0.3	0.1	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	PL31
Q95	臼玉	0.49	0.18	0.3	(0.11)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。一部欠損。	北東コーナー部床面	PL31
Q96	臼玉	0.5	0.2	0.34	0.13	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	PL31
Q97	臼玉	0.45	0.2	0.3	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	PL31
Q98	臼玉	0.48	0.18	0.3	0.11	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	PL31
Q99	臼玉	0.5	0.18	0.35	0.16	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	PL31
Q100	臼玉	0.5	0.18	0.3	0.12	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q101	臼玉	0.45	0.15	0.25	0.1	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q102	臼玉	0.5	0.15	0.25	0.12	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q103	臼玉	0.47	0.31	0.2	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q104	臼玉	0.5	0.18	0.26	0.1	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q105	臼玉	0.5	0.18	0.3	0.11	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q106	臼玉	0.5	0.2	0.3	(0.09)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。一部欠損。	北東コーナー部床面	
Q107	臼玉	0.45	0.19	0.28	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q108	臼玉	0.55	0.18	0.35	0.11	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q109	臼玉	0.5	0.2	0.28	0.11	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	

番号	種類	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q110	臼玉	0.6	0.18	0.2	0.07	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q111	臼玉	0.5	0.16	0.3	0.1	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q112	臼玉	0.5	0.2	0.3	0.08	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q113	臼玉	0.5	0.18	0.3	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q114	臼玉	0.55	0.16	0.3	0.08	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q115	臼玉	0.5	0.18	0.28	0.07	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q116	臼玉	0.45	0.16	0.22	0.08	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q117	臼玉	0.5	0.18	0.21	(0.11)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。一部欠損。	北東コーナー部床面	
Q118	臼玉	0.5	0.18	0.3	0.1	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q119	臼玉	0.48	0.16	0.25	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q120	臼玉	0.48	0.18	0.35	0.11	滑石	側面はやや太鼓状，片面穿孔。	南西コーナー部床面	
Q121	臼玉	0.4	0.18	0.3	0.08	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	東壁寄り床面	
Q122	臼玉	0.45	0.18	0.3	0.1	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q123	臼玉	0.5	0.15	0.25	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q124	臼玉	0.5	0.18	0.3	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q125	臼玉	0.5	0.18	0.25	0.1	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q126	臼玉	0.5	0.15	0.2	(0.07)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q127	臼玉	0.5	0.18	0.3	0.12	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	炉内覆土	
Q128	双孔円板	2.1	(1.4)	0.3	(1.46)	滑石	孔径0.25，両面縁位の研磨，1/3遺存。	覆土	

第20号住居跡（第71・72図）

位置　洞寄3区北部のD5h1区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　長軸4.62m，短軸3.18mの長方形で，主軸方向はN－18°－Wである。壁高は6～16cmで，各壁とも緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。褐色のローム上でややしまりはあるものの，硬化した部分はない。中央部と中央部の南寄りから，焼土の範囲を確認した。

ピット　2か所。P1は深さ18cm，P2は深さ13cmである。北東コーナー部と南東コーナー部に位置しているが，どちらも浅く形状が明確でないため性格は不明である。

貯蔵穴　北西コーナー部に位置している。径73cmほどの円形で，深さ37cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに外傾している。

貯蔵穴土層解説

1　黒　色　ローム粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子中量

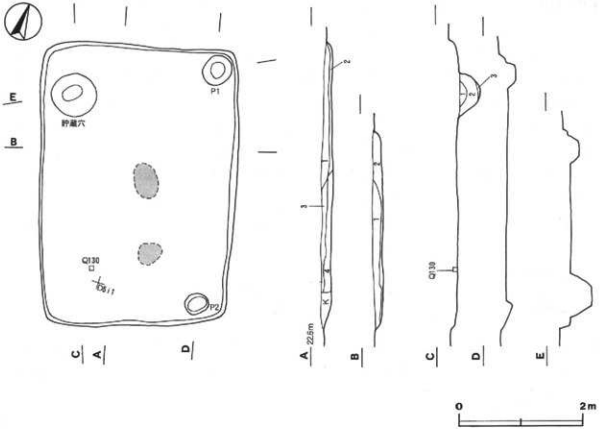
覆土　4層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

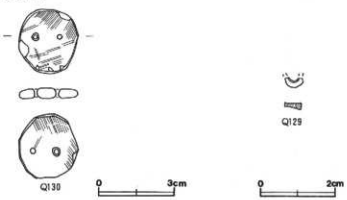
1　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片66点，臼玉1点，双孔円板1点，炭化米2粒が出土している。これらの遺物は，覆土下層から細片の状態で出土している。土器は甕の体部片がほとんどで，坏や椀の破片は数点である。いずれも細片のため，図示できなかった。Q130（双孔円板）は南壁寄りの床面から出土している。

所見　本跡は，南北を長軸とする長方形で，貯蔵穴を北西コーナー部にもつ形態である。床面の2か所の焼土は，炉床面としての硬化した部分がないことから焼土としてとらえた。時期は，覆土下層から出土した土器や周囲の遺構から判断して，中期（5世紀後葉）の可能性が高いと思われる。



第71図　第20号住居跡実測図



第72図　第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表(第72図)

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q129	臼玉	(0.45)	(0.2)	0.2	(0.03)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。1/2 欠損。	覆土	
Q130	双孔円板	2.4	2.3	0.4	4.68	滑石	孔径 0.2。両面斜位の研磨。	南壁寄り床面	PL32

第21号住居跡（第73・74図）

位置　調査２区西部のＤ３f0 区に位置し，平坦な台地上に立地している。また，本跡の南西コーナー部は，調査区域外に延びている。

重複関係　東壁が第18号土坑の西側を掘り込んでいる。

規模と形状　一辺10mほどの方形で，主軸方向はN－8°－Eである。壁高は43～68cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，出入り口付近から主柱穴の内側にかけてよく踏み固められている。出入り口付近は，馬蹄形に構築されたロームの高まりがある。壁溝はほぼ全周している。周什切り溝が北壁に2条，東壁に2条，南壁に3条，西壁に3条確認され，長さ90～185cm，幅18～34cmで，深さ14～20cmである。いずれも壁際から中央に向かって延びている。また，北西コーナー部と中央部の床面から炭化材が出土している。

炉　4か所。炉1から炉3は中央部から北壁に向かって連結した状態で確認された。炉1は径84cmほどの円形，炉2は長径84cm，短径71cmの楕円形，炉3は長径83cm，短径64cmの楕円形で，床面を4～9cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉1と炉3は，焼土の状況から炉2よりも新しい。炉4はほぼ中央部に位置している。径39cmほどの円形で，床面を6cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。どの炉床も火熱を受け，赤変硬化している。

炉1～3土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
3　赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・焼土粒子微量

炉4土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　にぶい褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

ピット　7か所。P1・P2・P4は深さ65～74cm，P3は深さ46cmで，配列から主柱穴と思われる。P5は深さ39cm，P6は深さ48cmで，主柱穴の間に位置していることから補助柱穴と思われる。P7は深さ44cmで，南壁の貯蔵穴寄りに位置していることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

P1　1　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
　　2　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
　　3　褐　色　ロームブロック中量
P2　1　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
　　2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
　　3　褐　色　ロームブロック中量
P3　1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
　　2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
　　3　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
P4　1　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
　　2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
　　3　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
P5　1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
　　2　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
　　3　褐　色　ロームブロック中量
P6　1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
　　2　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

貯蔵穴　南西コーナー寄りに位置している。長軸126cm，短軸98cmの長方形で，深さ95cmである。底面は平坦で，壁は直立している。

貯蔵穴土層解説

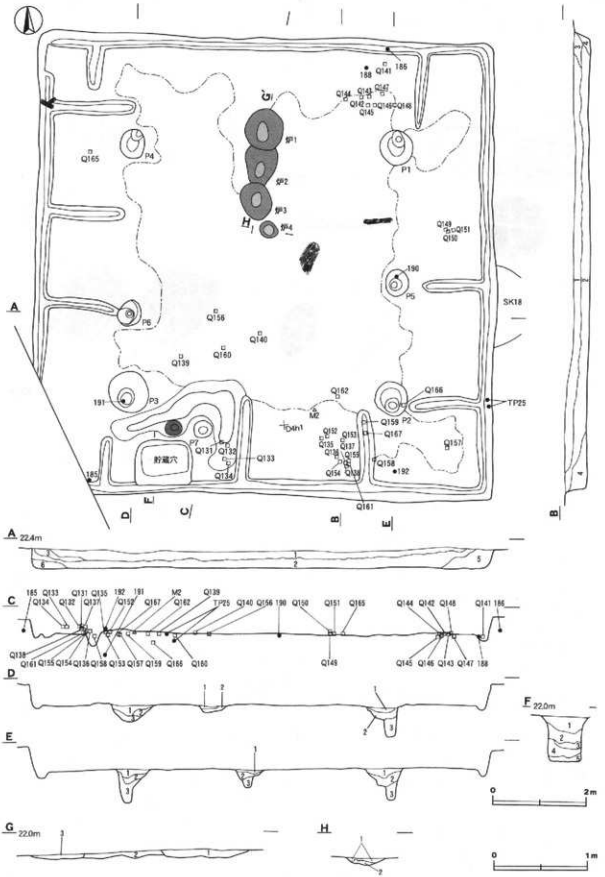
1　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

覆土　6層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

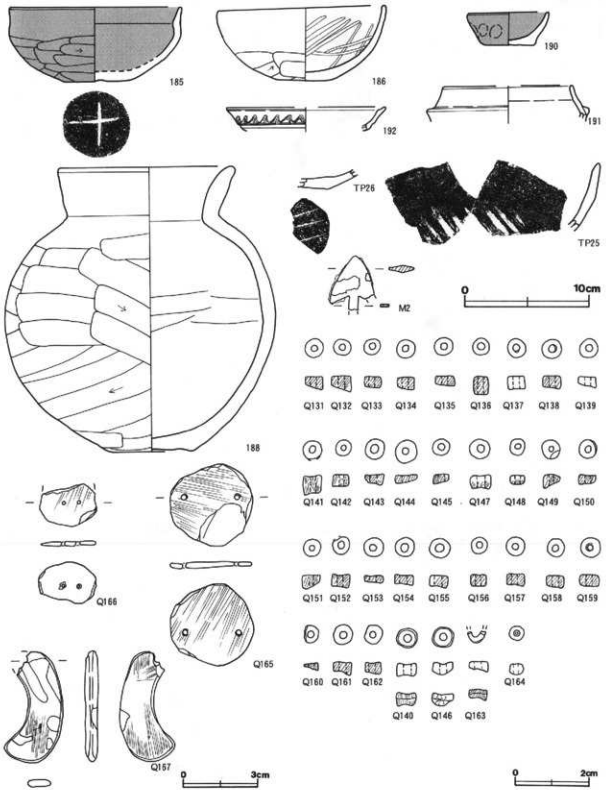
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片1,301点，須恵器片13点，石製品33点，勾玉1点，双孔円板2点，ガラス小玉1点，鉄鏃1点が出土している。これらの遺物は，主に壁際の覆土下層から床面にかけて出土している。185は斜位の状態で，188は土圧でつぶれた状態で出土し，186・M2は床面から，190はP5内から横位の状態で，191はP3内から，Q166（双孔円板）はP2内からそれぞれ出土している。Q131～162（臼玉）は南壁付近と北壁付近の覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。また，Q164（ガラス小玉）は炉3の覆土を水洗選別し検出したものである。



第73図　第21号住居跡実測図

所見　本跡は，一辺が10mほどの大形住居である。壁溝と間仕切り溝をもち，複数の炉は赤変硬化していることから，長期間使用された住居と推測される。床面の炭化材は，覆土の状況や出土位置から住居廃絶に伴い投棄されたものとみられる。時期は，覆土下層及び床面から出土した土器から判断して，中期（5世紀後葉）と思われる。



第74図　第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表(第74図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	成形	手法の特徴	出土位置	備考
185	土師器	坏	13.9	6.1	5.0	長石・石英	赤褐	普通	体部内面へラ削り、内面調整、底部へラ切り後ナデ→△	南壁際床面	100% PL23
186	土師器	坏	13.6	6.1	4.2	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ、体部外面へラ削り、内面ヘラナデ	北壁寄り床面	95% PL23
188	土師器	甕	14.1	23.0	6.8	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ、体部外面へラ削り、内面ヘラナデ・輪積み痕	北壁寄り床面	95% PL23 外面煤付着
190	土師器	ミニチュア	6.4	2.7	4.3	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部内・外面ナデ、外面ヘラ痕	P34内	90%
191	須恵器	坏	(10.3)	(2.8)		長石	灰	良好	口縁部ロクロナデ	P34内	5%
192	須恵器	鉢	(12.7)	(1.8)	—	長石	オリーブ黒	良好	口縁部ロクロナデ、底面に4本の櫛描状工具による波状文	南壁際床面 Sk-27	5%
P125	土師器	坏	—	(5.6)	—	長石・石英	赤	普通	口縁部横ナデ、体部内・外面ナデ、外面ヘラ痕	東側壁溝内	
P126	土師器	坏		(1.7)		長石・石英	橙	普通	底面へラ磨き有り「三」	覆土	

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q131	臼玉	0.18	0.18	0.06	0.1	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	南壁寄り床面	PL31
Q132	臼玉	0.45	0.18	0.4	0.12	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	南壁寄り床面	PL31
Q133	臼玉	0.45	0.18	0.31	0.09	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	東壁寄り床面	PL31
Q134	臼玉	0.45	0.18	0.35	0.09	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	南壁寄り床面	PL31
Q135	臼玉	0.45	0.18	0.35	0.08	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	南壁寄り床面	PL31
Q136	臼玉	0.45	0.18	0.5	0.13	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	南壁寄り床面	PL31
Q137	臼玉	0.48	0.18	0.36	0.14	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	南壁寄り床面	PL31
Q138	臼玉	0.5	0.18	0.32	0.14	滑石	側面はやや太鼓状、片面穿孔。	南壁寄り床面	PL31
Q139	臼玉	0.48	0.15	0.3	0.08	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	中央部床面	PL31
Q140	臼玉	0.65	0.22	0.3	0.13	滑石	側面は太鼓状、片面穿孔。	中央部床面	
Q141	臼玉	0.5	0.2	0.5	(0.21)	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	北壁寄り床面	
Q142	臼玉	0.4	0.18	0.3	0.09	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	北壁寄り床面	
Q143	臼玉	0.5	0.22	0.35	0.11	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	北壁寄り床面	
Q144	臼玉	0.58	0.15	0.25	0.09	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	北壁寄り床面	
Q145	臼玉	0.42	0.18	0.25	0.05	滑石	側面は太鼓状、片面穿孔。	北壁寄り床面	
Q146	臼玉	0.58	0.2	0.3	0.11	滑石	側面は太鼓状、片面穿孔。	北壁寄り床面	
Q147	臼玉	0.52	0.2	0.35	0.14	滑石	側面はやや太鼓状、片面穿孔。	北壁寄り床面	
Q148	臼玉	0.4	0.12	0.25	0.06	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	北壁寄り床面	
Q149	臼玉	0.48	0.15	0.32	0.1	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	東壁寄り床面	
Q150	臼玉	0.48	0.15	0.22	0.09	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	東壁寄り床面	
Q151	臼玉	0.44	0.15	0.33	0.1	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	東壁寄り床面	
Q152	臼玉	0.48	0.16	0.35	(0.1)	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	南壁寄り床面	
Q153	臼玉	0.5	0.2	0.2	0.09	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	南壁寄り床面	
Q154	臼玉	0.5	0.2	0.26	0.1	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	南壁寄り床面	
Q155	臼玉	0.5	0.2	0.3	0.16	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	南壁寄り床面	
Q156	臼玉	0.4	0.18	0.3	0.08	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	中央部床面	
Q157	臼玉	0.5	0.15	0.3	0.13	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	南東コーナー部床面	
Q158	臼玉	0.5	0.18	0.32	0.12	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	南壁寄り床面	
Q159	臼玉	0.5	0.18	0.3	0.14	滑石	側面はやや太鼓状、片面穿孔。	南壁寄り床面	
Q160	臼玉	0.45	0.15	0.15	(0.03)	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。一部欠損。	中央部床面	
Q161	臼玉	0.5	0.2	0.3	0.13	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	南壁寄り床面	
Q162	臼玉	0.5	0.18	0.3	0.12	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	南壁寄り床面	
Q163	臼玉	(0.48)	0.18	0.25	(0.05)	滑石	側面は太鼓状、片面穿孔。1/2欠損。	覆土	
Q164	小玉	0.35	0.15	0.28	0.07	ガラス	ブルー。側面は太鼓状。	かは覆土	PL31

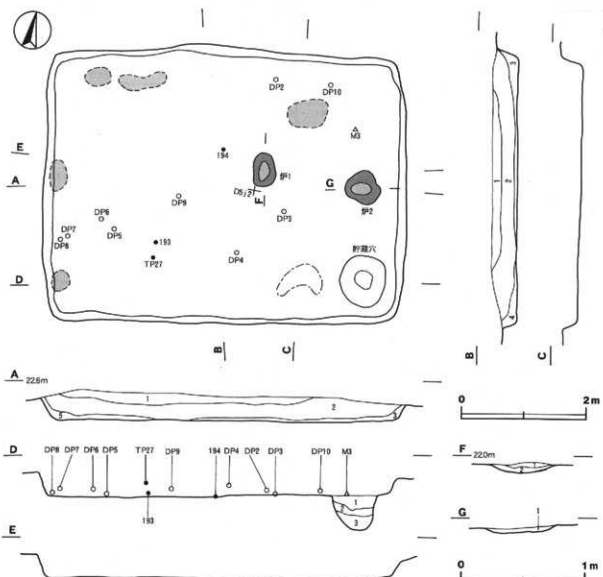
番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
Q165	双孔円板	3.3	3.4	0.3	5.85	滑石	孔径0.2。表面横位・裏面斜位の研磨。	西壁寄り床面	Pl.32	
Q166	双孔円板	(1.7)	2.3	0.2	(1.08)	滑石	孔径0.1。両面斜位の研磨。一部欠損。	P2内	Pl.32	
Q167	勾玉	(4.4)	(2.3)	0.6	(6.55)	滑石	基部欠損。C字形。両面縦位の研磨。	南壁寄り床面	Pl.32	
M2	鏃	(4.3)	(5.3)	0.5	(7.8)	鉄	長三角形の短頸鏃。腸抉有り。	南壁寄り床面	Pl.32	

第23号住居跡（第75・76図）

位置　調査３区北部のＤ５j2区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　長軸5.76m，短軸4.35mの長方形で，主軸方向はＮ－９°－Ｗである。壁高は22～40cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。南壁の貯蔵穴寄りに，馬蹄形状に踏み固められた部分を確認した。



第75図　第23号住居跡実測図

炉　2か所。炉1はほぼ中央部に位置している。長径54cm，短径37cmの楕円形で，床面を13cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け，赤変硬化している。炉2は東壁際に位置している。径56cmほどの円形で，床面を4cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は，わずかに赤変硬化している。

炉1土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

炉2土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

ピット　主柱穴及び出入り口ピットの配列を考えて床面と遺構の外側を精査したが，確認できなかった。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径81cm，短径74cmの楕円形で，深さ56cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

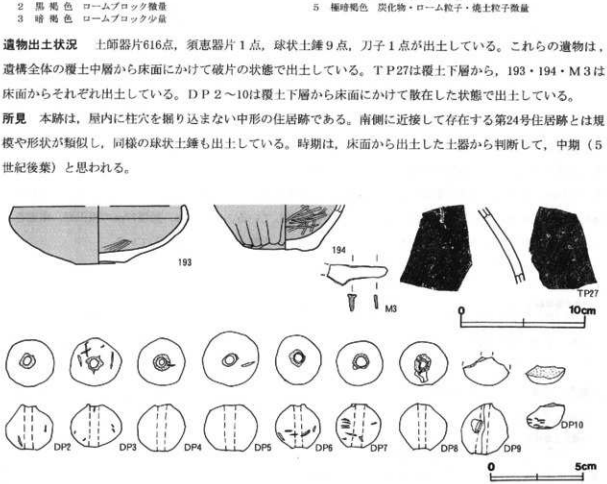
貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ームブロック中量，炭化粒子微量

覆土　5層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ームブロック微量
3　暗　褐　色　ームブロック少量
4　褐　　色　ームブロック中量
5　極暗褐色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片616点，須恵器片1点，球状土錘9点，刀子1点が出土している。これらの遺物は，遺構全体の覆土中層から床面にかけて破片の状態で出土している。ＴＰ27は覆土下層から，193・194・Ｍ3は床面からそれぞれ出土している。ＤＰ２～10は覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。

所見　本跡は，屋内に柱穴を掘り込まない中形の住居跡である。南側に近接して存在する第24号住居跡とは規模や形状が類似し，同様の球状土錘も出土している。時期は，床面から出土した土器から判断して，中期（5世紀後葉）と思われる。



第76図　第23号住居跡出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表（第76図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
193	土師器	坏	[14.0]	4.7	4.0	石英・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ナデ，内面ヘラ磨き．	中央部床面	65%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	下位の特徴	出土位置	備考
D94	土師器	坏	—	(5.7)	1.0	長石・石英・雲母	赤	普通	外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	中央部床面	20%
TP27	須恵器	甕	—	(6.1)		長石	灰	普通	外面縦位の平行叩き，内面当て具痕。	中央部下層	外面自然釉付着

番号	種類	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP2	球状土錘	2.5	0.5	2.4	(12.4)	土製	ナデ，片面穿孔。一部欠損。	北壁寄り下層	P1.30
DP3	球状土錘	2.6	0.5	2.3	14.0	土製	ナデ，片面穿孔。	中央部床面	P1.30
DP4	球状土錘	2.6	0.5	2.5	14.1	土製	ナデ，片面穿孔。	中央部床面	P1.30
DP5	球状土錘	3.0	0.6	2.5	22.4	土製	ナデ，片面穿孔。上下面ヘラ削り。	西壁寄り床面	P1.30
DP6	球状土錘	2.6	0.5	2.4	14.3	土製	ナデ，片面穿孔。	西壁寄り下層	P1.30
DP7	球状土錘	2.5	0.5	2.3	12.3	土製	ナデ，片面穿孔。	西壁寄り床面	P1.30
DP8	球状土錘	2.6	0.5	2.4	12.8	土製	ナデ，片面穿孔。	西壁寄り床面	P1.30
DP9	球状土錘	(2.5)	(0.4)	2.5	(7.0)	土製	ナデ，片面穿孔。1/3遺存。	中央部床面	
DP10	球状土錘	(1.1)	—	(1.3)	(0.16)	土製	ナデ，片面穿孔。1/4遺存。	北壁寄り下層	
M3	刀子	(6.0)	1.7	0.4	(1.5)	鉄	刃先部欠損，片関。	東壁寄り床面	

第24号住居跡（第77～79図）

位置　調査3区北部のE5c2区に位置し，平坦な台地上に立地している。第23号住居跡の南側に位置し，出入り口部は，それぞれ向かい合う位置に構築されている。

規模と形状　長軸5.66m，短軸3.82mの長方形で，主軸方向はN－19°－Wである。壁高は34～41cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。北壁際の出入り口付近から貯蔵穴にかけて，踏み固められたローム土の高まりがある。

炉　2か所。炉1は中央部の東寄りに位置している。長径65cm，短径53cmの楕円形で，床面を4cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉2は中央部の南寄りに位置している。長径95cm，短径77cmの楕円形，床面を6cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。どちらの炉床も，火熱を受け赤変硬化している。

炉1土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

炉2土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量　　2　暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量

ピット　P1は深さ19cmで，北壁際の貯蔵穴寄りに位置していることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。径70cmほどの円形で，深さ29cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに外傾している。

貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　炭化粒子少量，ローム粒子微量　　2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

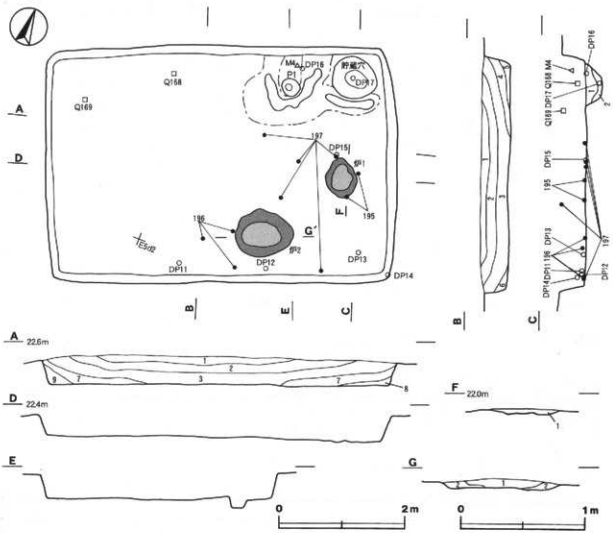
覆土　9層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子微量
2　黒　色　ロームブロック微量
3　極暗褐色　ロームブロック少量
4　黒褐色　ロームブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子微量
6　黒褐色　ローム粒子微量
7　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒褐色　ローム粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子少量

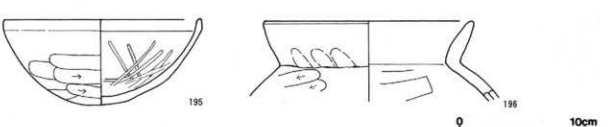
遺物出土状況　土師器片348点，須恵器片2点，白玉1点，勾玉1点，球状土錘7点，鉄鏃1点のほか，流れ込んだ縄文土器片1点が出土している。これらの遺物は，東側を中心とする覆土から出土している。覆土下層

から床面にかけての土器は，破片の状態のものが多い。196は覆土下層から破片が散在した状態で出土していることから投棄されたものとみられる。195は床面から土圧でつぶれた状態で出土している。ＤＰ11～16は覆土下層から床面にかけての壁際に散在した状態で，ＤＰ17は貯蔵穴の底面から出土している。

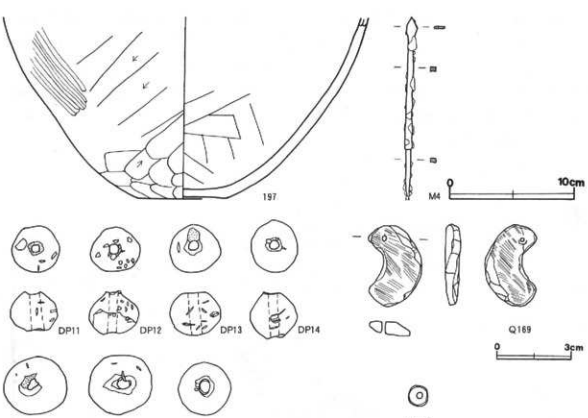
所見　本跡は，出入り口部分を北壁側にもつ住居跡である。北側に近接して存在する第23号住居跡とは規模や形状が類似し，同様の球状土錘も出土している。時期は，覆土下層及び床面から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第77図　第24号住居跡実測図



第78図　第24号住居跡出土遺物実測図（１）



第79図　第24号住居跡出土遺物実測図（2）

第24号住居跡出土遺物観察表（第78・79図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
195	土師器	椀	15.8	6.9	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き．	北東壁寄り床面	90% PL23
196	土師器	甕	16.6	(6.4)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ．	南東壁寄り下層	5%
197	土師器	甕	(14.8)	7.1	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き，内面ヘラナデ・指頭痕．	中央部下層から床面	25%

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP11	球状土錘	2.5	0.5	2.0	12.6	土製	ナデ，片面穿孔．	南東壁際床面	PL30
DP12	球状土錘	2.7	0.4	2.3	11.6	土製	ナデ，片面穿孔．	南東壁際床面	PL30
DP13	球状土錘	2.7	0.5	2.3	14.2	土製	ナデ，両面穿孔．	南東壁際下層	PL30
DP14	球状土錘	2.5	0.5	2.8	14.0	土製	ナデ，片面穿孔．	南東壁際中層	PL30
DP15	球状土錘	3.4	0.5	3.0	30.7	土製	ナデ，片面穿孔．	東壁際下層	PL30
DP16	球状土錘	3.4	1.0	3.0	29.5	土製	ナデ，片面穿孔．	北壁際下層	PL30
DP17	球状土錘	2.8	0.6	2.7	21.0	土製	ナデ，片面穿孔．	貯蔵穴底面	PL30
Q168	臼玉	0.52	0.15	0.32	0.12	滑石	側面は円筒状，片面穿孔．	北西壁寄中層	
Q169	勾玉	3.3	2.1	0.6	6.05	滑石	孔径0.15。C字形，両面斜位の研磨．	西コーナー部下層	
M4	鏃	(14.5)	0.8	0.2～0.4	(8.2)	鉄	柳葉式の長頸鏃，鏃身部，茎部の端部欠損．	北東壁際中層	PL32

第25号住居跡（第80～83図）「第22集」参照

位置　調査3区北部のE4b2区に位置し，平坦な台地上に立地している。なお，本跡の西側部分は，昭和57年度に第10号住居跡として調査されている。

重複関係　東壁の一部を第87号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸8.04m，短軸7.58mの方形で，主軸方向はN－9°－Wである。壁高は44～54cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の付近がよく踏み固められている。壁溝は，北壁を除き一部に認められる。また，北壁側と東壁側の床面には焼土塊が広範囲に堆積し，壁際から中央部に向かって倒れている炭化材が検出された。

焼土塊土層解説

1　暗褐色　焼土ブロック・炭化粒子中量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物少量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック・炭化物中量
4　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量

炉　3か所。炉はいずれも中央部の北寄りに位置している。炉1は長径72cm，短径61cmの楕円形で，床面を6cmほど皿状に掘りくぼめた地床かである。炉床は火熱を受け，赤変硬化している。炉2は長径43cm，短径35cmの楕円形，炉3は長径64cm，短径24cmの楕円形である。床面上を炉床とし，火熱を受け赤変硬化している。3つの炉は隣接して確認されていることから，炉2・3は炉1に付随するものとみられる。

炉1～3土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　7か所。P3～P7は既に報告済みである。P1は深さ70cm，P2・3は深さ約53cm，P4は深さ60cmで，配列から主柱穴と思われる。

ピット土層解説（P1・2共通）

1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

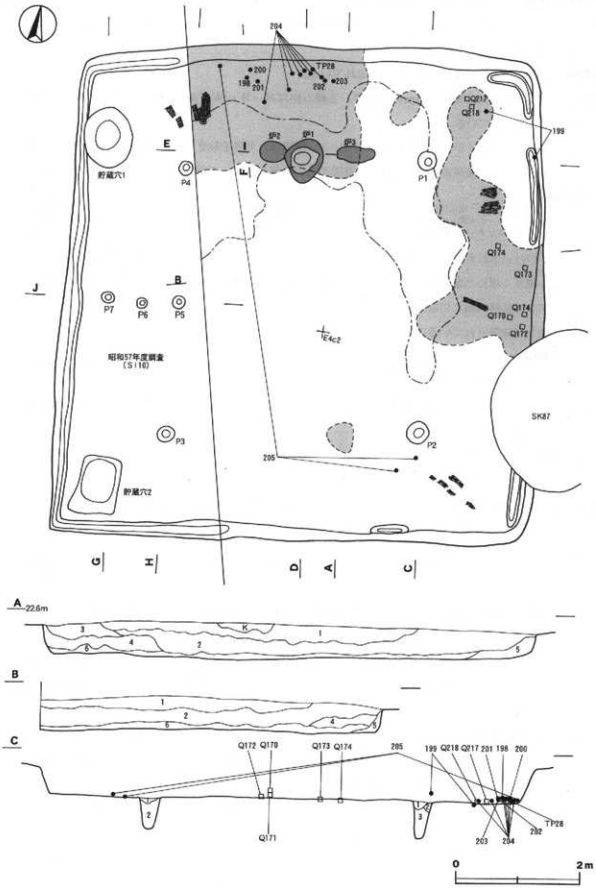
覆土　6層に分層される。第1・2層は，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第3・4層はロームブロックを，第5・6層は焼土ブロックや炭化材を多く含んでいることから人為堆積である。

土層解説

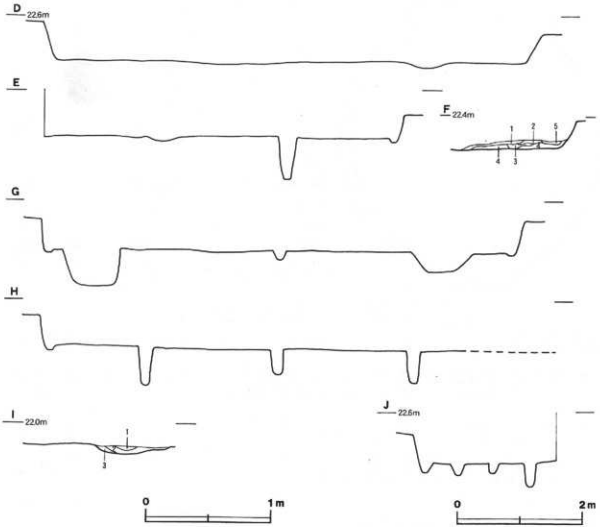
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック多量，炭化粒子少量
6　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化材中量

遺物出土状況　土師器片1,309点，須恵器片2点，臼玉46点，双孔円板2点，ガラス小玉1点，炭化米3粒，礫19点のほか，縄文土器1点が出土している。これらの遺物は，主に北壁際の床面から集中して出土している。198～204は，198・199・202・203が斜位の状態で，200・204は上圧でつぶれた状態でそれぞれ床面から出土している。また，Q217・Q218（双孔円板）は北東コーナー部の床面から，Q170～174（臼玉）は東壁際の床面からそれぞれ出土している。Q175～215（臼玉），Q216（ガラス小玉），炭化米は，焼土部分から床面にかけての覆土を水洗選別し検出したものである。

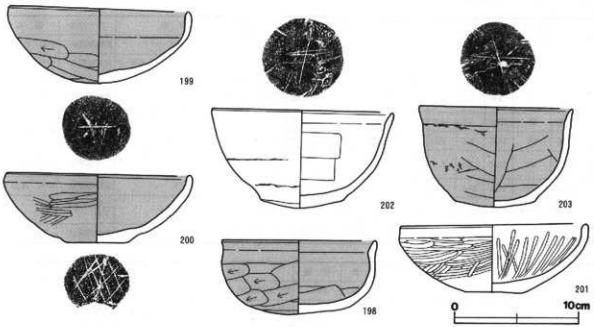
所見　前回の調査で，北西・南西コーナー部に貯蔵穴が確認されている。今回の調査では，北東側の壁際の床面から炭化材や焼土が多量に出土した焼失住居であることが確認された。また，北壁際から完形の土器が多く出土し，北寄りの炉と北壁の間には土器の保管場所があったものと推測される。時期は，壁際の床面から出土した土器から判断して，中期（5世紀後葉）と思われる。



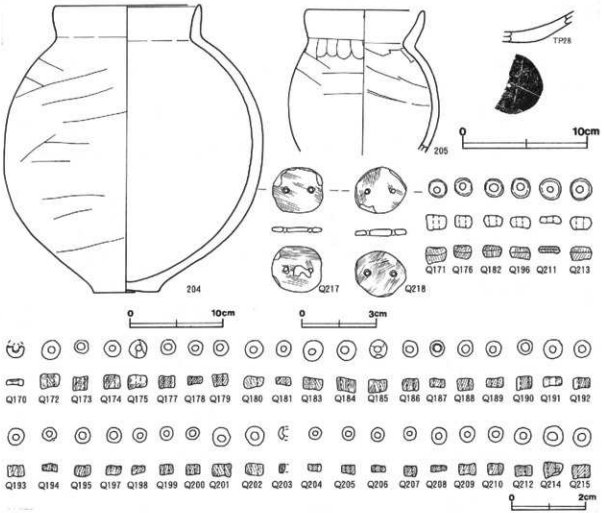
第80図　第25号住居跡実測図（1）



第81図　第25号住居跡実測図（2）



第82図　第25号住居跡出土遺物実測図（1）



第83図　第25号住居跡出土遺物実測図（2）

第25号住居跡出土遺物観察表（第82・83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
198	土師器	坏	12.6	5.9	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	北壁際床面	95%　PL23
199	土師器	坏	14.7	6.4	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ，底部ヘラ磨き有り。	北東壁際床面	100%　PL23
200	土師器	坏	14.8	5.5	4.4	長石・雲母・赤色粒子	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，内面ナデ，底部ヘラ削り，ヘラ磨き有り。	北壁際床面	85%　PL23
201	土師器	坏	15.0	5.7	4.2	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ヘラ磨き，底部ヘラ削り。	北壁際床面	80%　PL23
202	土師器	椀	14.7	8.0	6.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ナデ，内面ヘラナデ，底部内面ヘラ磨き有り「ぶ」。	北壁際床面	100%　PL24
203	土師器	椀	12.4	8.2	6.4	長石・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ヘラナデ，底部内面ヘラ磨き有り「×」。	北壁際床面	100%　PL24
204	土師器	壺	15.3	31.1	6.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ヘラナデ。	北壁際床面	60%　PL23
205	土師器	小形壺	9.6	(11.4)	—	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ヘラナデ。	北壁・南東部下層	50%
TP28	土師器	坏	—	(2.7)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部ヘラ削り・ヘラ磨き有り。	北壁際床面	

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q170	臼玉	(0.42)	(0.18)	0.2	(0.03)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。1/2 欠損。	東壁寄り床面	
Q171	臼玉	0.5	0.13	0.15	0.13	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	東壁寄り床面	PL31
Q172	臼玉	0.48	0.18	0.32	0.12	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	東壁寄り床面	PL31

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q173	臼玉	0.4	0.2	0.4	0.07	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	東壁寄り床面	PL31
Q174	臼玉	0.5	0.2	0.35	0.12	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	東壁寄り床面	PL31
Q175	臼玉	0.48	0.16	0.35	0.14	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	PL31
Q176	臼玉	0.52	0.18	0.34	0.1	滑石	側面は太鼓状、片面穿孔。	覆土	PL31
Q177	臼玉	0.42	0.2	0.38	0.07	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	PL31
Q178	臼玉	0.4	0.18	0.22	0.04	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	PL31
Q179	臼玉	0.4	0.2	0.32	0.07	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	PL31
Q180	臼玉	0.5	0.18	0.31	0.1	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q181	臼玉	0.4	0.17	0.2	0.06	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q182	臼玉	0.5	0.2	0.31	0.1	滑石	側面は太鼓状、片面穿孔。	覆土	
Q183	臼玉	0.52	0.18	0.3	0.14	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q184	臼玉	0.5	0.18	0.32	0.14	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q185	臼玉	0.45	0.18	0.35	0.13	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q186	臼玉	0.39	0.18	0.33	0.08	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q187	臼玉	0.4	0.2	0.2	0.05	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q188	臼玉	0.4	0.2	0.32	0.05	滑石	側面はやや太鼓状、片面穿孔。	覆土	
Q189	臼玉	0.4	0.19	0.2	0.05	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q190	臼玉	0.4	0.21	0.4	0.09	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q191	臼玉	0.5	0.16	0.3	0.09	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q192	臼玉	0.42	0.18	0.3	0.07	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q193	臼玉	0.4	0.18	0.3	0.1	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q194	臼玉	0.35	0.14	0.2	(0.03)	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q195	臼玉	0.4	0.18	0.3	0.08	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q196	臼玉	0.5	0.18	0.32	0.13	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q197	臼玉	0.4	0.18	0.24	0.05	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q198	臼玉	0.38	0.16	0.2	0.04	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q199	臼玉	0.38	0.15	0.25	0.03	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q200	臼玉	0.36	0.15	0.28	0.04	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q201	臼玉	0.48	0.18	0.36	0.15	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q202	臼玉	0.5	0.18	0.3	0.12	滑石	側面はやや太鼓状、片面穿孔。	覆土	
Q203	臼玉	(0.4)	(0.14)	0.25	(0.02)	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。1/3遺存。	覆土	
Q204	臼玉	0.32	0.12	0.2	0.03	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q205	臼玉	0.36	0.14	0.28	0.04	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q206	臼玉	0.4	0.13	0.2	0.04	滑石	側面はやや太鼓状、片面穿孔。	覆土	
Q207	臼玉	0.32	0.12	0.3	0.06	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q208	臼玉	0.4	0.18	0.16	0.05	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q209	臼玉	0.41	0.14	0.3	0.09	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q210	臼玉	0.4	0.2	0.3	0.06	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q211	臼玉	0.55	0.18	0.2	0.11	滑石	側面は太鼓状、片面穿孔。	覆土	
Q212	臼玉	0.42	0.18	0.3	0.1	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q213	臼玉	0.3	0.16	0.35	0.15	滑石	側面は太鼓状、片面穿孔。	覆土	
Q214	臼玉	0.5	0.2	0.41	0.11	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q215	臼玉	0.48	0.2	0.35	0.14	滑石	側面は円筒状、片面穿孔。	覆土	
Q216	小玉	—	—	—	(0.07)	ガラス	淡いブルー。細片のため重量のみ記載。	覆土	
Q217	双孔円板	1.8	2.9	0.2	1.5	滑石	孔径0.15。両面横位の研磨。	北東コーナー部床面	PL32
Q218	双孔円板	1.8	2.1	0.3	2.1	滑石	孔径0.15。両面斜位の研磨。	北東コーナー部床面	PL32

第26号住居跡（第84・85図）

位置　調査3区南部のE４g8区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　一辺6.9mほどの方形で，主軸方向はN　2°－Wである。壁高は35～53cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，主柱穴を結んだ中央部と出入り口付近が，よく踏み固められている。壁溝は，南西コーナー部と北壁中央部を除いて巡っている。また，南西コーナー部付近の床面から焼土塊が出土している。

炉　中央部の北寄りに位置している。長径75cm，短径54cmの楕円形で，床面を８cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け，わずかに硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量
2　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４は深さ51～64cm，Ｐ３は深さ40cmで，配列から主柱穴と思われる。Ｐ５は深さ60cmで，南壁寄りの中央部に位置し，斜めに掘り込まれていることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量
3　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

貯蔵穴　北壁際の中央部に位置している。長軸89cm，短軸76cmの隅丸長方形で，深さ49cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子微量
3　極暗褐色　炭化物少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
4　極暗褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　極暗褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子少量

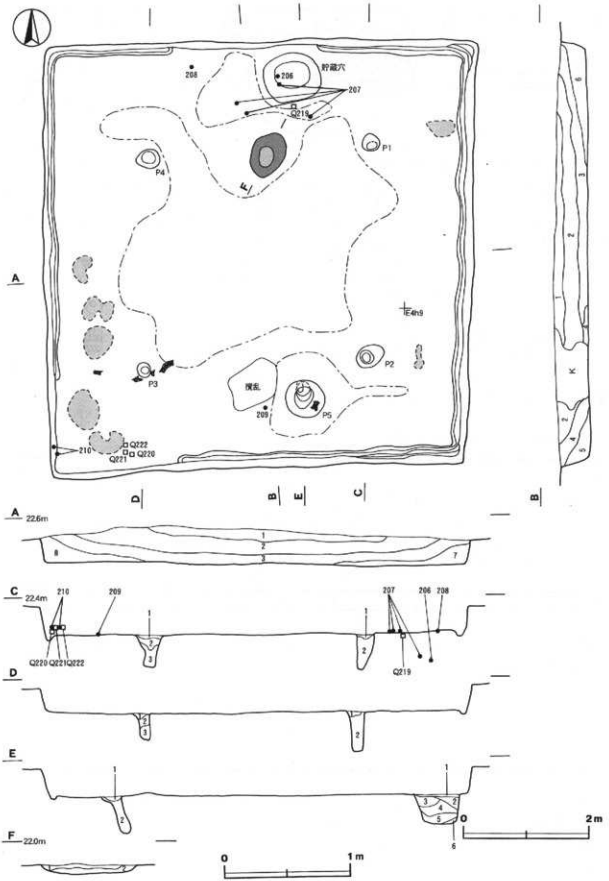
覆土　８層に分層される。レンズ状に堆積した自然堆積であるが，第４・５層は焼土粒子や炭化材を含んだ層であり，埋没過程において土器片とともに投棄された人為堆積と考えられる。

土層解説

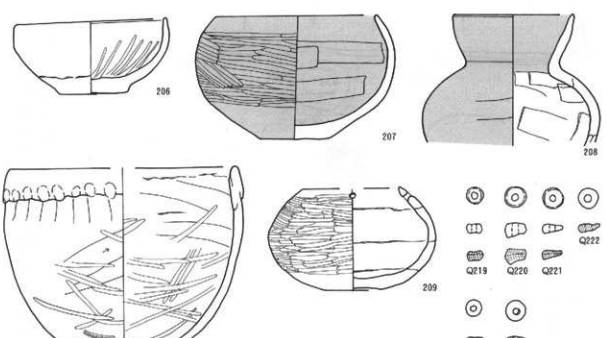
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
3　黒　色　焼土粒子少量・ロームブロック微量
4　極暗褐色　ロームブロック少量
5　黒褐色　ローム粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
7　暗褐色　ローム粒子少量
8　黒褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片321点，白玉６点，礫１点が出土している。これらの遺物は，主に南西コーナー部付近の覆土中層から床面にかけて破片の状態で出土している。210は覆土下層から，208・209は床面から，206は貯蔵穴内からそれぞれ出土している。207は床面と貯蔵穴内から出土した破片が接合したものである。Q220～224は南西コーナー部の床面からまとまって出土している。

所見　本跡は，ほぼ南北に主軸をとり南壁側に出入り口施設をもち，貯蔵穴が北壁際の中央部に位置する住居形態である。南西コーナー部付近から検出された焼土及び土器は，出土状況から住居廃絶に伴い投棄されたものとみられる。時期は，床面及び貯蔵穴から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第84図　第26号住居跡実測図



第85図　第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表(第85図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
206	土師器	坏	[12.1]	6.1	5.5	長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ナデ・輪積み痕，内面ヘラ磨き。	貯蔵穴内	55%
207	土師器	椀	13.1	10.1	5.4	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ，底部ヘラ削り。	北壁床面・貯蔵穴内	95%　PL24
208	土師器	坩	9.7	(10.5)	—	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ヘラナデ。	北壁寄り床面	45%
209	土師器	坩	[7.6]	8.1	4.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ナデ・輪積み痕。	南壁寄り床面	40%
210	土師器	甕	[18.5]	15.9	4.0	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横撫痕，体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き，内面ヘラナデ後，ヘラ磨き。	南西コーナー部下層	40%

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q219	臼玉	0.41	0.14	0.22	0.07	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	北壁寄り床面	
Q220	臼玉	0.58	0.15	0.34	0.16	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	南西コーナー部床面	
Q221	臼玉	0.52	0.15	0.24	0.1	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	南西コーナー部床面	
Q222	臼玉	0.54	0.18	0.2	0.07	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	南西コーナー部床面	
Q223	臼玉	0.42	0.16	0.22	0.05	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q224	臼玉	0.52	0.16	0.3	0.15	滑石	側面はやや太鼓状，片面穿孔。	覆土	

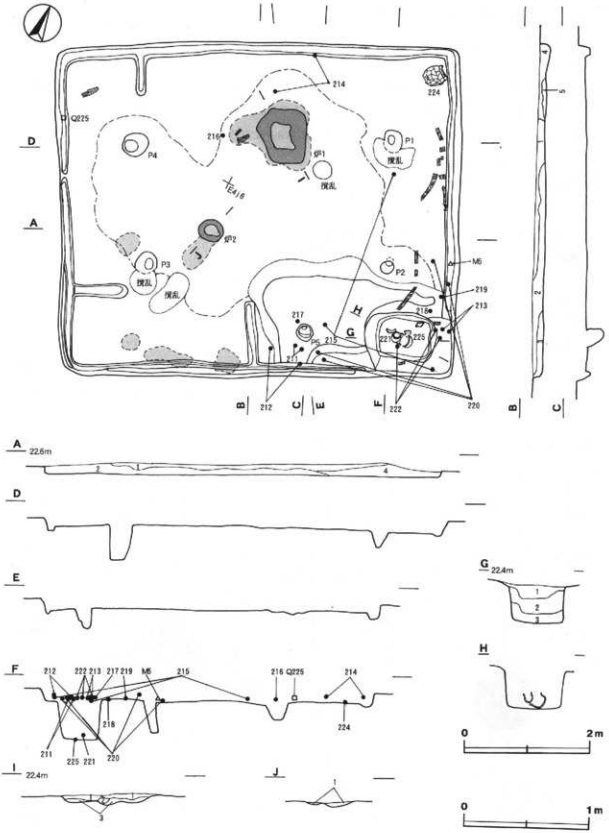
第27号住居跡（第86～88図）

位置　調査3区南部のE 4 j6区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　長軸6.43m，短軸5.33mの長方形で，主軸方向はN－30°－Wである。壁高は19～24cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，出入り口付近から中央部にかけてよく踏み固められている。壁溝は，東コーナー部を除いて

巡っている。また，間仕切り溝が南東壁・南西壁・北西壁から各１条ずつ確認され，長さ65～100cm，幅15～25cmの溝状で，深さ８～10cmである。いずれも壁際から中央に向かって延びている。また，北東壁と平行に炭化材が出土し，南東壁際付近には焼土塊が認められる。



第86図　第27号住居跡実測図

炉　2か所。炉１は中央部の北西寄りに位置している。長径94cm，短径80cmの楕円形で，床面を６cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉２はほぼ中央部に位置している。径40cmほどの円形で，床面を４cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉１の炉床は，火熱を受け赤変硬化し，長期間使用していたと思われる。炉２の炉床は，わずかに赤変している程度である。

炉１・２土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１は深さ29cm，Ｐ２～Ｐ４は深さ48～59cmで，配列から主柱穴と思われる。Ｐ５は深さ34cmで，南西壁の貯蔵穴寄りに位置していることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。

貯蔵穴　東コーナー部に位置している。長軸97cm，短軸73cmの長方形で，深さ62cmである。底面は平坦で，壁は直立している。

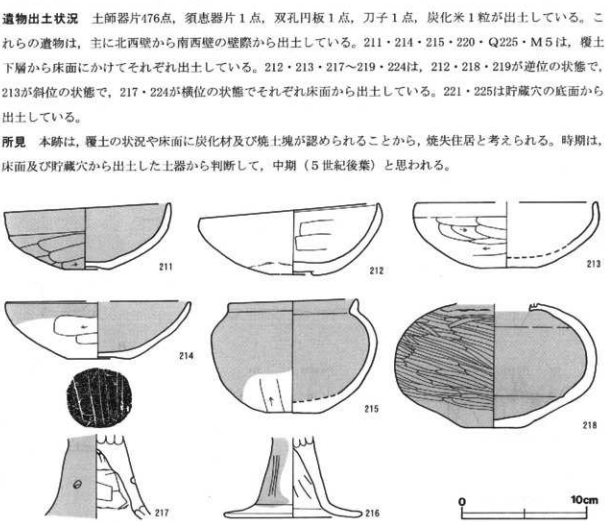
貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

覆土　５層に分層され，不自然に堆積した人為堆積である。

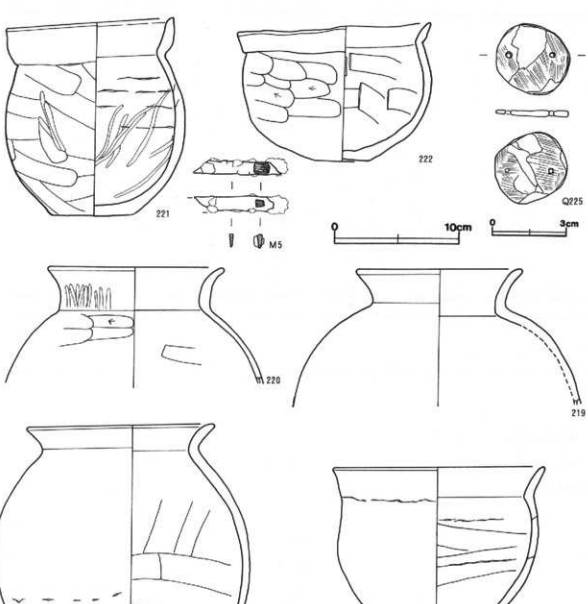
土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
5　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片476点，須恵器片１点，双孔円板１点，刀子１点，炭化米１粒が出土している。これらの遺物は，主に北西壁から南西壁の壁際から出土している。211・214・215・220・Q225・Ｍ５は，覆土下層から床面にかけてそれぞれ出土している。212・213・217～219・224は，212・218・219が逆位の状態で，213が斜位の状態で，217・224が横位の状態でそれぞれ床面から出土している。221・225は貯蔵穴の底面から出土している。

所見　本跡は，覆土の状況や床面に炭化材及び焼土塊が認められることから，焼失住居と考えられる。時期は，床面及び貯蔵穴から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第87図　第27号住居跡出土遺物実測図（１）



第88図　第27号住居跡出土遺物実測図（2）

第27号住居跡出土遺物観察表（第87・88図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
211	土師器	坏	13.4	5.4	3.7	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ナデ．	南東壁際下層	100% PL24
212	土師器	坏	14.7	5.8	4.1	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ナデ・輪積み痕，内面ヘラナデ．	南東壁際下層	95%
213	土師器	坏	[14.4]	5.3	4.3	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面剥離．	東コーナー部床面	65%
214	土師器	坏	[15.0]	4.6	5.0	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ，底部ヘラ書き痕．	北西壁寄り下層	40%

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
215	土師器	椀	10.4	9.1	1.1	長石・石英・雲母	赤	普通	L:縦ケズリ、体部外面ヘラ削り、口縁部横ナデ。	東側下層から床面	50% PL24
216	土師器	高坏	—	6.6	11.2	長石・石英・雲母	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ、縦ケズリ。	中央部下層	40%
217	土師器	高坏	—	(6.9)	—	長石・石英・雲母	赤褐	普通	脚部内面ケズリ、外面ヘラナデ、3つの透し孔有り。	南東寄り床面	30%
218	土師器	甕	—	(10.0)	4.6	石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	胴部外面ヘラ磨き、内面ナデ、縦ケズリ痕。	東コーナー部床面	70%
219	土師器	甕	17.3	(14.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	L:縦ケズリ、体部内面ナデ、口縁部横。	東コーナー部床面	30%
220	土師器	甕	18.8	(12.7)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	L:縦ケズリ、体部内面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	東コーナー部床面	20%
221	土師器	小形甕	13.4	16.0	5.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	L:縦ケズリ、体部外面ヘラ削り後、ヘラ磨き、口縁ヘラ磨き・横撫で。	貯蔵穴底面	95% PL24
222	土師器	小形甕	15.4	11.2	(5.1)	長石・雲母	赤	普通	L:縦ケズリ、体部外面ヘラ磨り、内面ヘラナデ。	東コーナー部下層	55%
224	土師器	甕	20.0	30.5	8.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	L:縦ケズリ、体部外面ヘラ削り後、ヘラ磨き・横撫で。底部内面ヘラナデ。	東コーナー部床面	90% PL24
225	土師器	甕	22.4	18.8	5.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	L:縦ケズリ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ・横撫で痕。	貯蔵穴西面	100% PL24

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q225	双孔円板	2.8	3.0	0.3	3.96	滑石	孔径0.2、両面研磨の研磨。	南西壁際下層	PL32
M6	刀子カ	(7.5)	1.0	0.1~0.3	(5.7)	鉄	刃先部欠損、刀身部に木質付着。	北東壁際下層	

第28号住居跡（第89・90図）

位置　調査3区南部のE 4 j8区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　一辺2.8mほどの方形で，主軸方向はN －14°－Wである。壁高は9～23cmで，各壁とも緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

炉　中央部の北寄りに位置している。長径72cm，短径50cmの楕円形で床面を3cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床面はやや凹凸で，火熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化物微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物微量

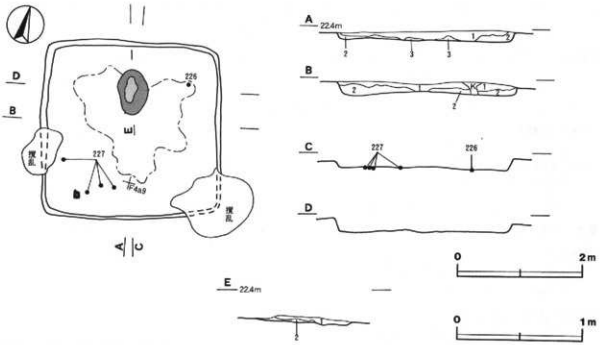
ピット　主柱穴及び出入り口ピットの配列を考えて床面と遺構の外側を精査したが，確認できなかった。

覆土　3層に分層され，不自然に堆積した人為堆積である。

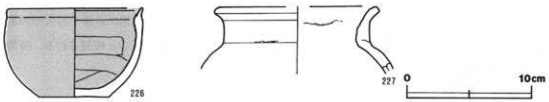
土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片50点，礫1点が出土している。遺物の出土量は少なく，ほとんどが甕の細片である。226は逆位の状態で227とともに床面から出土している。

所見　本跡は，屋内に柱穴を掘り込まない小形の住居跡である。時期は，床面から出土した土器から判断して，中期（5世紀後葉）と思われる。



第89図　第28号住居跡実測図



第90図　第28号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表(第90図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
226	土師器	椀	10.7	7.1	6.3	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面ナデ，内面ヘラナデ。	北東コーナー部床面	95% PL25
227	土師器	小形甕	[12.6]	5.4	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ナデ。	南西コーナー部床面	10%

第29号住居跡（第91・92図）

位置　調査3区南部のＦ４b8区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　長軸3.4m，短軸2.61mの長方形で，主軸方向はＮ－16°－Ｗである。壁高は８～14cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，南東コーナー付近から中央部にかけてよく踏み固められている。

炉　中央部のやや北寄りに位置している。長径82cm，短径69cmの楕円形で，床面を32cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け，赤変硬化している部分が厚いことから，長期間使用していたと思われる。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量　　2　暗赤褐色　焼土ブロック中量

ピット　3か所。Ｐ１は深さ20cmで北東コーナー部に位置している。壁際に位置していることから壁柱穴と思われる。Ｐ２は深さ32cm，Ｐ３は深さ14cmで，どちらも性格は不明である。

貯蔵穴　2か所。貯蔵穴１は西壁際中央部に位置している。長径90cm，短径46cmの楕円形で，深さ40cmである。底面は平坦で，西側の壁はやや内傾している。貯蔵穴２は北西コーナー部に位置している。長径69cm，短径61cmの楕円形で，深さ61cmである。底面は平坦で，壁は直立している。

貯蔵穴１土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック微量
2　極暗褐色　ローム粒子微量
3　黒 褐 色　ローム粒子微量

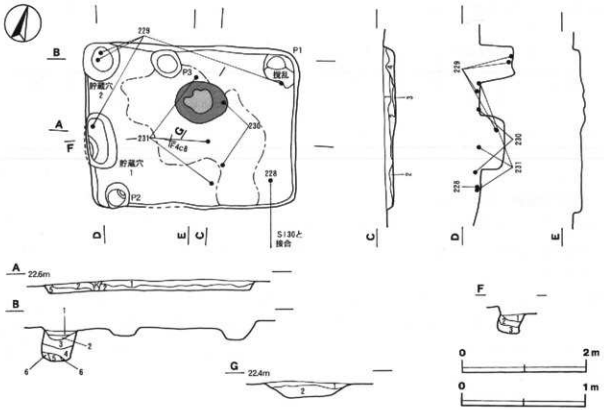
貯蔵穴２土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量
3　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　黒 褐 色　ローム粒子微量
5　灰 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗 褐 色　ロームブロック少量

覆土　5層に分層される。覆土全体に土器の破片が散在していることから，人為堆積と思われる。

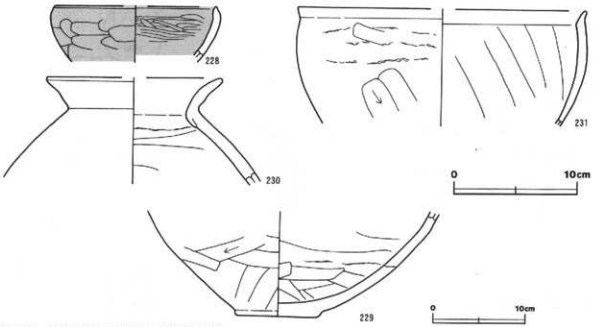
土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片653点，二枚貝片が出土している。これらの遺物は，全体の覆土から破片が重なり合うように出土している。土器片は壺・甕類の体部片が多く，出土状況から一括投棄されたとみられる。228～231はそれぞれ床面から出土し，投棄時のものと思われる。228は第30号住居跡の床面から出土した破片と接合している。また，貯蔵穴２の灰状の覆土中から二枚貝片が出土している。

所見　本跡は，屋内に柱穴を掘り込まない小形の住居跡である。288のように南側に近接する大形の第30号住居跡から出土している破片との接合関係から，両者はほぼ同時期に廃絶されたものと推測される。時期は，床面から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第91図　第29号住居跡実測図



第92図　第29号住居跡出土遺物実測図

第29号住居跡出土遺物観察表（第92図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
228	土師器	坏	[12.1]	4.8	—	長石・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	南東部床面・S1−30	10%
229	土師器	壺	—	(11.8)	9.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面・底部ヘラ削り，内面ヘラナデ。	貯蔵穴1・2底面	40%
230	土師器	壺	[14.2]	(8.5)	—	石英・雲母	黄橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ナデ，内面ヘラナデ・輪積み痕。	中央部床面	5%
231	土師器	甕	[23.4]	(9.4)	—	石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り・輪積み痕，内面ヘラナデ。	中央部床面	15%

第30号住居跡（第93～95図）

位置　調査3区南部のＦ４e7区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係　北壁一部を，第84・86号土坑に掘り込まれている。

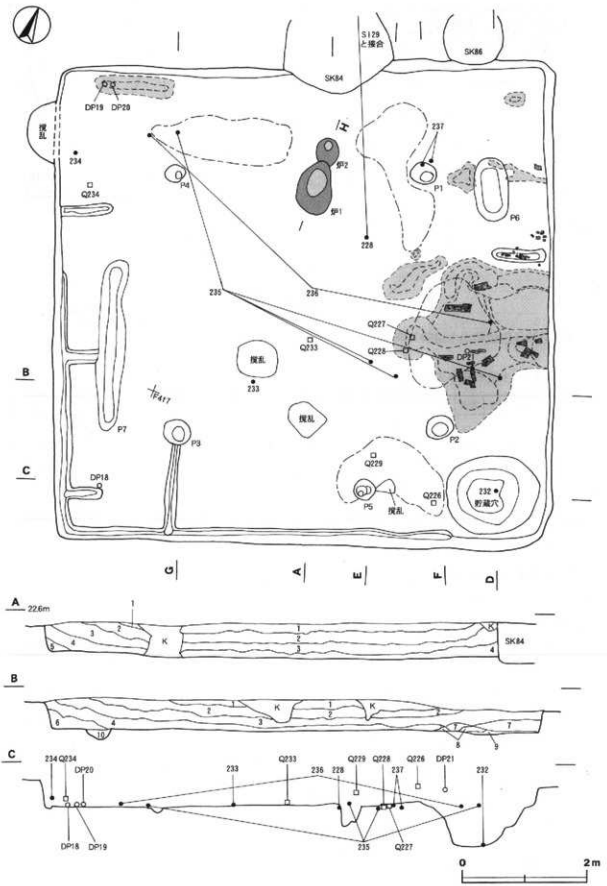
規模と形状　長軸7.96m，短軸7.7mの方形で，主軸方向はＮ−21°−Ｗである。壁高は30～45cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，出入り口付近と炉の周囲がよく踏み固められている。壁溝は，南壁際と西壁際の一部に認められる。また，間仕切り溝が東壁に１条，南壁に１条，西壁に３条確認され，いずれも壁際から中央に向かって延びている。長さ55～145cm，幅15～20cm，深さ９～12cmである。南壁の間仕切り溝はＰ３と連結している。また，東壁付近から広範囲に広がる焼土と，中央部に向かって倒れている炭化材が出土している。

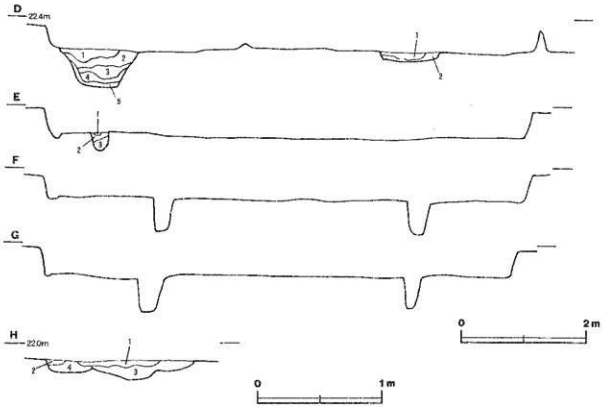
炉　２か所。どちらも中央部の北寄りに位置している。炉１は長径94cm，短径77cmの楕円形で，床面を７cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉２の長径は現存で60cm，短径52cmの楕円形で，床面を５cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

炉１・２土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量
4　暗赤褐色　焼土ブロック中量



第93図　第30号住居跡実測図（1）



第94図　第30号住居跡実測図（2）

ピット　7か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ53～63cmで，配列から主柱穴と思われる。Ｐ５は深さ37cmで，南壁の貯蔵穴寄りに位置していることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６は深さ18cmで，Ｐ７は長径275cm，短径38cmの長楕円形で，深さ15cmである。どちらも性格は不明である。

ピット土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量
2　黒褐色　ロームブロック微量
3　暗褐色　ロームブロック少量

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径149cm，短径125cmの楕円形で，深さ61cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに外傾している。

貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ロームブロック微量
2　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量
5　黒褐色　ローム粒子微量

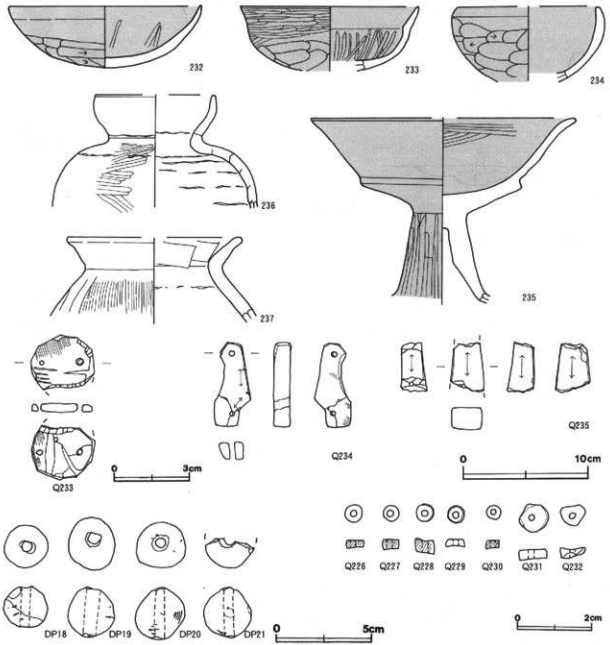
覆土　10層に分層され，第１層～６層はレンズ状に堆積した自然堆積である。第７層～９層は，炭化材や焼土ブロックを多く含んだ層で，不自然に堆積した人為堆積である。第10層は，Ｐ７の覆土である。

土層解説
1　黒　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック微量
3　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
5　黒褐色　ローム粒子少量
6　褐灰褐色　ロームブロック少量
7　黒褐色　炭化材中量，焼土ブロック少量
8　暗赤褐色　炭化材・焼土ブロック中量
9　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片1,140点，須恵器片２点，臼玉７点，双孔円板１点，砥石２点，球状土錘４点が出土している。これらの遺物は，全体の覆土下層から床面にかけて破片の状態で出土している。破片の多くは壺・甕類である。貯蔵穴の覆土上層から下層にかけて，土器片が重なり合うように出土していることから一括投棄

されたとみられる。233～237・Q226～229・Q233・234・ＤＰ18～21は覆土下層から床面にかけて出土している。232は貯蔵穴の底面から正位の状態で出土している。また，235は第29号住居跡の床面から出土した破片と接合したものである。

所見　本跡は，一辺が８ｍほどの大形の住居跡である。土器や焼土の堆積状況から，住居廃絶時に土器片を投棄し，その後焼却していると推測される。第29号住居跡出土の土器との接合関係から，両者は同時期に廃絶されたものと考えられる。時期は，覆土下層及び床面から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第95図　第30号住居跡出土遺物実測図

第30号住居跡出土遺物観察表(第95図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
232	土師器	坏	16.4	5.0	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	貯蔵穴既出	100% PL25
233	土師器	坏	14.2	(5.1)	—	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部内面ヘ指頭ナデ，体部外面ヘラ削り，体部内面ヘラ磨き。	中央部下層	90% PL25
234	土師器	高坏	(11.2)	(8.0)	—	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き，脚部内面ヘラ磨き，内面ナデ。	北西コーナー部下層	15%
235	土師器	高坏	(21.2)	(14.5)		長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ナデ，内面ヘラ磨き，脚部内面ヘラ磨き，内面ナデ。	中央部下層	30%
236	土師器	甕	(9.3)	(9.0)	—	長石・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，内面ナデ・輪積み痕。	東壁寄り下層	20%
237	土師器	甕	(13.8)	(6.7)	—	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナデ，体部内面ヘケ調整，内面ナデ・輪積み痕。	北東コーナー部下層	10%

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP18	紡錘土錘	2.3	0.5	2.1	10.9	土製	ナデ，片面穿孔。	南西部下層	
DP19	球状土錘	2.5	0.7	2.7	11.6	土製	ナデ，片面穿孔。	北西部下層	
DP20	球状土錘	2.6	0.5	2.7	14.2	土製	ナデ，片面穿孔。	北西部下層	
DP21	球状土錘	(2.6)	0.4	2.7	(7.15)	土製	ナデ，片面穿孔，1/2欠損。	東壁寄り床面	
Q226	白玉	0.42	0.18	0.2	0.06	滑石	両面研磨状，片面穿孔。	南東コーナー部下層	
Q227	白玉	0.4	0.2	0.3	0.07	滑石	両面研磨状，片面穿孔。	東壁寄り下層	
Q228	白玉	0.48	0.2	0.4	0.14	滑石	両面研磨状，片面穿孔。	東壁寄り下層	
Q229	白玉	0.45	0.15	0.2	0.06	滑石	側面はやや丸味状，片面穿孔。	南東コーナー部下層	
Q230	白玉	0.4	0.16	0.3	0.05	滑石	両面研磨状，片面穿孔。	覆土	
Q231	白玉	0.71	0.18	0.28	0.26	滑石	剥離品，片面穿孔。	覆土	
Q232	白玉	0.65	0.18	0.28	0.14	滑石	未製品，片面穿孔。	覆土	
Q233	灰石円板	(2.1)	2.5	0.35	(3.42)	滑石	表裏平坦，両面研磨の形跡，一部欠損。	中央部下層	PL32
Q234	砥石	5.8	3.0	1.4	30.2	凝灰岩	直径0.3～0.4，断面は長方形で，2面を使う。溝状砥面。	北西コーナー部下層	PL32
Q235	砥石	(4.6)	(2.3)	(2.1)	(27.4)	凝灰岩	断面は四角形，側面4面。	覆土	

第31号住居跡（第96・97図）

位置　調査３区南部のＦ４g5区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　北壁と東壁のほとんどは削平されている。床面の広がりから判断して，長軸3.33m，短軸2.59mの長方形と推定され，主軸方向はＮ　9°－Ｗである。南壁と西壁の壁高は８～11cmで，ともに緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁中央部に位置している。遺存状態が悪く，火床面とその周囲の床面から粘土粒子をわずかに確認した。火床面は北壁の中央部に位置し，わずかに赤変している。

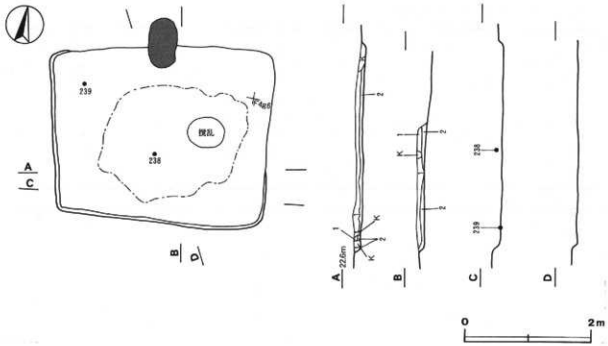
ピット　主柱穴及び出入りｐピットの配列を考えて床面と遺構の外側を精査したが，確認できなかった。

覆土　２層に分層される。覆土は薄く明確に断定できないが，含有物から判断して自然堆積と思われる。

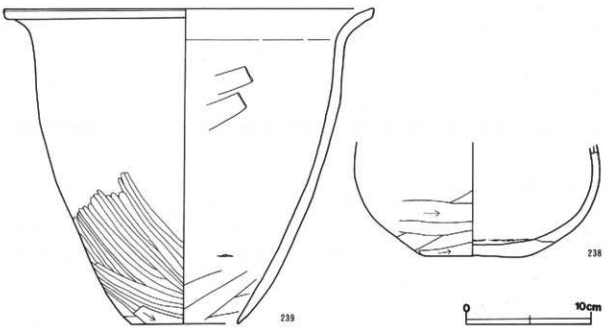
土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量　　2　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　出土遺物は少なく，土師器片29点が出土している。238は土圧でつぶれた状態で，239は横位の状態で，いずれも床面から出土している。

所見　時期は，床面から出土した土器から判断して，後期（６世紀後半）と思われる。



第96図　第31号住居跡実測図



第97図　第31号住居跡出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表（第97図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
238	土師器	甕	—	(9.1)	7.9	長石・雲母	明赤褐	普通	体部外面・底部ヘラ削り，内面ナデ。	中央部床面	40%
239	土師器	甕	29.4	25.7	8.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ磨き後，ヘラ削り，内面ヘラナデ。	西壁寄り床面	70%　PL27

第32号住居跡（第98・99図）

位置　調査３区南部のＦ４i0区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　長軸3.74m，短軸3.12mの長方形で，主軸方向はＮ－18°－Ｗである。壁高は５～12cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から北西壁側がよく踏み固められている。

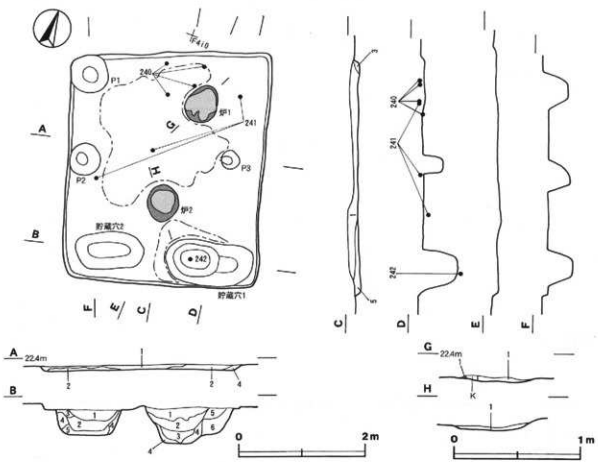
炉　２か所。炉１は中央部の北東寄りに位置している。長径62cm，短径52cmの楕円形で，床面を３cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉２は中央部のやや南寄りに位置している。径30cmほどの円形で，床面を２cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。どちらも炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

炉１土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

炉２土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　３か所。Ｐ１は深さ31cm，Ｐ２は深さ35cmで，壁際に位置していることから主柱穴と思われる。Ｐ３は深さ33cmで，東壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ１・Ｐ２の配列を考えて床面と遺構の外側を精査したが，対応するピットは確認できなかった。

貯蔵穴　２か所。貯蔵穴１は南東コーナー部に位置している。長径138cm，短径70cmの楕円形で，深さ60cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに外傾している。貯蔵穴２は南西コーナー部に位置している。長径108cm，短径62cmの楕円形で，深さ42cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。



第98図　第32号住居跡実測図

貯蔵穴１土層解説

1　黒　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物微量
3　黒 褐 色　ローム粒子微量
4　暗 褐 色　ロームブロック中量
5　暗 褐 色　ロームブロック微量
6　黒 褐 色　ロームブロック少量

貯蔵穴２土層解説

1　黒　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　黒 褐 色　ロームブロック少量
3　黒 褐 色　ローム粒子少量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量
5　黒 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

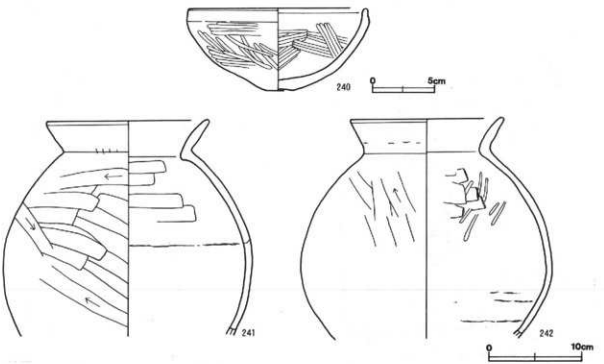
覆土　５層に分層される。覆土は薄く明確に断定できないが，ローム粒子を主体とした自然堆積と思われる。

土層解説

1　黒 褐 色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　黒 褐 色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
3　黒 褐 色　ローム粒子少量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量
5　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片165点，縄２点が出土している。これらの遺物は，全体の覆土下層から床面にかけて出土している。土器は，壺・甕類の破片が多い。240・241は床面から出土している。242は貯蔵穴１の底面から出土している。

所見　本跡は，複数の炉と貯蔵穴をもつ長軸が４ｍほどの小形の住居跡で，出入り口施設は東壁側に位置している。時期は，床面及び貯蔵穴から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第99図　第32号住居跡出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表（第99図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
240	土師器	坏	14.4	6.6	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ヘラ磨き，底部ヘラ削り。	北壁寄り床面	90%　PL25
241	土師器	甕	[17.2]	(23.2)	—	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ・輪積み痕	西壁・東壁床面	35%,外面煤付着
242	土師器	甕	[16.4]	(23.9)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ後，ヘラ磨き。	貯蔵穴1底面	35%,外面煤付着

第33号住居跡（第100・101図）

位置　調査4区南部のII 4 d8区に位置し，平坦な台地の南端部に立地している。

規模と形状　一辺4.8mほどの方形で，主軸方向はN－19°－Wである。壁高は42～57cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈の手前から出入り口施設にかけてよく踏み固められている。壁溝は東壁から南壁にかけて認められる。

竈　北壁中央部に位置している。規模は，焚口部から煙道部まで115cm，両袖部幅95cmである。壁外への掘り込みは34cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床面は床面と同じ高さの平坦面をそのまま使用し，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床部から外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化物微量
3　暗 褐 色　焼土ブロック・炭化物中量，粘土粒子・砂粒少量
4　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
5　にぶい褐色　焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量，炭化物微量
6　暗 褐 色　焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量
7　明 褐 色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
8　褐灰褐色　焼土ブロック少量，粘土粒子・砂粒微量
9　暗 褐 色　焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量
10　にぶい褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
11　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土ブロック微量
12　灰 褐 色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子微量
13　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子少量

ピット　5か所。P 1～P 4は深さ48～58cmで，配列から主柱穴と思われる。P 5は深さ37cmで，南壁寄りの中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。

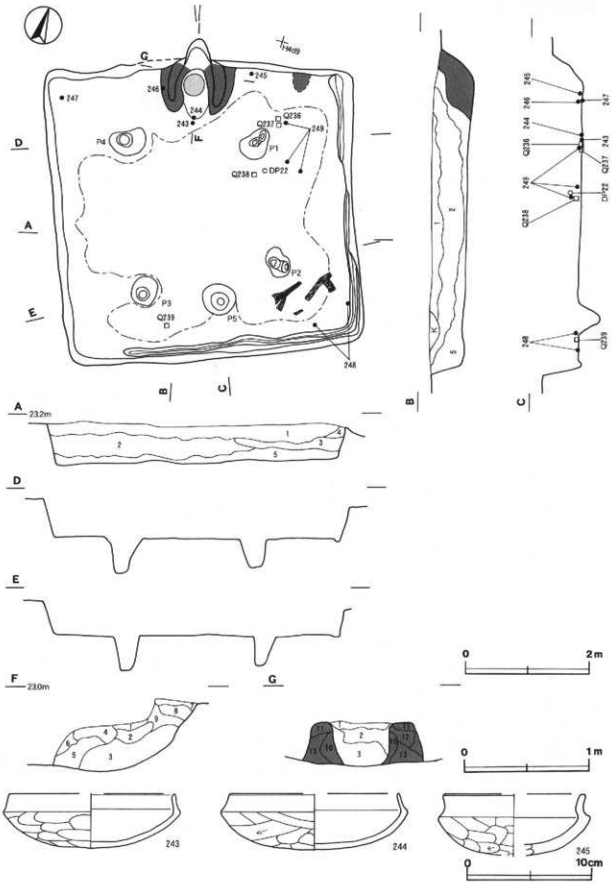
覆土　5層に分層される。レンズ状に堆積した自然堆積を基本とする。第3層は，炭化物や焼土ブロックを多く含む不自然な堆積状況であることから，投棄されたものと思われる。

土層解説

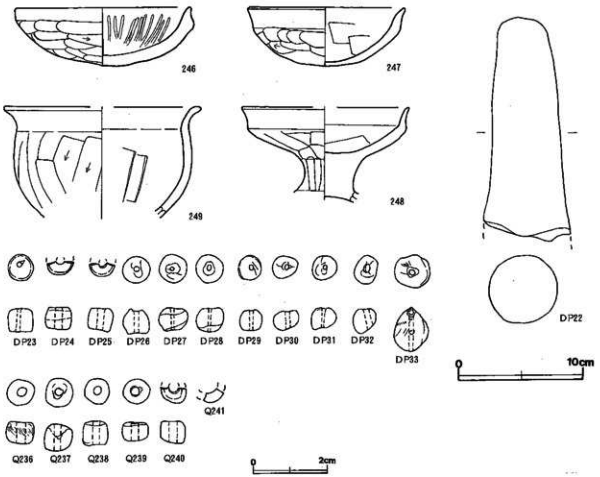
1　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
2　黒 褐 色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子少量
3　黒　　色　炭化物多量，焼土ブロック中量，ロームブロック少量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
5　暗 褐 色　ロームブロック・焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片330点，須恵器片6点，白玉6点，土製小玉11点，土製支脚1点，礫10点，炭化米1粒のほか，流れ込んだ縄文土器片6点が出土している。これらの遺物は，主に全体の覆土中層から床面にかけて竈内から出土している。243～246は，竈付近の床面からそれぞれ出土している。247は北西コーナー部の床面から斜位の状態で出土している。248・249・Q236～239・D P22は，覆土下層から床面にかけてそれぞれ出土している。D P23～33（土製小玉）は，竈内の覆土下層から出土している。また，Q240・Q241（白玉）と炭化米は，床面付近の覆土を水洗選別し検出したものである。

所見　本跡は，竈内から土製小玉11点が出土し，住居廃絶に伴い意図的に廃棄したか竈祭祀的な行為があったことが推測される。また，南東コーナー部の炭化材は，覆土中層から下層にかけての出土で，住居廃絶後に投棄されたものとみられる。時期は，竈付近及び壁際の床面から出土した土器から判断して，後期（6世紀後半）と思われる。



第100図　第33号住居跡・出土遺物実測図



第101図　第33号住居跡出土遺物実測図

第33号住居跡出土遺物観察表(第100・101図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
243	土師器	坏	[13.2]	4.4	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	竈付近床面	90%　PL25
244	土師器	坏	[13.6]	4.5	—	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	竈付近床面	40%
245	土師器	坏	[11.4]	(4.9)	—	長石・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	竈付近床面	45%
246	土師器	坏	14.2	4.7	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	竈付近床面	100%　PL25
247	土師器	坏	12.6	4.7	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	北西コーナー部床面	100%
248	土師器	高坏	[13.4]	(7.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，坏部・脚部外面ヘラ削り，坏部内面ヘラナデ。	南東コーナー部床面	30%
249	土師器	小形甕	[16.6]	(8.9)	—	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	北東コーナー部下層	40%

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP22	支脚	(18.1)	(7.1)	(5.4)	(656.2)	土製	ナデ，被熱痕有り。	中央部床面	
DP23	小玉	0.7	0.15	0.6	0.37	土製	ナデ，片面穿孔。	竈内	
DP24	小玉	(0.7)	(0.2)	0.6	(0.16)	土製	ナデ，片面穿孔。1/2 欠損。	竈内	
DP25	小玉	(0.7)	(0.18)	0.65	(0.15)	土製	ナデ，片面穿孔。1/2 欠損。	竈内	
DP26	小玉	0.7	0.1	0.65	0.3	土製	ナデ，片面穿孔。	竈内	
DP27	小玉	0.75	0.1	0.58	0.36	土製	ナデ，片面穿孔。上下ヘラ削り。	竈内	
DP28	小玉	0.7	0.1	0.62	0.35	土製	ナデ，片面穿孔。上下ヘラ削り。	竈内	
DP29	小玉	0.63	0.1	0.52	0.23	土製	ナデ，片面穿孔。	竈内	
DP30	小玉	0.6	0.1	0.5	0.18	土製	ナデ，片面穿孔。	竈内	

番号	種類	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
D231	小玉	0.66	0.1	0.58	0.19	土製	ナデ，片面穿孔。	覆内	
D232	小玉	0.7	0.18	0.6	0.24	土製	ナデ，片面穿孔。	覆内	
D233	小玉	0.9	0.1	1.02	0.53	土製	ナデ，片面穿孔。	覆内	
Q236	白玉	0.7	0.21	0.55	0.3	滑石	側面はやや太鼓状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q237	白玉	0.8	0.2	0.61	0.4	滑石	側面はやや太鼓状，片面穿孔。	北東コーナー部床面	
Q238	白玉	0.7	0.18	0.6	0.34	滑石	側面は打撃状，片面穿孔。	中央部床面	
Q239	白玉	0.65	0.2	0.48	0.24	滑石	側面はやや太鼓状，片面穿孔。	南東部床面	
Q240	白玉	(0.7)	(0.2)	0.6	(0.15)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。1/2欠損。	覆土	
Q241	白玉	(0.5)	—	0.48	(0.07)	滑石	側面は打撃状，1/3欠損。	覆土	

第34号住居跡（第102・103図）

位置　調査4区南部の114f1区に位置し，平坦な台地の南端部に立地している。

規模と形状　長軸3.99m，短軸3.44mの長方形で，主軸方向はN－3°－Eである。壁高は14～35cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

炉　中央部の東寄りに位置している。長径76cm，短径62cmの楕円形で，床面を2cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は，わずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子微量

ピット　2カ所。P1は深さ23cmで，南壁の貯蔵穴寄りに位置していることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。P2は深さ50cmで，性格は不明である。

ピット土層解説
1　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック中量

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径74cm，短径52cmの楕円形で，深さ46cmである。底面は皿状で，壁は外傾している。

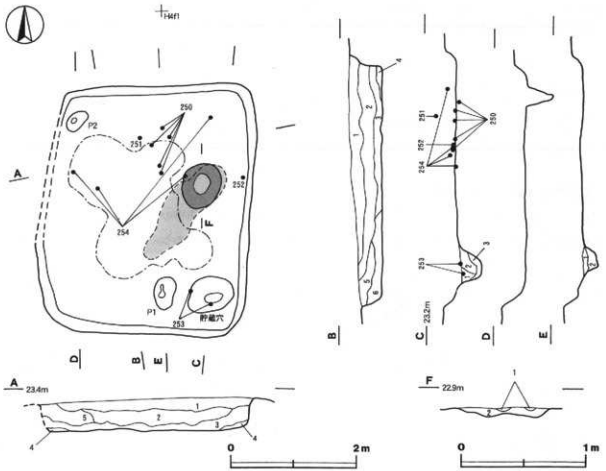
貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

覆土　6層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

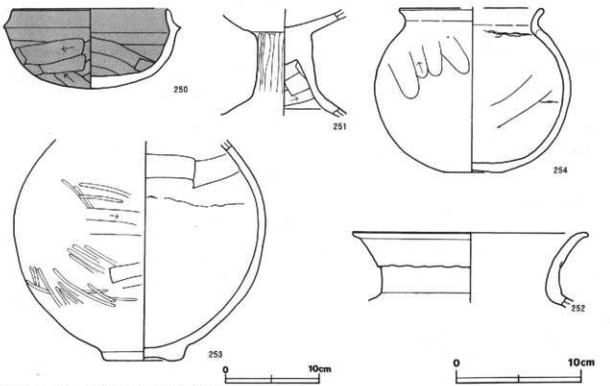
土層解説
1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　黒褐色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片1,129点，礫24点のほか，流れ込んだ縄文土器片6点が出土している。これらの遺物は，主に東側部分の覆土上層から床面にかけ出土している。覆土上層の土器は，内・外面が黒色処理された坏の破片などで，後世の流れ込みとみられる。250～254は覆土下層から床面にかけて出土している。

所見　本跡は，南東コーナー部に貯蔵穴を有する小形の住居跡である。時期は，覆土下層及び床面から出土した土器から判断して，中期（5世紀後葉）と思われる。



第102図　第34号住居跡実測図



第103図　第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表（第103図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
250	土師器	坏	12.4	6.3	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ，体部高台ヘラ削り，内面ヘラナデ．	中央部床面	80% P126
251	土師器	高坏	—	(8.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ削り．	中央部下層	25%
252	土師器	甕	18.8	(5.9)	—	長石・石英・礫	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ．	東壁際床面	15%
253	土師器	甕		(23.7)	7.1	石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き，内面ヘラナデ．	南東部床面	35%
254	土師器	小形甕	11.5	13.1	4.5	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部高台・底部ヘラ削り，内面ヘラナデ．	中央部下層から床面	30%

第35号住居跡（第104～107図）

位置　調査4区南部の1３g6区に位置している。台地の南端部に立地し，遺構の西側は傾斜している。

規模と形状　長軸5.07m，短軸4.67mの方形で，主軸方向はＮ－16°－Ｗである。壁高は45～75cmで，各壁とも外傾して立ちあがっている。

床　ほぼ平坦で，出入り口付近から中央部にかけてよく踏み固められている。出入り口部分には，馬蹄形に構築されたローム土の高まりがある。壁溝は，北東コーナー部に認められる。また，各壁際から中央部に向かって広がる焼土と，不規則に倒れている炭化材が出土している。

炉　２か所。炉１は中央部の北寄りに位置している。長径102cm，短径58cmの楕円形で，床面を４cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉２はほぼ中央部に位置している。長径34cm，短径27cmの楕円形で，床面を11cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。どちらも，炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉１土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物少量，ローム粒子微量　　2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
炉２土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量

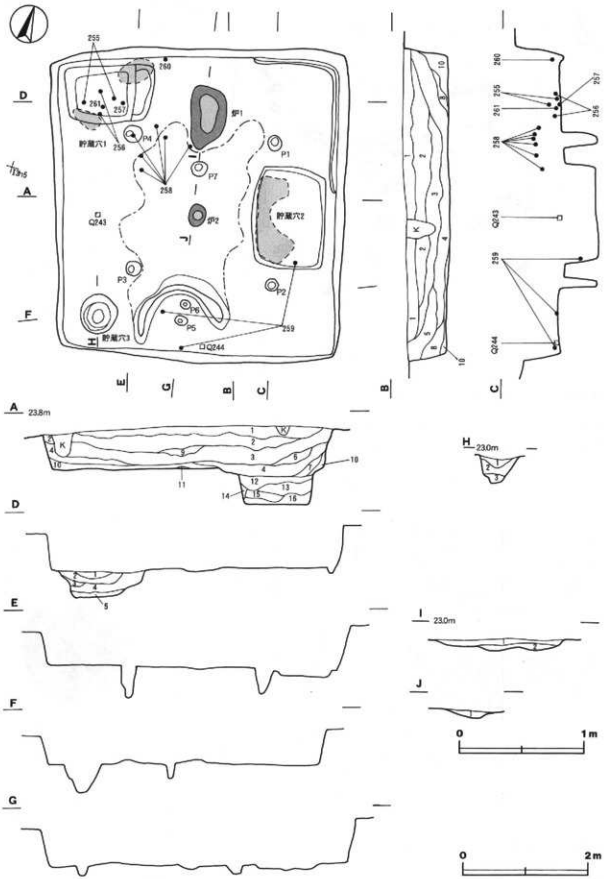
ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ57～64cmで，配列から主柱穴と思われる。Ｐ５は深さ16cm，Ｐ６は深さ24cmで，南壁寄りの中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ７は深さ10cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　３か所。貯蔵穴１は北西コーナー部に位置している。長軸144cm，短軸93cmの長方形で，深さ45cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに外傾している。貯蔵穴２は東壁際の中央部に位置している。長軸164cm，短軸119cmの長方形で，深さ57cmである。底面は平坦で，壁は直立している。貯蔵穴３は南西コーナー部に位置する。径62cmほどの円形で，深さ46cmである。底面は皿状で，壁は外傾している。

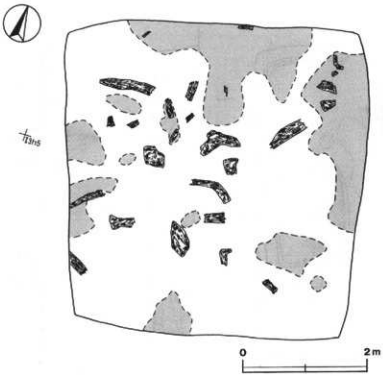
貯蔵穴１土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量　　4　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量　　5　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
3　暗褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
貯蔵穴３土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量，炭化物微量　　3　暗褐色　ロームブロック少量
2　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　16層に分層される。第１・２層はレンズ状に堆積した自然堆積である。第３～11層は，焼土ブロック・炭化物を多く含み，不自然に堆積した人為堆積である。第12～16層は貯蔵穴２の覆土である。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量　　9　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
2　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量　　10　暗褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
3　黒褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子微量　　11　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
4　暗褐色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子中量　　12　黒褐色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
5　極暗褐色　焼土ブロック・炭化物中量，ロームブロック微量　　13　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量　　14　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
7　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　　15　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物少量
8　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック中量　　16　褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量



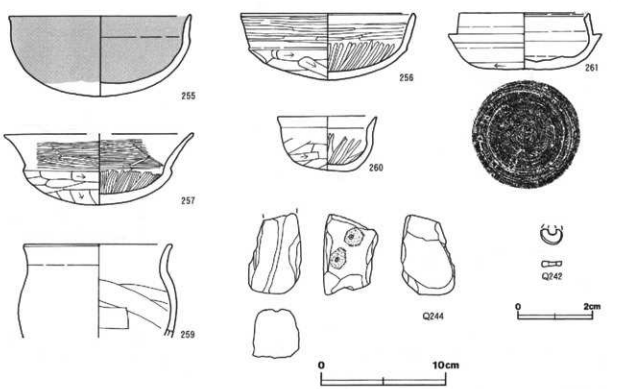
第104図　第35号住居跡実測図（1）



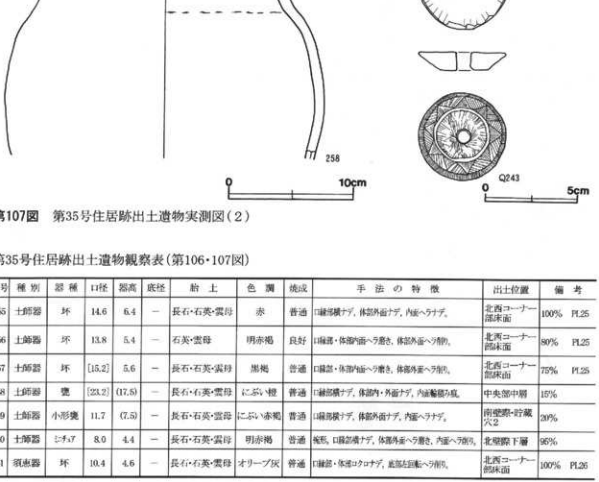
第105図　第35号住居跡実測図（2）

遺物出土状況　土師器片603点，須恵器片１点，臼玉１点，石製紡錘車１点，砥石１点，炭化米５粒が出土している。これらの遺物は，全体の覆土上層から床面にかけて出土している。覆土上層の土器は，内・外面が黒色処理された坏などで，後世の流れ込みとみられる。覆土下層から床面にかけては，土器片とともに焼土と炭化材が広がっている。255・256・258～260・Q243・Q244は，覆土中層から床面にかけてそれぞれ出土している。257・261は床面から正位の状態で出土している。また，炭化米とQ242（臼玉）は焼土及び覆土下層の土を水洗選別し検出したものである。

所見　本跡は，覆土の状況や床面から炭化材及び焼土が認められることから，焼失住居と思われる。炭化材は，屋根に使用した垂木材や梁または桁の部材と考えられる。時期は，覆土下層及び床面から出土した土器から判断して，中期（５世紀末葉）と思われる。



第106図　第35号住居跡出土遺物実測図（1）



第107図　第35号住居跡出土遺物実測図（2）

第35号住居跡出土遺物観察表（第106・107図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
255	土師器	坏	14.6	6.4	—	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面ナデ，内面ヘラナデ。	北西コーナー部床面	100% Pl.25
256	土師器	坏	13.8	5.4	—	石英・雲母	明赤褐	良好	口縁部・体部内面ヘラ磨き，体部外面ヘラ削り。	北西コーナー部床面	80% Pl.25
257	土師器	坏	[15.2]	5.6	—	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部・体部内面ヘラ磨き，体部外面ヘラ削り。	北西コーナー部床面	75% Pl.25
258	土師器	甕	[23.2]	(17.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ナデ，内面輪積み痕。	中央部中層	15%
259	土師器	小形甕	11.7	(7.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ナデ，内面ヘラナデ。	南壁際・貯蔵穴2	20%
260	土師器	ミニチュア	8.0	4.4	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	転形。口縁部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，内面ヘラ削り。	北壁際下層	95%
261	須恵器	坏	10.4	4.6	—	長石・石英・雲母	オリーブ灰	普通	口縁部・体部ロクロナデ，底部右回転ヘラ削り。	北西コーナー部床面	100% Pl.26

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q242	臼玉	(0.58)	(0.2)	0.21	(0.06)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。1/2欠損。	貯蔵穴2覆土	
Q243	紡錘車	4.6	0.8	1.0	33.2	滑石	円錐台形。表面に線刻文の線刻。	西壁寄り床面	Pl.32
Q244	筋砥石	(6.5)	4.3	4.3	(100.3)	安山岩	断面は四角形。砥面1面，但石転用。	南壁際床面	

第36号住居跡（第108・109図）

位置　調査5区南部の I 4 f1 区に位置し，平坦な台地の南端部に立地している。また，本跡の東側部分が調査区域外に延びている。

規模と形状　東側部分が調査区域外に延びているため，南北軸3.28m，東西軸は最大で4.43mだけ確認され，長方形と推定される。主軸方向はN－15°－Wである。壁高は32～42cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，南壁から竈の手前にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁中央部に位置している。規模は，焚口部から煙道部まで98cm，両袖部幅104cmである。壁外への掘り込みは23cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。床面から9cmほど掘り込んで，ローム土を主体とした褐色土を充填し火床面としている。その上面は火熱を受けて赤変硬化している。

煙道は，火床部から外傾した後，急に立ち上がっている。

竈土層解説

1 灰 褐 色 粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 明赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
3 黒 褐 色 焼土ブロック少量，炭化物微量
4 暗 褐 色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
5 赤 褐 色 焼土ブロック中量，炭化物少量
6 明赤褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子微量
7 褐 色 ロームブロック多量
8 にぶい褐色 焼土ブロック少量，粘土粒子・砂粒微量
9 黒 褐 色 ローム粒子少量，焼土ブロック微量
10 暗赤褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック少量
11 にぶい褐色 粘土粒子・砂粒中量，焼土ブロック少量
12 暗 褐 色 焼土ブロック少量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
13 灰 褐 色 焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
14 にぶい黄色 粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・炭化粒子微量

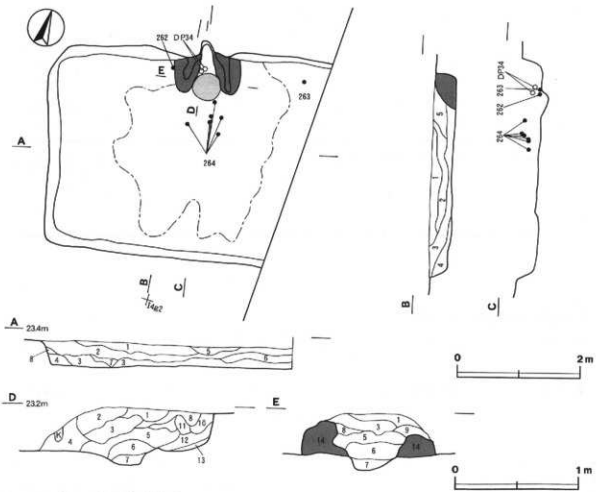
ピット 主柱穴及び出入り口ピットの配列を考えて床面と遺構の外側を精査したが，確認できなかった。

覆土 8層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

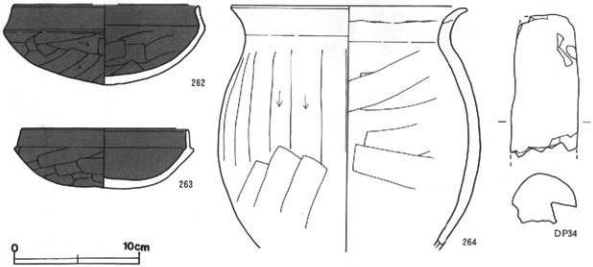
1 黒 褐 色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
5 灰 褐 色 粘土粒子・砂粒中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
6 黒 褐 色 ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量
7 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
8 黒 褐 色 ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況 出土遺物は少なく，土師器片61点，支脚1点が出土している。これらの遺物は，主に竈付近の覆土下層から床面にかけて出土している。262は竈の西側の床面から正位の状態で出土している。263は竈の東側の床面から，264は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。DP34は竈内から破片の状態で出土している。



第108図 第36号住居跡実測図

所見　本跡は，東側が調査区域外に延びているため全容はとらえられなかった。時期は，竈付近の床面から出土した土器から判断して後期（６世紀後半）と思われる。



第109図　第36号住居跡出土遺物実測図

第36号住居跡出土遺物観察表（第109図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
262	土師器	坏	[14.8]	6.4	—	長石・雲母	黒褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	竈西側床面	60%　PL26
263	土師器	坏	13.5	4.9	—	長石・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	竈東側床面	60%　PL26
264	土師器	甕	19.0	(19.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，内面輪積み痕，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	中央部下層	90%

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP34	支脚	(11.5)	(5.5)	(4.0)	(234.2)	土製	ナデ，被熱痕有り。	竈内下層	

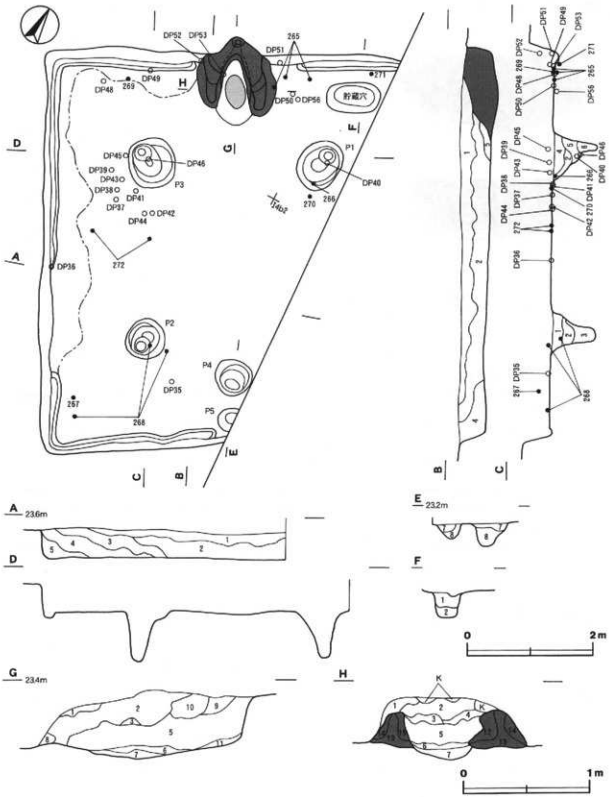
第37号住居跡（第110～112図）

位置　調査５区南部の１４b1区に位置し，平坦な台地の南端部に立地している。また，東側部分が調査区域外に延びている。

規模と形状　東側部分が調査区域外に延びているため，南北軸6.39m，東西軸は最大で4.21mだけ確認され，主軸方向をN－27°－Wとする方形または長方形と推定される。壁高は12～21cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，壁際以外はよく踏み固められている。壁溝は，確認できた部分の南西壁の一部を除いて全周している。

竈　北西壁中央部に位置している。規模は，焚口部から煙道部まで142cm，両袖部幅125cmである。壁外への掘り込みは28cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床面は床面から８cmほど皿状に掘りくぼめられており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から緩やかに外傾した後，急に立ち上がっている。



第110図　第37号住居跡実測図

竈土層解説

1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2 にぶい赤褐色 ロームブロック・粘土粒子・砂粒中量，焼土ブロック微量
3 赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
4 にぶい褐色 粘土粒子・砂粒中量，焼土ブロック少量
5 暗赤褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子少量
6 暗赤褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子微量
7 暗赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子少量
8 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム ブロック・粘土粒子・砂粒少量
9 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量
10 にぶい褐色 粘土粒子・砂粒中量，焼土ブロック微量
11 暗赤褐色 焼土ブロック中量，粘土粒子・砂粒少量
12 にぶい褐色 粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子微量
13 にぶい褐色 粘土粒子・砂粒多量，焼土ブロック少量
14 暗赤褐色 粘土粒子・砂粒少量，焼土ブロック微量
15 にぶい褐色 粘土粒子・砂粒・ローム粒子少量

ピット 5か所。P1～P3は深さ74～87cmで，配列から主柱穴と思われる。P4は深さ39cm，P5は深さ29cmで，南壁際の中央部に位置し，竈に向かって一列に並んでいることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1 黒褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック中量
3 暗褐色 ロームブロック少量
4 黒褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色 ロームブロック中量
6 褐色 ロームブロック中量
7 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
8 暗褐色 ロームブロック中量

貯蔵穴 竈の東側に位置している。長径86cm，短径46cmの楕円形で，深さ36cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量

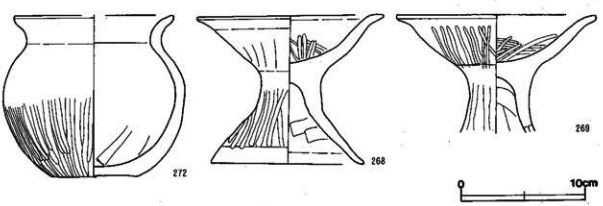
覆土 5層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

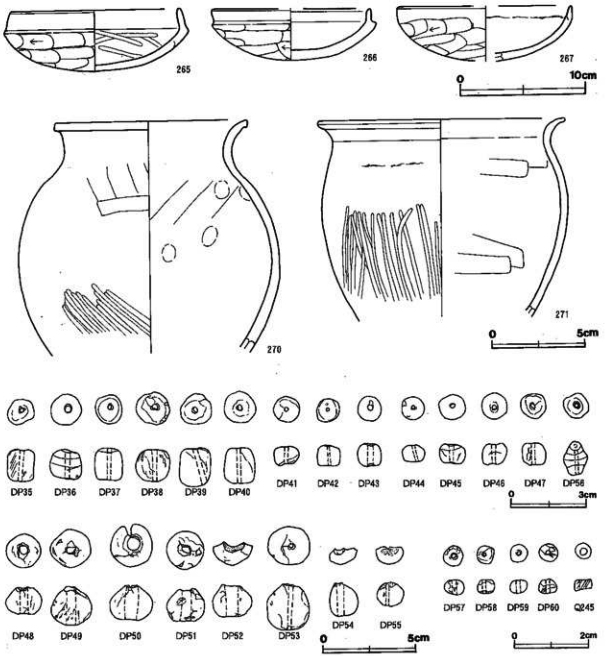
1 黒褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック少量
4 褐色 ロームブロック少量
5 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片233点，白玉1点，土製品26点（球状土錘7，紡錘6，丸玉7，土玉1，切子玉1，小玉4），礫4点が出土している。これらの遺物は，主に遺構の壁際付近の覆土下層から床面にかけて出土している。265・269・271は竈の位置している北西壁際の床面からそれぞれ出土している。266・268・270は床面から，267・272は壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。DP46はP3内から，DP35～45・DP48～53・DP56は，西コーナー部付近を中心とする覆土下層から床面にかけて散在している。また，Q245・DP54・DP55・DP57～60は，床面近くの覆土を水洗選別し検出したものである。

所見 本跡は，竈の東側に貯蔵穴が位置し，主軸方向や規模が第41号住居跡とほぼ同様の住居形態である。時期は，竈付近の床面から出土した土器から判断して後期（6世紀後半）と思われる。



第111図 第37号住居跡出土遺物実測図（1）



第112図　第37号住居跡出土遺物実測図(2)

第37号住居跡出土遺物観察表(第111・112図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
265	土師器	坏	13.9	5.0	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り・輪積み痕，内面ヘラ磨き。	北西壁際床面	75%
266	土師器	坏	12.8	4.1	—	石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	中央部床面	70%
267	土師器	坏	[14.0]	(4.4)	—	石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	南コーナー部下層	40%
268	土師器	高坏	15.0	12.1	12.3	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部・脚部横ナデ，坏部・脚部外面ヘラ磨き。	南コーナー部床面	80% PL26
269	土師器	高坏	16.1	(9.3)	—	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部横ナデ，坏部内・外面，脚部外面ヘラ磨き。	北西壁際床面	60%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
270	土師器	壺	(20.3)	(25.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面上位ヘラ削り・下位ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	中央部下層	60%
271	土師器	甕	26.2	(21.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	北西壁際床面	70%
272	土師器	小形甕	12.8	12.9	6.7	長石・雲母	にぶい赤橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	南西壁寄り下層	90%

番号	種類	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP35	管玉	1.1	0.18	1.35	1.6	土製	ナデ，片面穿孔。	南西壁寄り床面	PL30
DP36	管玉	1.2	0.3	1.2	1.88	土製	ナデ，両面穿孔。	南西壁際床面	PL30
DP37	管玉	1.1	0.15	1.3	2.1	土製	ナデ，片面穿孔。	西コーナー部床面	PL30
DP38	管玉	1.3	0.15	1.3	2.4	土製	ナデ，片面穿孔。	西コーナー部床面	PL30
DP39	管玉	1.28	0.18	1.5	2.7	土製	ナデ，片面穿孔。	西コーナー部床面	PL30
DP40	管玉	1.3	0.2	1.36	2.44	土製	ナデ，片面穿孔。	P1内	PL30
DP41	丸玉	1.0	0.15	0.7	0.74	土製	ナデ，片面穿孔。	西コーナー部床面	PL30
DP42	丸玉	1.0	0.1	0.7	0.81	土製	ナデ，片面穿孔。	西コーナー部床面	PL30
DP43	丸玉	1.0	0.2	0.82	0.93	土製	ナデ，片面穿孔。	西コーナー部床面	PL30
DP44	丸玉	0.95	0.12	0.7	0.63	土製	ナデ，片面穿孔。	西コーナー部床面	PL30
DP45	丸玉	0.95	0.15	0.75	0.83	土製	ナデ，片面穿孔。	西コーナー部床面	PL30
DP46	丸玉	1.0	0.15	0.82	0.86	土製	ナデ，片面穿孔。	P3内	PL30
DP47	丸玉	1.05	0.15	0.82	0.98	土製	ナデ，片面穿孔。	覆土	PL30
DP48	球状土錘	1.8	0.4	1.4	3.96	土製	ナデ，片面穿孔。	西コーナー部下層	PL30
DP49	球状土錘	2.1	0.3	2.1	7.1	土製	ナデ，片面穿孔。穿孔面は長方形。	西コーナー部床面	PL30
DP50	球状土錘	2.3	0.6	1.8	6.55	土製	ナデ，片面穿孔。	竈付近床面	PL30
DP51	球状土錘	2.0	0.3	1.7	5.55	土製	ナデ，片面穿孔。穿孔面は長方形。	竈付近床面	PL30
DP52	球状土錘	(2.1)	0.6	1.7	(3.22)	土製	ナデ，片面穿孔。1/2欠損。	竈内中層	
DP53	球状土錘	2.1	0.4	2.5	10.4	土製	ナデ，片面穿孔。	竈内下層	PL30
DP54	球状土錘	(1.5)	(0.3)	1.8	(1.72)	土製	ナデ，片面穿孔。1/3遺存。	覆土	
DP55	土玉	(1.4)	0.1	1.3	(1.36)	土製	ナデ，片面穿孔。1/2欠損。	覆土	
DP56	切子玉	1.0	0.15	1.35	0.82	土製	ナデ，中央にふくらみをもつ。	竈付近床面	PL30
DP57	小玉	0.5	0.1	0.36	(0.06)	土製	ナデ，片面穿孔。一部欠損。	覆土	
DP58	小玉	0.45	0.1	0.32	0.07	土製	ナデ，片面穿孔。	覆土	
DP59	小玉	0.48	0.1	0.35	0.08	土製	ナデ，片面穿孔。	覆土	
DP60	小玉	0.48	0.1	0.32	0.07	土製	ナデ，片面穿孔。	覆土	
QS45	円玉	0.41	0.2	0.32	0.07	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	

第38号住居跡（第113・114図）

位置　調査５区南部のＨ３i６区に位置し，平坦な台地の南端部に立地している。

重複関係　北西壁の竈上面を，第104号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　一辺4.5mほどの方形で，主軸方向はＮ－46°－Ｗである。壁高は48～60cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈の手前から出入り口施設にかけてよく踏み固められている。壁溝は，北西コーナー付近を除いて巡っている。

竈　北西壁中央部に位置している。規模は，焚口部から確認できた煙道部まで109cm，両袖部幅93cmである。壁外への掘り込みは20cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床面は床面から５cmほど皿状に掘りくぼめられており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から緩や

かに外傾している。

竈土層解説

1 暗 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック少量
2 暗 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3 暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
4 暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量
5 暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
6 暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
7 暗 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子少量
8 極暗褐色　焼土ブロック少量，炭化物微量
9 にぶい黄色　粘土粒子・砂粒少量，焼土ブロック微量

ピット　5か所。P１・P３・P４は深さ40～51㎝，P２は深さ35㎝で，配列から主柱穴と思われる。P５は深さ38㎝で，南東壁寄りの中央部に位置し，竈と対する位置にあることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。

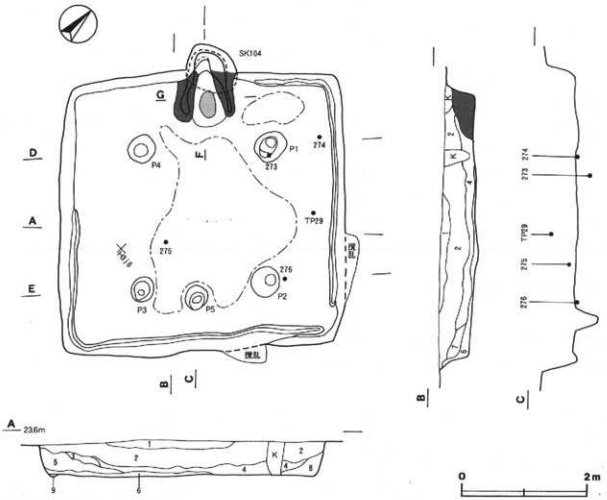
覆土　9層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

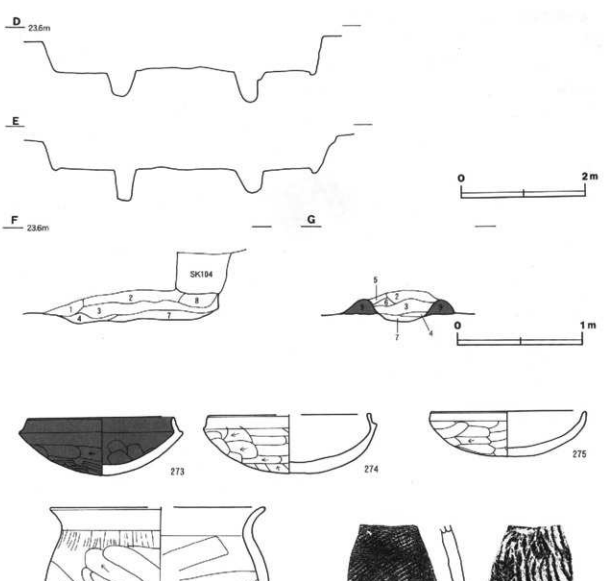
1 黒 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3 黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4 暗 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
5 暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6 暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8 暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
9 暗 褐 色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片151点，須恵器片１点が出土している。これらの遺物は，床面全体に散在している。274・275は正位の状態で，276は横位の状態でそれぞれ床面から出土している。273はＰ１内から，ＴＰ29は北壁際の覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，床面及びＰ１内から出土した土器から判断して後期（６世紀後半）と思われる。



第113図　第38号住居跡実測図



第114図　第38号住居跡・出土遺物実測図

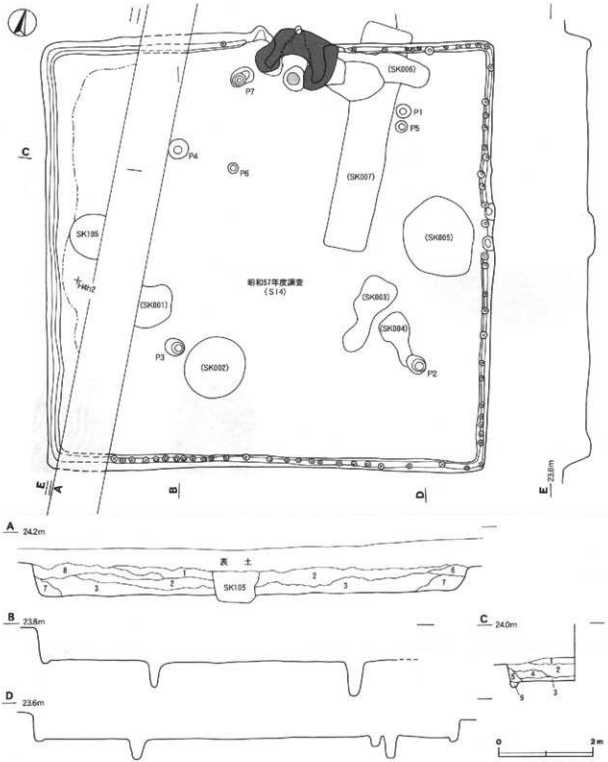
第38号住居跡出土遺物観察表（第114図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
273	土師器	坏	11.6	4.7	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、体部外面ヘラ削り後、ヘラ磨き、内面ヘラナデ。	P1内	100%　PL26
274	土師器	坏	[12.9]	4.7	—	長石・雲母	黒	普通	口縁部横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	北東壁際床面	70%
275	土師器	坏	12.5	3.6	—	長石・石英・雲母	黄褐	普通	口縁部横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	中央部床面	100%　PL26
276	土師器	甕	17.2	15.0	[8.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ後、ヘラ磨き。	東コーナー部床面	85%
TP29	須恵器	甕	—	(7.8)	—	長石	灰	普通	外面斜位の平行叩き、内面青海波状の当て具痕。	北東壁際上層	

第39号住居跡（第115図）「第22集」参照

位置　調査４区南部のＨ４ｇ１区に位置し，平坦な台地の南端部に立地している。今回は西壁部分のみの調査であり，大部分は昭和57年度に第４号住居跡として調査されている。

重複関係　西壁寄りの中央部を第105号土坑に，昭和57年度の調査では北壁から中央部にかけて第１～７号土坑に掘り込まれている。



第115図　第39号住居跡実測図

規模と形状　長軸9.4m，短軸9.16mの方形で，主軸方向はN－13°－Wである。壁高は40～60cmで，西壁は緩やかに外傾し，その他の壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，西壁付近は踏み固められている。壁溝は全周している。

覆土　9層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子少量
2　黒褐色　ロームブロック微量
3　褐　色　ロームブロック少量
4　暗褐色　ロームブロック少量
5　褐　色　ロームブロック少量
6　暗褐色　ロームブロック少量
7　黒褐色　ローム粒子微量
8　極暗褐色　ロームブロック微量
9　暗褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片97点，鉄2点が出土している。土師器は，甕の小破片と坏・高坏の破片が5点ほど出土している。坏・高坏は内・外面が黒色処理された細片で，覆土下層から出土している。いずれも細片のため図示できなかった。

所見　前回の調査で，北壁のやや東寄りの竈と主柱穴が4か所確認されている。時期は，出土した坏・高坏の細片及び前回の調査で出土した坏・甕等から判断して，後期（6世紀後半）と思われる。

第40号住居跡（第116・117図）

位置　調査5区南部のⅠ3e4区に位置している。平坦な台地の南端部に立地し，遺構の西側は傾斜している。

規模と形状　長軸6.93m，短軸6.46mの方形で，主軸方向はN－21°－Wである。壁高は47～55cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈から南西壁付近を含めた出入り口施設にかけてよく踏み固められている。壁溝は，南西壁を除いて巡っている。

竈　北西壁中央部に位置している。規模は，焚口部から煙道部まで112cm，両袖部幅116cmである。壁外への掘り込みは25cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さの平坦面をそのまま使用し，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

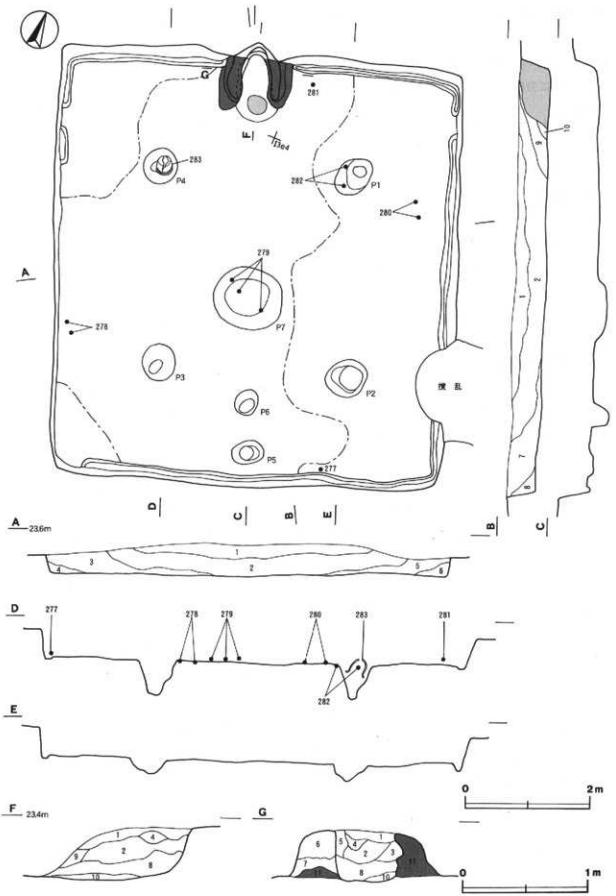
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
4　暗黒色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子・砂粒微量
5　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　暗褐色　焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量，炭化物微量
7　黒褐色　粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
8　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
9　暗黒色　焼土ブロック・ローム粒子少量
10　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
11　にぶい黄色　粘土粒子・砂粒多量，焼土ブロック少量

ピット　7か所。P1は深さ46cm，P2～P4は深さ58～66cmで，配列から主柱穴と思われる。P5は深さ17cm，P6は深さ27cmで，南東壁の中央部に位置し，竈に向かって一列に並んでいることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。P7は深さ17cmで，ほぼ中央部に位置している。性格は不明である。

覆土　10層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

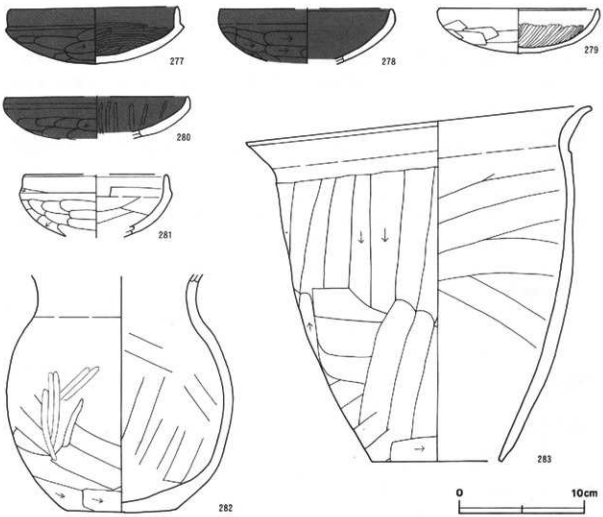
1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
3　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量
5　褐　色　ローム粒子中量
6　褐　色　ローム粒子少量
7　褐　色　ローム粒子少量
8　黒褐色　ローム粒子微量
9　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
10　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量



第116図　第40号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片964点，縄16点が出土している。これらの遺物は，全体の覆土下層から床面にかけて出土している。床面の土器は，土圧でつぶれたものやほぼ完形のものが多いことから，住居廃絶のときに放置されたものと考えられる。277・282は横位・正位の状態で，278～281とともに床面から出土している。283はＰ４の覆土上層から逆位の状態で出土している。

所見　本跡の時期は，床面及びＰ４内から出土した土器から判断して後期（６世紀後半）と思われる。



第117図　第40号住居跡出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表（第117図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
277	土師器	坏	13.4	4.5	－	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	南東壁際床面	95%	PL26
278	土師器	坏	[13.6]	(4.3)	－	長石・雲母	黒褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	南西壁際床面	40%	
279	土師器	坏	12.8	3.5	－	長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	中央部床面	70%	PL26
280	土師器	坏	[14.6]	(3.3)	－	長石・石英・雲母	黒	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	北東壁寄り床面	20%	
281	土師器	坏	[11.6]	(5.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	竈東側床面	5%	
282	土師器	甕	－	(19.2)	8.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	中央部床面	75%	
283	土師器	甑	27.4	28.5	10.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	Ｐ4内	90%	PL27

第41号住居跡（第118・119図）

位置　調査５区北部のＧ３j0区に位置し，平坦な台地上に立地している。東側部分は調査区域外に延びている。

規模と形状　東側部分が調査区域外に延びているため，南北軸6.44m，東西軸は最大で4.62mだけ確認され，主軸方向をＮ－25°－Ｗとする方形または長方形と推定される。壁高は55～60cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈付近から出入り口施設にかけてよく踏み固められている。壁溝は，確認できた壁下を巡っている。

竈　北壁中央部に位置している。規模は，焚口部から煙道部まで142cm，両袖部幅113cmである。壁外への掘り込みは35cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床面は床面と同じ高さの平坦面をそのまま使用し，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から緩やかに外傾した後，急に立ち上がっている。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	6	にぶい褐色	粘土粒子・砂粒多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2	暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量	7	にぶい褐色	粘土粒子・砂粒多量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3	褐灰色	焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子少量			
4	暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	8	褐　色	粘土粒子・砂粒・焼土ブロック・炭化物少量
5	赤褐色	炭化物中量，焼土ブロック少量，粘土粒子・砂粒微量			

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ50～64cmで，配列から主柱穴と思われる。Ｐ４は深さ31cm，Ｐ５は深さ62cmで，それぞれ主柱穴と壁との間に位置していることから補助柱穴と思われる。Ｐ６は深さ38cmで，南壁寄りの竈と対する位置にあることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

Ｐ２	1	褐　色	ロームブロック中量，焼化粒子微量	Ｐ３	1	褐　色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
	2	褐　色	ロームブロック中量		2	褐　色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
	3	褐　色	ロームブロック中量，炭化粒子微量		3	褐　色	ロームブロック中量，炭化粒子少量
	4	暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量		4	褐　色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
	5	褐　色	ロームブロック少量				

貯蔵穴　竈の東側に位置している。長径102cm，短径78cmの楕円形で，深さ44cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに外傾している。

貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量
2	黒褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量	5	暗褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量			

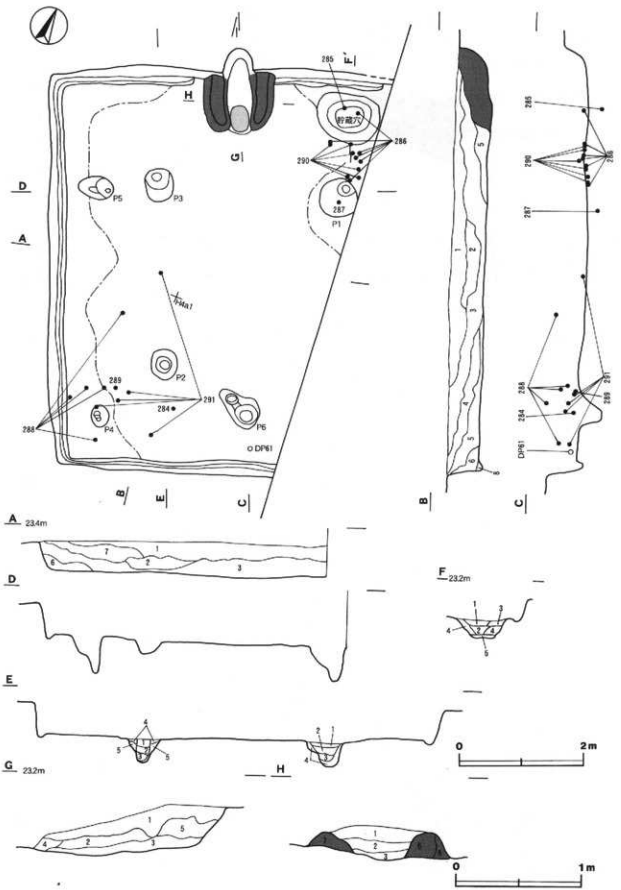
覆土　８層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

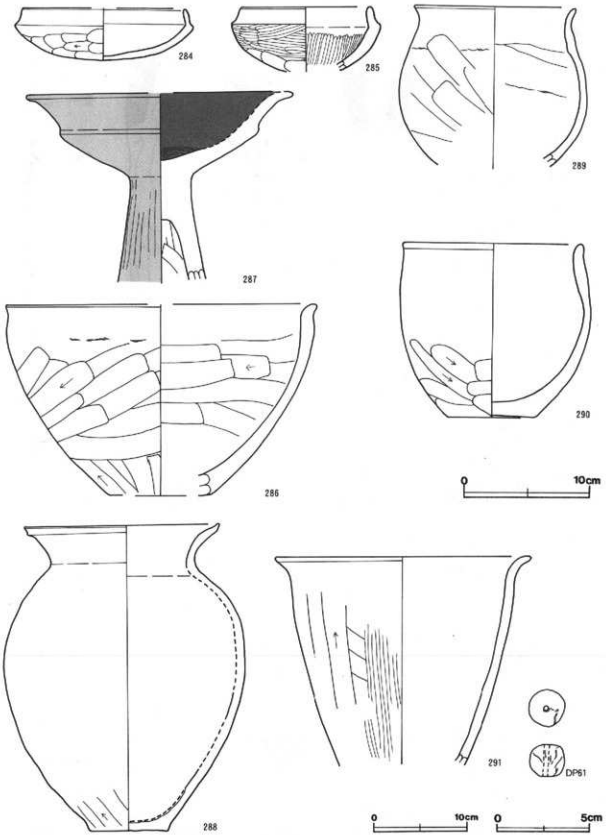
1	黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
2	黒　色	炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	8	褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片713点，須恵器片１点，土玉１点，礫５点のほか，流れ込んだ縄文土器片３点が出土している。これらの遺物は主に南西コーナー部と貯蔵穴付近の覆土下層から床面にかけて出土している。284・288・289・291は，南西コーナー部の覆土下層から床面にかけて破片の状態で出土している。ＤＰ61は南東壁際の覆土下層から出土している。285は横位の状態で，286・290とともに貯蔵穴付近の床面から出土している。287はＰ１内から出土している。

所見　本跡は，竈の東側に貯蔵穴が位置し，主軸方向や規模が第37号住居跡とほぼ同様の住居形態である。時期は，覆土下層及び床面から出土した土器から判断して，後期（６世紀後半）と思われる。



第118図　第41号住居跡実測図



第119図　第41号住居跡出土遺物実測図

第41号住居跡出土遺物観察表（第119図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
284	土師器	坏	13.0	4.2	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ．	南西コーナー部下層	40%
285	土師器	坏	10.4	6.1		長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面底ヘラ削り，下位ヘラ削り，内面ヘラ磨き．	貯蔵穴付近床面	85% PL27
286	土師器	鉢	24.8	15.2	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部ヘラ削り・ヘラ磨き．	貯蔵穴付近床面	40%
287	土師器	高坏	21.4	14.9	—	長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，脚部縦ヘラナデ．	P1内	70% PL27
288	土師器	甕	23.6	32.8	8.3	長石・石英・雲母・礫	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ナデ，下位ヘラ削り，内面横ヘラナデ．	南西コーナー部下層	80% PL27
289	土師器	小形甕	12.8	12.7	—	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラナデ・横ヘラ磨き，内面ヘラナデ．	南西コーナー部床面	65%
290	土師器	小形甕	14.4	14.9	6.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部横ヘラ削り，ヘラ磨き，内面ヘラナデ．	貯蔵穴付近床面	65%
291	土師器	甕	(27.0)	(22.3)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部横ヘラ削り後，ヘラ磨き，内面ヘラナデ．	南西コーナー部下層	40%

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
292	土玉	1.9	0.2	1.7	5.85	土製	ナデ，片面穿孔．	南東隅際下層	

第42号住居跡（第120～122図）

位置　調査5区北部のG 3h8区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係　北西壁の一部を，第113号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　一辺8.1mほどの方形で，主軸方向はN－29°－Wである。壁高は52～62cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，出入り口付近から中央部にかけてよく踏み固められている。出入り口部分と貯蔵穴付近は，ローム土の高まりがある。壁溝は全周している。また，周付切り溝が北東壁と南西壁から各1条ずつ確認され，長さ138～142cm，幅20～24cmで，深さ13cmほどである。壁際から中央に向かって延びている。

炉　3か所。炉1は北西壁寄りに位置している。長径68cm，短径48cmの楕円形で，床面を4cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉2・3は中央部の北寄りに位置している。炉2は径54cmほどの円形で，床面を4cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉3は長径77cm，短径66cmの楕円形で，床面を7cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。いずれも，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

炉1土層解説
1　極暗茶褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量

炉2土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

炉3土層解説
1　極暗茶褐色　焼土ブロック・炭化材少量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量

ピット　7か所。P1・P2は深さ30cm，P3は深さ63cm，P4は深さ48cmで，配列から主柱穴と思われる。P5は深さ33cmで，主柱穴の間に位置していることから補助柱穴と思われる。P6は深さ21cmで，南東壁の貯蔵穴寄りに位置していることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。P7は深さ34cmで，性格は不明である。

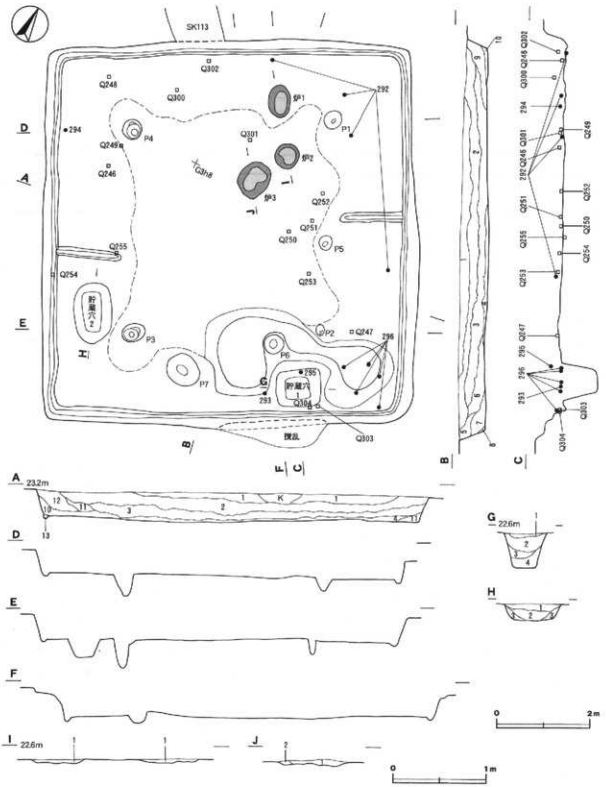
貯蔵穴　2か所。貯蔵穴1は南東壁際に位置している。長軸95cm，短軸80cmの長方形で，深さ81cmである。底面は平坦で，壁は直立している。貯蔵穴2は南西壁寄りに位置している。長軸127cm，短軸83cmの隅丸長方形で，深さ38cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

貯蔵穴１土層解説

1　暗 褐 色　ロームブロック中量
2　黒 褐 色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
3　暗 褐 色　ロームブロック微量
4　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

貯蔵穴２土層解説

1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量



第120図　第42号住居跡実測図

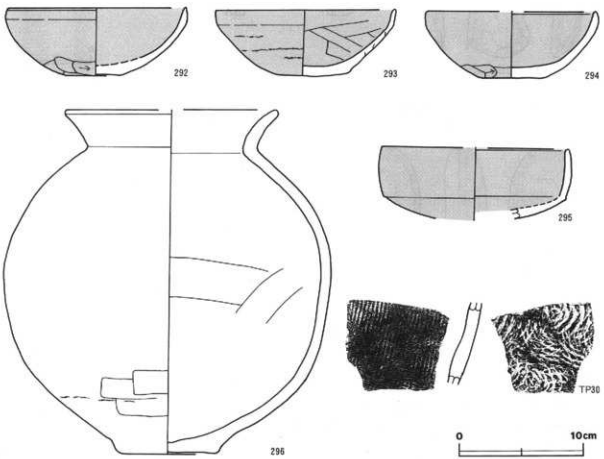
覆土　13層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

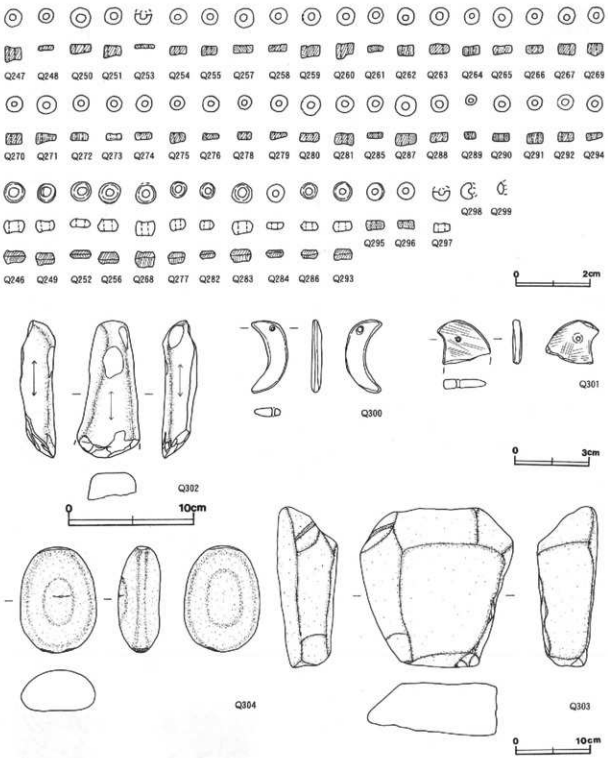
1　黒褐色　ローム・ブロック・焼土ブロック微量
2　暗褐色　ローム・ブロック・焼土ブロック微量
3　暗褐色　ローム・ブロック少量，焼土ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子中量
5　褐　色　ローム・ブロック少量
6　褐　色　ローム・ブロック少量
7　暗褐色　ローム・ブロック少量，焼土粒子微量
8　褐　色　ローム・ブロック少量
9　暗褐色　ローム・ブロック少量，焼土粒子微量
10　褐　色　ローム・ブロック少量，焼土粒子微量
11　褐　色　ローム・ブロック少量
12　褐　色　ローム・ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　褐　色　ローム・ブロック中量

遺物出土状況　土師器片1,117点，須恵器片１点，臼玉54点，勾玉２点，砥石１点，磨石１点，台石１点，炭化米123粒が出土している。これらの遺物は，全体の覆土中層から床面にかけて出土している。292・294・296は床面から，295は南東側の覆土下層からそれぞれ出土している。293は床面から土圧でつぶれた状態で出土している。Q303・Q304は貯蔵穴１と南東壁際の間の床面から並んで出土している。Q246～255（臼玉）は全体のほぼ床面に散在している。また，Q265～299（臼玉）と炭化米は，主に第３・４層の覆土を水洗選別し検出したものである。

所見　本跡は，一辺が８ｍを超える大形の住居で，複数の炉と貯蔵穴をもつこの時期の典型的な住居形態である。時期は，床面から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第121図　第42号住居跡出土遺物実測図（１）



第122図　第42号住居跡出土遺物実測図（2）

第42号住居跡出土遺物観察表（第121・122図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
292	土師器	坏	14.5	5.6	4.5	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨．	北西壁寄り床面	80%
293	土師器	坏	14.3	5.6	5.4	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ナデ・輪積み痕，内面ヘラナデ．	南東壁寄り床面	80%　PL27
294	土師器	坏	(13.7)	5.4	5.1	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ．	南西壁際床面	65%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
295	土師器	高杯	(15.0)	(5.6)	—	長石・石英・雲母	赤褐	普通	L縦方向ナデ，円盤為由ナデ，内面横撫	側東側下層	25%
296	土師器	盌	(16.8)	27.6	7.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	L縦横ナデ，底部外面・底部ヘラナデ，内面ヘラナデ	東コーナー部床面	85% PL27
TP90	須恵器	甕	—	(6.7)		長石	灰	普通	外面縦位の平行叩き，内面横ハケ後のナデ痕	覆土	

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q245	白玉	0.56	0.24	0.31	0.1	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	南西壁寄り床面	PL31
Q247	白玉	0.41	0.16	0.4	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東壁寄り床面	PL31
Q248	白玉	0.41	0.18	0.13	0.04	滑石	側面はやや太鼓状，片面穿孔。	北西壁寄り床面	PL31
Q249	白玉	0.48	0.21	0.3	0.08	滑石	側面は太鼓状，両面穿孔。	南西壁寄り床面	PL31
Q250	白玉	0.53	0.2	0.25	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	中央部床面	PL31
Q251	白玉	0.43	0.18	0.32	0.1	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	中央部床面	PL31
Q252	白玉	0.51	0.21	0.2	0.06	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	中央部床面	PL31
Q253	白玉	0.5	(0.15)	0.1	(0.02)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。一部欠損。	中央部床面	
Q254	白玉	0.4	0.13	0.2	0.07	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	南西壁寄り床面	PL31
Q255	白玉	0.4	0.15	0.22	0.06	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	南西壁寄り床面	PL31
Q256	白玉	0.55	0.22	0.3	0.11	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	覆土	
Q257	白玉	0.51	0.16	0.2	0.01	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q258	白玉	0.4	0.16	0.18	0.05	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q259	白玉	0.5	0.18	0.38	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q260	白玉	0.4	0.18	0.4	0.1	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q261	白玉	0.4	0.18	0.18	0.03	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q262	白玉	0.4	0.15	0.25	0.07	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q263	白玉	0.5	0.25	0.18	0.09	滑石	側面はやや太鼓状，片面穿孔。	覆土	
Q264	白玉	0.41	0.15	0.25	0.07	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q265	白玉	0.5	0.17	0.23	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q266	白玉	0.41	0.13	0.22	0.05	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q267	白玉	0.48	0.15	0.3	0.08	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q268	白玉	0.5	0.18	0.41	(0.14)	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。一部欠損。	覆土	
Q269	白玉	0.41	0.16	0.32	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q270	白玉	0.41	0.12	0.31	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q271	白玉	0.5	0.18	0.28	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q272	白玉	0.45	0.15	0.2	0.06	滑石	側面はやや太鼓状，片面穿孔。	覆土	
Q273	白玉	0.5	0.18	0.18	0.04	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q274	白玉	0.41	0.15	0.2	0.05	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q275	白玉	0.38	0.3	0.15	0.08	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q276	白玉	0.4	0.13	0.2	0.06	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q277	白玉	0.42	0.16	0.3	0.06	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	覆土	
Q278	白玉	0.38	0.2	0.14	0.05	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q279	白玉	0.49	0.13	0.2	0.05	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q280	白玉	0.52	0.18	0.24	0.09	滑石	側面はやや太鼓状，片面穿孔。	覆土	
Q281	白玉	0.5	0.15	0.32	0.1	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q282	白玉	0.39	0.15	0.24	0.04	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	覆土	
Q283	白玉	0.52	0.22	0.32	0.09	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	覆土	
Q284	白玉	0.48	0.16	0.2	0.08	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	覆土	
Q285	白玉	0.4	0.16	0.15	0.04	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q286	白玉	0.41	0.16	0.22	0.04	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q287	白玉	0.52	0.17	0.31	0.13	滑石	側面はやや太鼓状，片面穿孔。	覆土	

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q258	円玉	0.42	0.17	0.25	0.08	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q259	円玉	0.3	0.12	0.2	0.03	滑石	側面はやや太鼓状，片面穿孔。	覆土	
Q260	円玉	0.4	0.15	0.2	0.06	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q261	円玉	0.38	0.15	0.29	0.07	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q262	円玉	0.4	0.18	0.26	0.09	滑石	側面はやや太鼓状，片面穿孔。	覆土	
Q263	円玉	0.48	0.19	0.28	0.09	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	覆土	
Q264	円玉	0.4	0.18	0.2	0.07	滑石	側面はやや太鼓状，片面穿孔。	覆土	
Q265	円玉	0.45	0.13	0.25	0.08	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q266	円玉	0.45	0.15	0.22	0.08	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q267	円玉	0.4	—	(0.09)	(0.04)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。1/2 欠損	覆土	
Q268	円玉	0.4	·	(0.09)	(0.02)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔力。1/3 遺存。	覆土	
Q269	円玉	(0.31)	—	(0.12)	(0.02)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔力。1/4 遺存。	覆土	
Q300	勾玉	2.9	1.5	0.4	2.18	滑石	孔径 0.1。三日月形。両面扁平の研磨。	北西壁寄り床面	PL32
Q301	勾玉	(1.8)	(2.1)	0.4	(2.02)	滑石	孔径 0.1。基部のみ遺存。	中央部床面	
Q302	紡錘石	(11.0)	3.0	2.8	(158.5)	安山岩	断面は四角形。両面3面。	北西壁寄り床面	
Q303	台石	21.6	20.4	8.4	4,639.2	砂岩	断面は台形。表面は平坦。	南東壁際床面	
Q304	敲石	11.3	10.0	5.6	1,189.4	砂岩	断面は三角形。長軸方向の一端に敲打痕。	南東壁際床面	

第43号住居跡（第123図）

位置　調査6区北部のC1a0区に位置し，平坦な台地上に立地している。本跡は，北壁の一部だけを確認したもので，大部分は南側の調査区域外に延びている。

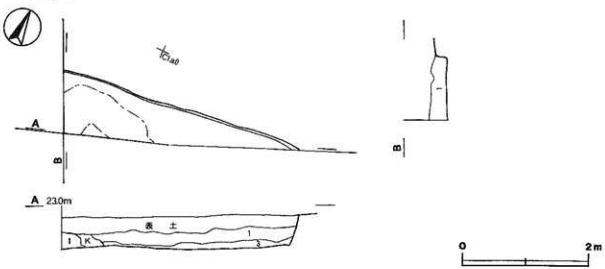
規模と形状　南側部分が調査区域外に延びているため，南北軸は最大で1m，東西軸は最大で3.8mだけ確認された。形状及び主軸方向は不明である。壁高は4cmほどで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，西側によく踏み固められた部分が認められる。

ピット　北壁の一部のため，主柱穴及び出入り口ピットは確認できなかった。

覆土　3層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説
1　黒褐色　ローム ブロック少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム ブロック中量，焼土粒子微量
3　褐　色　ローム ブロック中量，炭化粒子微量



第123図　第43号住居跡実測図

遺物出土状況　遺物は少なく，土師器片25点，須恵器片１点が出土している。これらの遺物は，覆土下層から出土している。土師器は甕の破片で，いずれも細片のため図示できなかった。

所見　本跡は，北壁の一部を確認できたのみで，遺構全体の形状は不明である。覆土の状況や，付近の住居跡の時期から判断して，中期の可能性が高いと思われる。

第44号住居跡（第124・125図）

位置　調査５区北部のＧ３j6 区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　表土除去の際，北側の大部分は床面まで削平され，南コーナー部がわずかに遺存しているだけである。また，遺構の西側全体は撹乱されていることから，規模及び形状は不明である。壁高は南コーナー付近が10cmほどで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の南側と北側の一部がよく踏み固められている。

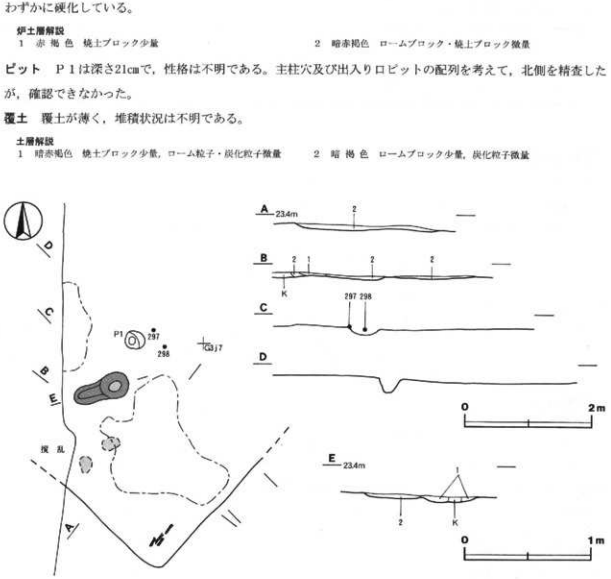
炉　長径89cm，短径42cmの楕円形で，床面を４cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け，わずかに硬化している。

炉土層解説
1　赤褐色　焼土ブロック少量　　2　暗赤褐色　ローム ブロック・焼土ブロック微量

ピット　Ｐ１は深さ21cmで，性格は不明である。主柱穴及び出入り口ピットの配列を考えて，北側を精査したが，確認できなかった。

覆土　覆土が薄く，堆積状況は不明である。

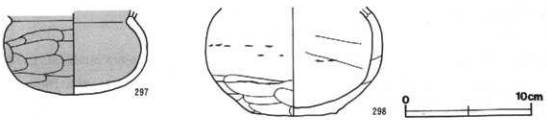
土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量　　2　暗 褐 色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量



第124図　第44号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片117点が，床面から散在した状態で出土している。297・298は炉の北東側の床面からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，遺構確認の際に床面まで削平されているため，炉と床面を確認したのみである。時期は，床面から出土した土器から判断して中期（５世紀後葉）と思われる。



第125図　第44号住居跡出土遺物実測図

第44号住居跡出土遺物観察表(第125図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
297	土師器	椀	—	(6.8)	—	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面ヘラ削り,内面ナデ。	炉の北東側床面	75%
298	土師器	椀	—	(8.8)	6.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	体部外面・底部ヘラ削り,内面ヘラナデ。	炉の北東側床面	45%

第45号住居跡（第126・127図）

位置　調査５区北部のＨ３c0 区に位置し，平坦な台地上に立地している。南側部分は土取りされている。

規模と形状　南側部分が土取りされているため，南北軸は最大で0.86m，東西軸2.96mだけが確認されたもので，北側部分の竈の位置及び西側壁から，主軸方向をＮ－24°－Ｗとする方形または長方形と推定される。壁高は10cmほどで，確認できた壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。暗褐色のローム土でややしまりはあるものの，硬化した部分はない。

竈　北壁中央部に位置している。規模は，焚口部から煙道部まで89cm，袖部幅105cmである。壁外への掘り込みは35cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床面は床面から３cmほど皿状に掘りくぼめられており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土ブロック少量
5　にぶい褐色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量
6　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量

ピット　主柱穴及び出入りピットの配列を考えて床面と遺構の外側を精査したが，確認できなかった。

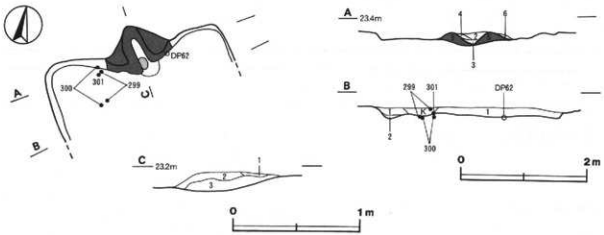
覆土　覆土は薄く，ローム粒子を少量含んだ自然堆積と思われる。

土層解説

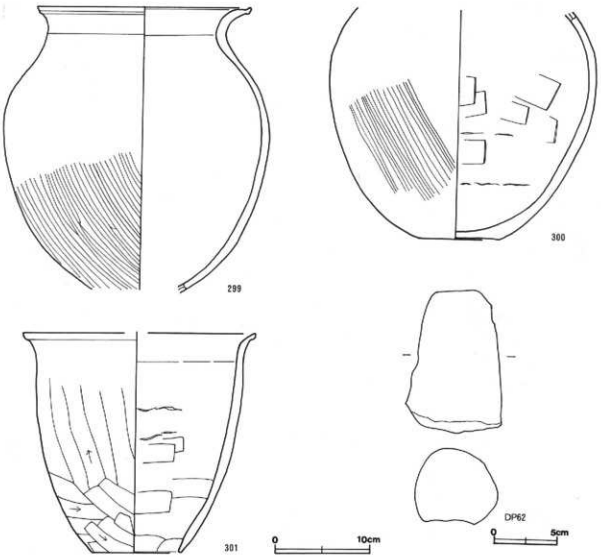
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片61点，支脚１点，礫１点が出土している。土器は甕・甑の破片で，竈の西側に集中している。299～301は竈の西側の床面から，土圧でつぶれた状態で重なり合うように出土している。ＤＰ62は竈の東側の床面から出土している。

所見　本跡は，覆土が薄く遺構の南側が土取りされているが，甕・甑が良好な状態で出土している。時期は，床面から出土した土器から判断して，後期（6世紀後半）と思われる。



第126図　第45号住居跡実測図



第127図　第45号住居跡出土遺物実測図

第45号住居跡出土遺物観察表（第127図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
299	土師器	甕	[22.2]	(30.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，内面ナデ．	竈西側床面	50%
300	土師器	壺	—	(24.4)	8.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ・輪積み痕，底部ヘラ削り．	竈西側床面	40%
301	土師器	甑	[24.2]	23.2	9.2	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ・輪積み痕．	竈西側床面	75%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
D002	支脚	(11.3)	(7.7)	(5.9)	(452.0)	土製	ナデ，被熱痕有り．	竈東側床面	

第46号住居跡（第128・129図）

位置　調査５区北部のＧ４i1区に位置し，平坦な台地上に立地している。東側部分は，調査区域外に延びている。

規模と形状　東側部分が調査区域外に延びているため，南北軸3.45m，東西軸は最大で1.57mだけ確認され，主軸方向をＮ－８°－Ｗとする方形または長方形と推定される。壁高は８cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

炉　中央部の北寄りに位置している。長径86cm，短径64cmの楕円形で，床面を７cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床面は凹凸で，火熱を受け赤変硬化している。

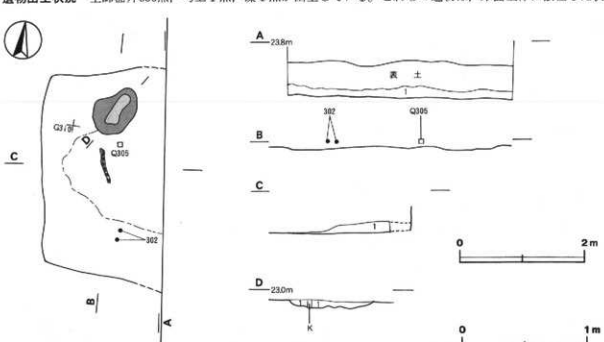
炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　主柱穴及び出入り口ピットの配列を考えて床面と遺構の外側を精査したが，確認できなかった。

覆土　単一層で，土器片を多量に含む層であることから，人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

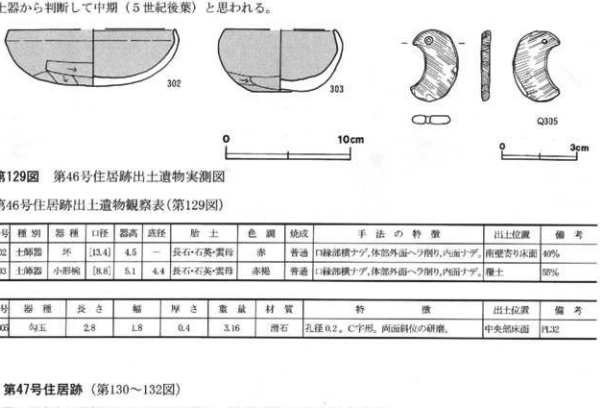
遺物出土状況　土師器片656点，勾玉１点，礫１点が出土している。これらの遺物は，床面全体に散在した状



第128図　第46号住居跡実測図

態で出土し，土器は細片のものが多いことから，投棄されたものとみられる。302・Q305は床面から，303は覆土から出土している。

所見　本跡は，東側が調査区域外に延びているため，全体をとらえることができなかった。時期は，出土した土器から判断して中期（５世紀後葉）と思われる。



第129図　第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表（第129図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
302	土師器	坏	[13.4]	4.5	—	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ．	南壁寄り床面	40%
303	土師器	小形椀	[8.8]	5.1	4.4	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ．	覆土	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q305	勾玉	2.8	1.8	0.4	3.16	滑石	孔径0.2。C字形。両面斜位の研磨。	中央部床面	PL32

第47号住居跡（第130～132図）

位置　調査５区北部のＧ２f9に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　一辺7.8mほどの方形で，主軸方向はＮ－36°－Ｗである。壁高は22～46cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，壁際を除く全体がよく踏み固められている。出入り口部分には，馬蹄形に構築されたローム土の高まりがある。壁溝は，南西壁の一部を除いて巡っている。また，北東壁で，壁際から中央に向かって延びている間仕切り溝を１条確認した。長さ140cm，幅18cmで，深さ10cmである。北西壁際から北東壁際にかけての床面から，焼土塊と炭化材の小片を検出した。

焼土焼土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物少量
2　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

炉　中央部の北西寄りに位置している。長径128cm，短径69cmの楕円形で，床面を７cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化物微量

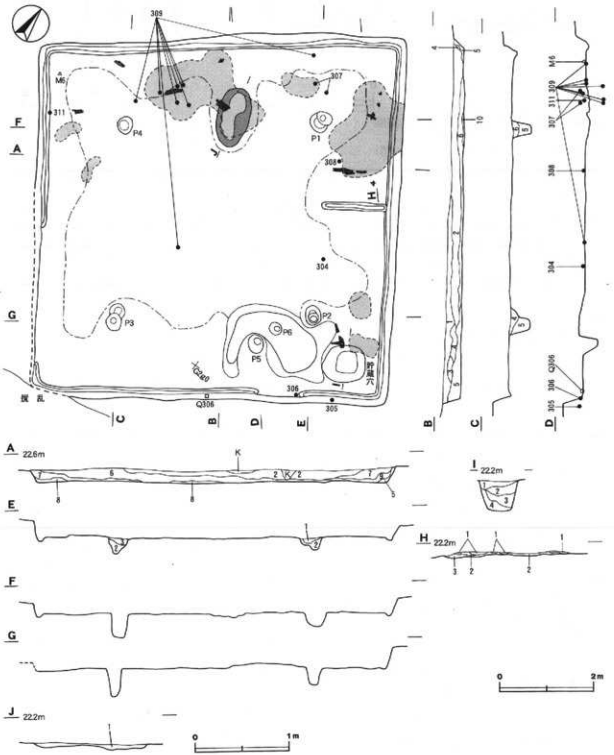
ピット　６か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ30cmほど，Ｐ３は深さ59cm，Ｐ４は深さ52cmで，配列から主柱穴と思われる。Ｐ５は深さ37cmで，南東壁の貯蔵穴寄りに位置していることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６は深さ35cmで，性格は不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）
1　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック中量
3　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック少量
5　褐　色　ロームブロック少量
6　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

貯蔵穴　東コーナー部に位置している。長軸93cm，短軸79cmの長方形で，深さ74cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

1　黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子微量



第130図　第47号住居跡実測図

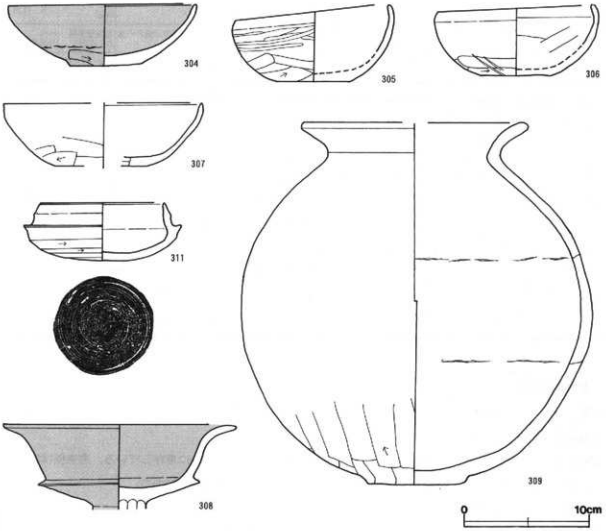
覆土　10層に分層され，不自然に堆積した人為堆積である。

土層解説

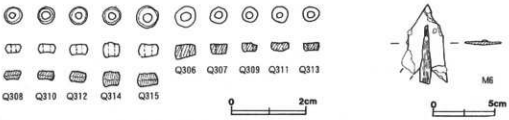
1　暗 褐 色　ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ローム ブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム ブロック中量，炭化粒子微量
5　暗 褐 色　ローム ブロック・炭化物・焼土粒子少量
6　暗 褐 色　ローム ブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
7　褐　　色　焼土ブロック少量，ローム ブロック・炭化粒子微量
8　褐　　色　ローム ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗 褐 色　ローム ブロック・炭化材・焼土粒子中量
10　暗赤褐色　ローム ブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況　土師器片499点，須恵器片１点，白玉10点，鉄鏃１点，礫31点が出土している。これらの遺物は，主に各壁際の覆土下層から床面にかけて出土している。304・307・308・Q306は覆土下層から床面にかけて出土している。305・311は斜位の状態で，306は正位の状態で，309は土圧でつぶれた状態でそれぞれ床面から出土している。また，Q307～315は覆土下層から床面にかけて出土した焼土を水洗選別し検出したものである。

所見　本跡は，北西壁際から北東壁際にかけての床面から焼土塊や炭化材が出土していることから，焼失住居と考えられる。一辺が８ｍほどの大形の住居跡で，東コーナー部に貯蔵穴をもつこの時期の典型的な住居形態である。時期は，覆土下層及び床面から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第131図　第47号住居跡出土遺物実測図（１）



第132図　第47号住居跡出土遺物実測図（2）

第47号住居跡出土遺物観察表（第131・132図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
304	土師器	坏	15.1	5.0	5.8	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り・輪積み痕，内面ナデ。	北東壁寄り下層	60%
305	土師器	坏	12.5	6.2	5.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ナデ・下位沸鐵。	東コーナー部床面	95%　PL28
306	土師器	坏	12.6	5.8	5.4	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底面ヘラ削り，内面ヘラナデ，底部布目痕。	東コーナー部床面	90%
307	土師器	坏	(16.0)	(5.1)	(7.5)	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底面ヘラ削り，内面ナデ。	北コーナー部床面	40%
308	土師器	高坏	18.6	(6.7)	—	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，坏部内・外面ナデ。	北コーナー部床面	50%　PL28
309	土師器	甕	[17.8]	29.4	7.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ナデ・輪積痕。	北西壁下層から床面	60%　外面煤付着
311	須恵器	坏	9.8	4.7	—	長石・石英	灰	良好	口縁部・体部ロクロナデ，底部糸切離ヘラ削り。	西コーナー部床面	100%　PL28

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q306	臼玉	0.51	0.22	0.38	0.17	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	床面	PL31
Q307	臼玉	0.41	0.2	0.28	0.05	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	PL31
Q308	臼玉	0.42	0.18	0.21	0.06	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	覆土	PL31
Q309	臼玉	0.4	0.18	0.22	(0.04)	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。一部欠損。	覆土	
Q310	臼玉	0.42	0.2	0.22	0.03	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	PL31
Q311	臼玉	0.45	0.16	0.23	0.05	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	PL31
Q312	臼玉	0.43	0.18	0.28	0.07	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	覆土	
Q313	臼玉	0.4	0.2	0.2	0.05	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q314	臼玉	0.5	0.18	0.35	0.09	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	覆土	
Q315	臼玉	0.58	0.2	0.31	0.13	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	覆土	
M6	鏃	(6.1)	(3.6)	0.4	(7.9)	鉄	長三角形の短頸鏃。鏃決有，鏃被部に木質付着。	西コーナー部床面	PL32

第48号住居跡（第133図）

位置　調査5区北部のG３e1区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係　北東部を，第112号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　表土除去の際，北側の大部分は削平され，南側部分がわずかに遺存している。南東壁は3.68m，北西壁は3.6mと推定され，主軸方向は不明である。南東壁の壁高は４cmほどである。

床　ほぼ平坦で，炉と貯蔵穴の間がよく踏み固められている。

炉　中央部の南西寄りに位置している。長径87cm，短径52cmの楕円形で，床面を４cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け，わずかに硬化している。

炉土層解説
1　赤褐色　焼土ブロック中量

ピット　主柱穴及び出入り口ピットの配列を考えて床面と遺構の外側を精査したが，確認できなかった。

貯蔵穴　南コーナー一部に位置している。径76cmほどの円形で，深さ29cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに外傾している。

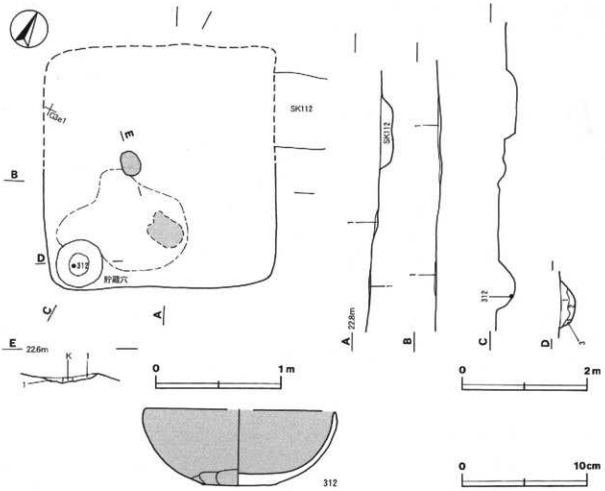
貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　炭化物少量，ロームブロック微量
3　褐　　色　ロームブロック中量

覆土　わずかに遺存する単一層である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片233点，礫1点が出土している。これらの遺物は，床面及び貯蔵穴から破片の状態で出土してる。312は貯蔵穴の覆土下層から出土している。

所見　本跡は，遺構の北側が削平されているが，炉・貯蔵穴・硬化面を検出することができた。時期は，貯蔵穴から出土した土器から判断して，中期（5世紀後葉）と思われる。



第133図　第48号住居跡・出土遺物実測図

第48号住居跡出土遺物観察表(第133図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
312	土師器	坏	[15.2]	6.1	5.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底面ヘラ削り，内面ナデ。	貯蔵穴下層	40%

第49号住居跡（第134図）

位置　調査6区北部のB 1 h9 区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　西側部分が調査区域外に延びているため，南北軸4.54m，東西軸は最大で1.78mだけ確認され，主軸方向をN　4°　Wとする方形または長方形と推定される。壁高は6～9cmで，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　平坦である。暗褐色のローム土でややしまりはあるものの，硬化した部分はない。炉跡は確認できなかった。

ピット　確認できた東側部分を，主柱穴の配列を考えて床面と遺構の外側を精査したが確認できなかった。

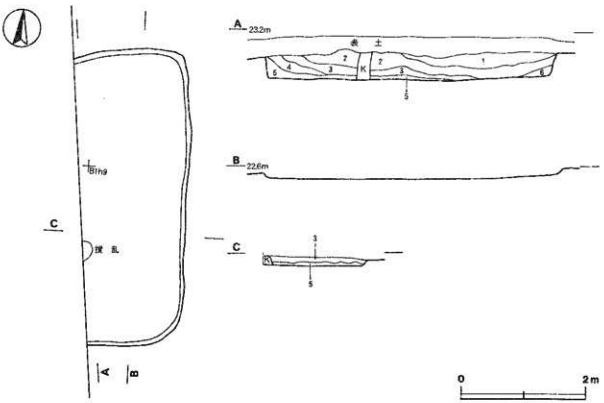
覆土　6層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量
2　黒褐色　ロームブロック少量
3　黒褐色　ロームブロック微量
4　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片21点のみが出土している。いずれも細片で図示できなかった。坏の破片には赤彩が施されたものもみられる。

所見　本跡は，遺構の西側が調査区域外に延びており，全容をとらえられなかった。時期は，覆土から出土した土器の特徴や周囲の遺構から判断して，中期（5世紀後葉）の可能性が高い。



第134図　第49号住居跡実測図

第50号住居跡（第135・136図）

位置　調査６区北部のＣ２c2区に位置し，平坦な台地上に立地している。また，西コーナー部分は，調査区域外に延びている。

規模と形状　長軸10.22m，短軸10.14mの方形で，主軸方向はＮ－28°－Ｗである。壁高は17～39cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，壁際を除いてよく踏み固められている。貯蔵穴の周りには，馬蹄形に構築されたローム土の高まりがある。また，壁溝は，南東壁の一部を除いて巡っている。床面全体には焼土が広がり，炭化材が北東壁際と南東壁際から中央に向かって倒れた状態で出土している。

炉　中央部の北西寄りに位置している。長径61cm，短径44cmの楕円形，床面を４cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ84～99cmで，配列から主柱穴と思われる。

ピット土層解説（各ピット共通）
1　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量
4　褐　色　ロームブロック中量

貯蔵穴　南東壁際の中央部に位置している。長軸131cm，短軸100cmの長方形で，深さ77cmである。底面は平坦で，壁はほぼ直立している。

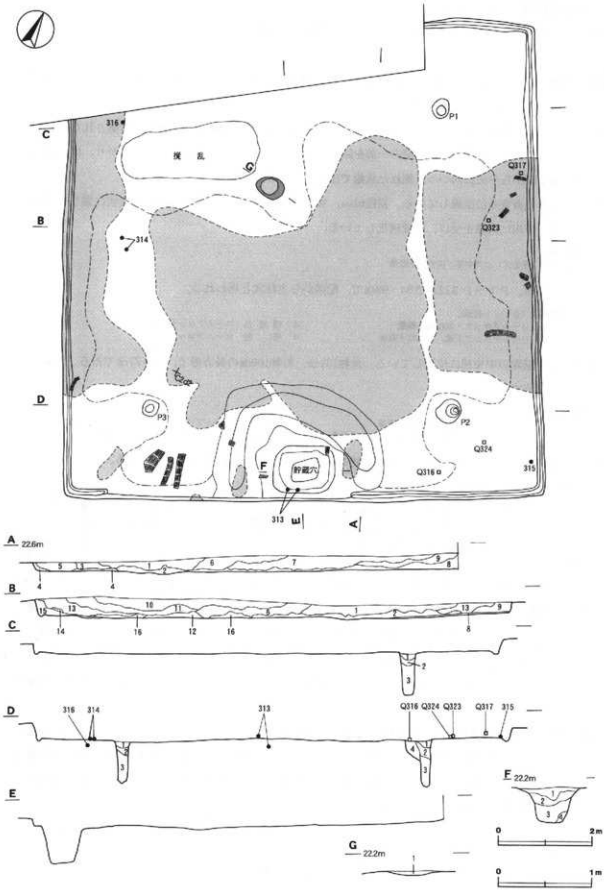
貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

覆土　16層に分層され，焼土ブロックや炭化物を含み，不自然に堆積した人為堆積である。

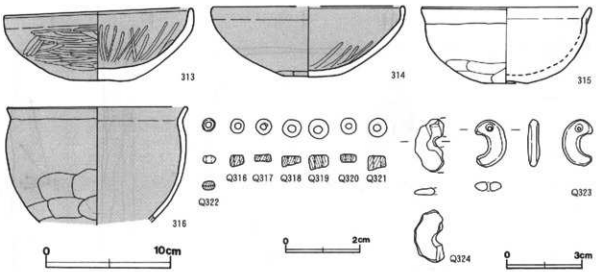
土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
3　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック・焼土粒子中量，炭化物微量
5　暗褐色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
6　褐暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
7　褐暗褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
8　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
9　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量
10　褐暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
11　褐暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
12　暗褐色　ロームブロック少量
13　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化物微量
14　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
15　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
16　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子中量，ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片609点，須恵器片14点，白玉７点，勾玉１点，双孔円板１点のほか，混入した縄文土器片16点が出土している。これらの遺物は，全体の覆土下層から床面にかけて散在している。315は斜位の状態で，313・314・316・Q316（白玉）・Q324（双孔円板）とともに床面から出土している。Q317（白玉）・Q323（勾玉）は覆土下層から出土している。また，Q318～322（白玉）は焼土及び貯蔵穴の覆土を水洗選別し検出したものである。

所見　本跡は，覆土の堆積状況や床面の焼土及び炭化材の存在から，焼失住居と思われる。炭化材は壁根に使用した乗木材と思われる。また，一辺が10mを超える大形の住居跡で，貯蔵穴が南東壁際の中央部に位置しているなど，第１号住居跡と類似した住居形態である。時期は，壁寄りの床面から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第135図　第50号住居跡実測図



第136図　第50号住居跡出土遺物実測図

第50号住居跡出土遺物観察表(第136図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
313	土師器	坏	15.1	6.0	4.3	長石・雲母・赤色粒子	赤	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ヘラ磨き，底部ヘラ削り。	南東壁寄り床面	70%
314	土師器	坏	[15.2]	5.7	3.6	長石・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	南西壁寄り床面	60%
315	土師器	坏	13.7	5.1	3.5	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面磨耗。	東コーナー部床面	85%　Pl.28
316	土師器	椀	[14.5]	(9.3)	—	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	南西壁寄り床面	35%

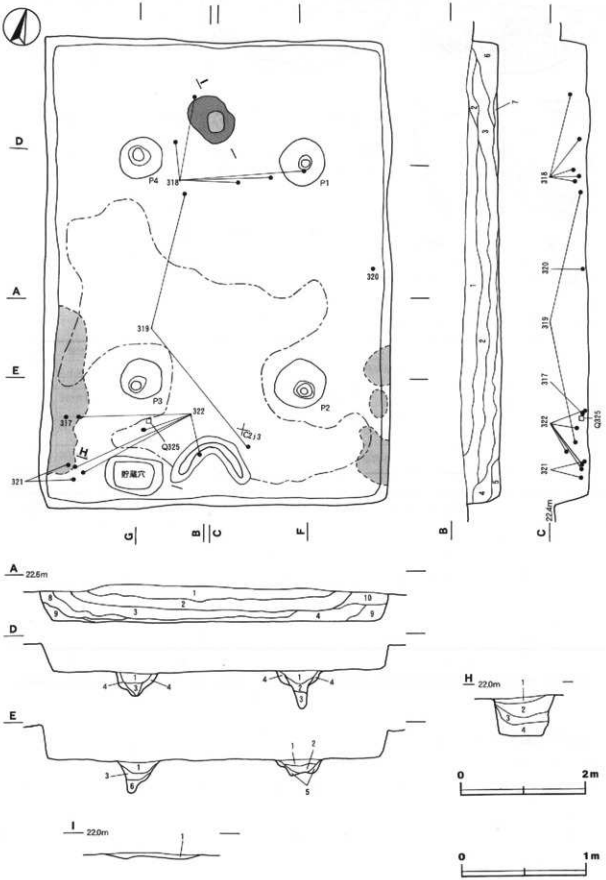
番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q316	臼玉	0.4	0.16	0.3	0.06	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	南東壁寄り床面	
Q317	臼玉	0.41	0.15	0.19	0.05	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	北東壁寄り下層	
Q318	臼玉	0.5	0.18	0.28	0.08	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q319	臼玉	0.4	0.18	0.38	0.14	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q320	臼玉	0.43	0.14	0.2	0.08	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q321	臼玉	0.5	0.2	0.4	0.16	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q322	臼玉	0.32	0.14	0.2	0.02	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	覆土	
Q323	勾玉	1.9	0.5	1.2	1.34	滑石	孔径0.1。C字形。全面丁寧な研磨。	北東壁寄り下層	Pl.32
Q324	双孔円板	(2.2)	(1.2)	0.3	(0.89)	滑石	表面斜位の研磨。1/3遺存。	東コーナー部床面	

第51号住居跡（第137～139図）

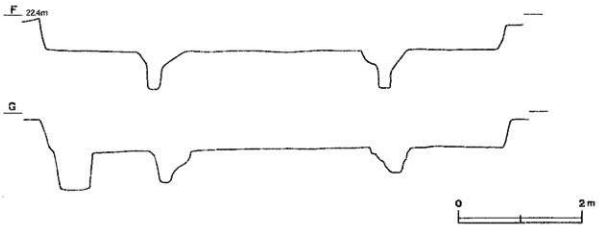
位置　調査6区北部のC2i2区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　長軸7.5m，短軸5.56mの長方形で，主軸方向はN－13°－Wである。壁高は40～55cmで，各壁ともほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，出入り口付近から中央部にかけてよく踏み固められている。出入り口部分には，馬蹄形に構築されたローム土の高まりがある。



第137図　第51号住居跡実測図（1）



第138図　第51号住居跡実測図（2）

炉　北壁寄りに位置している。長径81cm，短径57cmの楕円形で，床面を4cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け，わずかに赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　4か所。P1～P4は深さ42～61cmで，配列から主柱穴と思われる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　褐　色　ロームブロック少量

貯蔵穴　南壁際の西寄りに位置している。長軸92cm，短軸60cmの長方形で，深さ64cmである。底面は平坦で，壁は直立している。

貯蔵穴土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量
4　褐　色　ロームブロック中量

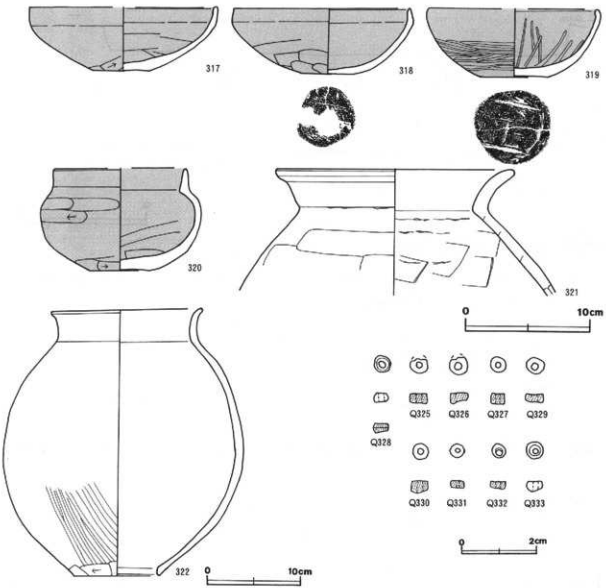
覆土　10層に分層され，大部分はレンズ状に堆積した自然堆積であるが，南東コーナー部と南西コーナー部の壁際の覆土中層から下層にかけて，投棄されたとみられる焼土粒子を多く含んだ層が堆積している。

土層解説

1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　色　ロームブロック・焼土粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
7　暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
8　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片813点，臼玉8点，ガラス小玉1点が出土している。これらの遺物は，全体の覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。317・320は斜位の状態で，318・319・321・322とともに覆土下層から出土し，Q325は床面から出土している。Q326～333（臼玉・ガラス小玉）は，最下層の覆土を水洗選別し検出したものである。

所見　本跡は，南北方向に長い長方形の住居跡で，南壁際の中央部に位置する出入り口部分には馬蹄形の高まりがあり，南西コーナー部に貯蔵穴を配置した住居跡である。時期は，覆土下層から出土した土器から判断して，中期（5世紀後葉）と思われる。



第139図　第51号住居跡出土遺物実測図

第51号住居跡出土遺物観察表(第139図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
317	土師器	坏	15.0	5.2	4.2	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ヘラナデ。	南西コーナー部下層	95%　PL28
318	土師器	坏	14.1	5.4	4.2	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ，底部ヘラ書き有り「三」。	中央部下層	65%
319	土師器	坏	[13.4]	5.6	5.4	長石・雲母・赤色粒子	赤	普通	体部内・外面ヘラ磨き，底部ヘラ削り・ヘラ書き有り「二」。	中央部下層	45%
320	土師器	椀	[10.4]	8.2	4.7	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ヘラナデ。	東壁際下層	50%
321	土師器	壺	19.0	(10.1)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ・輪積み痕。	南西コーナー部下層	25%
322	土師器	甕	16.0	28.9	9.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ磨き後，ヘラ削り，内面ナデ。	南西コーナー部下層	80%

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q325	臼玉	0.49	0.12	0.25	(0.08)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。一部欠損。	南壁寄り床面	PL31
Q326	臼玉	0.5	0.18	0.28	(0.1)	滑石	側面はやや太鼓状，片面穿孔。一部欠損。	覆土	PL31

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q327	臼玉	0.4	0.12	0.3	0.05	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	Pl.31
Q328	臼玉	0.42	0.18	0.24	0.07	滑石	側面は太鼓状，片面穿孔。	覆土	Pl.31
Q329	臼玉	0.42	0.16	0.22	0.07	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q330	臼玉	0.48	0.16	0.3	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q331	臼玉	0.35	0.12	0.2	0.03	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q332	臼玉	0.39	0.18	0.2	0.03	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q333	小玉	0.42	0.13	0.3	0.07	ガラス	ブルー。側面は楕円状。	覆土	Pl.31

第52号住居跡（第140・141図）

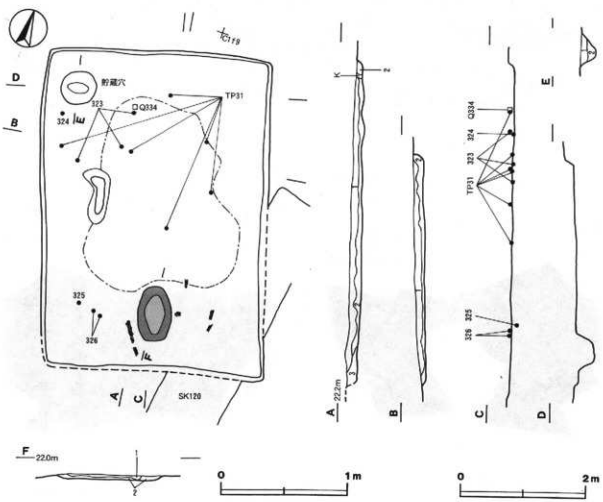
位置　調査6区北部のC1f8区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係　南東コーナー部付近を，第120号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.16m，短軸3.64mの長方形で，主軸方向はN－17°－Wである。壁高は8～14cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。出入り口部分には，馬蹄形に構築されたローム土の高まりがある。

炉　中央部の南寄りに位置している。長径88cm，短径54cmの楕円形で，床面を4cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け，わずかに赤変硬化している。



第140図　第52号住居跡実測図

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量　　2　赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量

ピット　主柱穴及び出入り口ピットの配列を考えて床面と遺構の外側を精査したが，確認できなかった。

貯蔵穴　北西コーナー部に位置している。長径58cm，短径52cmの楕円形で，深さ27cmである。底面は皿状で，壁は外傾している。

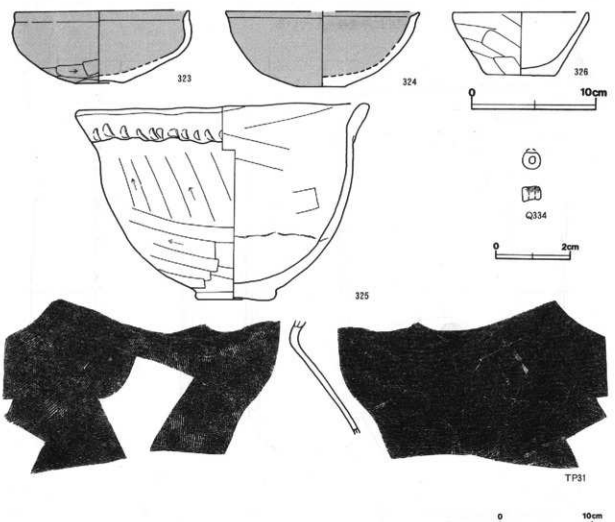
貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　　2　褐　色　ロームブロック中量

覆土　3層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量　　3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片1,340点，須恵器片3点，臼玉1点が出土している。これらの遺物は，全体の覆土下層から床面にかけて散在している。323・326は覆土下層から，324・TP31・Q334は床面からそれぞれ出土している。325は床面から逆位の状態で出土している。

所見　本跡は，炉が南壁寄り，貯蔵穴が北西コーナー部に位置する長方形の住居形態で，出入り口部分は西壁側と推測される。時期は，覆土下層及び床面から出土した土器から判断して，中期（5世紀後葉）と思われる。



第141図　第52号住居跡出土遺物実測図

第52号住居跡出土遺物観察表（第141図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
323	土師器	坏	14.0	5.9	3.7	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部以下ヘラ削り，底部ヘラ削り	北西部下層	80%
324	土師器	坏	15.6	6.1	3.4	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨，底部ヘラ削り	北西部床面	60%
325	土師器	鉢	31.1	20.9	8.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外面ヘラ磨，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨，底部ヘラナデ	西南コーナー・掘下層	65% P128
326	土師器	小型鉢	11.0	5.2	5.5	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面ナデ，底部ヘラ削り	西南コーナー・掘下層	70%
TP21	須恵器	甕	—	(10.1)		長石	灰	良好	外面格子目タタキ後カキ目，内面当て具痕が残る	中央部床面	外面自然釉付着

番号	器種	厚	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
G334	石玉	0.5	0.2	0.36	(0.13)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔，一部欠損	北壁寄り床面	

第53号住居跡（第142・143図）

位置　調査6区北部のD2b1区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係　東壁の一部を，第122号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.23m，短軸5.23mの長方形で，主軸方向はN－2°－Eである。壁高は30～37cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，南西コーナー部付近から中央部にかけてよく踏み固められている。

炉　中央部の北寄りに位置している。長径88cm，短径72cmの楕円形で，床面を3cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，炭化粒子微量

ピット　P1は深さ27cmで，南壁際の貯蔵穴寄りに位置していることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。

貯蔵穴　南西コーナー部に位置している。長軸83cm，短軸73cmの長方形で，深さ63cmである。底面は平坦で，壁はほぼ直立している。

貯蔵穴土層解説

1　黒褐色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
3　極暗褐色　ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土ブロック中量
5　暗褐色　ローム粒子少量

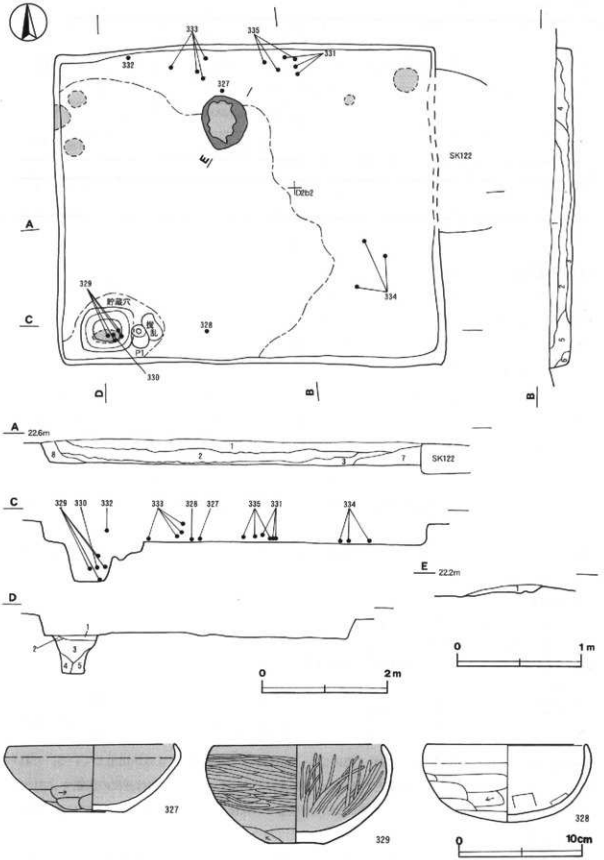
覆土　8層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

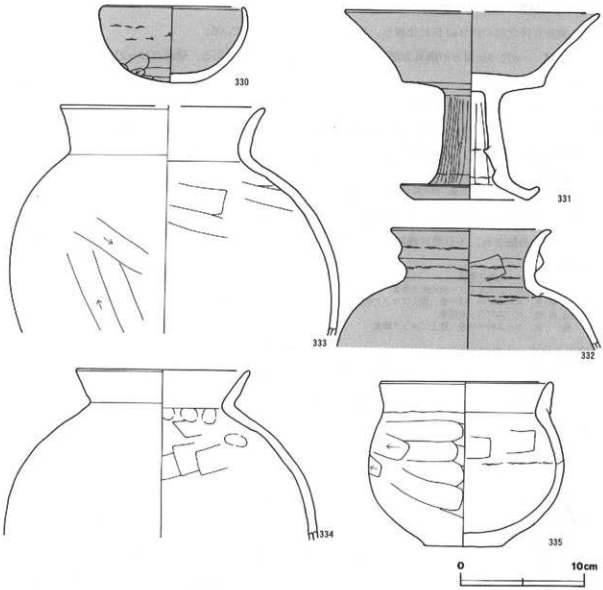
1　極暗褐色　ローム ブロック・炭化粒子少量
2　黒褐色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム ブロック少量
4　暗褐色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム ブロック・焼土粒子微量
6　褐　色　ローム ブロック微量
7　暗褐色　ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　色　ローム ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片419点，須恵器片1点のほか，流れ込んだ縄文土器片5点が出土している。これらの遺物は，主に北壁際と貯蔵穴付近の覆土下層から床面にかけて出土している。327は逆位の状態で，331～333・335とともに北壁際の床面から出土している。328は南壁寄りの床面から逆位の状態で出土している。329・330は貯蔵穴内から出土している。

所見　本跡は，北壁際の床面から完形のものを含め多くの土器が出土している。出土状況から炉と北壁の間あるいは北壁の上には土器の保管場所があったものと推測される。時期は，北壁際の床面及び貯蔵穴から出土した土器から判断して，中期（5世紀後葉）と思われる。



第142図　第53号住居跡・出土遺物実測図



第143図　第53号住居跡出土遺物実測図

第53号住居跡出土遺物観察表(第142・143図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
327	土師器	坏	13.5	5.6	4.7	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底面ヘラ削り，内面ナデ。	北壁寄り床面	100% PL28
328	土師器	坏	13.0	6.3	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	南壁寄り床面	95% PL28
329	土師器	椀	13.7	8.2	4.3	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，内・外面ヘラ磨き，底面ヘラ削り。	貯蔵穴中層	70%
330	土師器	椀	11.3	6.2	—	長石・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り・輪積み痕，内面ナデ。	貯蔵穴下層	95%
331	土師器	高坏	[20.6]	15.2	9.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，坏部ナデ，脚部外面ヘラ磨き，内面輪積み痕。	北壁際床面	65% PL28
332	土師器	壺	12.8	(9.5)	—	長石・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ナデ，肩部隆帯貼り付け。	北壁際下層	15%
333	土師器	壺	[16.3]	(18.4)	—	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	北壁際下層	35%
334	土師器	壺	14.0	(13.7)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ナデ，内面ヘラナデ・指頭痕。	東壁寄り床面	25%
335	土師器	小形甕	13.7	13.5	6.2	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ・輪積み痕。	北壁際床面	70%

第54号住居跡（第144・145図）

位置　調査６区北部のＤ２a3区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　一辺2.9mほどの隅丸方形で，主軸方向はＮ－16°－Ｗである。壁高は19～21cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，南壁際から中央部にかけてと北東コーナー部付近がよく踏み固められている。

炉　ほぼ中央部に位置する。長径68cm，短径58cmの楕円形で，床面を９cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床面は凹凸であり，火熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量

ピット　主柱穴及び出入り口ピットの配列を考えて床面と遺構の外側を精査したが，確認できなかった。

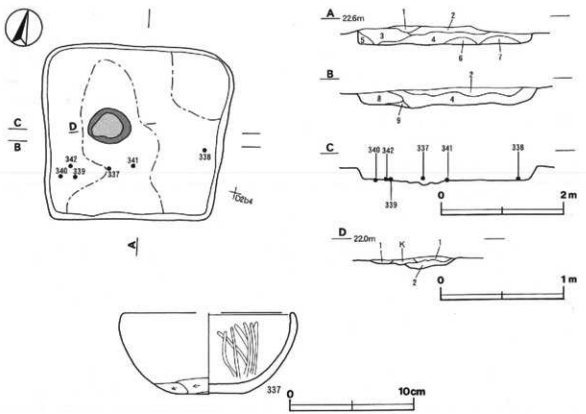
覆土　９層に分層され，不自然に堆積した人為堆積である。

土層解説

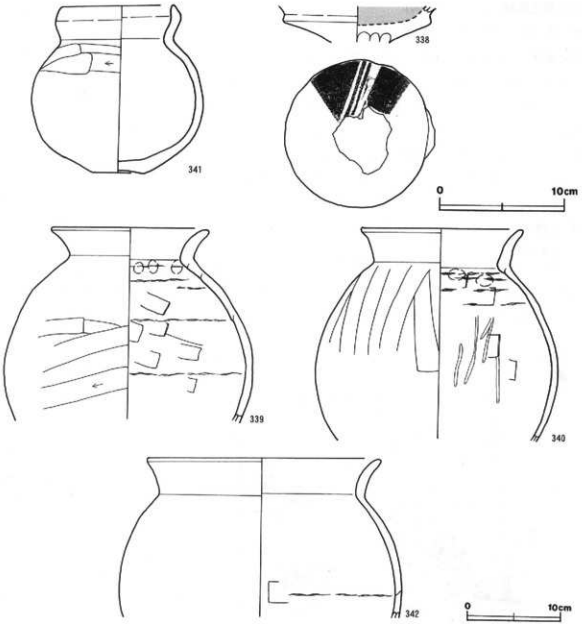
1　極暗褐色　ローム粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
4　暗褐色　ロームブロック微量
5　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック微量
6　黒褐色　ローム粒子微量
7　暗褐色　炭化物・ローム粒子微量
8　暗褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片513点が出土している。これらの遺物は，主に壁寄りの覆土中層から床面にかけて破片の状態で出土している。337・340は逆位の状態で，339は横位の状態で338・341・342とともに床面から出土している。また，これ以外にも土師器坏２個体分，壺３個体分の破片が出土している。

所見　本跡は，柱穴を掘り込まない小形の住居跡である。時期は，床面から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第144図　第54号住居跡・出土遺物実測図



第145図　第54号住居跡出土遺物実測図

第54号住居跡出土遺物観察表(第144・145図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
337	土師器	坏	[13.7]	6.6	5.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ、体部外面・底面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。	中央部床面	40%
338	土師器	高坏	—	(3.1)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	坏部外面ナデ・砂石転用痕、内面鏡面。	東壁寄り床面	15%
339	土師器	壺	16.9	(21.0)	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ・指頭痕・輪郭ろくろ。	南西コーナー部床面	50%
340	土師器	壺	17.0	(22.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ・ヘラ磨き・指頭痕。	南西コーナー部床面	50%
341	土師器	小形壺	9.2	13.6	4.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、体部外面・底面ヘラ削り、内面ナデ。	中央部床面	100%　Pl.29
342	土師器	甕	24.7	(17.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、体部外面ナデ、内面ヘラナデ・輪積み痕。	南西コーナー部床面	35%

第55号住居跡（第146～149図）

位置　調査６区南部のＤ２e6区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　長軸4.45m，短軸4.37mの方形で，主軸方向はＮ－10°－Ｗである。壁高は15～18cmで，各壁とも緩やかに外傾して立ち上がっている。

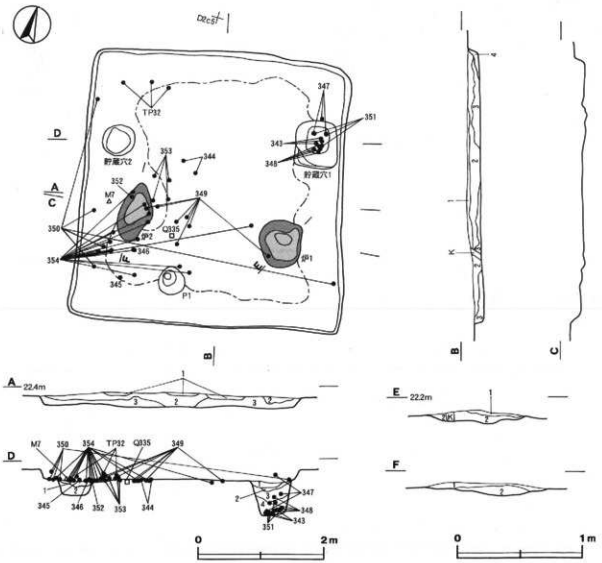
床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。また，炭化材が各壁から中央部に向かって倒れた状態で多量に出土している。

炉　２か所。炉１は中央部の南東寄りに位置している。長径73cm，短径67cmの不定形で，床面を６cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉２は中央部の南西寄りに位置している。長径98cm，短径53cmの楕円形で，床面を７cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。どちらも炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

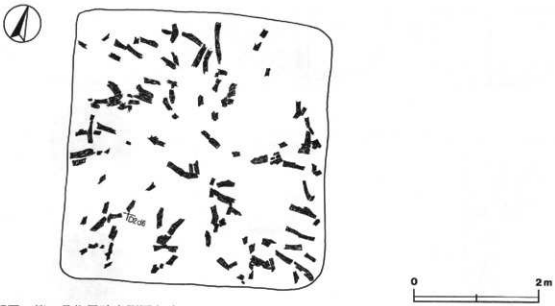
炉１土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量　　2　赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

炉２土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量　　2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物微量

ピット　Ｐ１は深さ29cmである。主柱穴及び出入り口ピットの配列を考えて床面と遺構の外側を精査したが，Ｐ１以外は確認できなかった。Ｐ１は南壁寄りに位置しているが，炉の位置に近いことから性格は不明である。



第146図　第55号住居跡実測図（１）



第147図　第55号住居跡実測図（2）

貯蔵穴　2か所。貯蔵穴1は東壁際の北寄りに位置している。長軸77cm，短軸67cmの長方形で，深さ58cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。貯蔵穴2は西壁際の北寄りに位置している。径50cmほどの円形で，深さ27cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

貯蔵穴1土層解説

1　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　黒褐色　ロームブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子微量

貯蔵穴2土層解説

1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物・ローム粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

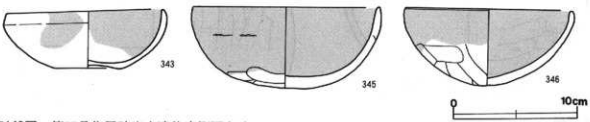
覆土　4層に分層される。第3層は焼土や炭化材を多く含み，不自然に堆積した人為堆積である。

土層解説

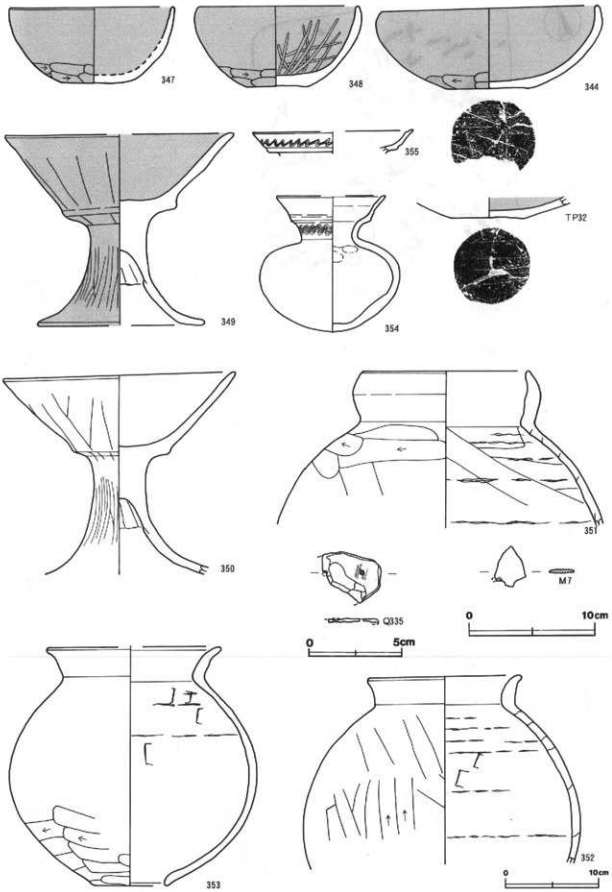
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒　色　炭化材多量，焼土ブロック中量，ローム粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片980点，須恵器片8点，双孔円板1点，鉄鏃1点が出土している。これらの遺物は，主に西壁寄りの覆土下層から床面にかけて多量に出土し，土圧でつぶれた状態のものが多い。344～346は，床面から正位の状態で出土している。349・350・352～354・TP32は，覆土下層から床面にかけて出土している。343・347・348・351は，貯蔵穴内からそれぞれ出土している。また，Q335・M7は床面から，355は覆土から出土している。これ以外にも，土師器坏・椀類6個体分，甕6個体分の破片が出土している。

所見　本跡は，床面全体から垂木材とみられる炭化材が多量に出土し，遺物の多くは土圧でつぶれた状態であることから火災による焼失住居と考えられる。時期は，床面及び貯蔵穴から出土した土器から判断して，中期（5世紀後葉）と思われる。



第148図　第55号住居跡出土遺物実測図（1）



第149図　第55号住居跡出土遺物実測図（2）

第55号住居跡出土遺物観察表(第148・149図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
343	土師器	坏	12.7	4.8	5.2	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，底部ヘラ削り。	貯蔵穴1下層	85%
344	土師器	坏	17.2	6.6	6.4	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ，底部ヘラ削き痕。	中央部床面	80%
345	土師器	坏	15.1	6.7	—	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り・磨滅痕跡，内面ナデ。	西壁寄り床面	90% PL29
346	土師器	坏	13.6	6.3	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	南西コーナー部床面	90% PL29
347	土師器	坏	13.2	6.1	5.0	長石・石英・雲母	に赤い赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面磨滅。	貯蔵穴1下層	80%
348	土師器	坏	12.5	6.4	5.0	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	貯蔵穴1内	70%
349	土師器	高坏	[18.2]	15.1	[15.2]	長石・石英・雲母	に赤い赤褐	普通	口縁部・脚部横ナデ，坏部外面ヘラナデ，脚部外面ヘラナデ，坏部内面ヘラ磨き。	中央部床面	70% PL29
350	土師器	高坏	18.5	(15.8)	—	長石・石英	に赤い赤褐	普通	口縁部横ナデ，坏部外面ヘラ削り，内面ナデ，脚部外面ヘラ磨き。	西壁寄り床面	70% PL29
351	土師器	壺	[13.1]	(12.4)	—	長石・石英・赤色粒子	に赤い橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ・磨滅痕。	貯蔵穴1下層	35% PL29
352	土師器	壺	16.0	(19.8)	—	長石・石英・雲母	に赤い橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ・磨滅痕。	南西コーナー部床面	35%
353	土師器	甕	[16.0]	23.3	7.7	長石・石英・赤色粒子	に赤い橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ・磨滅痕。	中央部床面	60%
354	須恵器	甕	[8.7]	10.7	—	長石	灰	良好	胴部にエルの福表出による波状文。	中央部床面	55% PL29 自然釉付着
355	須恵器	甕	[12.6]	(1.8)	—	長石・石英	黒褐	普通	口縁部は，4本の櫛描状工具による波状文。	覆土	5%
TP32	土師器	椀	—	(1.7)	—	長石・石英	に赤い橙	普通	底部ヘラ削り・ヘラ磨き有り。	北壁寄り下層	

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q268	双孔円板	(2.7)	(3.1)	(0.2)	(2.48)	滑石	孔径0.2，両面縁位の研磨，1/3欠損。	中央部床面	
M7	鏃	(3.2)	(2.4)	0.3	(2.9)	鉄	長三角形の有茎鏃か。	貯蔵穴1床面	

第56号住居跡（第150～153図）

位置　調査6区南部のD2i6区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　長軸7.81m，短軸7.52mの方形で，主軸方向はN－38°－Wである。壁高は23～38cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，出入り口付近から中央部にかけてよく踏み固められている。出入り口部分は，ローム土でやや高くなっている。壁溝は全周している。また，間仕切り溝が北東壁に3条，南東壁に1条，南西壁に1条確認され，長さ78～110cm，幅12～20cm，深さ6～11cmである。いずれも壁際から中央に向かって延びている。北東壁中央の間仕切り溝は，P5と連結している。

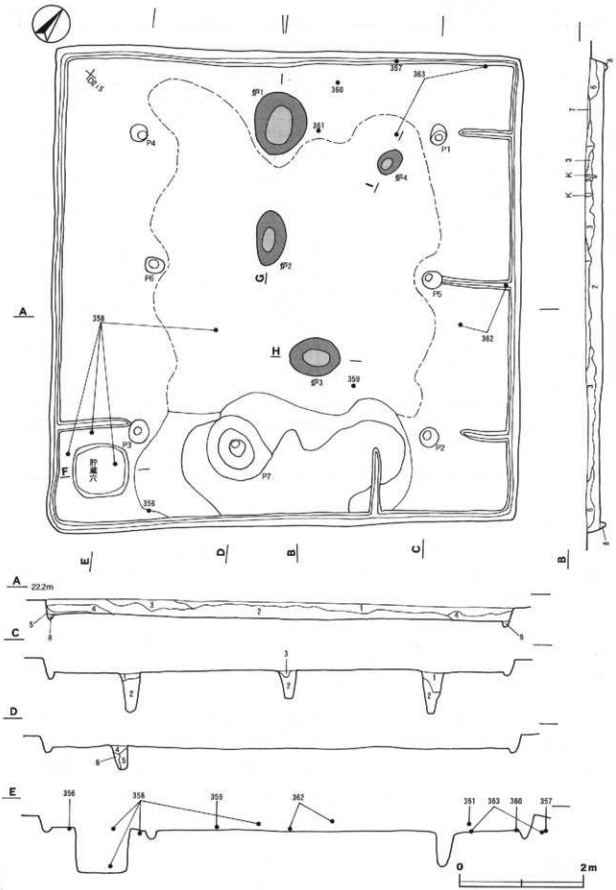
炉　4か所。炉1は北西壁寄りに位置している。長径97cm，短径85cmの楕円形で，床面を5cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉2はほぼ中央部に位置している。長径87cm，短径49cmの楕円形で，床面を4cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉3は中央部の東寄りに位置している。長径83cm，短径65cmの楕円形で，床面を3cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉4は中央部の北寄りに位置している。長径44cm，短径33cmの楕円形で，床面を3cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉1と炉3は炉床面に凹凸があり，火熱を受け，赤変硬化している。炉2と炉4の炉床は，火熱を受け，わずかに赤変硬化している。

炉1土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

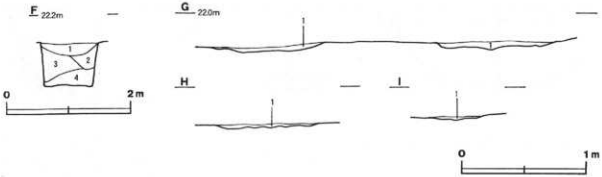
炉2土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量

炉3土層解説
1　に赤い褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量

炉4土層解説
1　に赤い赤褐　焼土ブロック少量



第150図　第56号住居跡実測図（1）



第151図　第56号住居跡実測図(2)

ピット　7か所。P1～P4は深さ56～67cmで，配列から主柱穴と思われる。P5は深さ48cm，P6は深さ30cmで，主柱穴の間に位置していることから補助柱穴と思われる。P7は深さ42cmで，南東壁のやや貯蔵穴寄りに位置し，中央部に向かって斜めに掘り込まれていることから出入り口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック少量
6　暗褐色　ロームブロック少量

貯蔵穴　南コーナー部に位置している。長軸92cm，短軸86cmの方形で，深さ72cmである。底面は平坦で，壁は直立している。

貯蔵穴土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック少量
4　暗褐色　ロームブロック微量

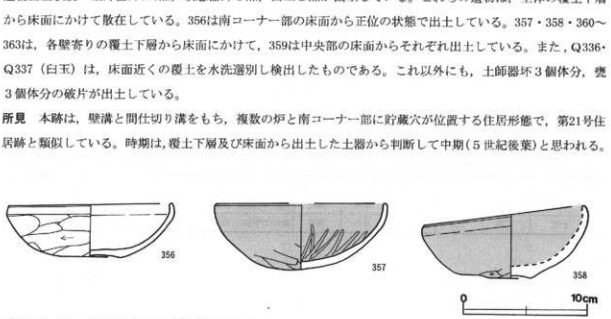
覆土　8層に分層され，不自然に堆積した人為堆積である。

土層解説

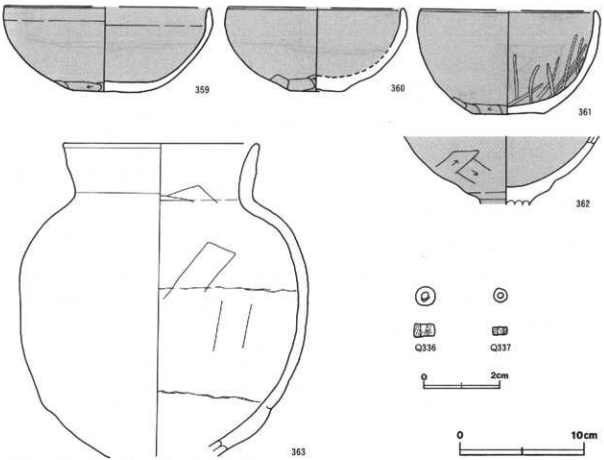
1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物微量
4　褐　色　ロームブロック中量
5　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
6　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片906点，須恵器片1点，白玉2点が出土している。これらの遺物は，全体の覆土下層から床面にかけて散在している。356は南コーナー部の床面から正位の状態で出土している。357・358・360～363は，各壁寄りの覆土下層から床面にかけて，359は中央部の床面からそれぞれ出土している。また，Q336・Q337（白玉）は，床面近くの覆土を水洗選別し検出したものである。これ以外にも，土師器坏3個体分，甕3個体分の破片が出土している。

所見　本跡は，壁溝と間仕切り溝をもち，複数の炉と南コーナー部に貯蔵穴が位置する住居形態で，第21号住居跡と類似している。時期は，覆土下層及び床面から出土した土器から判断して中期(5世紀後葉)と思われる。



第152図　第56号住居跡出土遺物実測図(1)



第153図　第56号住居跡出土遺物実測図(2)

第56号住居跡出土遺物観察表(第152・153図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
356	土師器	坏	13.1	4.5	4.5	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ヘラナデ。	南コーナー部床面	90%
357	土師器	坏	[13.8]	5.4	—	石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	北西壁寄り下層	85%
358	土師器	坏	12.8	6.0	3.3	長石・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面神鏡。	南コーナー部床面	60%
359	土師器	坏	[16.3]	6.7	5.4	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	中央部床面	40%
360	土師器	坏	[13.8]	6.6	3.8	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面神鏡。	北西壁寄り床面	50%
361	土師器	椀	[14.0]	8.2	5.4	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	北西壁寄り下層	40%
362	土師器	高坏	—	(5.5)	—	長石・石英	明赤褐	普通	坏部外面ヘラ削り，内面ナデ。	北東壁際下層	20%
363	土師器	甕	15.6	25.0	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ナデ，内面ヘラナデ・輪積み痕。	北西壁寄り床面	70%　外面煤付着

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q336	臼玉	0.48	0.2	0.4	0.16	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	
Q337	臼玉	0.32	0.15	0.24	0.03	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	覆土	

第57号住居跡（第154・155図）

位置　調査6区南部のD2d8区に位置し，平坦な台地上に立地している。西壁部分だけの確認で，大部分は東側の調査区域外に延びている。

規模と形状　東側部分が調査区域外に延びているため，南北軸6.46m，東西軸は最大で1.12mだけ確認され，主軸方向をN－1°－Eとする方形または長方形と推定される。西壁の壁高は63～74cmで，外傾して立ち上がっている。

床　確認できた部分は平坦で，貯蔵穴の北側がよく踏み固められており，壁溝が巡っている。

ピット　西壁部分のため，主柱穴及び出入り口ピットは確認できなかった。

貯蔵穴　南西コーナー部に位置している。長軸87cm，短軸は80cmだけ確認された方形で，深さ63cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

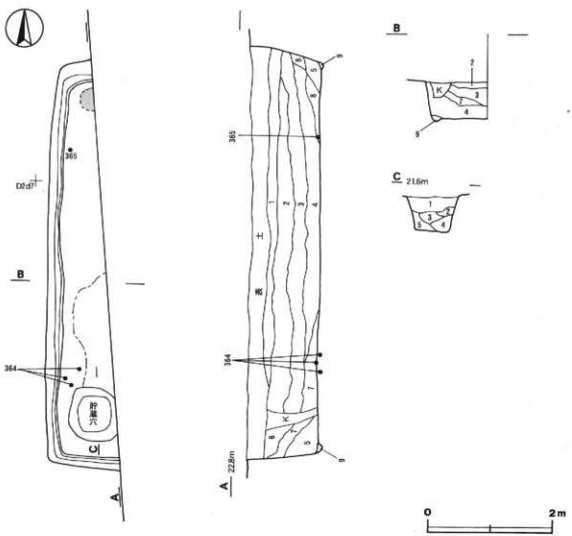
貯蔵穴土層解説

1　黒褐色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック少量

覆土　9層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

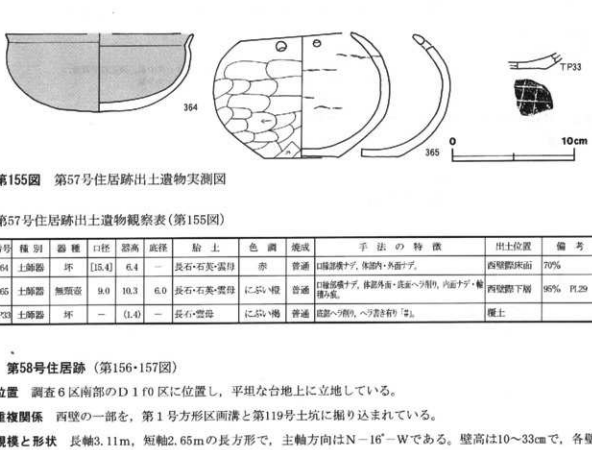
1　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　　色　ロームブロック・焼土粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
9　暗褐色　ロームブロック中量



第154図　第57号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片119点が出土している。これらの遺物は，南西コーナー部の覆土下層から床面にかけて出土している。364は床面から正位の状態で，365は壁際の覆土下層から斜位の状態でそれぞれ出土している。図示した以外にも，土師器甕１個体分の破片が出土している。

所見　本跡は，調査できた西側部分から南西コーナー部に位置する貯蔵穴と壁溝が確認されただけである。時期は，覆土下層及び床面から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第155図　第57号住居跡出土遺物実測図

第57号住居跡出土遺物観察表（第155図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
364	土師器	坏	[15.4]	6.4	—	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ナデ．	西壁際床面	70%
365	土師器	無頸壺	9.0	10.3	6.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底面ヘラ削り，内面ナデ・輪積み痕．	西壁際下層	95%　PL29
TP33	土師器	坏	—	(1.4)	—	長石・雲母	にぶい褐	普通	底部ヘラ削り，ヘラ書き有り「#」．	覆土	

第58号住居跡（第156・157図）

位置　調査６区南部のＤ１f0区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係　西壁の一部を，第１号方形区画溝と第119号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.11m，短軸2.65mの長方形で，主軸方向はＮ－16°－Ｗである。壁高は10～33cmで，各壁とも緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，出入り口付近から中央部にかけてよく踏み固められている。

炉　中央部の東寄りに位置している。長径63cm，短径52cmの楕円形で，床面を３cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け，わずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　Ｐ１は深さ13cmで，南壁際に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。主柱穴の配列を考えて床面と遺構の外側を精査したが，確認できなかった。

ピット土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量　　2　暗褐色　ロームブロック少量

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径53cm，短径43cmの楕円形で，深さ30cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

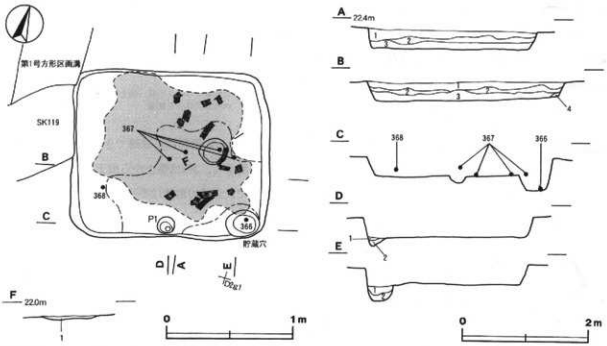
貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　　2　黒褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

覆土　４層に分層される。第１・２層は，焼土粒子や炭化材を多く含む人為堆積である。第３・４層はローム粒子を主体とした自然堆積である。

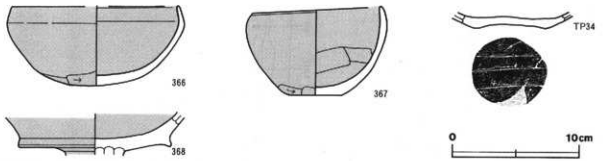
土層解説
1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ロームブロック微量
2　黒褐色　炭化材・焼土ブロック中量，ロームブロック微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片141点が出土している。覆土上層から中層までの遺物は，焼土と炭化材とともに細片の状態で散在している。覆土下層から床面にかけての遺物は，破片の状態で出土している。366は貯蔵穴の底面から，367は床面から，368・ＴＰ34は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，屋外に柱穴を掘り込まない小形の住居跡である。覆土上層から中層までの遺物は，住居廃絶後ある程度埋没したのちに，その窪地を利用して投棄したことが推測される。時期は，床面及び貯蔵穴内から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第156図　第58号住居跡実測図



第157図　第58号住居跡出土遺物実測図

第58号住居跡出土遺物観察表（第157図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
366	土師器	坏	[13.1]	6.2	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ．	貯蔵穴底面	60%
367	土師器	椀	10.2	7.1	4.0	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ヘラナデ．	中央部床面	80%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
368	土師器	高坏	—	(3.3)	—	石英・雲母	赤	普通	坏部内・外面ナデ.	南西コーナー部下層	20%
TP34	土師器	坏	—	(1.4)	—	長石・雲母	黒	普通	底部ヘラ削り・ヘラ書き有り 三。	覆土下層	

第59号住居跡（第158・159図）

位置　調査６区南部のＤ２18区に位置し，平坦な台地上に立地している。北西コーナー部分だけを確認したもので，大部分は東側の調査区域外に延びている。

規模と形状　東側部分が調査区域外に延びているため，西壁は最大で5.54m，北壁は最大で1.53mだけ確認された。形状及び主軸方向は不明である。壁高は31～41cmで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。暗褐色のローム土でややしまりはあるものの，硬化した部分は確認できない。

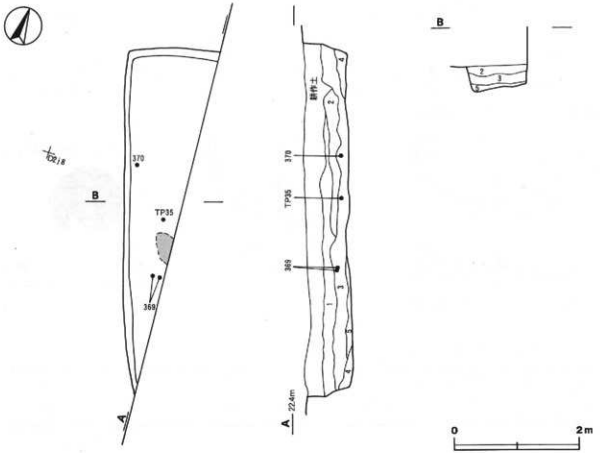
ピット　北西コーナー部のみのため，主柱穴及び出入りロピットは確認できなかった。

覆土　５層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

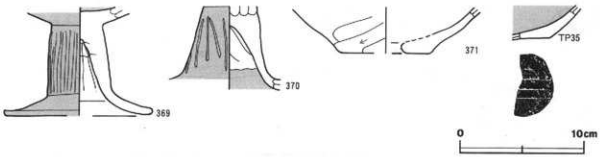
土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
5　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片525点，須恵器片４点が出土している。これらの遺物は，確認できた西壁寄りの覆土下層から床面にかけて出土している。369・370・ＴＰ35は覆土下層から，371は覆土から出土している。

所見　本跡は，北西コーナー部から西壁の一部を確認できたのみで，全体の形状は不明である。時期は，覆土下層から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第158図　第59号住居跡実測図



第159図　第59号住居跡出土遺物実測図

第59号住居跡出土遺物観察表(第159図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
369	土師器	高坏	—	(8.6)	11.7	石英・雲母	にぶい赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ，裾部横ナデ。	西壁寄り下層	20%
370	土師器	高坏	—	(6.8)	—	長石・雲母	赤	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	西壁寄り下層	15%
371	土師器	甕	—	(3.8)	7.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面・底部ヘラ削り，内面ナデ。	覆土	5%
TP35	土師器	坏	—	(2.6)	—	長石・雲母	にぶい褐	普通	底部ヘラ削り・ヘラ書き有り「三」	西壁寄り下層	

第60号住居跡（第160・161図）

位置　調査6区南部のＥ２b8区に位置し，平坦な台地上に立地している。西コーナー部分だけを確認したもので，大部分は東側の調査区域外に延びている。

規模と形状　東側部分が調査区域外に延びているため，南西壁は最大で2.95m，北西壁は最大で2.64mだけ確認された。形状及び主軸方向は不明である。壁高は20cmほどで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　確認できた部分は，ほぼ平坦である。暗褐色のローム土でややしまりはあるものの，硬化した部分は確認できない。

ピット　西コーナー部のみのため，主柱穴及び出入り口ピットは確認できなかった。

貯蔵穴　南西壁際に位置している。長径78cm，短径58cmの楕円形で，深さ42cmである。底面は皿状で，壁は外傾している。

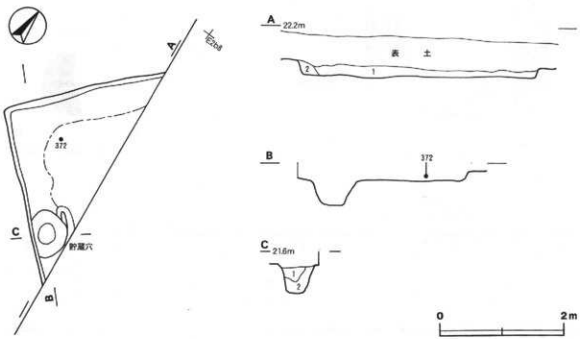
貯蔵穴土層解説
1　極黒褐色　ローム粒子微量　　2　暗褐色　ローム粒子少量

覆土　２層に分層され，ローム粒子を少量から微量含む自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子微量　　2　暗褐色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片151点が出土している。これらの遺物は，覆土下層から床面にかけて出土している。土器は細片が多く，図示できるものはほとんどなかった。372は西コーナー部付近の覆土下層から出土している。

所見　本跡は，西コーナー部と貯蔵穴を確認できたのみで，遺構全体の形状は不明である。時期は，覆土下層から出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第160図　第60号住居跡実測図

第161図　第60号住居跡出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表(第161図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
372	土師器	坏	[14.8]	(4.5)	—	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ナデ。	西コーナー部下層	10%

表3　古墳時代住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸(径)×短軸(径)	壁高 (cm)	床面	焼土	内部施設 主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時期	備考 (旧→新)
1	B3f4	N-13°-W	方形	10.22 × 10.04	15～24	平坦	—	3	—	—	炉1	1	自然	土師器(坏・椀・甕),須恵器(鉢・壺手付瓶),石玉,石製紡錘車,砥石,鏃	5世紀後葉	本跡→SK2
2	C4c4	N-7°-E	長方形	6.33 × 4.52	21～35	平坦	—	3	—	—	炉3	1	自・人	土師器(坏・椀・甕),石玉,砥石,炭化米,炭化種子(DL)	5世紀後葉	
3	C3e0	N-6°-E	長方形	5.6 × 4.36	15～19	平坦	—	—	1	—	炉2	1	自然	土師器(坏・壺),須恵器(甕),管玉	5世紀後葉	
4	C4d2	N-12°-E	方形	5.8 × 5.8	29～34	平坦	一部	4	1	—	炉2	1	人為	土師器(坏・鉢),石玉,ガラス小玉,砥石,炭化米	5世紀後葉	
5	C3f2	N-22°-E	長方形	5.52 × 4.36	16～20	平坦	—	—	—	—	炉2	—	自然	土師器(坏・甕),須恵器(甕),石玉	5世紀後葉	本跡→SK3
6	A5f0	[N-11°-E]	方形	4.08 × (2.23)	27～35	平坦	—	—	—	—	炉1	1	自然	土師器(壺・甕・鉢),砥石	5世紀後葉	
7	B3e7	N-32°-W	長方形	3.36 × 2.68	10～21	平坦	—	—	—	—	炉1	—	自然	土師器(坏・壺)	5世紀後葉	
8	C4a2	[N-28°-W]	風袋状	(5.96) × (5.5)	—	—	部分的	—	—	—	—	—	—	土師器(壺・甕)	5世紀後葉カ	
9	C3g9	N-28°-W	長方形	6.89 × 5.86	17～35	平坦	—	4	1	—	炉1	1	自然	土師器(坏・鉢・甕),須恵器(甕),石玉,石製紡錘車,砥石	5世紀後葉	本跡→SK4
10	B4i6	N-2°-W	方形	6.02 × 5.99	14～27	平坦	—	4	—	—	炉1	1	人為	土師器(坏・甕・壺・鉢),石玉,双孔円板,砥石	5世紀後葉	
11	C4f7	N-1°-W	方形	7.55 × 7.28	26～44	平坦	—	4	1	—	炉3	3	自然	土師器(坏・椀・高坏・壺・小形甕・甕),石玉,ガラス小玉	5世紀後葉	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸(m)×短軸(m)	深さ(m)	床面	壁面	内部施設 土坑	柱穴	炉	外部施設	埋土	出土遺物	時期	備考 (17→新)
13	C4j5	N 39° W	長方形	4.55 × 3.58	4～9	平坦	—	-			炉1	1	人為	土師器(坏・甕・鉢)、石工	5世紀後葉	本跡→SK35
14	C3j9	N-27°-E	長方形	3.42 × 2.47	12～19	平坦				—	炉1	1	人為	土師器(坏・鉢・壺・甕)、須恵器	5世紀後葉	
15	D4k6	N 27°-W	長方形	5.71 × 4.32	21～25	凹凸	—	—		2	炉3	2	自然	土師器(坏・椀・甕・鉢)、須恵器(椀)、石製品(剥片)	5世紀後葉	
16	C4k2	N-64°-W	長方形	6.96 × 5.3	20～30	平坦		4	—	—	炉1	1	人為	土師器(坏・椀・壺・甕)、須恵器(坏)、石工	5世紀後葉	
17	C4l6	N 4°-E	方形	3.05 × 2.71	8～9	平坦	—	—	1		炉1	1	人為	土師器(甕)	5世紀後葉	
18	D4n9	N-4°-W	方形	3.54 × 3.24	14～34	平坦		4	1	—	炉2	1	自然	土師器(坏・椀・高坏)、須恵器(甕)、石工、石製品(剥片)	5世紀後葉	
19	D5h1	N-18°-W	長方形	4.62 × 3.13	6～16	平坦			—	2	—	1	自然	土師器(坏・椀・壺)、石工、須恵器(甕)、須恵器	5世紀後葉	
20	D3f9	N-8°-E	方形	9.99 × 9.96	43～64	平坦	全周	4	1	2	炉4	1	自然	土師器(坏・甕)、須恵器(坏)、鉄製品(刀子)、石工、石製品(砥石)、須恵器	5世紀後葉	SK19→本跡
21	D5f2	N-9°-W	長方形	5.78 × 4.35	22～40	平坦				—	炉2	1	自然	土師器(坏)、須恵器(甕)、須恵器	5世紀後葉	
22	E5c2	N-19° W	長方形	5.66 × 2.32	34～41	平坦	—	—	1	—	炉1	1	自然	土師器(坏・椀)、須恵器(椀・鉢)、石工、石製品、鉄滓	5世紀後葉	
23	E4d2	N-9° W	方形	6.64 × 2.58	44～54	平坦	一部	4	—	3	炉3	—	自・人	土師器(坏・椀・壺)、石工、須恵器(坏)、ガラス小玉、鉄片、滓	5世紀後葉	本跡→SK37
26	E4g6	N-2° W	方形	6.88 × 6.65	35～63	平坦	一部	4	1	—	炉1	1	自・人	土師器(坏・椀・甕・鉢)、石工	5世紀後葉	
27	E4j6	N 30° W	長方形	6.43 × 5.33	19～24	平坦	凹凸	4	1	—	炉1	1	人為	土師器(坏・椀・高坏・甕・鉢)、須恵器(坏)、刀子、鉄化木	5世紀後葉	
28	E4j8	N 14° W	方形	2.96 × 2.65	9～23	平坦		—	—	—	炉1	—	人為	土師器(椀・小形椀)	5世紀後葉	
29	F4h6	N-16°-W	長方形	3.4 × 2.61	8～14	平坦		—	—	1	2	炉1	2	人為	土師器(坏・壺・甕)	5世紀後葉	
30	F4c7	N-22°-W	方形	7.96 × 7.7	30～45	平坦	一部	4	1	2	炉2	1	自・人	土師器(坏・高坏・椀・鉢)、須恵器(坏)、石工、石製品、鉄滓	5世紀後葉	本跡→SK34 49
31	F4d5	N 9° W	長方形	3.33 × 2.39	8～11	平坦		—	—	—	竈1	—	自然	土師器(椀・甕)	6世紀後半	
32	F4d0	N-18°-W	長方形	3.74 × 3.12	5～12	平坦		—	2	1	炉2	2	自然	土師器(坏・甕)	5世紀後葉	
33	H4d0	N 19° W	方形	4.62 × 4.8	42～57	平坦	一部	4	1	—	竈1	—	自・人	土師器(坏・高坏・小形椀)、須恵器(小瓶)、石工、石製品	6世紀後半	
34	H4f1	N 3° E	長方形	3.99 × 3.44	44～55	平坦	—	—	1	1	炉1	1	自然	土師器(坏・高坏・壺・甕)	5世紀後葉	
35	H3g6	N-16°-W	方形	5.62 × 4.87	43～75	平坦	一部	4	2	1	炉2	3	自・人	土師器(坏・椀)、須恵器(坏)、石工、石製品(剥片)、鉄滓、鉄化木	5世紀後葉	
36	H4f1	N 15° W	長方形	3.40 × 3.38	32～42	平坦	—	—	—	—	竈1	—	自然	土師器(坏・甕)、支脚	6世紀後半	
37	H4h1	N 27° W	長方形	6.39 × 4.31	12～21	平坦	一部	5	2	—	竈1	1	自然	土師器(坏・高坏・椀・甕)、須恵器(坏・壺・小壺)、支脚、土錘	6世紀後半	
38	H3h6	N 46° W	方形	4.3 × 4.17	48～60	平坦	凹凸	4	1	—	竈1	—	自然	土師器(坏・椀・甕)、須恵器(甕)	6世紀後半	本跡→SK04
39	H4g1	N 13° W	方形	9.4 × 8.56	40～60	平坦	全周	4	1	—	3	—	自然	土師器(坏・椀・甕)、鉄	6世紀後半	本跡→SK05 SK07 SK31～7
40	I3e4	N 21° W	方形	5.93 × 5.85	47～55	平坦	凹凸	4	2	1	竈1	—	自然	土師器(坏・壺・鉢)	6世紀後半	本跡→SK7
41	G3j9	N 25° W	長方形	6.91 × 4.62	55～60	平坦	凹凸	3	1	2	竈1	1	自然	土師器(坏・鉢・高坏・椀・小形壺・甕)、石工	6世紀後半	
42	G3h8	N 29° W	方形	3.41 × 3.08	52～62	平坦	全周	4	1	2	炉1	2	自然	土師器(坏・高坏・椀)、須恵器(椀)、石工、石製品、鉄滓、鉄化木	5世紀後葉	本跡→SK13
43	C1u0	不明	不明	現存幅 × 推定幅 (2.35) × (2.5)	4	平坦	—				—	—	自然	土師器(坏・甕)	古墳時代中期か	
44	G3j5	不明	不明	4.98 × 4.86	19	平坦	—	—	—	—	1	炉1	一不明	土師器(椀)	5世紀後葉	
45	H3e0	N-24° W	長方形	2.96 × 1.86	10	平坦	—	—		—	1	竈1	自然	土師器(椀・鉢)、支脚	6世紀後半	
46	G4i1	N-8° W	長方形	3.45 × 1.57	8	平坦	—	—	—		炉1		人為	土師器(坏・鉢)、石工	5世紀後葉	
47	G2f9	N-36° W	方形	7.86 × 7.82	22～46	平坦	凹凸	4	1	1	炉1	1	人為	土師器(坏・高坏・椀)、須恵器(坏)、石工、石製品	5世紀後葉	
48	G3e1	N-28° W	長方形	3.68 × 1.65	4	平坦	—	—	—	—	炉1	1	自然	土師器(坏)	5世紀後葉	本跡→SK12
49	B1f9	N 4° W	長方形	4.54 × 0.76	6～9	平坦	—	—	—	—	—	—	自然	土師器(坏)	5世紀後葉か	
50	C2c2	N 28° W	方形	10.22 × 10.11	17～39	平坦	凹凸	3	—	—	炉1	1	人為	土師器(坏・椀)、石工、石製品	5世紀後葉	
51	C2i2	N 13° W	長方形	7.5 × 5.56	40～50	平坦	—	4	—	—	炉1	1	自・人	土師器(坏・甕・壺・鉢)、石工、ガラス小玉	5世紀後葉	
52	C1f8	N-7° W	長方形	5.18 × 2.64	8～14	平坦	—	—	—	—	炉1	1	自然	土師器(坏・椀・小形椀)、須恵器(壺)、石工	5世紀後葉	本跡→SK09
53	D2b1	N-2°-E	長方形	6.23 × 5.23	30～37	平坦			1	—	炉1	1	自然	土師器(坏・椀・高坏・壺・小形壺)	5世紀後葉	本跡→SK02
54	D2a3	N-16° W	長方形	2.9 × 2.84	19～21	平坦	—	—	—		炉1	—	人為	土師器(坏・壺・甕・鉢)	5世紀後葉	
55	D2e6	N 19° W	方形	4.45 × 4.27	15～18	平坦	—	—	—	1	炉2	2	人為	土師器(坏・椀・高坏・壺・鉢)、須恵器(椀)、石製品、刀子	5世紀後葉	
56	D2d6	N 38° W	方形	7.82 × 7.32	23～38	平坦	全周	4	1	2	炉4	1	人為	土師器(坏・椀・高坏・壺)、石工	5世紀後葉	
57	D2d8	N-1° W	長方形	6.46 × 4.12	63～74	平坦	一部	—	—	—	—	1	自然	土師器(坏・椀・鉢)、須恵器	5世紀後葉	
58	D1f9	N 16° W	長方形	3.11 × 2.65	10～33	平坦	—	—	1	—	炉1	1	自・人	土師器(坏・椀・高坏)	5世紀後葉	本跡→SK10 SK18 SK20 SK21
59	D2f8	不明	不明	現存幅 × 推定幅 (5.55) × (3.55)	31～41	平坦					—	—	自然	土師器(坏・高坏・椀)	5世紀後葉	
60	E2f8	不明	不明	現存幅 × 推定幅 (2.05) × (2.45)	20	平坦				—	—	—	自然	土師器(坏)	5世紀後葉	

（2）方形周溝墓

第１号方形周溝墓（第162・163図）

位置　調査５区南部のＨ３g3区を中心に位置し，西側に西谷田川を望む平坦な台地の緩辺部に立地している。東側に第２・３号方形周溝墓が隣接している。

規模と形状　北側半分は撹乱を受けている。周溝を含めた規模は，東西方向9.72m，南北方向は最大で5.24m，主軸方向はＮ－25°－Ｗである。方台部は，東西方向8.32m，南北方向は最大で4.2mで，方形と推定される。方台部の南東・南西部及び西溝は，重機等による撹乱を受けている。また，主体部は確認できなかった。

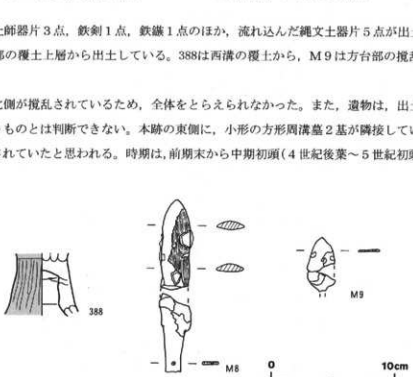
周溝　周溝は，方台部に沿って巡っている。周溝の幅は，上幅58～106cm，下幅49～64cmである。深さは東溝・南溝が25～30cmであるのに対して，西溝は40～54cmと，東溝・南溝と比べて深く掘り込まれている。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。覆土は６層からなり，ローム粒子を主体とした自然堆積と思われる。

周溝土層解説

1　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック少量
6　暗褐色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片３点，鉄剣１点，鉄鏃１点のほか，流れ込んだ縄文土器片５点が出土している。Ｍ８は南西コーナー部の覆土上層から出土している。388は西溝の覆土から，Ｍ９は方台部の撹乱から出土したものである。

所見　本跡は，北側が撹乱されているため，全体をとらえられなかった。また，遺物は，出土位置等から考えると，確実に伴うものとは判断できない。本跡の東側に，小形の方形周溝墓２基が隣接していることから，３基で墓域が形成されていたと思われる。時期は，前期末から中期初頭（４世紀後葉～５世紀初頭）と考えられる。

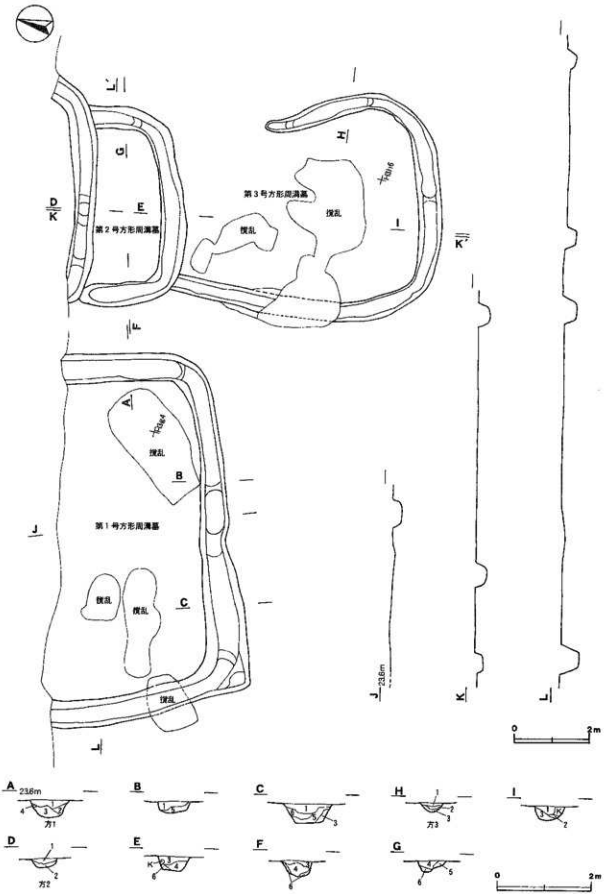


第162図　第１号方形周溝墓出土遺物実測図

第1号方形周溝墓遺物観察表（第162図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
388	土師器	高坏	－	(5.1)	－	石英・雲母	赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ナデ・輪積み痕。	西溝内	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M8	剣	[13.9]	2.8	(重ね)0.7	(32.4)	鉄	刀身部一部欠損。両關有，刀身部に木質付着。	南西コーナー部上層	PL32
M9	鏃	(4.5)	2.3	0.2	(2.8)	鉄	柳葉式。鏃身一部及び茎被部欠損。	方台部撹乱部分	



第163図　第1・2・3号方形周溝墓実測図

第２号方形周溝墓（第163図）

位置　調査５区南部のH３f5区を中心に位置し，西側に西谷田川を望む平坦な台地の縁辺部に立地している。南側の第３号方形周溝墓と周溝が結合し，西側の第１号方形周溝墓と隣接している。

規模と形状　北側は撹乱を受けている。東西方向5.32m，南北方向は最大3.02mで，主軸方向はN－16°－Wと推定される。方台部は，東西方向4.06m，南北方向1.8mの長方形である。主体部は確認できなかった。

周溝　北側が撹乱されているため明確ではないが，周溝は２条確認されている。北溝の南東コーナー部は，北側に向かって延びている。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。北溝の幅は，上幅52～68cm，下幅30～38cm，深さは15～28cmである。南溝は，方台部に沿ってコの字状に巡り北溝と連結している。南溝の幅は，上幅50～67cm，下幅26～40cmで，深さは30～35cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。第１・２層は北溝，第３～６層は南溝の覆土で，ローム粒子を主体とした自然堆積と思われる。

周溝土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック少量
5　褐　色　ロームブロック中量
6　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　後世の流れ込みの縄文土器片２点，土師器片４点が出土し，本跡に伴う遺物は出土していない。

所見　本跡の南側と北西側に同時期とみられる方形周溝墓が隣接していることから，墓域が形成されていたと思われる。時期は，前期末から中期初頭（４世紀後葉～５世紀初頭）と考えられる。

第３号方形周溝墓（第163図）

位置　調査５区南部のH３g4区を中心に位置し，西側に西谷田川を望む平坦な台地の縁辺部に立地している。北側の第２号方形周溝墓と周溝が接し，西側の第１号方形周溝墓と隣接している。

規模と形状　東西方向6.03m，南北方向6.78mの隅丸長方形で，主軸方向はN－17°－Wである。方台部は，東西方向4.92m，南北方向6.14mである。方台部の中央部や西溝には，木の根による撹乱があり，主体部は確認できなかった。

周溝　西溝は第２号方形周溝墓の周溝と連結し，東溝は南東コーナー部から3.42mほど延び，緩やかに立ち上がっている。幅は，上幅40～62cm，下幅25～38cmで，深さは21～33cmである。東溝の底面は皿状で，壁は緩やかに立ち上がっている。南溝・西溝の底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。覆土は３層からなり，ローム粒子を主体とした自然堆積と思われる。

周溝土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片３点，土師器片４点が出土している。いずれも後世の流れ込みとみられ，本跡に伴う遺物は出土していない。

所見　本跡の北側と西側に同時期とみられる方形周溝墓が隣接していることから，墓域が形成されていたと思われる。時期は，前期末から中期初頭（４世紀後葉～５世紀初頭）と考えられる。

表４　方形周溝墓一覧表

番号	位置	主軸方向	外径(m) 東西×南北	方台部(m) 東西×南北	周溝	壁面	深さ(cm)	主な出土遺物	備考 (時期・新→旧)
1	H３g3	N－25°－W	9.72×(5.24)	8.32×(4.2)	[全周]	外傾	25～54	鉄剣，鉄鏃	古墳前期末～中期初頭
2	H３f5	N－16°－W	5.32×(3.02)	4.06×(1.8)	[全周]	外傾	15～35		古墳前期末～中期初頭
3	H３g4	N－17°－W	6.03×6.78	4.92×6.14	一部全周	緩斜	21～33		古墳前期末～中期初頭

（3）古　墳

第1号墳（第164・165図）

位置　調査6区南部のD2g3区を中心に位置している。西側に西谷田川を望む平坦な台地の縁辺部に立地している。

重複関係　第32・135号土坑の南壁側を掘り込み，第133号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　東西方向13.9m，南北方向12.7mの方墳で，主軸方向はN－0°である。方台部は，東西方向10.9m，南北方向10.8mの方形である。現況は籠藪であったが，以前に畑地として耕作されていたため墳丘は削平されていた。

周溝　周溝は，方台部に沿って全周している。幅は，上幅110～158cm，下幅64～96cmで，深さは27～34cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる逆台形を呈している。覆土は5層からなり，ローム粒子を主体とした自然堆積と思われる。

周溝土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子中量
4　黒褐色　ロームブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

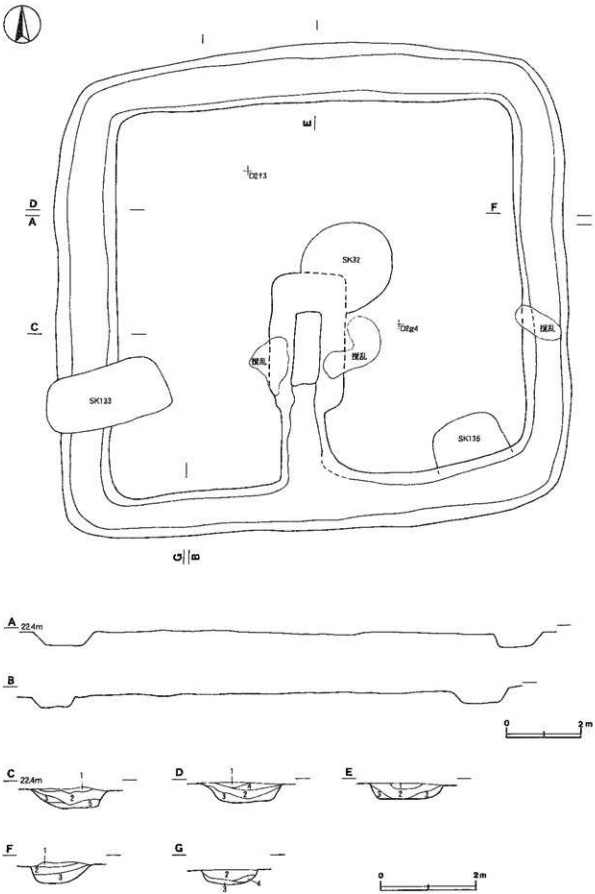
埋葬施設　埋葬施設は横穴式石室で，方台部の中央部からやや南側に位置している。遺構確認の際に，埋葬施設部分の上面から南側周溝部にかけて，石室に使用したと考えられる雲母片岩の板石が散乱していた。側壁部分の東側と西側には掘乱された痕があり，板石はすべて抜き取られていたことから，盗掘や耕作によるものとみられる。よって，埋葬施設の板石の配置は不明であるが，側壁の石を掘った掘り方とみられる方形の溝を確認した。溝の幅は，22～27cm で，深さは10～15cmのU字状を呈している。側壁に位置する部分からは，雲母片岩の破片や裏込めの粘土塊が確認されている。石を掘った掘り方を含めた規模は，外法で長さ2.48m，幅1.16mである。玄室は長さ1.83m，幅0.65mの長方形で，底面は平坦でローム土をそのまま使用している。羨道は長さ1.86m，上幅85cm，下幅60cmで周溝まで延びている。掘り方は，確認面で長さ3.52m，幅1.98mの長方形で，深さ55cmである。また，遺存する北西側の形状から，幅34cm，深さ25cmのテラス状の段をもち，さらに30cmほどに掘り下げて側壁を設置していたと考えられる。

埋葬施設土層解説

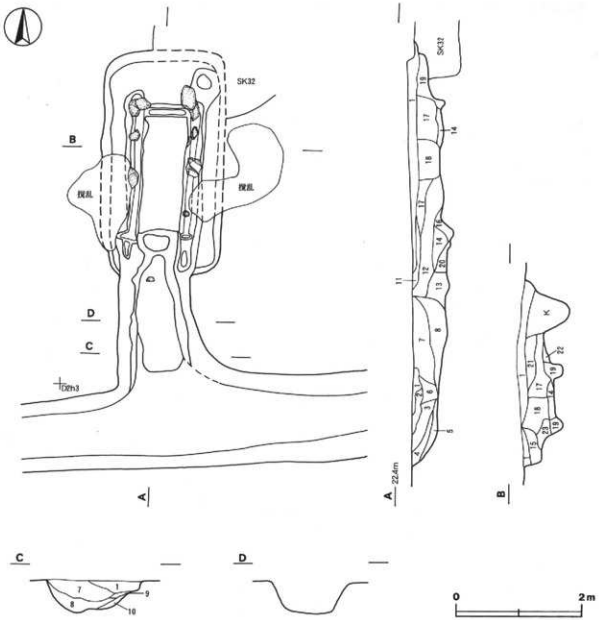
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子・粘土粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，粘土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子中量
6　黒褐色　ロームブロック・粘土粒子少量
7　黒褐色　ロームブロック少量
8　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子少量
9　暗褐色　ローム粒子微量
10　暗褐色　ロームブロック少量
11　暗褐色　粘土粒子中量，ロームブロック微量
12　黒褐色　ロームブロック・粘土粒子微量
13　黒褐色　ロームブロック・粘土粒子微量
14　黒褐色　ロームブロック・粘土粒子少量
15　暗褐色　ロームブロック・粘土粒子少量
16　暗褐色　ロームブロック少量
17　黒褐色　粘土粒子中量，ロームブロック少量
18　黒褐色　ロームブロック微量
19　暗褐色　ローム粒子少量，粘土粒子微量
20　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子少量
21　暗褐色　ローム粒子少量
22　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子中量
23　黒褐色　ロームブロック少量，粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片2,023点，雲母片岩片29点，白玉4点，双孔円板1点が出土している。本墳に伴う遺物は，散在している雲母片岩片のみである。埋葬施設内の覆土を水洗選別し，白玉4点を検出したが，撹乱されたときの流れ込みと考えられる。

所見　本墳は，横穴式石室の埋葬施設をもつ一辺13mほどの方墳である。時期を決定する出土遺物はないが，古墳の形態や横穴式石室の規模から考えて，7世紀末頃と推定される。



第164図　第1号墳実測図



第165図　第１号墳主体部実測図

（4）土　坑

第５号土坑（第166図）

位置　調査２区西部のＢ３ｊ9区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係　北壁側を第１号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　径4.5mほどの円形で，深さは84cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。南側の壁際に長径45cm，短径33cmの楕円形で，深さ24cmのピットが掘り込まれている。

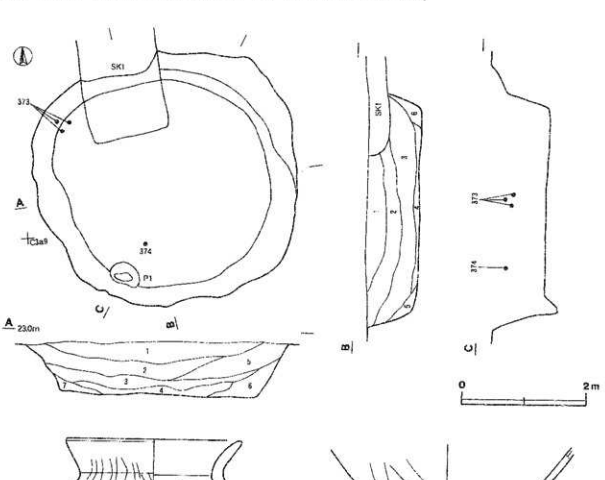
覆土　６層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

1　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　黒　　色　ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒 褐 色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子中量
5　暗 褐 色　ローム粒子少量
6　暗 褐 色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片159点，礫１点のほか，流れ込んだ縄文土器片４点が出土している。これらの遺物は，覆土中層から下層にかけて投棄された状態で出土している。373・374は覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第166図　第５号土坑・出土遺物実測図

第５号土坑出土遺物観察表（第166図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
373	土師器	高杯		(6.9)	－	長石・雲母	赤	普通	体部外面ヘラケズリ，内面ナデ．	南壁際中層	15%
374	土師器	壺	14.0	(11.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ．	中央部中層	15%

第６号土坑（第167図）

位置　調査２区東部のＡ５d7区に位置し，平坦な台地上に立地している。

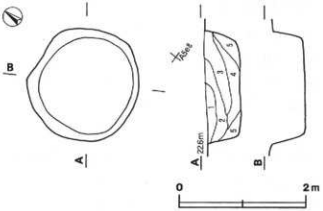
規模と形状　径1.79mほどの円形で，深さは54cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　５層に分層され，ローム・ブロックを多く含んだ人為堆積である。

土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
3　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
4　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物微量

遺物出土状況　土師器片55点，礫２点が出土している。これらの遺物は覆土下層から出土し，甕の破片がほとんどである。いずれも細片で図示できなかった。

所見　時期は，出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第167図　第６号土坑実測図

第14号土坑（第168図）

位置　調査２区西部のＣ３b7区に位置し，平坦な台地上に立地している。また，第20号土坑と隣接している。

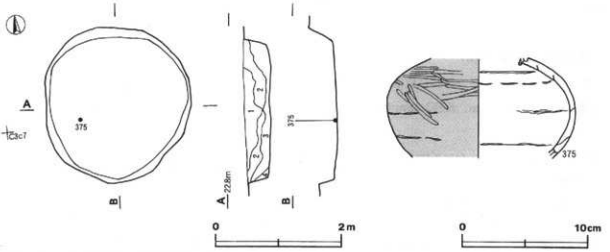
規模と形状　長径2.48m，短径2.3mほどの円形で，深さは42㎝である。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　４層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説
1　黒 褐 色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子少量
4　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片15点のほか，流れ込んだ縄文土器片17点が出土している。これらの遺物は，覆土下層から底面にかけて出土している。375は底面から破片の状態で出土している。

所見　時期は，出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第168図　第14号土坑・出土遺物実測図

第14号土坑出土遺物観察表（第168図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
375	土師器	壺	—	(8.0)	—	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ナデ，内・外面輪積み痕。	西壁寄り底面	30%

第19号土坑（第169図）

位置　調査２区西部のＣ３d9区に位置し，平坦な台地上に立地している。

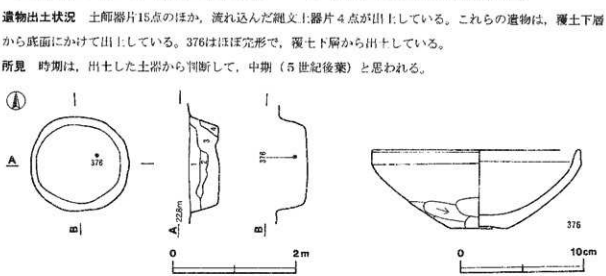
規模と形状　径1.56mほどの円形で，深さは50cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　４層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説
1　淡褐色　ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
4　褐色　ローム ブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片15点のほか，流れ込んだ縄文土器片４点が出土している。これらの遺物は，覆土下層から底面にかけて出土している。376はほぼ完形で，覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第169図　第19号土坑・出土遺物実測図

第19号土坑出土遺物観察表（第169図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
376	土師器	坏	16.9	6.4	4.6	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ナデ。	底壁寄り下層	90%

第20号土坑（第170図）

位置　調査２区西部のＣ３c8区に位置し，平坦な台地上に立地している。また，第14号土坑と隣接している。

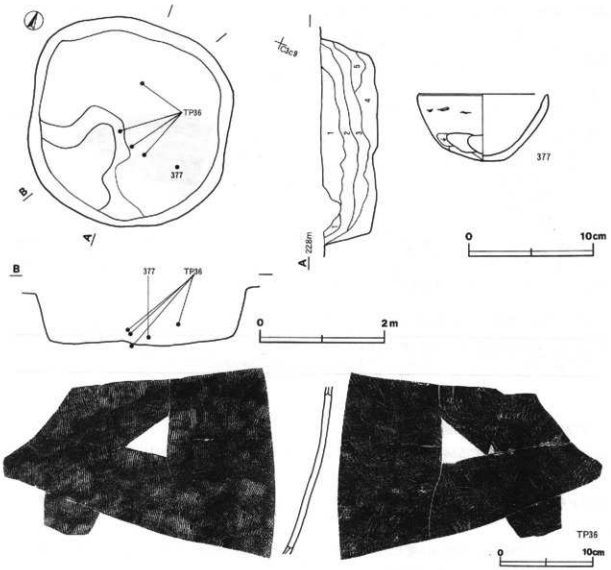
規模と形状　長径3.34m，短径3.15mのほぼ円形で，深さは88cmである。底面はやや凹凸で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　５層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説
1　黒　色　ローム ブロック少量
2　黒褐色　ローム ブロック少量，焼土ブロック微量
3　暗褐色　ローム ブロック少量
4　褐　色　ローム粒子中量
5　黒褐色　ローム ブロック微量

遺物出土状況　土師器片９点，須恵器片５点が出土している。これらの遺物は，覆土中層からまとまって出土していることから，投棄されたとみられる。377はほぼ完形で，ＴＰ36は破片の状態で出土している。

所見　時期は，出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第170図　第20号土坑・出土遺物実測図

第20号土坑出土遺物観察表（第170図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
377	土師器	小形椀	10.3	5.4	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り・輪積み痕，内面ナデ。	東壁寄り中層	90%
TP36	須恵器	甕	—	(17.6)	—	長石	灰オリーブ	良好	外面胴部の平行叩き，内面同心円状の当て具痕。	中央部中層	

第47号土坑（第171図）

位置　調査２区中央部のＤ４c3区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　長軸0.96m，短軸0.82mの不定形で，長軸方向はＮ－56°－Ｗである。深さは46cmで，底面はやや皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

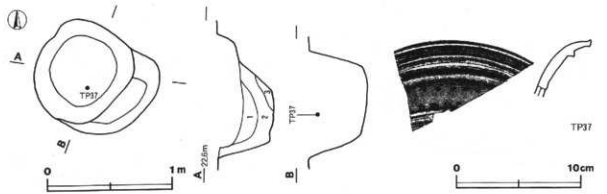
覆土　３層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片５点，須恵器片３点が出土している。これらの遺物は，覆土中層から底面にかけて破片が重なった状態で出土している。ＴＰ37は覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第171図　第47号土坑・出土遺物実測図

第47号土坑出土遺物観察表（第171図）

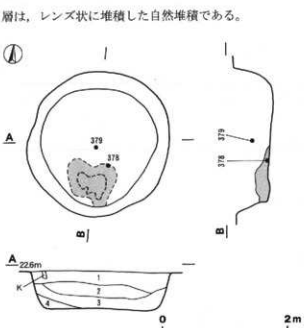
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP37	須恵器	甕	—	(4.5)	—	長石	灰	良好	頸部に15本の櫛歯状工具による波状文。	中央部中層	

第52号土坑（第172・173図）

位置　調査２区東部のＣ５h6区に位置し，平坦な台地上に立地している。第60・64号土坑は，半径５ｍほどの位置に隣接している。

規模と形状　長径2.36ｍ，短径2.22ｍのほぼ円形で，深さは60cmである。底面はやや中凹で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　４層に分層され，第３層は焼土ブロックを中量含み，土器が含まれていることから人為堆積，第１・２層は，レンズ状に堆積した自然堆積である。

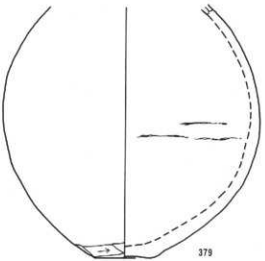


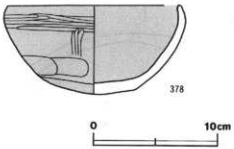
土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　極暗褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
4　暗褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片18点のほか，流れ込んだ縄文土器片１点が出土している。これらの遺物は，覆土下層から底面にかけて出土している。南壁際に焼土が堆積し，同じ層位に土器が含まれていることから投棄されたものとみられる。378は正位の状態，379は破片の状態で覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。

第172図　第52号土坑実測図





第173図　第52号土坑出土遺物実測図

第52号土坑出土遺物観察表（第173図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
378	土師器	椀	13.8	7.1	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面上位ヘラ磨き，下位ヘラ削り，内面ナデ。	中央部下層	95%　Pl.29
379	土師器	甕	－	(26.8)	6.2	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ナデ，下位ヘラ削り，内面刷毛・輪積み痕。	中央部下層	70% 外面煤付着

第60号土坑（第174図）

位置　調査２区東部のＣ５h4区に位置し，平坦な台地上に立地している。第52・64号土坑とは，半径５ｍほどの位置に隣接している。

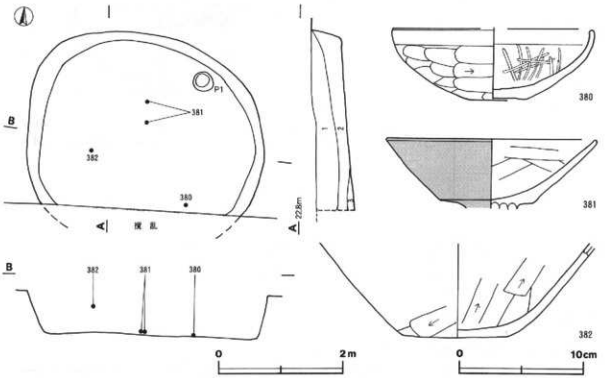
規模と形状　南壁側は攪乱を受けているため，径3.8ｍほどの円形と推定され，深さは70cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。北側の壁際に，径32cmほどの円形で，深さ15cmのピットが掘り込まれている。

覆土　３層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　黒褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片100点，礫１点のほか，流れ込んだ縄文土器片３点が出土している。これらの遺物は，覆土中層から底面にかけて破片が散在した状態で出土している。380は正位の状態，381は破片の状態で底面から出土している。382は覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第174図　第60号土坑・出土遺物実測図

第60号土坑出土遺物観察表（第174図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
380	土師器	坏	[16.2]	5.7	4.5	石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部へラ削り，内面へラ磨き。	中央部底面	60%
381	土師器	高坏	16.7	(5.6)	—	長石・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，坏部外面ナデ，内面へラナデ。	中央部底面	50%
382	土師器	甕	—	(7.6)	8.8	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部内・外面・底部へラ削り。	中央部中層	35%

第64号土坑（第175図）

位置　調査２区東部のＣ５i5区に位置し，平坦な台地上に立地している。第52・60号土坑が，半径５ｍほどの位置に隣接している。

規模と形状　北壁側は撹乱を受けているため，径３ｍほどの円形と推定され，深さは36cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。東側の壁際に長径44cm，短径38cmの楕円形で，深さ13cmのピットが掘り込まれている。

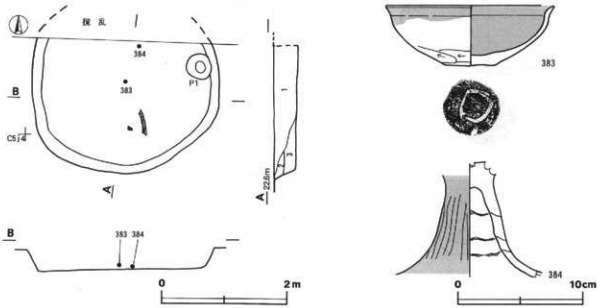
覆土　３層に分層され，ローム粒子を主体とした自然堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片17点のほか，流れ込んだ縄文土器片６点が出土している。これらの遺物は，覆土下層から底面にかけて出土している。383は正位の状態，384は破片の状態で底面から出土している。

所見　時期は，出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第175図　第64号土坑・出土遺物実測図

第64号土坑出土遺物観察表(第175図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
383	土師器	坏	13.4	4.9	3.8	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部横ナデ,体部外面・底部ヘラ削り有り「○」	中央部底面	80%
384	土師器	高坏	—	(9.5)	—	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き,内面ナデ・輪積み痕.	中央部底面	30%

第117号土坑（第176・177図）

位置　調査６区南部のＤ２d5 区に位置し，平坦な台地上に立地している。

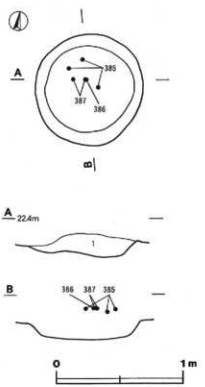
規模と形状　径0.88mほどの円形で，深さは14cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　ロームブロックを主体とした単一層である。

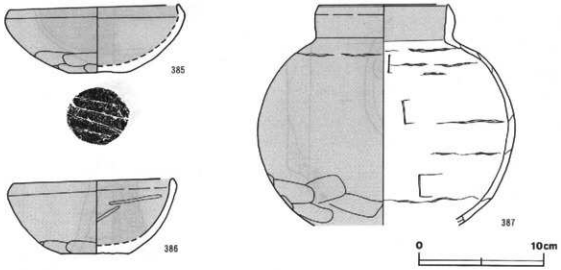
土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片124点，須恵器片１点が出土している。385～387は，破片が重なり合う状態で，覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。



第176図　第117号土坑実測図



第177図　第117号土坑出土遺物実測図

第117号土坑出土遺物観察表(第177図)

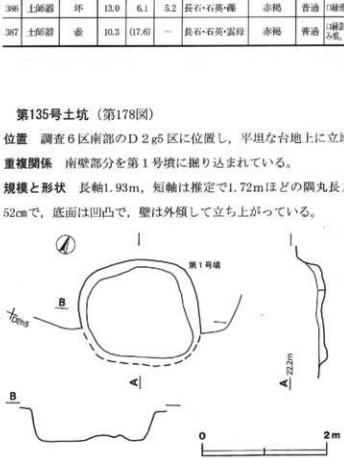
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
385	土師器	坏	13.5	5.4	4.4	長石・石英	暗赤	普通	体部外面ヘラ削り，内面沈線，底部ヘラ書き『山』	覆土上層	80%
386	土師器	坏	13.0	6.1	5.2	長石・石英・雲	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面・底部ヘラ削り，内面ヘラ磨き	覆土上層	75%
387	土師器	壺	10.3	(17.6)	—	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ・輪積み痕	覆土上層	40%

第135号土坑（第178図）

位置　調査６区南部のＤ２g5区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係　南壁部分を第１号墳に掘り込まれている。

規模と形状　長軸1.93m，短軸は推定で1.72mほどの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－60°－Ｅである。深さは52cmで，底面は凹凸で，壁は外傾して立ち上がっている。



第178図　第135号土坑実測図

覆土　上面は削平され，確認できたのは最下層だけである。

土層解説
1　暗褐色　ローム・ブロック少量

遺物出土状況　土師器片９点が出土している。これらの遺物は，覆土下層から底面にかけて出土している。甕の破片や赤彩された坏の破片で，いずれも細片のため図示できなかった。

所見　時期は，出土した土器から判断して，中期（５世紀後葉）と思われる。

第136号土坑（第179図）

位置　調査6区北部のD2a5区に位置し，平坦な台地上に立地している。

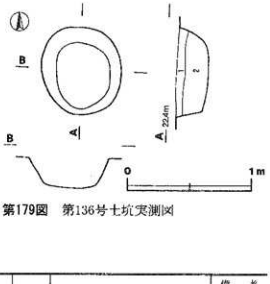
規模と形状　長径0.7m，短径0.64mのほぼ円形で，深さは24cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　2層に分層され，ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片36点が出土している。これらの遺物は，覆土下層から底面にかけて出土している。いずれも甕の破片で，細片のため図示できなかった。

所見　時期は，出土した土器から判断して，中期（5世紀後葉）と思われる。



第179図　第136号土坑実測図

表5　古墳時代土坑一覧表

番号	位置	長軸方向（長軸方向）	平面形	規模(m) 長軸(m)×短軸(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考（時期・新→古）
5	B3a9	—	円形	4.48 × 4.46	84	外傾	平坦	自然	土師器（高杯・壺）	5世紀後葉 本跡→SK1
6	A5d7		円形	1.79 × 1.75	54	外傾	平坦	人為	礫	5世紀後葉
14	C3b7	—	円形	2.48 × 2.3	42	外傾	平坦	自然	土師器（壺）	5世紀後葉
19	C3d9	—	円形	1.56 × 1.52	50	外傾	平坦	自然	土師器（甕）	5世紀後葉
20	C3e8		円形	3.34 × 3.15	88	外傾	凹凸	自然	土師器（小形鉢），須恵器（甕）	5世紀後葉
47	D4c3	N−56°−W	不定形	0.96 × 0.82	46	外傾	凹状	自然	土師器片，須恵器（甕）	5世紀後葉
52	C5b6	—	円形	2.36 × 2.22	60	外傾	凹凸	自・人	土師器（鉢・壺）	5世紀後葉
60	C5d4		[円形]	3.83 × 3.5	70	外傾	平坦	自然	土師器（坏・高坏・壺），須恵器片	5世紀後葉
64	C5f5	—	[円形]	2.98 × [2.84]	36	外傾	平坦	自然	土師器（坏・高坏）	5世紀後葉
117	D2d5		円形	0.88 × 0.84	14	緩斜	皿状	自然	土師器（坏・壺），須恵器片	5世紀後葉
135	D2g5	N−60°−E	[隅丸長方形]	1.93 × 1.72	52	外傾	凹凸	自然	土師器片	5世紀後葉 本跡→T01
136	D2a5	—	円形	0.7 × 0.64	24	外傾	平坦	人為	土師器片	5世紀後葉

4　中世の遺構と遺物

今回の調査で，中世の遺構は方形区画溝1条と溝跡1条を検出した。以下，検出した遺構と遺物について記載する。

（1）方形区画溝

第1号方形区画溝（第180・181図）

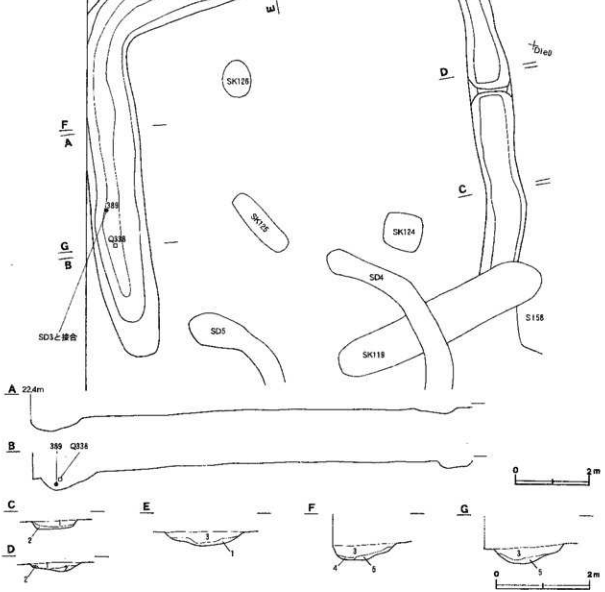
位置　調査6区南部のD1c8区を中心に位置している。西側に西谷田川を望む平坦な台地の縁辺部に立地し，ほぼ同時期の第3号溝が南西側に近接している。

重複関係　第58号住居跡の北西部を掘り込み，南東溝の端部を第119号土坑に掘り込まれている。方形区画内

に第124～126号土坑が存在するが，覆土の状況から木跡との関連性及び新旧関係は不明である。

規模と形状　溝は南側を除きコの字状に巡っている。東西方向11.5m，南北方向10.9mの長方形で，主軸方向はN－23°－Wである。方台部の規模は，東西方向8.32m，南北方向8.24mの方形である。

溝　東溝は，上幅0.74～1.1m，下幅0.3～0.68mで，深さは15～20cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。北溝は，上幅1.02～1.76m，下幅0.27～0.38mで，深さは20～39cmである。底面は～状で，壁は緩やかに立ち上がっている。西溝は，上幅1.36～1.44m，下幅0.3～0.48mで，深さは30～35cmである。底面は～状で，壁は緩やかに立ち上がっている。溝の底面は，東溝から西溝に向かって40cmほど傾斜している。



第180図　第１号方形区両溝実測図

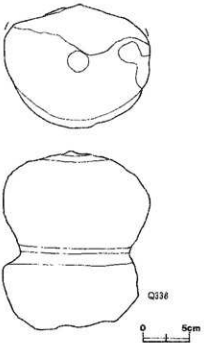
覆土　5層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

溝土層解説

1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
　　（3層よりもやや明るい）

遺物出土状況　陶器片2点，石造物1点のほか，埋没時の流れ込みとみられる縄文土器片1点，土師器片33点，礫3点が出土している。Q338の五輪塔は，西溝の覆土上層から出土している。西溝の覆土中層から出土した陶器片は，第3号溝から出土した389と接合している。

所見　本跡は，方形に区画された溝で，西溝内から五輪塔と陶器片が出土している。また，近接する第3号溝と合わせて，中世の墓域を形成していたと考えられる。時期は，出土した五輪塔から判断して，15世紀後半と思われる。



第181図　第1号方形区画溝出土遺物実測図

第1号方形区画溝出土遺物観察表（第181図）

番号	種別	器種	全高	空輪高	風輪高	空輪径	くびれ径	風輪径	材質	特徴	出土位置	備考
Q338	石造物	空風輪	(18.9)	(11.0)	(7.9)	15.6	11.4	14.3	花崗岩	下部は空輪部欠損，風輪部は欠損のため，形状不明。	西溝上層	100% PL32

（2）溝跡

第3号溝跡（第182・183図）

位置　調査6区南部のD17区～F1b4区に位置し，斜面部にさしかかる台地の縁辺部に立地している。ほぼ同時期の方形区画溝が北東側に近接している。

規模と形状　確認できた長さは54.8mである。南西部の調査区域外のF1b4区から北東方向（N－35°－E）に直線的に35.2m延び，E1d8区で屈曲してD17区の調査区域外まで，北西方向（N－7°－W）に直線的に延びている。溝は，上幅1.05～1.56m，下幅0.32～0.7mで，深さ32～54cmである。底面はU字状で壁は緩やかに立ち上がっている。

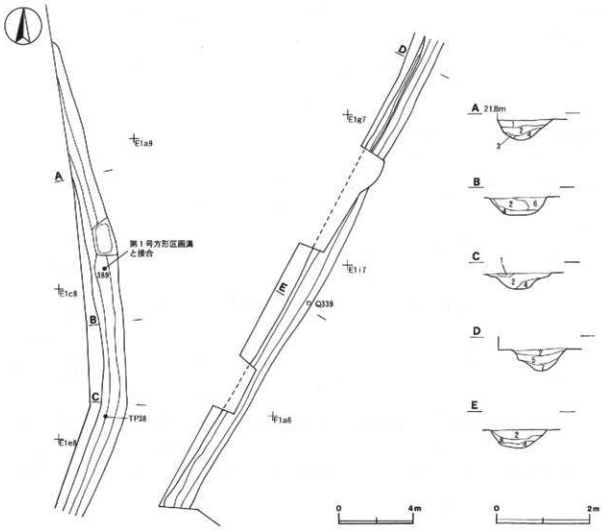
覆土　8層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

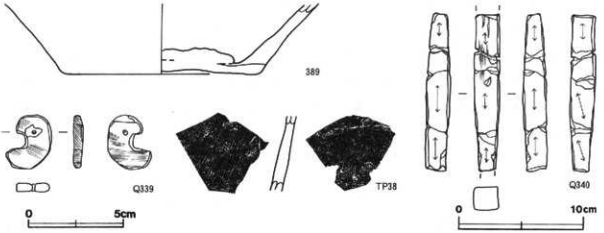
1　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック微量
4　暗褐色　ロームブロック中量
5　暗褐色　ロームブロック少量
6　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
8　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　陶器片2点，砥石1点のほか，流れ込みの土師器片41点，勾玉1点が出土している。389は底面から出土し，方形区画溝内から出土した陶器片と接合したものである。TP38は覆土下層から出土している。Q339は覆土中層から出土したもので，埋没時の流れ込みと考えられる。

所見　本跡は，近接する第3号溝と合わせて，中世の墓域を形成していたと考えられる。時期は，溝の覆土下層及び底面から出土した陶器片（常滑）から判断して，15世紀後半と思われる。



第182図　第3号溝実測図



第183図　第3号溝出土遺物実測図

第3号溝出土遺物観察表(第183図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
389	陶器	甕	—	(5.6)	[16.1]	長石・石英・小礫	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ナデ，内面自然釉・溶融付着。	底面	10% 常滑系
TP38	陶器	壺	—	(5.9)	—	砂粒	にぶい赤褐	普通	外面斜位のヘラ削り，内面輪積み痕。	上層	常滑系

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q330	勾玉	2.9	2.4	0.55	6.0	滑石	孔径0.15。C字形。両面横位の研磨。	中層	P1.32
Q340	砥石	(12.7)	2.2	2.0	(71.7)	凝灰岩	断面は四角形。砥面は4面。	覆土	

5　近代の遺構と遺物

今回の調査で，近代の遺構は炭焼き窯跡１基と，炭化材や焼土ブロックを含んだ長方形の土坑16基を検出した。以下，検出した遺構と遺物について記載する。

（1）炭焼き窯跡

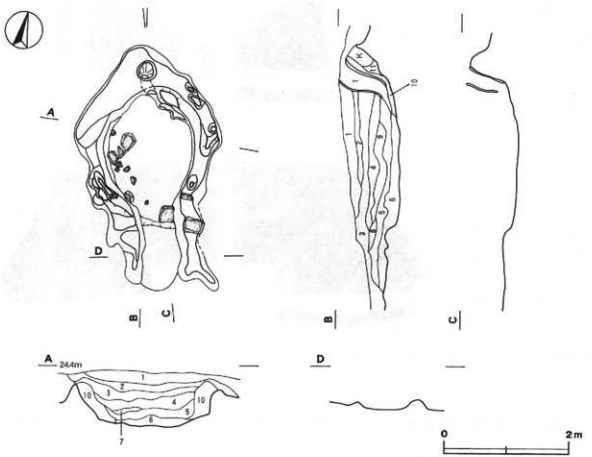
第１号炭焼き窯跡（第184･185図）

位置　調査５区南部のＩ３d4区を中心に位置している。西側に西谷田川を望む平坦な台地の縁辺部に立地している。

重複関係　第40号住居跡の北東コーナー部上面に構築されている。

規模と形状　長径3.98m，短径2.38mの楕円形で，主軸方向はN－14°－Wである。

前庭部　平面形は長径1.05m，短径0.61mの楕円形で，底面は平坦である。



第184図　第１号炭焼き窯跡実測図

炭化室　平面形は長径2.02m，短径1.31mの楕円形で，天井部は崩落している。遺存する壁高は70～83cmで，奥壁と東壁はほぼ直立し，西壁は崩れているため緩やかに外傾している。壁は，山砂と粘土で構築され，瓦片や石片で補強されている。窯底は前庭部より14cmほど低くなり，ほぼ平坦で地山面上に構築されている。西壁側と前庭部付近には，補強材に使用したと思われる石片が出土している。壁面及び窯底は，熱を受けて赤変硬化している。

煙道部　奥壁の中央部に位置している。煙道は窯底から８cmほど高い位置にあり，ほぼ直線的に外傾して立ち上がっている。口径は25cmほどで，厚さ３～５cmの山砂と粘土で円筒状に構築している。

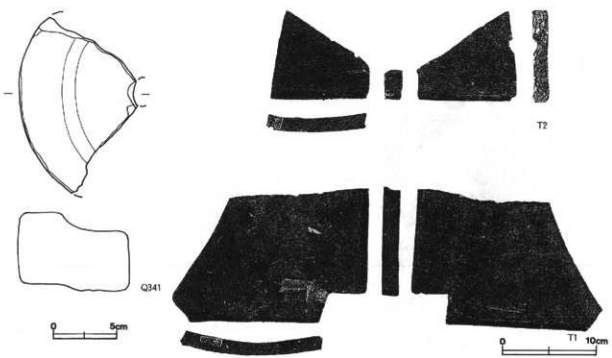
覆土　11層に分層される。第１層は崩落後に堆積した層，第２～５・７～９層は天井部の崩落した層，第６層は窯底に堆積していた層，第10・11層は壁の構築材の層である。

炭焼き窯跡土層解説

1	暗 褐 色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量	6	赤 褐 色	焼土ブロック多量，炭化物少量
2	にぶい褐色	焼土ブロック・山砂・粘土粒子中量，炭化物微量	7	暗赤褐色	焼土ブロック中量，山砂・粘土粒子少量
3	赤 褐 色	焼土ブロック多量，山砂・粘土粒子中量	8	暗赤褐色	焼土ブロック・山砂・粘土粒子中量，炭化粒子微量
4	暗赤褐色	焼土ブロック・山砂・粘土粒子中量，炭化物少量	9	暗赤褐色	焼土ブロック・山砂・粘土粒子中量
5	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物・山砂・粘土粒子少量	10	赤 褐 色	山砂・粘土粒子多量，瓦片・石片少量
			11	にぶい褐色	山砂・粘土粒子多量，焼土ブロック少量

遺物出土状況　本跡の構築材に使用したと思われる瓦片多数，石臼片１点が出土している。Ｔ１・Ｔ２は，天井部が崩落した覆土から出土している。Q341は袖部から出土し，袖部の構築材と思われる。

所見　本跡は，窯の構築材と思われる瓦片から，近代と考えられる。



第185図　第１号炭焼き窯跡出土遺物実測図

第１号炭焼き窯跡出土遺物観察表（第185図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
T1	瓦	桟瓦	(14.2)	(19.8)	1.5	砂粒	鳩灰	普通	側面に「清高」の刻印有り。	覆土	
T2	瓦	桟瓦カ	(9.4)	(10.4)	1.5	砂粒	にぶい橙	普通	側面に「清高」の刻印有り。	覆土	

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土遺構	備考
Q316	石門	(14.0)	(1.9)	6.1	(955.9)	安山岩	上辺の破片，上面にくぼみ有り。	墳墓	

（2）土坑

ここでは，形状が長方形で覆土や底面から焼土とともに炭化材や炭化物が出土している土坑を取り上げる。16基の土坑の中から，特徴的な3基について記載し，その他は実測図と土層解説及び一覧表で掲載する。

第4号土坑（第186図）

位置　調査2区西部のC3e9区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係　第9号住居跡の北東コーナー部を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.93m，短軸1.52mの長方形で，主軸方向はN－17°－Wである。深さは45cmで，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　4層に分層され，炭化物や焼土ブロックを含む層で，埋め戻された堆積状況である。

土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム ブロック・炭化材少量
2　暗赤褐色　ローム ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
3　暗赤褐色　ローム ブロック・焼土ブロック・炭化材中量
4　黒 褐 色　炭化物多量，焼土ブロック中量，ローム粒子微量

遺物出土状況　炭化材や焼土が底面から検出されている。

所見　本跡は，地権者への聞き取り調査から，戦前から戦後にかけての炭焼き土坑と考えられる。

第71号土坑（第186図）

位置　調査3区南部のE5f1区に位置し，平坦な台地上に立地している。

規模と形状　長軸3.8m，短軸1.33mの長方形で，主軸方向はN－68°－Wである。深さは12cmで，底面は平坦で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土　焼土ブロックや炭化物を含んだ単一層である。

土層解説
1　黒 褐 色　焼土ブロック・炭化物中量，ローム ブロック微量

遺物出土状況　炭化物や焼土が底面から検出されている。

所見　本跡は，地権者への聞き取り調査から，戦前から戦後にかけての炭焼き土坑と考えられる。

第99号土坑（第186図）

位置　調査4区北部のG5f5区に位置し，平坦な台地上に立地している。

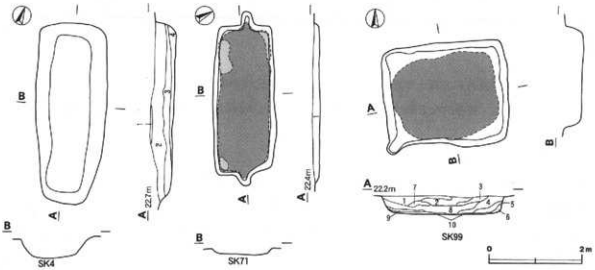
規模と形状　長軸2.71m，短軸2.29mの長方形で，主軸方向はN－87°－Eである。深さは40cmで，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　10層に分層され，炭化物や焼土ブロックを含む層で，埋め戻された堆積状況である。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム ブロック微量
2　黒 褐 色　ローム ブロック中量，焼土ブロック微量
3　極暗褐色　ローム ブロック少量，炭化物微量
4　極暗褐色　ローム ブロック・炭化物中量，焼土ブロック微量
5　黒 褐 色　炭化物中量，ローム ブロック・焼土ブロック少量
6　極暗褐色　炭化物少量，ローム ブロック・焼土ブロック微量
7　暗 褐 色　ローム ブロック・炭化物少量
8　黒 褐 色　ローム ブロック少量
9　極暗褐色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
10　極暗褐色　炭化物・焼土ブロック中量

遺物出土状況　炭化物や焼土が底面から検出されている。

所見　本跡は，地権者への聞き取り調査から，戦前から戦後にかけての炭焼き土坑と考えられる。



第186図　第4・71・99号土坑実測図

第1号土坑土層解説
1　黒 褐 色　炭化粒子中量，ローム粒子少量
2　極暗褐色　炭化粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量

第11号土坑土層解説
1　黒 褐 色　炭化材中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　黒 褐 色　炭化材中量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量

第17号土坑土層解説
1　黒 褐 色　炭化物中量，焼土ブロック・ローム粒子少量

第44号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

第50号土坑土層解説
1　極暗褐色　炭化物多量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　極暗褐色　炭化物少量，焼土ブロック・ローム粒子微量

第51号土坑土層解説
1　暗 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化材少量
2　黒 褐 色　炭化材中量，焼土ブロック・ローム粒子少量

第72号土坑土層解説
1　極暗褐色　炭化物中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量

第73号土坑土層解説
1　黒 褐 色　炭化物中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量

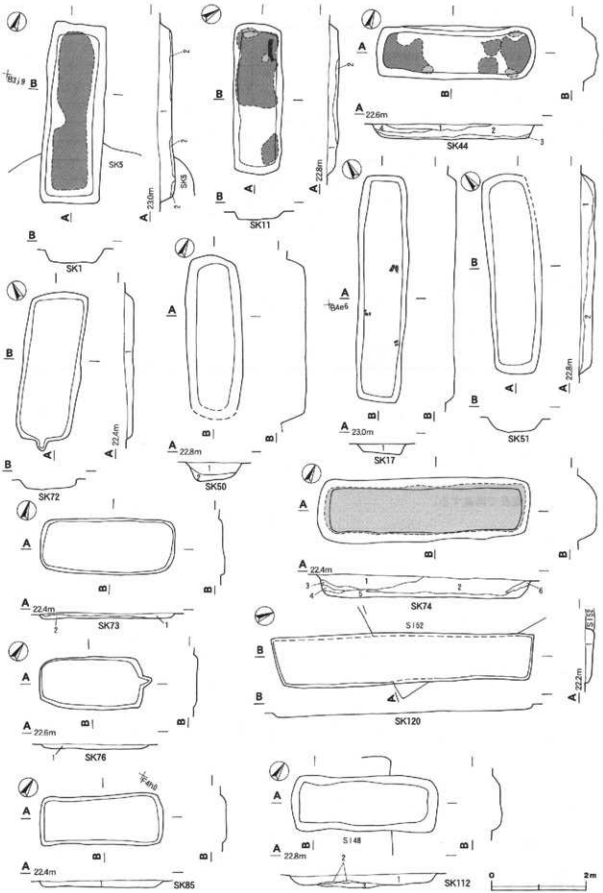
第74号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
2　暗 褐 色　焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量
3　極暗褐色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量
5　暗 褐 色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量
6　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化物微量

第76号土坑土層解説
1　黒 褐 色　炭化材・焼土粒子中量，ローム粒子微量

第85号土坑土層解説
1　暗赤褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量

第112号土坑土層解説
1　暗 褐 色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　暗 褐 色　ロームブロック・炭化材少量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第120号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量



第187図　第1・11・17・44・50・51・72～74・76・85・112・120号土坑実測図

表6　近代土坑一覧表

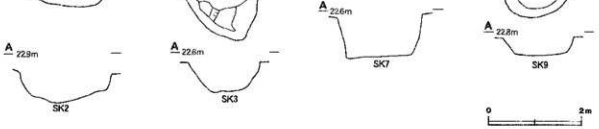
番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模(m) 長径(軸)×短径(軸)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考（関係遺構）
1	B3j9	N－3°－W	長方形	3.8 × 1.25	28	外傾	平坦	人為	土師器片，炭化物	SK5→本跡
4	C3e9	N－17°－W	長方形	3.93 × 1.52	45	緩斜	平坦	人為	土師器片，炭化物	SK9→本跡
11	B3c6	N－62°－W	楕円形	3.22 × 1.16	17	緩斜	平坦	人為	炭化材	
17	B4d8	N 86°－W	長方形	4.77 × 1.03	20	緩斜	平坦	人為	炭化物	
44	D3d9	N 85°－E	隅丸長方形	3.37 × 1.16	30	緩斜	平坦	人為	炭化物	
50	C5a7	N－29°－W	隅丸長方形	3.57 × 1.15	46	外傾	平坦	自然	炭化物	
51	C5e8	N－36°－E	隅丸長方形	4.24 × 1.10	30	緩斜	平坦	自然	炭化材	
71	E5f1	N－68°－W	長方形	3.8 × 1.33	12	緩斜	平坦	人為	炭化物	
72	E4b0	N－32°－E	長方形	3.4 × 1.25	20	緩斜	平坦	人為	炭化物	
73	E4f7	N－77°－E	隅丸長方形	2.85 × 1.2	10	外傾	平坦	人為	炭化物	
74	E4f8	N－75°－E	隅丸長方形	4.5 × 1.35	42	緩斜	平坦	人為	炭化物	
76	E4g5	N 16°－E	隅丸長方形	2.37 × 1.1	10	緩斜	平坦	人為	土師器片，炭化材	
86	F4b0	N－62°－E	長方形	2.59 × 1.02	17	外傾	平坦	人為	土師器片	
99	G5f5	N 87°－E	長方形	2.71 × 2.29	40	外傾	平坦	人為	炭化物	
102	G3d1	N－36°－E	長方形	3.09 × 1.14	19	緩斜	平坦	人為	炭化物	SK48→本跡
120	C1f5	N－12°－E	長方形	5.92 × 0.96	18	外傾	平坦	自然	炭化物	SK2→本跡

6　その他の遺構と遺物

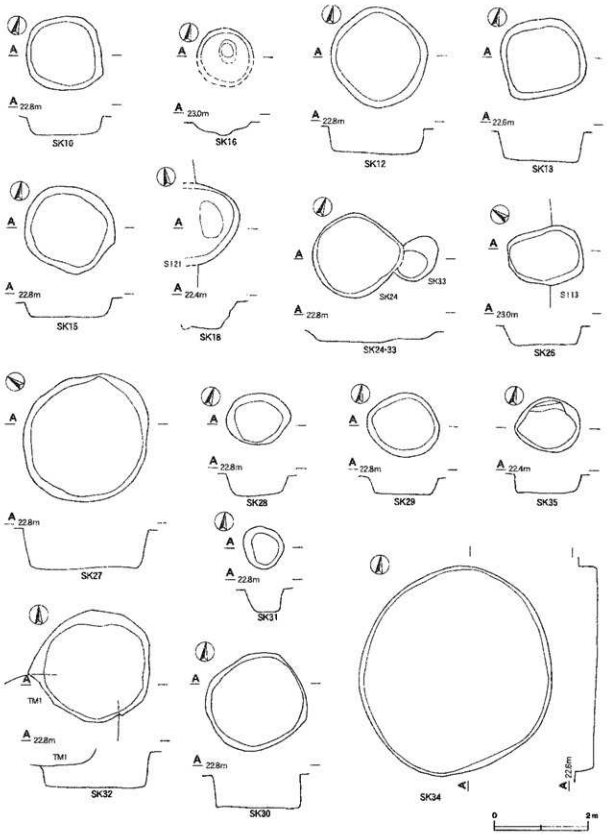
今回の調査で，時期不明の土坑110基，溝４条，ピット群１か所を検出した。以下，記述したもの以外は，実測図及び一覧表で掲載する。

（1）土坑

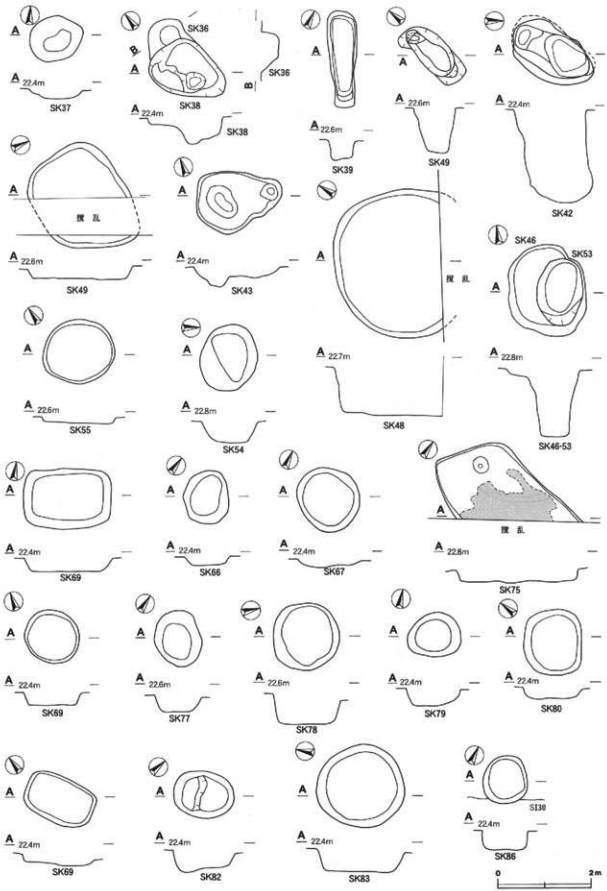
今回の調査で，139基の土坑を確認し，そのうち時期の判断できる29基（縄文時代１基，古墳時代12基，近代16基）以外は，時期及び性格が不明なものである。ここでは，時期不明の土坑110基について実測図及び一覧表で記載する。



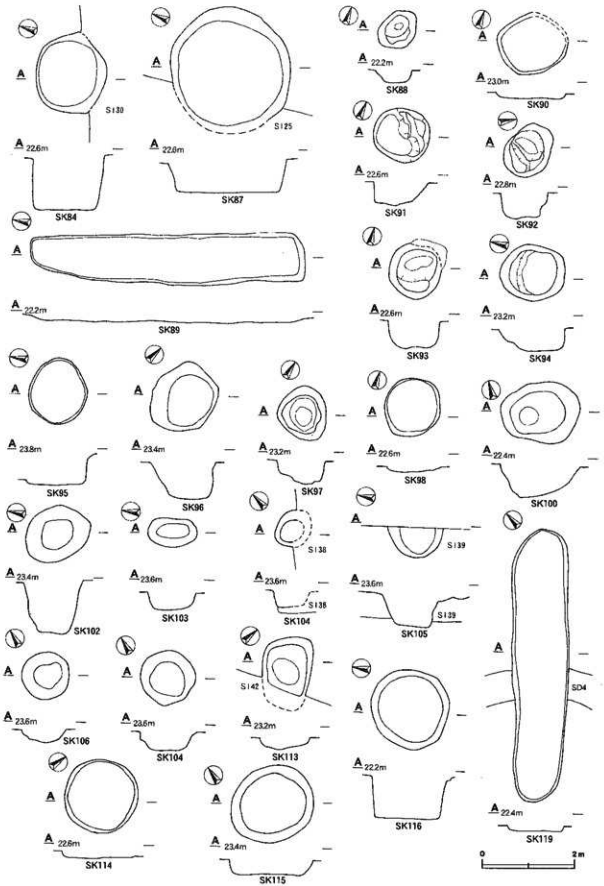
第188図　その他の土坑実測図（1）



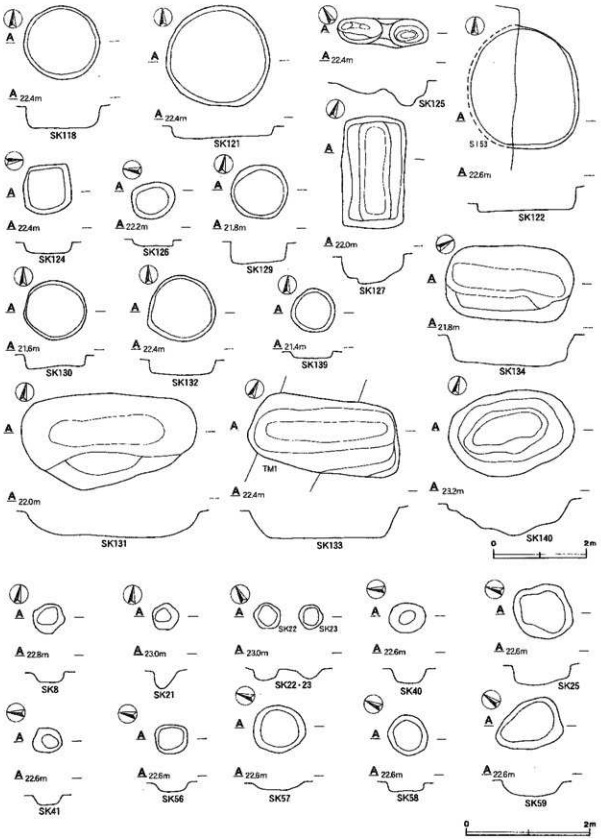
第189図　その他の土坑実測図（2）



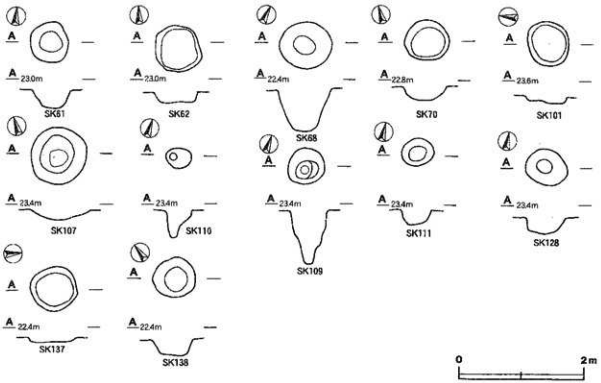
第190図　その他の土坑実測図(3)



第191図　その他の土坑実測図（4）



第192図　その他の土坑実測図（5）



第193図　その他の土坑実測図(6)

表7　その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模(m)長径(軸)×短径(軸)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考(時期・新・旧)
1	B3j9	N 3°-W	長方形	3.8 × 1.25	28	外傾	平坦	人為	土師器片,炭化物	SK5→本跡
2	B3g5	N-27°-W	楕円形	1.95 × 1.42	72	外傾	凹凸	人為	土師器片	SI1→本跡
3	C3j8	N-44°-W	不定形	1.93 × 1.5	64	緩斜	凹凸	人為	土師器片	SI5→本跡
7	C3a7	N-76°-E	楕円形	1.85 × 0.94	87	直立	平坦	自然		
8	B3d8	N-44°-E	楕円形	0.5 × 0.45	16	外傾	平坦	自然		
9	B3i7	N 22°-E	楕円形	1.74 × 1.51	40	緩斜	平坦	自然		
10	B3e8	—	円形	1.6 × 1.58	40	外傾	平坦	自然		
12	B4d2	—	円形	2.06 × 1.92	56	外傾	平坦	人為	土師器片	
13	C3b5	N 67°-E	楕円形	1.74 × 1.69	69	外傾	平坦	自然	土師器片	
15	C3b8	—	円形	1.86 × 1.72	36	緩斜	平坦	自然		
16	B4e5	—	[円形]	[1.21] × (1.22)	28	緩斜	平坦	人為		
18	D4g2	—	[円形]	1.74 × (0.97)	58	緩斜	平坦	自然		本跡→SI21
21	B4c6	—	円形	0.43 × 0.42	30	緩斜	皿状	自然		
22	B4e6	—	円形	0.42 × 0.42	15	緩斜	皿状	自然		
23	B4c6	—	円形	0.4 × 0.37	17	外傾	平坦	自然		
24	B4b7	—	[円形]	[1.93] × (1.8)	20	外傾	平坦	人為		SK33→本跡
25	C3b5	—	円形	1.02 × 0.91	33	外傾	平坦	自然		
26	C4f4	N 50°-W	楕円長方形	1.62 × 1.18	42	外傾	平坦	人為	土師器片	SI13→本跡
27	C4j6	—	円形	2.93 × 2.68	85	外傾	平坦	自然	土師器片	
28	C4j6	N-64°-E	楕円形	1.7 × 1.2	44	外傾	平坦	自然	土師器片	
29	D4a5	—	円形	1.42 × 1.4	37	外傾	平坦	自然	土師器片	

番号	位置	長軸方向(長軸方向)	平面形	規模(m)長径(短)×(短径)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	土 な 出 土 遺 物	備 考(時期・新→旧)
30	D4a4	N−53° E	隅丸方形	2.08 × 2	70	直立	平坦	人為	土師器片	
31	D4b4	N−33°−W	楕円形	0.94 × 0.82	46	外傾	平坦	人為	土師器片	
32	D2f3	−	[円形]	2.39 × (2.35)	73	外傾	平坦	自然	土師器片	本跡→TM1
33	B4b7	N−19°−E	楕円形	1.68 × 0.83	18	外傾	平坦	人為		本跡→SK21
34	B4c9	−	円形	4.82 × 4.11	42	直立	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	
35	B5b1	N−82° E	楕円形	1.38 × 1.2	40	直立	平坦	人為		
36	B5a1	−	[円形]	0.82 × (0.54)	38	外傾	平坦	人為		本跡→SK38
37	B5a2	N−70° E	楕円形	1.18 × 0.94	23	緩斜	皿状	自然		
38	B5b1	N−32°−W	不定形	1.6 × 1.2	45	外傾	平坦	自然		SK36→本跡
39	B5f1	N 22°−W	長方形	2.05 × 0.57	53	外傾	凹凸	人為		
40	B5f2	−	円形	0.57 × 0.52	29	緩斜	平坦	自然		
41	B5e2	−	円形	0.48 × 0.43	24	外傾	平坦	自然		
42	B5f4	N−30° E	楕円形	1.88 × 1.31	206	直立	凹凸	人為	土師器片	
43	B6d5	N−83°−W	楕円形	1.66 × 1.34	25	緩斜	平坦	人為		
45	D4g4	N−15° E	楕円形	1.58 × 0.65	84	外傾	平坦	自然	土師器片	
46	C5h2	N−0°	楕円形	1.88 × 1.45	50	外傾	平坦	自然		本跡→SK53
48	D4f5	−	[円形]	(3.12) × [3.1]	100	外傾	平坦	人為	土師器片, 礫	
49	C5g5	N 87° E	不定形	2.36 × 1.91	28	緩斜	平坦	自然		
53	C5h2	N−14°−E	楕円形	1.65 × 1.06	140	外傾	皿状	自然	土師器片	SK46→本跡
54	C4h0	N 75°−W	楕円形	1.43 × 1.16	47	外傾	平坦	自然		
55	C5g7	N−39°−W	楕円形	1.49 × 1.26	17	外傾	平坦	人為		
56	D4e7	N−14°−W	隅丸方形	0.53 × 0.48	16	外傾	平坦	自然	土師器片	
57	D4e7	−	円形	0.82 × 0.77	14	緩斜	平坦	自然		
58	D4f7	N−37°−E	楕円形	0.67 × 0.59	16	緩斜	平坦	自然		
59	D4f7	N 69°−W	楕円形	1.08 × 0.76	22	緩斜	平坦	自然	土師器片	
61	B3j9	−	円形	1.2 × 1.1	30	緩斜	平坦	自然		
62	B4i1	−	円形	0.73 × 0.7	16	外傾	平坦	人為	礫	
65	D5f5	N 82°−E	隅丸方形	1.87 × 1.3	30	緩斜	平坦	人為		
66	D5f8	N−27° W	楕円形	1.14 × 0.99	24	緩斜	平坦	自然		
67	D5h6	−	円形	1.38 × 1.27	16	緩斜	平坦	自然		
68	E5a6	N−64°−E	楕円形	0.86 × 0.76	64	外傾	皿状	自然		
69	E4a0	−	円形	1.19 × 1.1	24	緩斜	平坦	人為		
70	D4j6	−	円形	0.7 × 0.69	20	外傾	凹凸	自然	土師器片	
75	D4b2	N−63°−W	[長方形]	(2.18) × 1.74	12	外傾	平坦	人為	土師器片	
77	F4j6	N−41°−W	楕円形	1.23 × 0.98	36	緩斜	平坦	人為		
78	F4h0	−	円形	1.46 × 1.45	60	外傾	平坦	人為	土師器片, 礫	
79	F4c0	N−60°−E	楕円形	1.16 × 1	50	外傾	平坦	人為	土師器片	
80	F4e0	N−62°−E	隅丸方形	1.36 × 1.25	22	緩斜	平坦	人為	土師器片	
81	F4d0	N−31°−W	隅丸長方形	1.53 × 0.96	16	緩斜	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	
82	F4f0	−	円形	1.3 × 0.98	40	外傾	平坦	人為	土師器片	
83	F5e2	−	円形	1.85 × 1.78	42	外傾	平坦	人為		
84	F4d8	−	円形	1.68 × 1.53	103	直立	平坦	自・人	土師器片	SI30→本跡
86	F4d6		円形	0.99 × 0.92	36	外傾	平坦	人為		SI30→本跡
87	E4c3	−	円形	2.71 × [2.7]	69	外傾	平坦	人為	土師器片, 礫	SI25→本跡
88	G5g6	N−34°−E	楕円形	0.98 × 0.73	50	緩斜	皿状	自然		
89	G5h6	N−8° W	長方形	5.88 × 1.08	19	緩斜	平坦	人為		

番号	位置	長軸方向（長軸方向）	平面形	規模(m) 長径(m)×短径(m)	深さ(cm)	傾斜	底面	覆土	主な出土遺物	備考（時期・群・ユニット）
90	H5d4	N 50° E	[楕円形]	(1.44) × 1.3	11	緩斜	平坦	人為		
91	H5d5	—	円形	1.25 × 1.21	53	外傾	凹凸	人為		
92	H5f5	N 48° W	楕円形	1.24 × 0.98	62	外傾	凹凸	人為		
93	H5d5	—	円形	1.12 × (1.15)	69	外傾	凹凸	人為		
94	H5g2	N 27° W	楕円形	1.45 × 1.21	50	外傾	凹凸	人為	土師器片	
95	H4i9	N−67°−E	楕円形	1.42 × 1.27	10	外傾	平坦	人為	土師器片	
96	H4g9	—	円形	1.51 × 1.4	83	外傾	皿状	人為	土師器片	
97	H4i9	N−56°−W	楕円形	1.18 × 1.07	52	外傾	皿状	人為		
98	G5h3		[円形]	(1.24) × 1.18	11	緩斜	平坦	人為		
100	H5e4	N−86°−W	楕円形	1.7 × 1.36	78	緩斜	皿状	人為	土師器片	
101	H3h8	N 67° E	楕円形	0.74 × 0.66	17	外傾	平坦	人為		
102	H3j0	N−34°−W	楕円形	1.49 × 1.16	117	外傾	平坦	人為	土師器片	
103	H3i9	N−5°−W	楕円形	1.04 × 0.63	42	外傾	皿状	自然	土師器片，礫	
104	H3i5	—	[円形]	[0.87] × 0.79	47	外傾	平坦	人為		SI38→本跡
105	H4g1	—	円形	0.97 × (6.9)	16	緩斜	平坦	自然	土師器片	SI39→本跡
106	H3f6		円形	1 × 1	29	緩斜	皿状	人為		
107	H3h6		円形	0.92 × 0.9	18	緩斜	皿状	人為		
108	H3e6	—	円形	1.17 × 1.14	40	外傾	平坦	人為	土師器片	
109	H3h6		円形	0.57 × 0.57	100	外傾	平坦	自然	土師器片	
110	H3h6	N−80°−E	楕円形	0.42 × 0.32	45	外傾	平坦	自然		
111	H3h6	—	円形	0.5 × 0.46	25	外傾	皿状	自然		
113	G3g7	N 45°−W	[長方形]	[1.57] × 1.07	26	緩斜	凹凸	人為		SI42→本跡
114	B2g2	—	円形	1.63 × 1.6	12	緩斜	凹凸	自然	土師器片	
115	D2e5		円形	1.78 × 1.74	49	外傾	平坦	人為		
116	D2f6	—	円形	1.72 × 1.68	87	直立	平坦	人為		
118	D2a3	—	円形	1.61 × 1.6	49	直立	平坦	人為	土師器片	
119	D1g9	N−32° E	楕円形	5.86 × 1.24	15	緩斜	平坦	人為		SI58→本跡→SI04
121	C2a4		円形	2.2 × 2.18	38	外傾	平坦	人為	土師器片	
122	D2a2	N−2°−W	[楕円形]	2.65 × 2.38	50	直立	平坦	人為	土師器片	SI59→本跡
124	D1f9		方形	1.04 × 1.03	21	外傾	平坦	人為		
125	D1f8	N−56°−W	楕円形	1.95 × 0.61	64	外傾	凹凸	人為	土師器片	
126	D1e8	N−24°−W	楕円形	0.94 × 0.73	27	外傾	平坦	自然		
127	D1j0	N 15° W	長方形	2.43 × 1.37	62	外傾	平坦	人為	土師器片	
128	D1i9	N−63°−W	楕円形	0.68 × 0.57	32	緩斜	皿状	人為		
129	E2c6	—	円形	1.4 × 1.2	47	直立	平坦	人為	土師器片	
130	E2e7	—	円形	1.32 × 1.26	18	外傾	平坦	人為	土師器片，礫	
131	E2e3	N 80° E	楕円形	3.08 × 2.03	55	緩斜	皿状	人為	土師器片	
132	D2e7	N−86°−E	楕円形	1.62 × 1.42	35	直立	皿状	人為		
133	D2g2	N −67° E	隅丸長方形	3.23 × 1.58	66	外傾	凹凸	人為	土師器片	DI1→本跡
134	E2h8	N−36°−E	隅丸長方形	2.76 × 1.61	67	緩斜	平坦	人為	土師器片	
137	D2d4	—	円形	0.77 × 0.71	9	緩斜	皿状	人為		
138	D2h6	—	円形	0.69 × 0.64	28	外傾	平坦	不明	土師器片	
139	E2b8		円形	0.95 × 0.94	16	外傾	平坦	自然	土師器片	
140	D4j5	N−55°−E	楕円形	1.36 × 0.9	22	緩斜	凹凸	人為		

（2）溝跡

今回の調査で，５条の溝を確認し，そのうち中世の１条以外は時期及び性格が不明なものである。これらの遺構については，平面図は全体図に示し，文章と土層断面図を掲載する。

第１号溝跡（第194図）

位置　調査３区北部のＤ５d5 区～Ｄ６c3 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　確認できた長さは32.5mで，調査区域外のＤ５d5 区から東方向（Ｎ－80°－Ｅ）に直線的に延び，Ｄ６c3 区で調査区域外へ延びている。溝は，上幅0.89～1.1m，下幅0.22～0.38mで，深さ74～85cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　５層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム ブロック・炭化物微量
2　暗 褐 色　ローム ブロック・炭化物少量
3　暗 褐 色　ローム ブロック・炭化粒子微量
4　褐暗褐色　ローム粒子微量
5　暗 褐 色　ローム粒子少量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡は，出土遺物がなく時期及び性格は不明である。

第２号溝跡（第194図）

位置　調査５区南部のＩ３d0 区～Ｉ４d2 区に位置し，台地の縁辺部に立地している。

規模と形状　確認できた長さは7.5mで，Ｄ５d5 区から東方向（Ｎ－74°－Ｅ）に北向きの弧状を呈し，Ｉ４d2 区で調査区域外へ延びている。溝は，上幅0.33～0.7m，下幅0.1～0.24mで，深さ25～72cmである。底面はＵ字状で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　３層に分層され，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム ブロック少量
2　黒 褐 色　ローム ブロック微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量

遺物出土状況　流れ込みとみられる土師器片４点が出土している。

所見　本跡のものと判断できる出土遺物はなく，時期及び性格は不明である。

第４号溝跡（第194図）

位置　調査６区南部のＤ１f9 区～Ｄ１g9 区に位置し，西側に近接する第５号溝跡と同様の形状である。

重複関係　第119号土坑の中央部を掘り込んでいる。

規模と形状　長さは7.3mで，Ｄ１g9 区から北西方向（Ｎ－33°－Ｗ）に，北西向きの弧状を呈している。溝は，上幅0.48～0.74m，下幅0.24～0.38mで，深さ40～65cmである。底面はＵ字状で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　単一層である。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡は，出土遺物がなく時期及び性格は不明である。

第５号溝跡（第194図）

位置　調査６区南部のＤ１g8区～Ｄ１h8区に位置し，東側に近接する第４号溝跡と同様の形状である。

重複関係　第123号土坑の上面を掘り込んでいる。

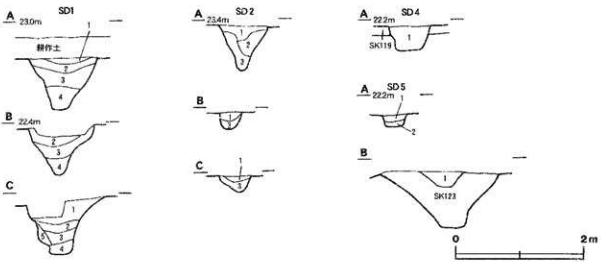
規模と形状　長さは7.1mで，Ｄ１h8区から北西方向（N－28°－W）に，北西向きの弧状を呈している。溝は，上幅0.43～0.64m，下幅0.25～0.32mで，深さ20～30cmである。底面はＵ字状で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　２層に分層され，ローム粒子を少量から微量含む自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子微量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡は，出土遺物がなく時期及び性格は不明である。



第194図　第１・２・４・５号溝土層断面図

表８　溝一覧表

番号	位置	方向	形状	規模(m) 確認長	上幅	下幅	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時期	備考（旧→新）
1	D5d5～D6c3	東～西	直線状	(32.5)	0.59～1.1	0.22～0.38	74～85	外傾	平坦	自然		不明	
2	E3d5～E4c2	東～西	弧状	(7.5)	0.33～0.7	0.1 ～0.24	25～72	外傾	U字状	自然		不明	
3	D117～F1b4	北東～北西	直線状	(54.8)	1.05～1.66	0.32～0.7	32～54	緩斜	皿状	自然	陶器，勾玉，砥石	15世紀後半	中世に記載
4	D1f9～D1g9	南～北西	弧状	7.3	0.48～0.74	0.24～0.38	40～65	外傾	U字状	自然		不明	SK119→本跡
5	D1g8～D1h8	南～北西	弧状	7.1	0.43～0.64	0.25～0.32	20～30	外傾	U字状	自然		不明	SK123→本跡

（３）ピット群

今回の調査で，４か所のピット群を確認し，そのうち３か所は縄文時代のピット群である。ここでは，時期及び性格が不明な１か所について記載する。

第２号ピット群（第195図）

位置　調査２区西部のＣ３d8 区～Ｃ３f9 区に位置し，平坦な台地上に立地している。

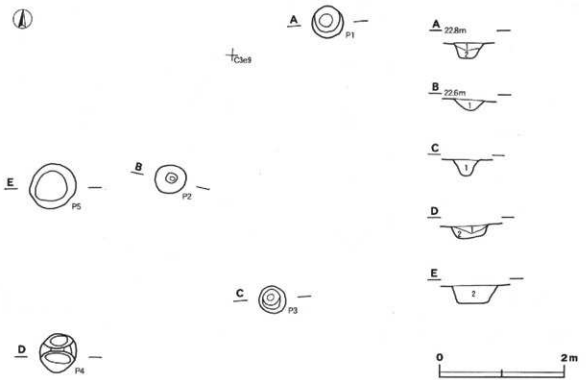
規模と形状　遺構確認調査の際，不規則に並ぶピットを確認した。床面及び炉跡は認められない。ピット群の範囲は，南北８ｍ，東西８ｍである。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ５は，深さ25～30cmである。配列は不規則であり，竪穴住居跡や掘立柱建物跡として推定するには困難である。

ピット土層解説（各ピット共通）
1　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子少量　　2　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　Ｐ３内から，流れ込みとみられる土師器片２点が出土している。

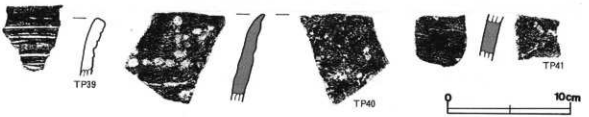
所見　本跡のものと判断できる出土遺物はなく，時期及び性格は不明である。



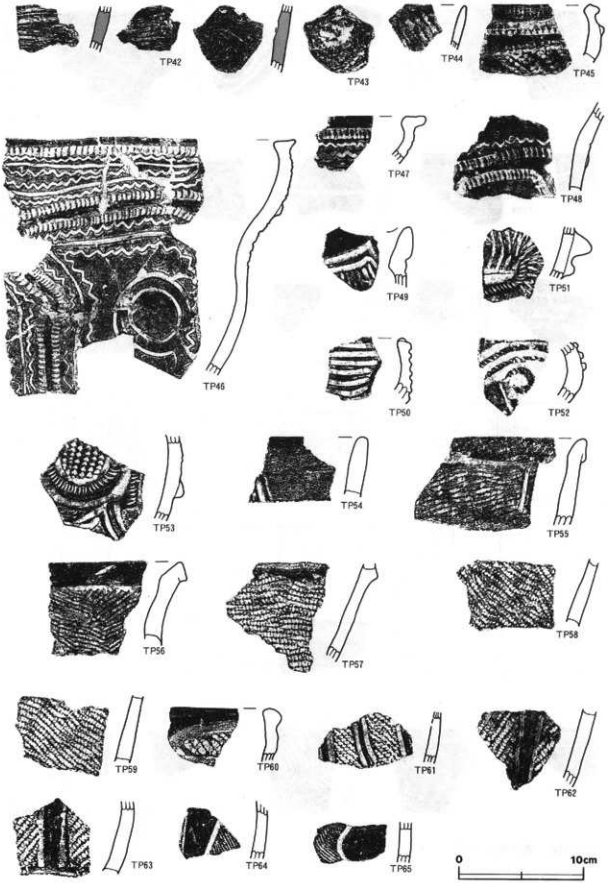
第195図　第２号ピット群実測図

（４）遺構外出土遺物

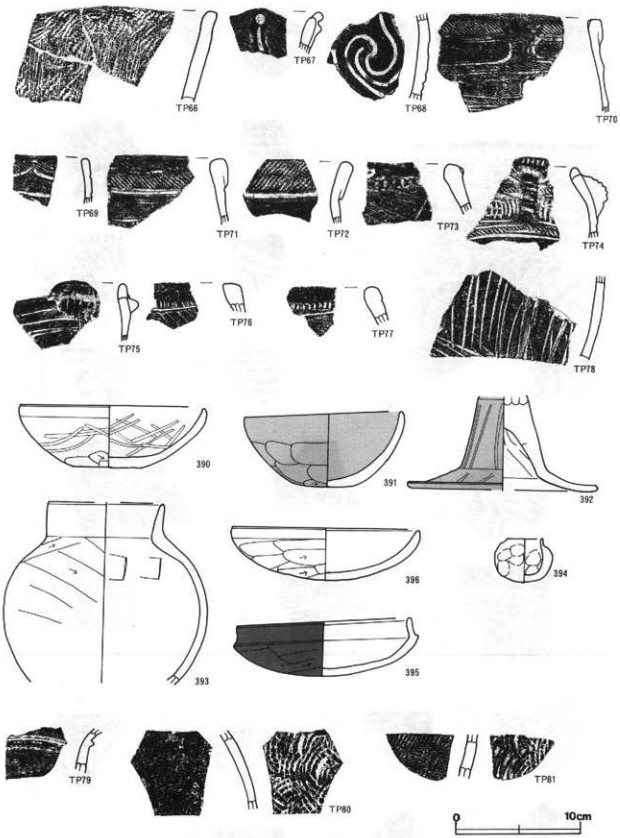
今回の調査で出土した遺構に伴わない主な遺物について，実測図及び遺物観察表で掲載する。



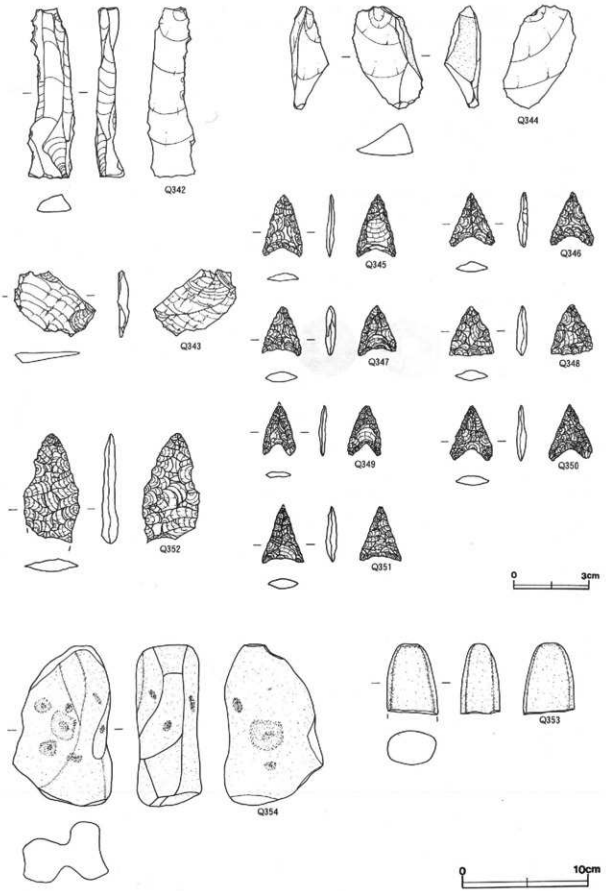
第196図　遺構外出土遺物拓影図（１）



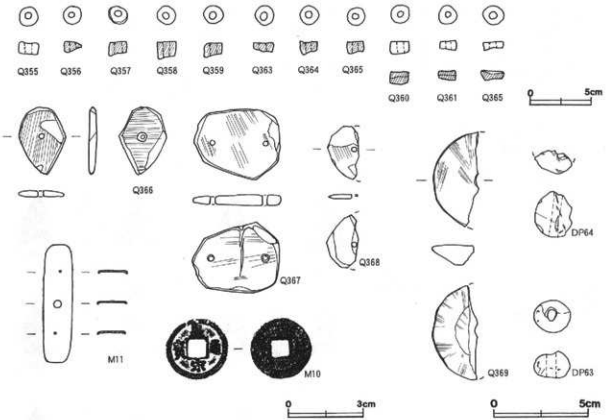
第197図　遺構外出土遺物拓影図(2)



第198図　遺構外出土遺物実測図（3）



第199図　遺構外出土遺物実測図（4）



第200図　遺構外出土遺物実測図(5)

遺構外出土遺物観察表(第196～200図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP39	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	－	長石・石英	橙	普通	横位の沈線文。	C2区確認面	早期中葉 PL30
TP40	縄文土器	深鉢	－	(7.2)	－	長石	灰褐	普通	横位の撚糸文。	I3区確認面	早期後葉 PL30
TP41	縄文土器	深鉢	－	(3.7)	－	長石	にぶい褐	普通	横位の撚糸文。	G3・6区確認面	早期後葉
TP42	縄文土器	深鉢	－	(3.6)	－	長石・石英	橙	普通	横位の条痕文。	D2区確認面	早期後葉
TP43	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	－	長石・石英	にぶい黄褐	普通	横位の条痕文。	D5区確認面	早期後葉
TP44	縄文土器	深鉢	－	(3.6)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文は、LRの単節縄文を縦方向に施文。	G5区確認面	中期中葉
TP45	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	D層部には角押文、胴部には半截竹管による押引文。	G3・6区確認面	中期中葉
TP46	縄文土器	深鉢	－	(19.7)	－	長石・石英・雲母	黒	普通	隆帯に沿って爪形文。	B4区6区確認面	中期中葉
TP47	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	長石・石英・雲母	赤褐	普通	D層部直下の隆帯に沿って爪形文。	B4E区確認面	中期中葉
TP48	縄文土器	深鉢	－	(7.2)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	D層部直下の隆帯に沿って爪形文。	B4E区確認面	中期中葉
TP49	縄文土器	深鉢	－	(84.9)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	D層部直下に沈線文。	H5E区確認面	中期中葉
TP50	縄文土器	深鉢	－	(5.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	半截竹管による平行沈線文。	F-4E区確認面	中期中葉
TP51	縄文土器	深鉢	－	(4.2)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	隆帯に爪形文を沈線文。	I4E区確認面	中期中葉
TP52	縄文土器	深鉢	－	(4.4)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	RLの単節縄文を地文として、半截竹管による平行沈線文を施す。	D2E区確認面	中期中葉
TP53	縄文土器	深鉢	－	(7.0)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	爪形文を施した隆帯で区画し、区画内に半截竹管による押引文。	H5E区確認面	中期中葉
TP54	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	棒状工具による沈線文。	B4E区確認面	中期中葉
TP55	縄文土器	深鉢	－	(6.9)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	Lの無節縄文を地文とし、口縁部には、櫛状の沈線。	B4E区確認面	中期中葉
TP56	縄文土器	深鉢	－	(6.7)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部には、RLの単節縄文を縦方向に施文。	B4,5E区確認面	中期中葉
TP57	縄文土器	深鉢	－	(7.9)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部には、RLの単節縄文を横方向に施文。	I3E区確認面	中期中葉
TP58	縄文土器	深鉢	－	(5.6)	－	長石・石英	暗灰黄	普通	RLの単節縄文を縦方向に施文。	C6E区確認面	中期中葉
TP59	縄文土器	深鉢	－	(5.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	RLの単節縄文を縦方向に施文。	I3E区確認面	中期中葉

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP60	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	胴部には、RLの縄文を縦方向に施文	F5区確認面	中期中葉
TP61	縄文土器	深鉢	－	(4.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	LRLの縄文を施文とし、2条単位の沈線を縦に施す。	F2区・確認面	中期中葉 PL20
TP62	縄文土器	深鉢		(6.0)		長石・雲母	にぶい黄	普通	RLの縄文を施文とし、沈線による動感文風を施す。	I13区確認面	中期中葉
TP63	縄文土器	深鉢	－	(5.8)	－	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	RLの縄文を施文とし、沈線による動感文風を施す。	I13区確認面	中期上葉
TP64	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	長石・雲母	灰黄	普通	RLRLLRの縄文を横方向に施文	I4区・確認面	中期後葉
TP65	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	－	長石・雲母	灰黄	普通	地文はLRの縄文を縦方向に施文。	I3区・確認面	中期後葉
TP66	縄文土器	深鉢		(7.2)		長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	胴部には、細状に見える縦方の条線文	S16・盛土上層	後期前葉
TP67	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底面部の下に平面刺突文。	J6区・確認面	後期前葉 PL30
TP68	縄文土器	深鉢		(6.9)		長石・石英・雲母	橙	普通	胴部上部の沈線文を施文。	F・K・確認面	後期前葉
TP69	縄文土器	深鉢	－	(3.7)	－	長石・石英・雲母	赤褐	普通	LRの単節縄文を施文とし、I・J区部には、下部縄文。	I14区・確認面	後期前葉
TP70	縄文土器	深鉢	－	(7.5)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	RLの単節縄文を施文とし、I・J区部には、沈線・区画文を加えた新形式。	C・E区・確認面	後期後葉 PL20
TP71	縄文土器	深鉢		(5.4)		長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	縦方向のLRの単節縄文を施文とし、I・J区部には沈線。	H・M・確認面	後期後葉
TP72	縄文土器	深鉢	－	(4.9)	－	長石・石英・雲母	褐	普通	縦方向のLRの単節縄文を施文とし、I・J区部には沈線。	I・J区・確認面	後期後葉
TP73	縄文土器	深鉢	－	(4.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	L無節下にキザミを付す縄文。	I・K・確認面	後期後葉
TP74	縄文土器	深鉢	－	(5.6)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	I・J区部には、キザミを有する縦長の沈線を施す。	C・I区・確認面	後期後葉 PL30
TP75	縄文土器	深鉢	－	(4.5)	－	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	I・J区部には、キザミを有する縦長の沈線を施す。	D2・D3区・確認面	後期後葉
TP76	縄文土器	深鉢	－	(2.8)	－	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	L無節下に、縦位のキザミ。	D・E区・確認面	後期後葉
TP77	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	－	長石	橙	普通	I・J区部下に、縦位のキザミ。	I・M区・確認面	後期後葉
TP78	縄文土器	深鉢	－	(6.8)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部は、縦位・斜位の沈線。	G3区・確認面	後期後葉
390	土師器	坏	14.8	5.0	5.5	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部ナデ、体部内・外ヘラ磨き、底部ヘラ削り。	第1号墳周溝内	80%
391	土師器	椀	12.8	6.3	4.3	長石・雲母	赤褐	普通	口縁部ナデ、体部外・底部ヘラ削り、内面ナデ。	第1号墳周溝内	100%
392	土師器	高坏	－	(7.5)	(15.3)	石英・雲母	にぶい赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き、脚部内面ヘラナデ、坏部底ヘラ磨き、内面ナデ。	第1号墳周溝内	20%
393	土師器	壺	9.1	(14.5)		長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部ナデ、体部外ヘラ削り、内面ヘラナデ。	D4・E4ライン確認面	70%
394	土師器	甕	2.7	3.6	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	ミニチュア。口縁部ナデ、体部外・内面指頭痕。	I3・4区・確認面	100%
395	土師器	坏	14.0	4.8		長石・雲母	黒褐	普通	口縁部ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	S13・盛土上層	70%
396	土師器	坏	14.8	3.8		長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部ナデ、体部外ヘラ削り、内面ナデ。	S13・盛土上層	70%
TP79	須恵器	壺	－	(3.6)	－	長石	灰オリーブ	良好	胴部に2本の線刻文風による装飾文。	D5区・確認面	
TP80	須恵器	甕	－	(6.4)	－	長石	灰	普通	外面平行タタキ目の痕跡、内面ヘラ状ナデ目痕。	C2区・確認面	
TP81	須恵器	甕	－	(3.6)	－	長石・黒色粒子	灰	普通	外面平行タタキ目の痕跡、内面ヘラ状ナデ目痕。	I13・K・確認面	

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q342	剥片	6.8	1.9	1.2	4.62	頁岩	縦長剥片。下部側縁面にわかってやや湾曲。	S11・盛土	
Q343	剥片	2.6	3.3	0.4	2.42	黒曜石	縦平の横長剥片。	I3区・確認面	
Q344	剥片	4.1	2.8	1.4	8.95	頁岩	自然面を残す扁平縦長剥片。	I3・K・確認面	
Q345	鏃	2.5	1.6	0.28	0.73	チャート	無茎。押圧剥離。	S13・盛土	PL32
Q346	鏃	2.1	1.75	0.54	0.72	チャート	無茎。押圧剥離。	C1区・確認面	PL32
Q347	鏃	2.0	1.5	0.4	0.86	チャート	無茎。押圧剥離。	S15・盛土	PL32
Q348	鏃	2.0	1.7	0.4	0.95	チャート	無茎。押圧剥離。	S19・盛土	PL32
Q349	鏃	(1.98)	1.3	0.22	(0.38)	チャート	無茎。押圧剥離。	S13・盛土	PL32
Q350	鏃	2.0	1.7	0.4	0.74	チャート	無茎。押圧剥離。	C3・M・確認面	PL32
Q351	鏃	(2.27)	1.6	0.4	(0.92)	安山岩	無茎。押圧剥離。	S24・盛土	PL32
Q352	尖頭器	(4.4)	2.3	0.5	(4.86)	チャート	木葉形。押圧剥離。基部欠損。	S15・盛土	PL32
Q353	磨製石斧	(5.6)	(4.0)	3.1	(111.4)	安山岩	刃部欠損。	B5・C・確認面	
DP63	土玉	1.7	0.4	1.4	12.6	土製	ナデ、両端穿孔。	S8・C・盛土	
DP64	土玉	(2.6)	(0.4)	2.3	(8.8)	土製	ナデ、1/3遺存。	F・M・確認面	

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q054	砥石	(12.7)	(7.9)	(5.2)	(405.2)	安山岩	断面V字状のくぼみが7か所。	I14区確認面	
Q055	臼玉	0.5	0.2	0.3	0.11	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	第1号墳覆土	
Q056	臼玉	0.45	0.18	0.3	0.07	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	第1号墳覆土	
Q057	臼玉	0.5	0.2	0.4	0.11	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	第1号墳覆土	
Q058	臼玉	0.55	0.2	0.45	0.19	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	第1号墳覆土	
Q059	臼玉	0.5	0.18	0.4	0.11	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	I13c7区確認面	
Q060	臼玉	0.5	0.2	0.35	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	H3c7区確認面	
Q061	臼玉	0.5	0.18	0.25	0.11	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	H3c7区確認面	
Q062	臼玉	0.52	0.2	0.28	0.1	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	I13c7区確認面	
Q063	臼玉	0.6	0.2	0.3	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	I3E4確認面	
Q064	臼玉	0.5	0.22	0.4	0.1	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	I3E4確認面	
Q065	臼玉	0.48	0.18	0.34	0.11	滑石	側面は円筒状，片面穿孔。	I3E4確認面	
Q066	剣形品	2.7	1.8	0.3	2.18	滑石	孔径0.2，表面横位，裏面縦位の研磨。	D5E5確認面	
Q067	双孔円板	2.8	3.5	0.5	8.5	滑石	孔径0.2。表面斜位，裏面横位の研磨。	第1号墳覆土	
Q068	双孔円板	2.1	(1.2)	0.2	(0.59)	滑石	孔径0.1。1/3遺存。両面斜位の研磨。	D4e8E5確認面	
Q069	鉄鏃中	5.1	(0.7)	1.1	(12.7)	滑石	1/3遺存。無文。	C5E5確認面	
M11	飾り金具	4.8	1.2	0.1	1.5	銅	隅丸長方形で，3孔を穿つ。	I3d4E4確認面	

番号	銘名	径	孔径	厚さ	重量	初鋳年	特徴	出土位置	備考
M10	皇宋通寶	2.4	0.7	0.1	2.12	1038年	北宋銭，円体方形の無背銭	B4E4確認面	100%

第4節 ま と め

当遺跡で確認した遺構は，昭和57年度の調査分と合わせると竪穴住居跡69軒，方形周溝墓3基，古墳1基，陥し穴1基，土坑150基，方形区画溝1条，溝跡5条，炭焼き窯跡1基，ピット群4か所である。確認された遺構の大半を占める古墳時代を中心に概要を述べ，まとめとしたい。

1 旧石器時代から縄文時代

調査区内において旧石器の遺構は確認されていない。旧石器時代の遺物は，H3i7区の確認面から出土したナイフ形石器と，I3区の確認面から出土した剥片のみである。文化層を確認するため，出土した地点を中心に調査区を設定し調査をしたが，石器や剥片の出土は認められなかった。

縄文時代の遺構としては，早期の竪穴住居跡2軒，中期の竪穴住居跡2軒，フラスコ状土坑1基，陥し穴1基，ピット群3か所を確認した。当遺跡において，生活が営まれ始めたのはこの時代からである。早期の竪穴住居跡は，調査4区の南端部に位置し，最も水源に近い台地上にあったものとみられる。中期の竪穴住居跡は加曽利E1式期に，フラスコ状土坑とピット群は阿玉台Ⅲ式期に比定される。中期中葉頃は，調査2区の北部を中心に単独あるいは小規模単位の生活の痕跡が認められる。

2 古墳時代

この時期は，集落跡として竪穴住居跡56軒，墓域として方形周溝墓3基と古墳1基が確認されている。遺構の形態や土器の特徴[1]から4期に区分することができる。以下，各時期ごとに特徴を述べる。

（1）各時期の特徴

第1期　前期

方形周溝墓3基が該当する。これらは，西谷田川を望む遺跡の南端部に位置している。第1号方形周溝墓は，周溝を含めた規模が10mほどで，3基の中で最も大きい。第2・3号方形周溝墓は，第1号方形周溝墓と並ぶように東側に隣接している。第1号方形周溝墓の周溝からは，現存の長さ13.9cmの鉄剣が出土している。方形周溝墓が隣接して墓域を形成している遺跡として，土浦市の原出口遺跡[2]やひたちなか市の三反田下高井遺跡[3]などが挙げられる。時期を明瞭にできる遺物は出土していないが，近年の調査類例から前期最終末期の4世紀後葉から5世紀初頭と考えられる[4]。

第2期　中期（第201～203図）

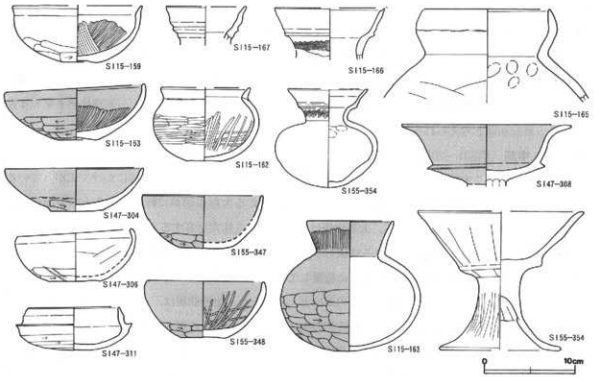
49軒が該当する。この時期の住居は，大形住居を中心に，調査区の北部から中央部にかけて広がっている。測定可能な竪穴住居跡の規模は，長軸（一辺）が7mを超える大形住居が12軒，4～7mの中形住居が21軒，4m以下の小形住居が11軒である。大形住居は，4か所の主柱穴を有するものがほとんどで，第21・56号住居跡のように柱穴間に補助柱穴を有する住居もみられる。出入り口施設は，馬蹄形の高まりとピットをもち，南壁側のコーナー部に配置された貯蔵穴寄りに位置している。貯蔵穴は，方形や長方形で一定の規格性が認められる。炉は北壁寄りに位置し，複数もつものがほとんどである。中形住居は，4か所の主柱穴を有するものが全体の約半分である。貯蔵穴は，円形や楕円形のものが多い。炉は，住居の規模が大きいほど複数になる傾向があり，規模が5mほどの住居の炉は1か所である。小形住居は，住居内に柱穴を持たないものがほとんどで，炉は長軸方向の壁寄りに1か所のものが多い。その中で，第7・17・29・48号住居跡は，それぞれ第1・11・30・47号の大形住居と同じ軸線で隣接し，表・甕類が多く出土する傾向がみられる。第29・30号住居間では，遺物の接合関係が確認された。以上のことから，大形住居と小形住居のセット関係が認められる。

竪穴住居跡の配置から想定すると，大形住居跡は約20～50m間隔で点在し，それを中心に2～3軒を単位とする小集団の世帯共同体をつくり，それらが集まって集落を構成していたと考えられる。また，一辺が10mを超える第1号住居跡からは，須恵器の大形甕・把手付椀，土師器の手捏土器が出土していること，鉄製の鎌が出土していること，石製紡錘車に関しては全体で8個のうち3個が出土していることなどから，他の住居とは異なる特徴をもち，集落の中心的役割を果たしていたと想定される。

出土土器の様相は，土師器の坏・椀・壺・甕・甑が主体とし，高坏や坩は少ない。この時期に比定される須恵器は，表1からもわかるように破片も含めて坏4点，甕6点，把手付椀1点，甕の破片10点が出土している。遺構全体図をみると住居間が接近しているものもあり，すべてが同時期に存在していたとは考えにくい。そこで，土器の特徴から1～3の3段階に細分化できる。

1段階は，第15・10・47・48・52～55号住居跡の8軒が該当する。坏は，平底が主体で，口縁部の内面に稜をもつものと，口縁部が内彎しながら立ち上がる須恵器坏蓋模倣が認められる。体部外面下位はヘラ削りが施され，赤彩率は約半分である。椀は，平底では口縁部が強く外反するものと，体部が内彎しながら立ち上がるものがみられる。高坏は，坏部外面下位に稜をもち，脚部はハの字状に広がっているものと，坏部外面下位に段をもつものが認められる。坩は，体部が楕円形で口縁部は直線的に立ち上がる。体部外面はヘラ削り，口縁部はヘラ磨きが施されている。壺は，口縁部が内彎するもので，同時期の周辺遺跡ではみられない器形である。また，形骸化された有段口縁の壺も出土している。甑は体部がほぼ球形で，無底式である。須恵器の坏は，口縁端部に丸みを帯び，体部の2/3の高さまでヘラ削りが施されている。須恵器の甕（166）は，口縁部中位に明瞭な段をもち，口縁端部の内側に段を有している。胎土は，長石を少量含み器面には黒色の斑点がみられる。

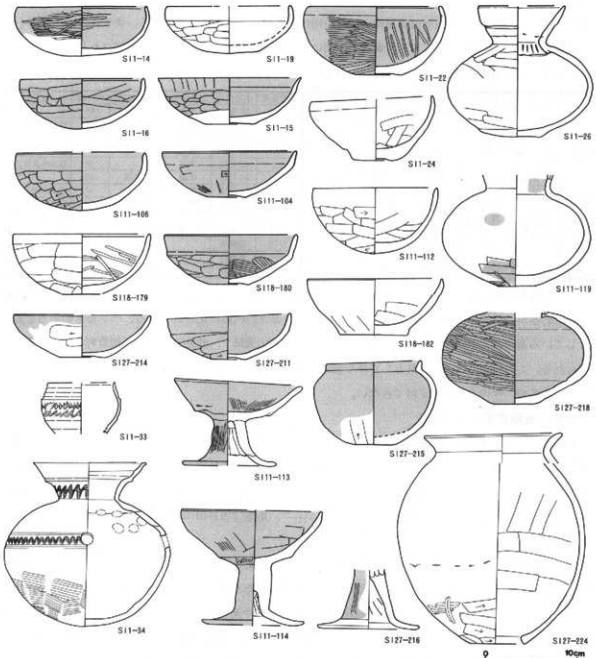
須恵器の甕（354）は，口径は体部径より小さく，口縁部中位に明瞭な段をもち，頸部には波状文が施されている。胎土は，長石を含んでいる。どちらも，ＴＫ208併行のものと考えられる。



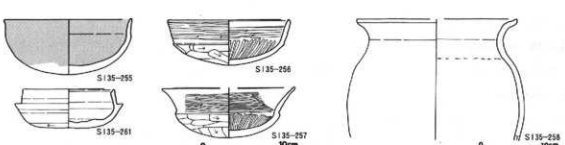
第201図　第２期１段階の土器群

２段階は，第１～９・11・13・14・16～18・20・21・23～30・32・34・43・44・46・49～51・56～60号住居跡と前回調査した第５・９号住居跡の40軒が該当する。坏は，平底と丸底が認められる。口縁部は内彎しながら立ち上がる須恵器坏蓋模倣と，体部と口縁部の境に稜をもち，直立あるいはやや外反するものがみられるようになる。体部外面はヘラ削りされているものが多く，内面はヘラ磨きされているものもある。赤彩率は高くなり，全体の７割を超える。椀は，丸底でロ縁部が内彎するものと，やや突出した平底でロ縁部が直線的に外傾するものがみられるようになる。高坏は，中実柱状とハの字に開くものがあり，どちらも短脚化の傾向にある。坩は，体部が強く張り出し，頸部に沈線を巡らすものも出土している。壺・甕は，体部がやや長胴化してくる。甑は，甕形の単孔式である。須恵器の大形甕（34）は，口縁部中位に明瞭な段をもち，やや肩が張っている。頸部と体部の中央に波状文，体部外面下位には平行叩きが施されている。胎土は，長石を微量含み，器面には黒色の斑点がみられる。ＴＫ 208 併行のものと考えられる。前段階の土器と比較して，坏はロ縁部内面に稜をもつものが極めて少なくなり，口縁部外面に稜をもつものがみられるようになる。椀は，口縁部内面に稜をもつものが残るが，やや突出した平底の器形がみられるようになる。整形は，坏・椀ともに変化はみられない。高坏は，出土数が少なく明確ではないが，体部外面下位に弱い稜を残しながらも，短脚化の傾向にある。坩は，体部の形が楕円形から強く張ったソロバン玉状に変化している。

３段階は，第35号住居跡が該当する。坏は丸底が主体で，口縁部外面に稜をもち，外方へ直線的に開くものと，外反するものがみられる。口縁部と体部内面はヘラ磨き，体部外面はヘラ削りが施されている。甕は，口縁端部をわずかに摘み上げている。須恵器の坏は，口縁部内面に段を有するもので，ＴＫ23～47併行のものと考えられる。土器の特徴から，住居内に竈が付設されてくる時期とみられるが，住居内に複数の炉と貯蔵穴をもつ住居であることから，ここでは中期に属するものとして判断したい。



第202図　第２期２段階の土器群



第203図　第２期３段階の土器群

以上の特徴から，中期の土器を第Ⅰ～Ⅳ期に区分した櫻村宣行他編年[5]を基準にすると，1段階は第Ⅱ期と第Ⅲ期にまたがる時期に，2段階は第Ⅲ期に，3段階は第Ⅳ期に相当すると思われる。実年代は，1段階を5世紀後葉の古段階に，2段階を5世紀後葉の新段階に，3段階を5世紀末葉の時期に比定される。

表1　島名ツバタ遺跡から出土した須恵器一覧表

土器番号	住居番号	出土位置	器種（部分）	炉・竈	併行形式	土器番号	住居番号	出土位置	器種（部分）	炉・竈	併行形式
33	1号住	床面	把手付椀（口～体部）	炉	TK208併行	TP27	23号住	下層	甕（体部）	炉	
						264	36号住	床面	坏	炉	TK47併行か
34	1号住	床面	大型甕	炉	TK208併行	TP29	38号住	下層	甕（体部）	竈	
TP19	3号住	下層	甕（体部）	炉		TP30	42号住	覆土	甕（体部）	炉	
TP21	9号住	坏・皿	甕（体部）	炉		311	47号住	床面	坏	炉	TK208より古か
TP22	9号住	床面	甕（体部）	炉		TP31	52号住	床面	甕（体部）	炉	
166	15号住	床面	鉢（口縁部）	炉	TK208併行	334	55号住	床面	鉢	炉	TK208併行
167	15号住	床面	鉢（口縁部）	炉	TK208併行	355	55号住	覆土	鉢（口縁部）	炉	TK23～47か
TP23	16号住	覆土	甕（体部）	竈		TP36	20号住	中層	甕（体部）	炉	TK216併行
177	16号住	下層	坏（口縁部）	炉		TP37	47号住	中層	甕（口縁部）	炉	TK216併行
TP24	18号住	下層	甕（体部）	炉		TP79	遺構外		甕（口縁部）		
194	21号住	F3内	坏（口縁部）	竈	TK208併行か	TP80	遺構外		甕（体部）		
192	21号住	床面	鉢（口縁部）	炉	TK23～47か	TP81	遺構外		甕（体部）		

また，土師器の坏や椀からは，底部に記号のような印をヘラ書きされたものも出土している。ほとんどは底部外面であるが，第25号住居跡の202・203は「十」のヘラ書きが内面に記されている。ヘラ書きのある土器が出土している遺跡は，県内では牛久市のヤツノ上遺跡[6]・東山遺跡[7]，他県では新潟県板倉町の南原遺跡[8]が挙げられる。この時期には，銘々長として坏や椀が使用されていたという説もあり，個々の所有を表す記号とも考えられるが，今のところ断定はできない。

第3期　後期前半（第204図）

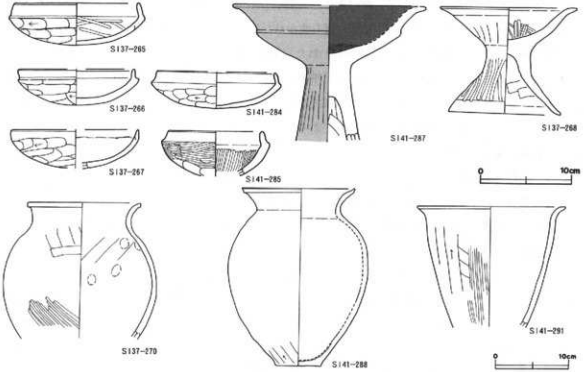
15軒が該当する。大形住居は1軒，中形住居は12軒，小形住居は2軒である。いずれも，北壁のほぼ中央部に竈を付設し，主軸方向はほぼ同じである。この時期の住居は，調査区南部の台地縁辺部に位置し，約15mの間隔で集落を形成している。当遺跡の台地から一段下がった南部には，島名榎内遺跡が隣接しており，昭和33年にこの時期の竪穴住居跡1軒を調査していることから[9]，集落は西谷田川により近い台地の縁辺部に広がっていると想定される。

坏は，丸底で器高の1/3に稜を有する須恵器坏身模倣と，丸底で口縁部が短く直立するものがみられ，内外面黒色処理されたものが多い。整形は，体部外面ヘラ削りされたものが主体で，体部内面はヘラ磨きが施されている。高坏は，短脚でラッパ状に開き坏部径は脚部径よりやや大きいものと，脚部が長脚で坏部内面に黒色処理が施されているものがみられる。整形は，ヘラ磨きやヘラナデが施されている。甕は，口縁端部をわずかに摘み上げる常総型甕で，体部外面にヘラ磨きが施されている。鉢は，口縁部と体部の境にくびれをもち，体部からそのまま外反するもので，縦方向のヘラ磨きやヘラ削りが施されている。

以上の特徴から，後期の土器を第Ⅰ～Ⅶ期に区分した櫻村宣行編年[10]の第Ⅳ期に相当すると思われる。実年代は，6世紀後半の時期に比定される。

第4期　後期後半

方墳1基が該当する。西谷田川に面する台地縁辺部に位置し，主体部の主軸はほぼ真北を向いている。墳丘は既に削平されており，玄室を形成する石材はすべて抜き取られ，原位置をとどめているものはなかった。石材は霞ヶ浦片岩で，筑波山麓の平沢付近の岩石を使用している。主体部の掘り方から横穴式石室と思われ，箱形に近い小形の石室で，被葬者はひとりであった可能性が高い。羨道は，石室の幅とほぼ同じである。当遺跡から谷津を挟んだ1kmほど北側に存在する高山古墳群の1号墳[11]と，規模や主体部の形状が似ている。どちらも盗掘を受け，副葬品等の遺物は出土していない。時期は，方墳であることや横穴式石室の規模からしか判断で



第204図　第３期の土器群

きないが，７世紀末頃のものとみられる。

（２）炭化米と炭化種子について

旧谷田部町の地名表で「ツバタ」とは，小字名で「津畑」と書き，湧水の豊富な場所であったことを読みとることができる。現在でも，西谷田川流域では，広大な低地に水田が広がっている。当遺跡では，14軒の焼失住居が検出されていることから，当時の生活を知る手がかりをつかむため，焼失住居の覆土下層を中心に水洗選別を行った。その結果，第２号住居跡から炭化種子（ヒシ）と炭化米が，第４・11・14・20・27・30号住居跡から炭化米が出土している。種子同定の結果，ヒシはヒシ属の中のヒシに分類され，池沼に生育する水生植物であること，炭化米は，長粒系と単粒系の混種であることが明らかになった。

収穫方法は，弥生時代には石包丁による穂摘みが一般的とされている。古墳時代中期頃の収穫方法は，穂摘みか根刈りかについては解明されていない。関連する遺物としては，第１号住居跡から長さ15.2cmの直刃鎌[23]が１点出土しているだけで，石包丁といえる石器類は出土していない。収穫方法については，今後の資料の蓄積が必要であるが，根刈りをしていた可能性が高いと考えられる。いずれにせよ，当時の西谷田川流域は水に恵まれた豊かな環境にあり，ヒシを採取できる沼と稲作に適した水源を確保できたことが想定される貴重な資料といえる。なお，ヒシ・炭化米の分析については付章を参照されたい。

（３）石製模造品と集落について

土師器や須恵器のほかに，石製模造品の臼玉302点・勾玉６点・管玉１点・双孔円板13点とガラス小玉５点が出土している。勾玉と双孔円板は，第21・50号の大形住居跡から一緒に出土しているが，出土数も少なくその他は単独である。臼玉は，31軒の住居跡から出土している。形状は，円筒状と太鼓状に分類でき，そのほとんどは円筒状で，片面から穿孔されている[18]。

未製品の臼玉は，第30号住居跡から２個出土している。臼玉製作にかかわる，滑石等の原石や破片，筋のある砥石などは出土していない。臼玉の出土状況は，第18号住居跡でまとまって出土している以外，覆土下層や

床面から散在した状態で出土している。櫻村氏は，ほぼ同時期と考えられるヤツノ上遺跡の集落について，「住居から細かく破砕された須恵器や白玉が床面にばらまかれた状態で出土し，住居跡のほとんどは，人為堆積である。集落廃棄に伴う土地神に対する祭祀が行われた可能性がある。」と指摘している[10]。当遺跡でも，白玉の出土状況が同様である住居跡が多いこと，人為堆積の住居跡は21軒あり，その中で焼失住居跡が14軒確認されていること，住居跡や土坑から須恵器の甕の破片が出土していること，そしてこの時期をもって集落が一時途絶えることからも，集落廃棄に伴う祭祀行為があったことが想定される。

（4）集落の変遷と性格について

ここで古墳時代を総括し，集落の変遷についてふれてみたい。集落は，調査区内の台地縁辺部に形成されている。第2期1段階の5世紀後葉は，調査区の北部と南部の一部に出現し，やがて大形住居を中心とする小規模な単位集団が中央部へ展開し最盛期をむかえる。そして，5世紀末葉の住居を最後に集落は途絶える。6世紀後半の集落は，調査区の南部にまとまって形成されるが，その後は継続することなく衰退していく様相をみることができる。また，集落が台地の縁から150mの範囲内にある点に注目すると，生活用水の利便から西谷田川とさほど離れない位置に集落を形成していたと考えられる。中期には陶色窯跡の可能性をもつ須恵器が出土していることから，近畿地方との交流のあった集落といえる。また，確認された遺構には，掘立柱建物跡等の倉庫的役割を果たす施設が認められないこと，鉄製品では前回調査時の鋤先に加え直刃鎌が出土していることを含めて考えると，この地域を開墾していった一般的な集落であると推察される。

4　中世以降

中世は，方形区画溝1条と溝1条が該当する。どちらも隣接した位置で確認されている。方形区画溝の西溝内からは，花崗岩製の空風輪が出土している。また，両遺構から出土した常滑の陶器片が接合している。空風輪の出土から墓域と考えられるが，遺構の形態については不明である。時期は，遺物の特徴から，15世紀後半と考えられる。近代は，炭焼き窯跡1基と土坑16基が該当する。炭焼き窯跡は，大井部が崩落し全体が土に埋もれた状態で確認されている。構築材には，石片のほかに石臼片や「清高」と刻印された瓦片が使用されている。炭焼き窯は，地権者もその存在は知らなかったことから，戦前には廃棄されていたとみられる。

註

1　古墳時代中期から後期にかけての坏と椀，甕と甕の分類基準は次のようにした。
　坏：器高－口径×1／3以下　　椀：器高－口径×1／3以上
　甕：頸部径＝体部最大径×2／3以下　　壺：頸部径－体部最大径×2／3以上
2　江幡良夫「土浦北工業団地造成地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第94集　1995年3月
3　田所則夫他　「一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第128集　1998年3月
4　山岸良二編　『茨城県の方形周溝墓』『関東の方形周溝墓』同成社　1996年
5　櫻村宣行他　「茨城県における5世紀の動向」『東国土器研究5号』1999年5月
6　小高五十二　「牛久北部特定土地区画整理事業内地埋蔵文化財調査書（1）」『茨城県教育財団文化財調査報告』第81集　1993年3月
7　松浦　敏　「牛久北部特定土地区画整理事業内地埋蔵文化財調査報告書（III）」『茨城県教育財団文化財調査報告』第101集　1995年3月
8　大平理恵　「南原遺跡」『新湖県板倉町埋蔵文化財調査報告』第2集　板倉町教育委員会　2001年3月
9　谷田部町教育委員会　谷田部の歴史編さん委員会『谷田部の歴史』1975年9月
10　櫻村宣行　「茨城県南における須恵式土器について」『研究ノート2号』茨城県教育財団　1993年7月
11　佐野　正　「科学博関連道路谷田部明野線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第22集　1983年3月
12　松井和幸　『日本古代の鉄文化』雄山閣　2001年2月
13　篠原祐一　「江工研究紀要」『研究紀要』第3号　財木県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1995年3月
14　櫻村宣行　「茨城県の概要」『古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物－<第II分冊：東関東編－関東地方>』東日本埋蔵文化財研究会　1993年3月

付　章

島名ツバタ遺跡の炭化米粒特性と稲作起源

佐賀大学　和佐野　喜久夫

1　はじめに

島名ツバタ遺跡は茨城県つくば市大字島名字戸面山に所在し，東谷田川と西谷田川に挟まれた台地から西谷田川の沖積低地に向かう台地の縁辺部に位置している。遺跡の北側は東西方向に谷津が入り込んでおり，台地際は湧水が豊富で現在でも水田の灌漑に利用されている。今回の発掘調査で，古墳時代中期から後期にかけての集落跡を中心とする遺構と遺物が検出されている。その中で，焼失住居の第２・４号竪穴住居跡から出土した炭化米について計測調査し，当遺跡の古代稲の粒特性と稲作起源について考察する。

2　材料及び方法

当遺跡の炭化米資料は，財団法人茨城県教育財団によって発掘されたもので，焼失した第２号竪穴住居跡からは246粒，第４号竪穴住居跡からは5607粒が出土した。どちらも100粒ずつ任意抽出し，計測調査を行った。計測は粒の平面及び側面を接写し，約4.5倍大にプリントしたものからデジタル表示式ノギスを用いて行った。炭化米の形態的特性は，粒長，粒幅，および粒厚の測定値および計算によって求めた長／幅比の４項目とし，北部九州の６遺跡のものと比較した。

炭化米粒の形態的特性の粒形・大および粒型の分類・表現法は，既報（文献１，２，３）の方法に準じた。なお，日本の古代稲を対象とした長粒系と短粒系の分類は，およそ粒長4.4mm以上（4.6mm前後）を長粒系，4.2mm以下（4.0mm前後）を短粒系としているが，4.2～4.4mmの境界領域には長・短粒系の混種とみなされるものが多く分布する。

また，弥生時代の遺跡それぞれから出土する炭化米粒は，粒特性それぞれがかなりの変異幅を示すが，発掘資料が他と区別できる異なる粒特性値をもつものは，一つのイネ品種として特性を示すものとみなしているが，同じ特性値を示すものがすべて同じ品種になるとは限らない。

3　結果及び考察

表１には当遺跡の炭化米粒の４形質の平均値，標準偏差及び調査粒数を，北部九州11遺跡の13資料（縄文時代晩期～弥生時代中期）のものと比較して示した。当遺跡から２軒の炭化米資料が提供されたが，表１に示されるように四つの粒形質の平均値及び標準偏差は両資料間にはわずかの差がみられるが，全体的によく類似していることから単一品種とみなし２つのデータは一つにした。当遺跡の炭化米の粒長平均値をみると，短粒系の最大境界域をわずかに超え，さらにその標準偏差が大きいことから，長・短粒系の複数品種が混種した可能性が考えられる。

図１には，粒長・幅平均値（付95%の信頼区間）の分布を，18遺跡（20資料）の北部九州及び韓国の比較基準遺跡のものと比較しながら示した。図から明らかなように，当遺跡の炭化米粒は唐津市の菜畑遺跡（縄文時代）のものとは両計質の平均値間には有意差はみられない。

図２に示した粒長の度数分布図は，当遺跡の炭化米資料の一つのイネ品種としての遺伝的純粋性の有無を判

断するために示したものである。図に示されるように，当遺跡の炭化米粒の粒長変異は3.1～5.2mmの間に広く分布し，3.6mm，4.0mm，および4.7mmなどの多くのピークをもつ多頂的分布を示すことから，長・短粒系のいくつかの品種が混種したものを栽培したか，あるいは埋没時に数品種が混合したかのいずれかの可能性が考えられる。

表1に示した粒厚平均値については，本資料の1.89mmは今北部九州の平均値（1.88mm）とほぼ同じ値を示し，米粒の充実度も平均的であったことから，古墳時代中期頃の当遺跡周辺域での稲作技術および水田・土壌環境もかなり改善されていたと考えられるが，もし品種の混合があったとすれば稲作に関する知識は，まだ十分ではなかったとも考えられる。また，長／幅比 1.83 については，粒形指数では中形粒の平均値でジャポニカ品種ではやや大きい数値（やや狭長）になる。

表2は遺跡それぞれの炭化米粒個々の粒型分布を示しているが，比較遺跡は表1のものと同じである。当遺跡の粒型分布は，全体的には菜畑遺跡（縄文時代）のものに類似するが，それと比較すると7・5型（広・中・長粒）が多く，5・1型および5・3型の極短・短粒がやや少なくなっている。このことは，図2の粒長度数分布図をみるとよくわかるように，長粒域に4.7mmにモードをもつ長粒系のやや大きな集団があり，一方その反対側に極短粒の集団も存在するのがわかる。

図3の炭化米粒の接写写真は，上段右上から整形粒を選んで粒長の長いものから順次に全体を反映するように配列している。写真の最上段一列と最下段一列の炭化米粒を比べると，両者が同一品種に所属するものでないことは明らかである。

以上に述べたように，当遺跡は広大な関東平野の東北部にあって，その炭化米は長粒系を混種とする短粒系品種に属することから，当遺跡のイネ品種の由来及び伝播ルートについてはいろいろな可能性が考えられる。最も参考となる情報源は，関東平野周辺域の弥生時代後期の炭化米のデータ及び発掘遺物の地域的関連性の有無であるが，炭化米についてはほとんど未発表であるので詳細な比較検討はできない。炭化米の形態調査はすでに完了している近県の遺跡は，埼玉県の池上遺跡，神奈川県の真出北金目遺跡，山梨県の東山北遺跡，上の平遺跡，平野遺跡，金の尾遺跡，茨城県つくば市の水守荒神遺跡などが挙げられる。

今後に考古学的遺物の地域的関連性の有無のさらなる検証が発展することを期待したい。

参考文献

1　和佐野喜久夫　九州北部古代遺跡の炭化米の粒特性に関する考古・遺伝学的研究．　育種学雑誌　43：586 － 602，　1993年

2　和佐野喜久夫　稲作の江南起源説．講座・文明と環境　第3巻　農業と文明．　朝倉書店．東京．143 － 167，　1995年

3　和佐野喜久夫　東アジアの古代稲と稲作起源．東アジアの稲作起源と古代稲作文化　文部省科学研究費による国際学術研究．報告・論文集，和佐野喜久夫・研究代表・編集

表1　比較標準遺跡および島名ツバタ遺跡の炭化米粒特性表

遺跡名	菜畑(縄文)	菜畑(弥生)	有田	板付	瑞穂	松本	金場1	金場2
時代	縄文晩期	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生中期	弥生中期
所在地	唐津市	唐津市	前原市	福岡市	福岡市	北九州市	朝倉郡	朝倉郡
長(mm)	4.11	3.93	4.01	4.19	4.17	3.41	3.73	4.45
S.D.	0.35	0.28	0.22	0.24	0.24	0.56	0.36	0.30
幅(mm)	2.45	2.38	2.33	2.64	2.77	2.11	2.32	2.69
S.D.	0.23	0.20	0.15	0.18	0.19	0.31	0.23	0.17
厚(mm)	1.93	1.95	1.59	1.80	1.86	1.59	1.56	1.74
S.D.	0.22	0.24	0.11	0.13	0.15	0.29	0.21	0.17
長／幅比	1.69	1.66	1.72	1.59	1.51	1.62	1.61	1.66
S.D.	0.17	0.12	0.11	0.11	0.11	0.17	0.14	0.11
調査粒数	155	38	107	120	100	46	104	101

遺跡名	須川	空前	津古牟田	安永田	吉野ヶ里	ツバタ1	ツバタ2	ツバタ
時代	弥生前期	弥生前期	弥生中期	弥生中期	弥生中期	古墳	古墳	古墳
所在地	朝倉郡	小郡市	小郡市	島栖市	佐賀県	つくば市	つくば市	つくば市
長(mm)	4.65	4.59	4.70	4.50	4.60	4.25	4.18	4.21
S.D.	0.41	0.22	0.28	0.34	0.19	0.41	0.45	0.43
幅(mm)	2.95	2.77	2.67	2.51	2.83	2.49	2.49	2.49
S.D.	0.22	0.17	0.22	0.18	0.13	0.28	0.26	0.27
厚(mm)	2.16	1.95	1.92	1.86	1.98	1.87	1.91	1.89
S.D.	0.18	0.20	0.17	0.16	0.13	0.24	0.20	0.22
長／幅比	1.58	1.66	1.77	1.80	1.63	1.72	1.68	1.70
S.D.	0.17	0.11	0.16	0.15	0.10	0.17	0.15	0.16
調査粒数	39	100	100	110	180	106	109	215

S.D:　標準偏差　　ツバタ1：SI－2，ツバタ2：SI－4

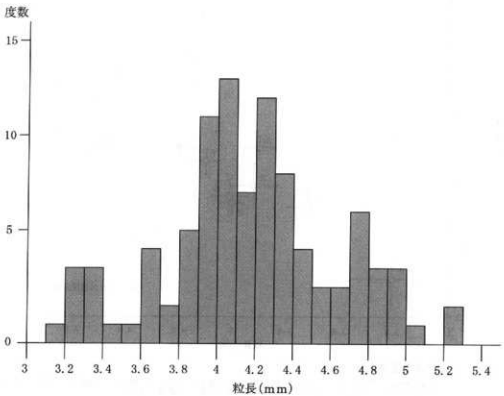


図1　島名ツバタ遺跡の炭化米の粒長度数分布図

表2　比較基準遺跡および烏名ツバタ遺跡の炭化米の粒型分布表

	菜畑（縄文）１５５粒					計%	菜畑（弥生）３８粒					計%	有田　１０７粒					計%
	粒長指数						粒長指数						粒長指数					
	1	3	5	7	9		1	3	5	7	9		1	3	5	7	9	
粒幅指数 1																		
3	8	5	2			15	13	3				16	6	9				15
5	14	47	19			80	18	53	11			82	10	71	3			84
7		3	1			6		3				3		1				1
9																		
計%	22	57	22			101	31	59	11			101	16	81	3			100

	板付　１２０粒					計%	瑞穂　１００粒					計%	金場１　１０４粒					計%
粒幅指数 1														1				
3							1					1	29	2				31
5	5	58	15			78	4	45	8			57	29	37	2			68
7		13	8			21		35	7			42		1	1			2
9																		
計%	5	71	23			99	5	80	15			100	58	40	3			101

	菊川　３９粒					計%	宮前　１００粒					計%	津古平田　１００粒					計%
粒幅指数 1																		
3														1				1
5		8	8	3		19		12	44	1		57		9	50	13		72
7	3	13	49	18		83		4	38	1		43		2	23	2		27
9																		
計%	3	21	57	21		102		16	82	2		100		12	73	15		100

	安永田　１１０粒					計%	吉野ヶ里　１８０粒					計%	烏名ツバタ　２１５粒					計%
粒幅指数 1																		
3		2	3			5							7	9	1			17
5	3	30	53	6		92		6	33	1		40	8	38	24			70
7		1	3			4		7	54			61		3	9	1		13
9																		
計%	3	33	59	6		101		13	87	1		101	15	50	34	1		100

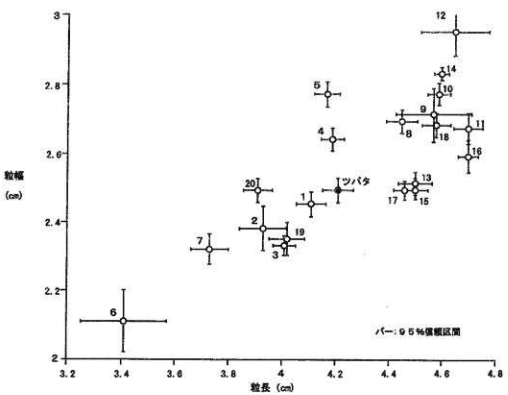


図2　烏名ツバタ遺跡及び比較基準遺跡の炭化米の粒長・幅平均値の分布図

第3図　島名ツバタ遺跡の炭化米の接写写真

島名ツバタ遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

1 はじめに

島名ツバタ遺跡は，茨城県つくば市大字島名に所在し，西谷田川左岸の台地縁辺部に立地している。当遺跡の過去の発掘調査では，古墳時代中期や古墳時代後期の竪穴住居跡や土坑などが検出されている。今回の発掘調査では，縄文時代中期，古墳時代中期から後期の竪穴住居跡，方壇，溝跡，炭焼き窯跡，土坑などが検出されている。

今回の分析は，古墳時代中期に比定される第２号竪穴住居跡から出土したヒシの実と想定される炭化種実遺体に関して，ヒシ以外の種実の有無や植物学的なヒシの種類について資料を得るため，種実遺体同定を実施する。

2 試料

試料は，古墳時代中期に比定される第２号竪穴住居跡から出土した炭化種実遺体である。

3 分析方法

双眼実体顕微鏡でその形態的特徴から種類を同定する。

4 結果

炭化種実遺体は，すべてヒシ属（Trapa sp.）の破片とみられ，他の種実の混入は確認されなかった。ヒシ属の破片で原型をとどめているのは棘の部分のみであり，胚乳が多く詰まった中央部の破損が著しく，人為的に割られたことなどが想定される。

邦産のヒシ属は，北村・村田（1981）によれば，ヒシ（Trapa bispinosa Roxb. var. iinumai Nakano），オニビシ（Trapa natans L var. japonica Nakai），ヒメビシ（Trapa incisa Sieb. et Zucc.）の３種に分類されるが，形態の変異が大きくさらに細分する考えもある。

ヒシ属のオニビシとヒシは，棘が２本（ヒシ）か４本（オニビシ）であるかによって区別できる。また，オニビシは子房突起が突出しないが，ヒシは突出するという違い（角野，1994）からも区別が可能である。しかし，同定を行ったヒシの実と想定される炭化種実遺体はいずれも破片であったため，棘の本数から区別することはできない。また，完全な形状を留める個体は少なかったが，子房突起が一部残る個体の観察によれば，子房突起の突出が確認されている。また，棘の大きさが1cm程度であることや，棘の太さが細いことから，形状的にはヒシに近いと考えられる。

オニビシは，ヒシに比べ大型で５cm以上になる個体もある。ヒシは，これより小さく５cm以下である。ヒメビシは果実の大きさが２cm程度とこれらに比べてかなり小さい。今回検出された個体を棘の大きさから推定すると約４～５cm程度とみられ，大きさもヒシが最も近い。

以上の結果から，棘が残っているものや子房突起の突出が確認できた個体はいずれもヒシ（Trapa bispinosa Roxb. var. iinumai Nakano）と考えられる。ただし，遺跡から出土するヒシ属種実は，現在のものより多様性に富むという見解もあり（南木・中川，2000），古代のヒシ属種実を現在の種に直接当てはめて良いかは今後の検討課題である。

5 考察

同定の結果，棘や子房突起の突出が確認された炭化種実遺体はヒシ（Trapa bispinosa Roxb. var. iinumai

Nakano）と判断された。ただし，これら特徴が確認されない細片については，ヒシとオニビシは生育環境が同じで同じ集団内に混在することが多い（角野，1994）ことや，ヒシ属の中には大きさや形状がヒシに近い4棘をもつコオニビシ（Trapa natans l. var. pumila Nakano）という種類も認められている（角野，1994）ことから，これらが混在している可能性もある。

ヒシやオニビシは，池沼に生育する水生植物で，生食が可能で収穫も多いことから食用として利用されてきた。民族事例等によれば，アク抜きが不要なことから，そのまま食する場合もあるが，通常は茹でて食べていたとされる（柴田，など）。遺跡周辺の台地を開析する河川周辺には，湿地や河跡湖などが数多く存在しており（地図資料編纂会編，1989），また，低地のボーリング結果などでは，ヒシの生育に適した泥炭地が各地に分布していたことが確認できる（宇野沢ほか，1988）。したがって，台地縁辺に立地する当遺跡では，周辺の低地からヒシを採取し利用していた可能性が考えられる。

なお，ヒシの実の出土例は，関東地方各地の低湿地に立地する遺跡を中心にみられる。千葉県の九十九里地域では，富田下泥炭遺跡（パリノ・サーヴェイ株式会社，1985），矢摺泥炭遺跡（山内，1984;パリノ・サーヴェイ株式会社，1995），借当川流域泥炭層遺跡（パリノ・サーヴェイ株式会社，1987）などで認められている。また，埼玉県南部では，寿能泥炭層遺跡（邑田，1982）をはじめ複数の遺跡から出土例があるが，いずれも泥炭地から検出された未炭化種実である。

ヒシの種実が遺構から破棄された状態で出土した例は，滋賀県の栗津湖底遺跡で検出された縄文時代早期の「クリ塚」とされる遺構からクリに混じって出土した例があり，破損状況から利用後の残渣が破棄された可能性なども指摘されている（南木・中川，2000）。なお，現段階では，ヒシの実が遺構内から利用・破棄された状態で検出された例が少ないため，周辺地域で情報を収集・蓄積し，あらためて評価したいと考えている。

引用文献

地図資料編纂会編（1989）明治前期関東平野地誌図集成．柏書房．

角野康郎（1994）日本水草図鑑．179p．文一総合出版．

北村四郎　村田　源（1981）原色日本植物図鑑　草本編Ⅱ　離弁花類．390p．，保育社．

南木睦彦・中川治美（2000）大型植物遺体．「琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書3-2　栗津湖底遺跡　自然遺構（栗津湖底遺跡Ⅲ）」．p.49 112．滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会．

邑田　仁（1982）種子．「寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書－自然遺物編　」，p.287-298，埼玉県教育委員会

パリノ・サーヴェイ株式会社（1985）千葉県八日市場市富田下泥炭遺跡における植物及び種子について．「千葉県八日市場市富田下泥炭遺跡　－独木舟の調査－」，p.22 37，借当川遺跡調査会．

パリノ・サーヴェイ株式会社（1987）借当川流域泥炭遺跡試料種子分析．「千葉県八日市場市借当川流域発掘調査報告書」p.15-23，借当川遺跡調査会．

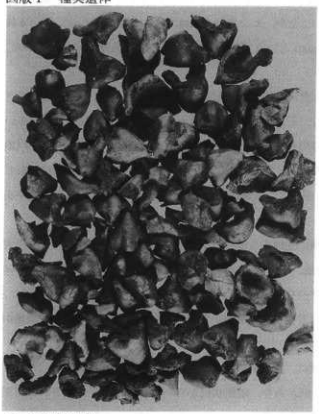
パリノ・サーヴェイ株式会社（1995）矢摺泥炭層遺跡出土の植物遺体の自然科学分析．「千葉県八日市場市矢摺泥炭遺跡Ⅰ　－市道7034号線大堀橋架け替え工事に伴う埋蔵文化財調査－」，p.18-27，財団法人　東総文化財センター．

柴田桂太（1957）資源植物事典．904p．，北隆館．

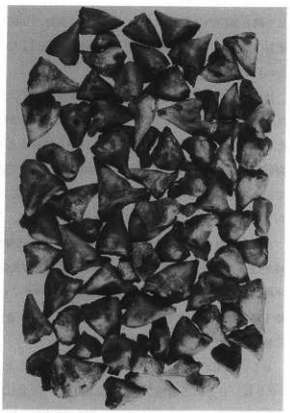
宇野沢　昭・磯部一洋・遠藤秀典・四口建作・永井　茂・石井武政・相原輝雄・岡　重文（1988）特殊地質図　23-2　筑波研究学園都市及び周辺地域の農場地質図．139p．，地質調査所．

山内　文（1984）丸木舟および杭の材・果実などについて．「八日市場市矢摺泥炭遺跡発掘調査報告－独木舟の調査－」，p.15-16，借当川遺跡調査会．

図版１　種実遺体



１．ヒシ(SI-2)



２．ヒシ(SI-2)

３．ヒシ(SI-2)

1cm　1cm
(1, 2)　(3)